Well-being PRJ

東京歯科大学研究プロジェクト

各ライフステージにおける口腔顎顔面機能維持・改善で目指す

ウェルビーイング社会の実現

（ウェルビーイングプロジェクト）

活動報告書

（2023 年度～2025 年度）

2026 年 6 月

ウェルビーイングプロジェクト推進委員会

目次

Ⅰ. はじめに 1

Ⅱ. 本研究プロジェクトの概要
1. プロジェクトの目的 2
2. プロジェクト実施体制 2
3. 研究推進体制 3

Ⅲ. プロジェクト活動内容と成果
1. 次世代研究者育成 4
2. 研究費助成による研究活性化 7
3. 対外的研究交流および情報発信 10

Ⅳ. 研究成果
1. プロジェクト成果概要 14
2. 各研究ラボにおける具体的な研究成果の概要 14
3. 外部表彰・受賞実績 49
4. 本プロジェクトにおける研究業績への貢献 49
5. 本プロジェクトにおける外部資金獲得への貢献 49

Ⅴ. プロジェクト評価と今後の展望
1. 外部評価委員会および自己点検・評価委員会の実施 50
2. 本プロジェクトの推進から見えてきた課題 52
3. 今後に向けた展望 52

Ⅵ. プロジェクト収支決算
1. 2023 年度予算・決算 53
2. 2024 年度予算・決算 53
3. 2025 年度予算・決算 54

Ⅶ. おわりに 54

参考資料

Ⅰ．はじめに

東京歯科大学は、1890 年（明治 23 年）創立の高山歯科医学院を起源とし、130 年以上にわたり、深い教養と研究活動に支えられた高度な歯科医療を通じて、国民の健康と福祉の向上に貢献してきた。

本学では、1996 年度から 2012 年度まで文部科学省による研究助成（主として私立大学戦略的研究基盤形成支援事業）を受け、全学的研究拠点として口腔科学研究センターを設置し、口腔科学研究を推進してきた。さらに、2017 年度から 2022 年度までの 6 年間には、文部科学省私立大学研究ブランディング事業および本学の支援のもと、東京歯科大学研究プロジェクト「顎骨疾患の集学的研究拠点形成 : 包括的な顎口腔機能回復によるサステナブルな健康長寿社会の実現」（以下、顎骨疾患プロジェクト）を実施した。

顎骨疾患プロジェクトでは、学長のリーダーシップのもと、口腔科学研究センターを中核拠点として、顎骨疾患の病態解明ならびに予防・治療法の開発に取り組んだ。また、学内における講座横断的な異分野連携や学外機関との共同研究体制を強化し、集学的研究基盤の構築を推進することで、本学の研究力向上に大きく寄与してきた[1-4]。

一方、近年では、身体的・精神的・社会的に良好な状態を実現する「ウェルビーイング」の概念が、健康分野における国際的な重要課題として広く認識されるようになっている。こうした社会的背景を踏まえ、本学では 2023 年度より、顎骨疾患プロジェクトで培われた研究基盤と連携体制を発展的に継承し、新たな全学的研究プロジェクト「各ライフステージにおける口腔顎顔面機能の維持・改善を通じたウェルビーイング社会の実現」（以下、ウェルビーイングプロジェクト）を 3 年間の計画として開始した。

本報告書では、ウェルビーイングプロジェクトにおける 2023 年度から 2025 年度までの活動と成果を総括するとともに、2026 年度以降に向けた本学の研究推進の方向性と今後の展望について述べる。

Ⅱ．本研究プロジェクトの概要

1．プロジェクトの目的

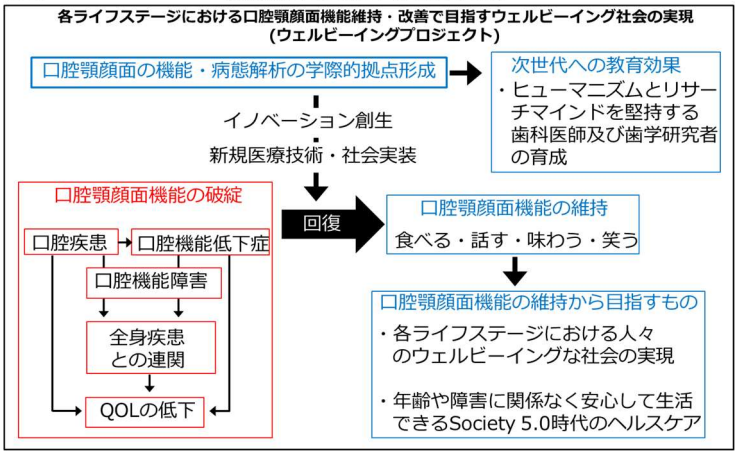
医療の目覚ましい進歩は、乳幼児や高齢者の死亡率を低下させ、平均寿命、さらには健康寿命の延伸に大きく貢献している。一方、近年では、各ライフステージにおいて、身体的・精神的・社会的に満たされた状態を実現する「ウェルビーイング社会」の構築が重要視されている。

口腔は、哺乳、摂食、咀嚼、嚥下など生命維持の根幹を担うとともに、会話や顔面表情を介したコミュニケーションを通じて、豊かな社会生活を支える重要な器官である。そして、口腔機能の維持は、身体的健康のみならず、精神的・社会的健康の維持にも深く関与している。さらに、う蝕・歯周病に加え、味覚障害などの感覚異常、口腔がん、顎変形症、咀嚼機能低下などは、各ライフステージにおける口腔顎顔面機能を障害する大きな要因となる。

このような背景を踏まえ、本学では、2023 年度より、各ライフステージにおける口腔顎顔面機能の維持・改善を目的とした研究プロジェクトを、学長のリーダーシップのもと全学的に推進してきた。本プロジェクトでは、その研究成果を通じて新規歯科医療の開発につながるイノベーションシーズを創出し、社会実装を見据えた基盤研究へと発展させることで、ウェルビーイング社会の実現に貢献することを目指した（図 1）。

さらに、本研究プロジェクトは「歯科医師たる前に人間たれ」という本学の建学の精神を基盤としており、その成果は、ヒューマニズムとリサーチマインドを堅持する歯科医師・歯学研究者の育成にも貢献することが期待される。

図 1　本研究プロジェクトが目指すもの



2．プロジェクト実施体制

本研究プロジェクトは、学長のリーダーシップのもと、学際的に構築された実施体制により、全学的に推進した（図 2）。なお、本プロジェクトに関する各種委員会および委員構成を参考資料 1 に示す。ウェルビーイングプロジェクト推進委員会を中心に、「口腔科学研究センター」を中核拠点として、「歯学部」、「短期大学」、「大学院歯学研究科」、ならびに東京

歯科大学附属病院（水道橋病院、市川総合病院、千葉歯科医療センター）に所属する歯科医師・医師を含む医療系職員が連携し、研究を推進した。

また、「若手サイエンスアカデミー」を設置し、若手研究者および次世代研究者の育成を図った。さらに、東京歯科大学同窓会と連携し、研究成果を日常臨床へ還元するとともに、臨床現場における課題やニーズを研究へフィードバックする双方向的な情報共有体制を構築した。

図 2　ウェルビーイングプロジェクト推進体制

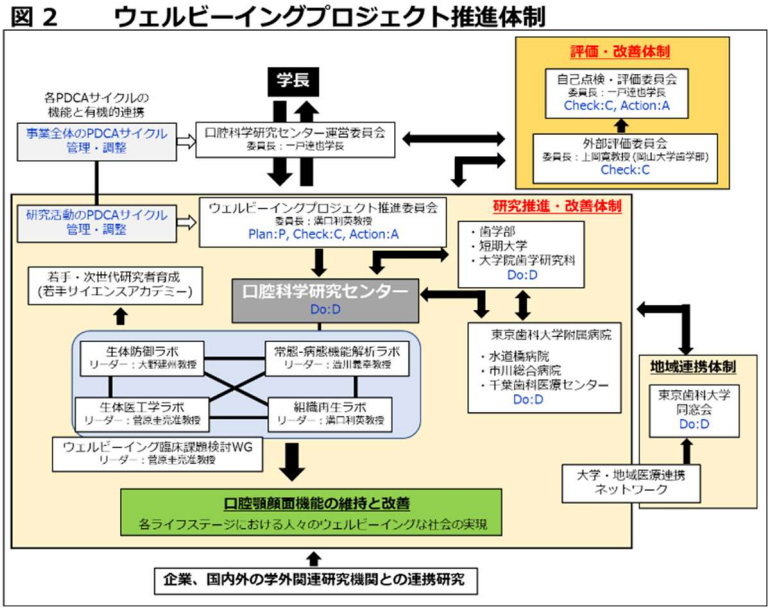


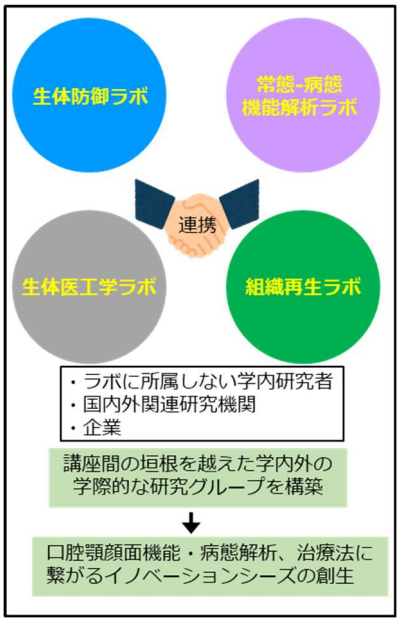
表 1　ウェルビーイングプロジェクト外部評価委員会委員

委員長	上岡　寛	岡山大学 医歯薬学総合研究科 歯科矯正学分野 教授
委　員	浅原　弘嗣	東京科学大学 大学院医歯学総合研究科 医歯学系専攻 先端医療開発学講座 システム発生・再生医学 教授
〃	大島　勇人	新潟大学 大学院医歯学総合研究科 教授
〃	自見　英治郎	九州大学 歯学研究院 OBT研究センター 教授
〃	高野　直樹	慶應義塾大学 理工学部 機械工学科 教授
〃	高橋　潤一	東京歯科大学同窓会 総務担当理事（現専務理事） 東京歯科大学 水道橋病院保存科 臨床准教授
〃	田中 芳彦	福岡歯科大学 口腔歯学部 感染生物学分野 教授
〃	山崎 和久	理化学研究所生命医科学研究センター 粘膜システム研究チーム 客員主管研究員

加えて、国内外の研究機関との共同研究を積極的に推進することで、研究のさらなる発展と効率化を図った。評価体制としては、自己点検・評価委員会に加え、客観性および透明性を確保するために外部評価委員会を設置し、プロジェクトの見直しや改善を行いながら推進した（表 1）。

このような学内外の連携体制を基盤として、各ライフステージにおける口腔顎顔面疾患の病態解明ならびに予防・治療法の開発に関する研究を推進し、その成果に基づくイノベーションシーズの創出に取り組んだ。

図 3 学際的連携研究の促進



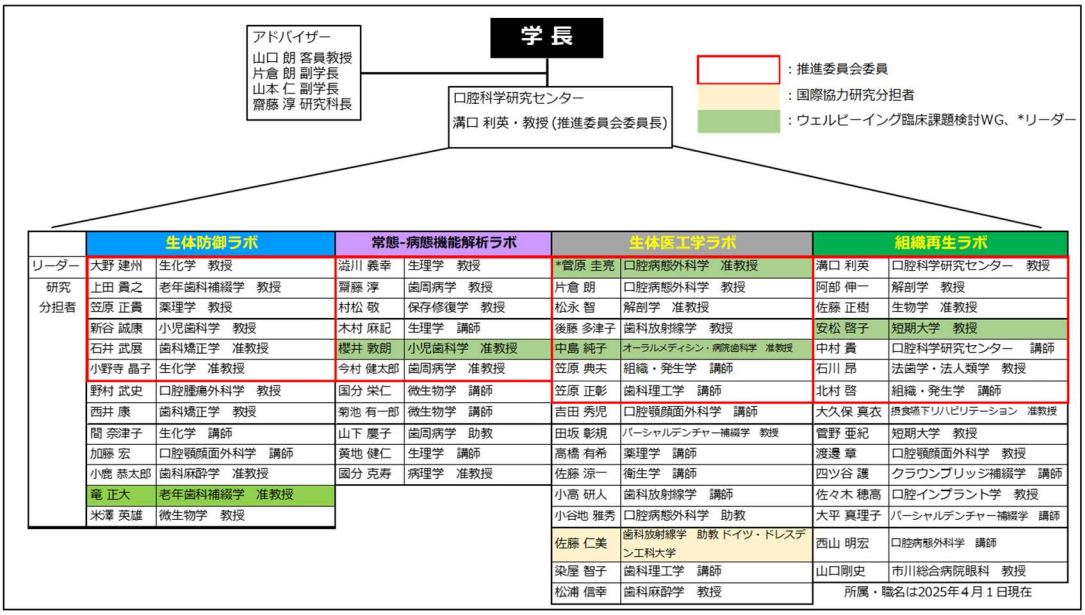
3. 研究推進体制

本研究プロジェクトの 2025 年度現在の構成員を表 2 に示す。ウェルビーイングプロジェクト推進委員会委員は、幅広い世代の教育職員から選出し、世代間融合体制のもとで本プロジェクトを推進した。具体的には、「生体防御ラボ（リーダー：大野建州 教授）」、「常態-病態機能解析ラボ（リーダー：澁川義幸 教授）」、「生体医工学ラボ（リーダー：菅原圭亮 准教授（現教授））」、「組織再生ラボ（リーダー：溝口利英 教授）」の 4 つのグループを、専門性の異なる基礎

または臨床講座に所属する教育職員により組織し、各リーダーを中心として研究に取り組んだ（図 3)。なお、各ラボの構成メンバーには流動性を持たせ、必要に応じて追加や移動を可能とした。また、プロジェクト推進委員についても、必要に応じて順次追加を行った。さらに、海外留学中の研究者を国際協力研究分担者と位置づけ、留学先から得られた研究情報をプロジェクトへ還元した。

また、プロジェクトメンバーが独自に設定した研究テーマに対し、複数のラボが共同して取り組む「イノベーション促進研究費助成」を設け、学際的連携研究の推進を図った。さらに、本プロジェクトに所属しない学内研究者や国内外の研究機関とも連携し、集学的研究体制を構築した。口腔科学研究センターには、本プロジェクトで使用する多くの研究機器が設置されており、学内外の幅広い研究者が利用可能な集学的研究施設であることから、異分野連携を推進する研究基盤として位置づけられた。このような本学独自の学際的研究体制のもと、基礎研究と臨床研究の垣根を越えた包括的な研究活動を展開した。

表 2　　東京歯科大学研究ウェルビーイングプロジェクト研究体制



	生体防御ラボ		常態-病態機能解析ラボ		生体医工学ラボ		組織再生ラボ	
リーダー	大野 建州	生化学　教授	澁川 義幸	生理学　教授	*菅原 圭亮	口腔病態外科学　准教授	溝口 利英	口腔科学研究センター　教授
研究分担者	上田 貴之	老年歯科補綴学　教授	齋藤 淳	歯周病学　教授	片倉 朗	口腔病態外科学　教授	阿部 伸一	解剖学　教授
	笠原 正貴	薬理学　教授	村松 敬	保存修復学　教授	松永 智	解剖学　准教授	佐藤 正樹	生物学　准教授
	新谷 誠康	小児歯科学　教授	木村 麻記	生理学　講師	後藤 多津子	歯科放射線学　教授	安松 啓子	短期大学　教授
	石井 武展	歯科矯正学　准教授	櫻井 敦朗	小児歯科学　准教授	中島 純子	オーラルメディシン・病院歯科学　准教授	中村 貴	口腔科学研究センター　講師
	小野寺 晶子	生化学　准教授	今村 健太郎	歯周病学　准教授	笠原 典夫	組織・発生学　講師	石川 昂	法歯学・法人類学　教授
	野村 武史	口腔腫瘍外科学　教授	国分 栄仁	微生物学　講師	笠原 正彰	歯科理工学　講師	北村 啓	組織・発生学　講師
	西井 康	歯科矯正学　教授	菊池 有一郎	微生物学　講師	吉田 秀児	口腔顎顔面外科学　講師	大久保 真衣	摂食嚥下リハビリテーション　准教授
	間 奈津子	生化学　講師	山下 慶子	歯周病学　助教	田坂 彰規	パーシャルデンチャー補綴学　教授	曾野 亜紀	短期大学　教授
	加藤 宏	口腔顎顔面外科学　講師	黄地 健仁	生理学　講師	髙橋 有希	薬理学　講師	渡邉 章	口腔顎顔面外科学　教授
	小鹿 恭太郎	歯科麻酔学　准教授	國分 克寿	病理学　准教授	佐藤 涼一	衛生学　講師	四ツ谷 護	クラウンブリッジ補綴学　講師
	竜 正大	老年歯科補綴学　准教授			小髙 研人	歯科放射線学　講師	佐々木 穂高	口腔インプラント学　教授
	米澤 英雄	微生物学　教授			小谷地 雅秀	口腔病態外科学　助教	大平 真理子	パーシャルデンチャー補綴学　講師
					佐藤 仁美	歯科放射線学　助教 ドイツ・ドレスデン工科大学	西山 明宏	口腔病態外科学　講師
					染屋 智子	歯科理工学　講師	山口剛史	市川総合病院眼科　教授
					松浦 信幸	歯科麻酔学　教授	所属・職名は2025年４月１日現在	

Ⅲ．プロジェクト活動内容と成果

1．次世代研究者育成

本プロジェクトでは、次世代研究者の育成を目的として「若手サイエンスアカデミー」を推進した。2025 年度現在の若手サイエンスアカデミー構成メンバーを表 3 に、活動状況を参考資料 2 に示す。プロジェクト開始当初は、溝口利英教授（口腔科学研究センター）が連絡責任者を務めていたが、2024 年度からは大野建州准教授（口腔科学研究センター）（現生化学講座教授）が連絡責任者として主な運営業務を担当した。さらに、2025

年度後期からは、若手研究者がより主体的に運営に関与する体制を構築するため、黄地健仁講師（生理学講座）が連絡責任者を引き継ぐ体制を整えた。若手サイエンスアカデミーでは、次世代研究者の育成を目的として、以下の取り組みを実施した。

（1）研究報告会と抄読会の開催

表 3 ウェルビーイングプロジェクト若手サイエンスアカデミー構成メンバー

コアメンバー：8名（五十音順）

石井武展	歯科矯正学講座・准教授
大野建州: 連絡責任者	生化学講座・教授
小野寺晶子	生化学講座・准教授
菊池有一郎	微生物学講座・講師
櫻井敦朗	小児歯科学講座・准教授
菅原圭亮	口腔病態外科学講座・准教授
中村貴	口腔科学研究センター・講師
松永智	解剖学講座・准教授
アドバイザー：1名	
満口利英	口腔科学研究センター・教授
監事：4名	
石川昂	法歯学・法人類学講座・教授
笠原正貴	薬理学講座・教授
佐々木穂高	口腔インプラント学講座・教授
米澤英雄	微生物学講座・教授

参加メンバー：40名（五十音順）

間奈津子	生化学講座・講師	佐藤涼一	衛生学講座・講師	山本将仁	東海大学医学部医学科 生体構造領域・准教授
明石良彦	病理学講座・助教	重松正樹	口腔インプラント学講座・助教	山本楓華	歯科矯正学講座・専修科生
明由理亜	口腔腫瘍外科学講座・レジデント	設樂沙月	歯科矯正学講座・大学院生	楊天意	解剖学講座・大学院生
石束叡	解剖学講座・講師	進正史	福岡歯科大学細胞生物学分野・講師	四ツ谷護	クラウンブリッジ補綴学講座・講師
今村健太郎	歯周病学講座・准教授	千代侑香	法歯学・法人類学講座・助教	冷然	歯科矯正学講座・大学院生
薄場はるか	歯科矯正学講座・大学院生	高野峻大	クラウンブリッジ補綴学講座・大学院生	Desai Karishima	口腔科学研究センター・PF
黄地健仁	生理学講座・講師	高橋有希	薬理学講座・講師	＊所属・職名は2025年4月1日現在	
大和田碧	クラウンブリッジ補綴学講座・助教	田代憲太朗	保存修復学講座・大学院生		
小鹿山知実	口腔顎顔面外科学講座・大学院生	徳山彰秀	薬理学講座・助教		
笠原典夫	組織・発生学講座・講師	二宮禎	日本大学歯学部解剖学第1講座・准教授		
笠原正彰	歯科理工学講座・講師	羽毛田真佑花	保存修復学講座・大学院生		
川上真奈	口腔病態外科学講座・診療助教	長谷川陽	オーラルメディシン・病院歯科学・大学院生		
菊池布恵	組織・発生学講座・助教	半場秀典	保存修復学講座・講師		
北村啓	組織・発生学講座・講師	深田美緒	オーラルメディシン・病院歯科学・大学院生		
倉島竜哉	生理学講座・大学院生	松原黎	口腔インプラント学講座・大学院生		
國分栄仁	微生物学講座・講師	山下悠	歯科矯正学講座・助教		
小山侑	口腔病態外科学講座・助教	山本圭	水道橋病院・助教（診療教員）		

「研究報告会：TDC 1st Author」を隔月で開催した。本研究報告会では、本学で論文化された研究成果について、筆頭著者または責任著者が発表を行った。これにより、本学独自に創出された研究成果の共有と相互理解を促進し、連携研究の提案へとつなげる機会を提供した。また、身近な研究者が研究を遂行し、論文受理に至るまでの過程を知ることができるため、自身の研究活動を見直す有益な機会となった。2023 年度は 7 回、2024 年度は 5 回、2025 年度は 5 回の研究報告会を開催した。

また、「英語論文の抄読会：TDC Journal Club」を隔週で開催した。本抄読会では、メンバーが持ち回りで、現在取り組んでいる関連分野の研究内容、あるいは興味を持つ分野の論文を紹介した。これにより、幅広い研究領域の知識を深め、世界の研究動向や最新の研究技術を習得することができた。2023 年度は 23 回、2024 年度は 25 回、2025 年度は 23 回開催した。

さらに、若手サイエンスアカデミーでは、活動に貢献した研究者を奨励するため、「若手サイエンスアカデミー研究奨励賞」を設けた。若手サイエンスアカデミーのコアメンバーによる書類審査を経て受賞者を決定し、2023 年度は佐藤涼一講師（衛生学講座）および五十嵐章智大学院 3 年生（保存修復学講座）が、2024 年度は大和田碧大学院 4 年生（現助教）（クラウンブリッジ補綴学講座）が、2025 年度は倉島竜哉大学院 4 年生（現助教）（生理学講座）および設楽沙月大学院 4 年生（歯科矯正学講座）（現薬理学講座助教）が受賞した。これらの取り組みにより、若手研究者の研究意欲向上および研究活動の活性化が図られた。

また、若手サイエンスアカデミーの司会進行は、活動当初より連絡責任者が担当してき

たが、2025 年度 9 月以降は大学院生が主体となって担当する体制へ移行した。これにより、若手研究者が自主的に企画・運営に関与する体制が整備され、次世代研究者の育成につながった。さらに、本学所属の外国人研究者による英語での抄読会も実施し、英語による学術コミュニケーション能力の向上に寄与した。

（２）アジア国際シンポジウム(Asian Rising Stars Symposium ：ARSS) の開催

国際的に活躍できる次世代研究者の育成を目的として、アジア諸国と本学の若手研究者による国際シンポジウム「Asian Rising Stars Symposium（ARSS)」を Web（Zoom）形式にて開催した。本シンポジウムでは、発表のみならず座長も本学若手研究者が担当し、国際的なプレゼンテーション能力やディスカッション能力の向上を図る機会として活用した。さらに、海外研究者との交流を通じて、若手研究者が国際的な研究動向や研究手法に触れる機会を提供した。

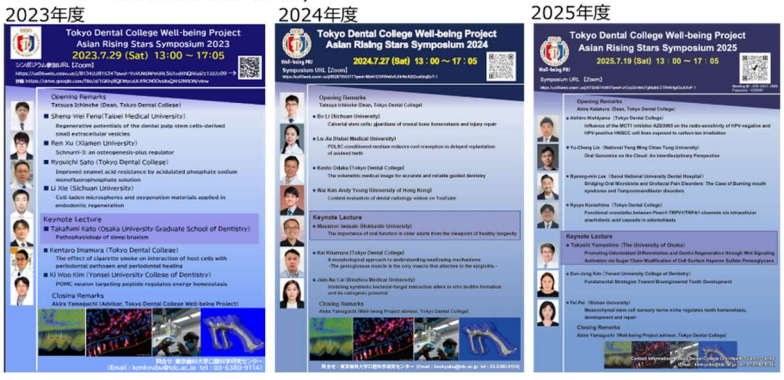
2023 年度は 7 月 29 日（土)、2024 年度は 7 月 27 日（土)、2025 年度は 7 月 19 日（土）に開催し、海外招聘若手研究者、本学若手研究者、および Keynote Lecture 講師による講演を実施した（図 4)。

2023 年度：海外招聘演者：Dr. Sheng-Wei Feng（Taipei Medical University)、Dr. Ren Xu（Xiamen University)、Dr. Li Xie （Sichuan University)、Dr. Ki Woo Kim （Yonsei University College of Dentistry)。本学研究者：佐藤涼一講師（衛生学講座)、今村健太郎講師（現准教授)（歯周病学講座)。Keynote Lecture: 加藤隆史教授（大阪大学大学院歯学研究科)。参加者：83 名。

2024 年度:海外招聘演者:Dr. Bo Li (Sichuan University)、Dr. Lu Jia (Hebei Medical University)、Dr. Wai Kan Andy Yeung (University of Hong Kong)、Dr. Jian-Na Cai (Binzhou Medical University)。本学研究者：小高研人講師（歯科放射線学講座)、北村啓講師（組織・発生学講座)。Keynote Lecture: 岩崎正則教授（北海道大学大学院歯学研究院)。参加者：70 名。

2025 年度:海外招聘演者:Dr. Yu-Cheng Lin (National Yang Ming Chiao Tung University)、Dr. Byeong-min Lee (Seoul National University Dental Hospital)、Dr. Eun-Jung Kim (Yonsei University)、Dr. Fei Pei (Wuhan University)。本学研究

図４ アジア国際シンポジウム（ARSS)



者：西山明宏講師（口腔病態外科学講座）、倉島竜哉大学院 4 年生（現助教）（生理学講座）。Keynote Lecture: 山城隆教授（大阪大学大学院歯学研究科）。参加者：84 名。

本シンポジウムを通じて、本学若手研究者が英語による研究発表および国際討論を経験するとともに、アジア近隣諸国の若手研究者の研究動向に触れる機会を継続的に提供した。

（３）他の研究施設との合同研究報告会の開催

若手研究者にとって、大学の垣根を越えた意見交換の場は、自身の研究を客観的に見つめ直し、新たな視点や研究着想を得る有意義な機会となる。若手サイエンスアカデミーでは、東京大学医学部附属病院口腔顎顔面外科・矯正歯科との合同研究報告会を継続的に開催し、若手研究者同士の交流を促進するとともに、研究意欲の向上を図った。

2023 年度は 2024 年 3 月 26 日（火）に東京歯科大学にて開催し、本学からは千代侑香大学院 4 年生（歯科麻酔学講座）（現法歯学・法人類学講座助教）、立澤孝太郎大学院 4 年生（現助教）（口腔病態外科学講座）、徳山彰秀大学院 4 年生（薬理学講座）が研究発表を行った。

2024 年度は 2025 年 3 月 18 日（火）に東京大学医学部附属病院にて開催し、本学からは倉島竜哉大学院 3 年生（現助教）（生理学講座）、田代憲太朗大学院 3 年生（保存修復学講座）、小山侑助教（現講師）（口腔病態外科学講座）が発表を行った。

さらに、2025 年度は 2026 年 3 月 17 日（火）に再び東京歯科大学にて開催し、本学からは関矢日向子大学院 4 年生（歯内療法学講座）（現保存修復学講座助教）、秦加純大学院 4 年生（オーラルメディシン・病院歯科学講座）、加藤禎彬助教（口腔病態外科学講座）が研究発表を行った。

各発表後には十分な質疑応答の時間を設け、専門分野を越えた活発な議論が行われた。また、研究報告会後には懇親会を開催し、若手研究者間の交流を深めることで、将来的な研究連携やネットワーク形成につながる機会を創出した。本取り組みは、若手研究者のプレゼンテーション能力およびディスカッション能力の向上に加え、学外研究者との交流基盤の形成にも寄与した。

2. 研究費助成による研究活性化

（１）若手研究者に向けた研究費等の助成支援

本プロジェクトでは、若手研究者の研究活動を支援し、研究力の向上を図るため、複数の研究費助成制度を整備・実施した。プロジェクト予算による研究費助成等の項目を表 4 に示す。具体的には、「大学院生研究助成」、「若手研究助成」、「Travel Award」、「若手サイエンスアカデミー研究奨励賞」を、2023 年度、2024 年度および 2025 年度に継続的に実施した（採択課題は参考資料 3 を参照）。

表 4　ウェルビーイングプロジェクト予算による研究費等の支援

予算使用項目	支援の内容
大学院生研究助成	リサーチマインドを堅持した歯科医師の育成を目的とした研究費助成
若手研究助成	若手研究者の研究力の向上を目的とした研究費助成
Travel Award	海外で開催される学会の現地参加費用をサポート
若手サイエンスアカデミー研究奨励賞	若手サイエンスアカデミーの活動に貢献した研究者への研究費助成
英文校正費助成	研究成果を英文雑誌に発表する際の英文校正費を支援
科学研究費申請支援補助費	科学研究費助成事業の採択件数の増加を目的とした研究費支援
イノベーション促進研究費助成	ラボ間の連携促進によるイノベーションの創出を目的とした研究費助成
IF競争的資金研究費助成	優れた研究実績に対するインセンティブとしての研究経費を助成
各ラボの研究計画推進費用	本研究プロジェクトの各ラボで設定した研究目標の達成のため研究費用

：若手・次世代研究者に向けた支援

「大学院生研究助成」および「若手研究助成」では、プロジェクト推進委員が審査員を務め、応募者の申請書類を評価し、その平均点に基づいて採択者を選定した。「大学院生研究助成」では年間 40 万円を 9 名に、「若手研究助成」では年間 50 万円を 7 名に助成し、若手研究者が主体的に研究を推進できる環境を整備した。また、2024 年度以降は、次世代研究者育成の観点から、教授以外の推進委員およびラボリーダーの推薦を受けたプロジェクト構成員が審査を担当する体制へ移行した。さらに、審査委員に対しては、評価の要点や利益相反への配慮などをまとめた資料を配布し、研究費審査システムを学ぶ機会を設けることで、研究助成制度の運営を通じた若手研究者の育成にも取り組んだ。

本助成の受賞者は、受賞翌年 6 月に開催される東京歯科大学学会・例会において研究成果をポスター発表し、研究成果の学内共有を行った。また、各年度 1 月には研究助成進捗報告会を全学的に開催し、研究目的達成に向けた助言や異分野研究者との意見交換を行うことで、研究内容のブラッシュアップや研究者間交流の促進につなげた。

Travel Award については、2023 年度に 2 件、2024 年度に 3 件、2025 年度に 3 件の支援を実施し、若手研究者の国際学会参加を支援した。受賞者には、帰国後に参加学会のトピックに関するレポートを東京歯科大学学会機関誌「歯科学報」に投稿することを義務づけ、学会参加による知見を学内へ還元する仕組みを構築した。また、近年の物価高騰を踏まえ、2025 年度からは宿泊補助を従来の「3 泊分（1 万円×3）」から「4 泊分（2 万円×4）」へ増額し、若手研究者がより積極的に海外学会へ参加できる支援体制の強化を図った。

（２）イノベーション促進研究費助成による連携研究の活性化支援

本研究プロジェクトでは、学際的研究のさらなる推進を目的として、プロジェクトメンバーが独自に設定した研究テーマに対し、複数のラボが連携して取り組む「イノベーション促

進研究費助成」を設けた（表 4)。本助成では、異分野融合型研究の創出と共同研究体制の構築を支援する制度として実施し、総額 1,200 万円の予算を確保し、最大 8 件を採択対象とした。採択課題は、プロジェクト推進委員が各研究グループの申請書類を審査し、その評価平均点に基づいて決定した。2023 年度は 8 課題（1 課題あたり 150 万円)、2024 年度および 2025 年度はそれぞれ 7 課題（1 課題あたり 170 万円）を採択した（採択課題は参考資料 3 参照)。また、各年度 1 月には、研究代表者による研究助成進捗報告会を全学的に開催し、研究成果や課題を共有するとともに、研究目的の達成に向けた助言や意見交換を行う機会を設けた。

一方で、本助成制度を通じて、研究費支援のみで新規の異分野連携研究を創出することには限界があることも明らかとなった。異分野連携研究は、研究者間の継続的な交流を通じて形成されることが示唆された。この経験を踏まえ、今後は研究費支援に加え、研究者間の交流促進機会の場の整備など、異分野連携研究を支える体制づくりが重要であると認識された。

（３）論文投稿および科学研究費申請支援

本研究プロジェクトでは、「英文校正費助成」、「IF (Impact Factor) 競争的資金研究費助成」および「科学研究費申請支援補助費」を設けて、研究成果の英文雑誌への発表ならびに外部資金獲得に向けた支援を行った（表 4)。「英文校正費助成」の応募件数は、プロジェクト期間を通じて 4 件に留まり、当初の想定を下回る結果となった。その要因の一つとして、制度の周知不足が考えられた。一方で、国際誌への投稿の際の英文校正費用は、特に若手研究者にとっては負担が大きいため、本制度の継続は本プロジェクトの論文成果を発信するうえで、依然として重要なものである。よって、今後も周知を徹底しつつ継続的な支援をする必要がある。

「IF 競争的資金研究費助成」は、応募者の IF 合計値上位 10 名に対して、総額 200 万円の研究費を按分して助成する制度であり、優れた研究実績を有する教育職員の研究活動をさらに活性化することを目的として実施した。また、本制度には、IF を意識することによる研究力および論文の質の向上を促進する狙いも含まれている。IF 値の評価点は、筆頭著者および責任著者については論文の IF 値とし、それ以外の著者については IF 値を著者数で割った値として算出した。

一方で、近年は英文誌数の増加に伴い、論文や雑誌の質を IF のみで評価することが難しくなってきている。実際に、研究内容や雑誌の特性を十分に考慮せず、IF を重視して投稿先を選択する傾向も一部で認められる。そのため、今後は IF だけでなく、論文の被引用回数

や国際共著論文数など、多面的な指標を取り入れた研究評価体制の構築を検討する必要がある。「顎骨疾患プロジェクト」では、分野補正後の被引用指標である Field-Weighted Citation Impact（FWCI）を用いた表彰制度「Highly Cited Award」を実施した。ウェルビーイングプロジェクトにおいても、対象論文の FWCI 値が十分に安定すると考えられる 2027 年末頃を目途に、同様の表彰制度の実施を検討している。あわせて、国際共著実績なども含めた、より多面的な研究評価体制の構築についても検討する余地がある。

「科学研究費申請支援補助費」については、2023 年度に基盤研究（C）1 件、若手研究 2 件の計 3 件、2024 年度に基盤研究（C）1 件、若手研究 1 件の計 2 件、2025 年度に基盤研究（C）4 件、若手研究 3 件の計 7 件の応募があり、応募者全員に対して研究費補助を実施した。2023 年度および 2024 年度は、基盤研究（C）に 40 万円、若手研究に 30 万円を補助した。また、2025 年度は、基盤研究（C）に 35 万円、若手研究に 25 万円を補助した。その成果として、2023 年度補助分では補助対象 3 件のうち基盤研究（C）1 件が、2024 年度補助分では補助対象 2 件のうち若手研究 1 件が、それぞれ翌年度の科学研究費助成事業に採択された。一方、2025 年度補助分については、補助対象 7 件のうち基盤研究（C）1 件の採択にとどまり、期待した成果には至らなかった。このことから、補助制度による支援に加え、さらなる支援体制の充実が必要であると考えられる。今後は、本補助金の採択者に対するきめ細かな個別支援体制を強化し、科学研究費採択率の向上に取り組む予定である。

3. 対外的研究交流および情報発信

（1）プロジェクト関連シンポジウム、セミナー等の開催

①東京歯科大学学会シンポジウム

本研究プロジェクトでは、関連分野の有識者を招聘した共催シンポジウムを開催し、口腔機能維持・改善に関する基礎的・臨床的知見の共有を通じて、プロジェクトの活性化および学術交流の促進を図った（図 5）。

図 5 プロジェクト共催東京歯科大学シンポジウム

2023年度

2024年度

2025年度

2023 年度は、第 316 回東京歯科大学学会総会（2023 年 10 月 21 日開催）において、「口腔内と腸内細菌叢の理解から紐

解く歯周疾患 - 口腔からのウェルビーイング社会創生への道しるべ -」をテーマとしたシンポジウムを開催した。石原和幸先生（本学微生物学講座)、清野宏先生（千葉大学/カリフォルニア大学)、田中芳彦先生（福岡歯科大学)、久保庭雅恵先生（大阪大学)、山崎和久先生（理化学研究所）らによる講演を通じ、口腔および腸内細菌叢と全身疾患との関連について多角的な議論が行われた。参加者は 180 名以上（会場・ウェビナー合計）であり、関連研究領域における理解促進と研究交流に寄与した。本シンポジウムの内容は、「歯界展望」に特集として掲載され、その成果を広く発信した（144 巻 4 号：669-689 頁、2024 年；144 巻 5 号：981-998 頁、2024 年)。

2024 年度は、第 318 回東京歯科大学学会総会（2024 年 10 月 19 日開催）において、「味覚の理解深化による口腔機能の維持と改善 - 『味』の科学が拓くウェルビーイング社会 -」をテーマとしたシンポジウムを開催した。澁川義幸先生（本学生理学講座)、佐藤しづ子先生（東北大学)、安松啓子先生（東京歯科大学短期大学)、田中大介先生（東京科学大学)、水田栄之助先生（山陰労災病院)、樽野陽幸先生（京都府立医科大学）らによる講演を通じ、味覚機能に関する基礎・臨床研究の最新知見が共有された。参加者は 100 名以上（会場・ウェビナー合計）であり、口腔機能維持に関する学際的理解の深化に繋がった。

2025 年度は、第 320 回東京歯科大学学会総会（2025 年 10 月 18 日開催）において、「かかりつけ歯科医と大学研究者のクロストーク- 口腔機能低下症とカリエスマネージメント -」をテーマとしたシンポジウムを開催した。本シンポジウムでは新たな試みとして、本学同窓で活躍する開業歯科医師による臨床研究や臨床的取り組みの発表に対し、本学研究者が自身の研究データや最新知見をもとにコメント・考察を行うクロストーク形式を導入した。中澤正博先生（八千代市歯科医師会/中澤歯科)、杉山精一先生（杉山歯科医院)、竜正大先生（本学老年歯科補綴学講座)、佐藤涼一先生（本学衛生学講座）らによる講演が行われ、口腔機能低下症への対応、カリエスマネジメントおよびフッ化物応用に関する知見が共有された。本シンポジウムを通じて、地域歯科医療と大学研究との連携促進に寄与する有意義な学術交流の場が形成された。参加者は 70 名以上（会場・ウェビナー合計）であった。本シンポジウムの開催案内は、「歯界展望」に掲載し、広く周知を行った（第 146 巻 4 号、601 頁、2025 年）

②東京歯科大学リカレント教育セミナー

本プロジェクトでは、東京歯科大学同窓会との共催により「東京歯科大学リカレント教育セミナー」を開催した（図 6)。本セミナーでは、本学教育職員および東京歯科大学同窓会所属の開業歯科医師の中から、各領域の専門家を招聘し、基礎研究および臨床の双方の視点

から最新知見を共有する情報交換の場を提供した。これにより、進歩する研究および医療への理解を深め、日常臨床ならびに研究活動への還元を図った。

2023 年度は、2024 年 3 月 3 日（日）に「今どきの目で口腔粘膜を見直そう -口腔粘膜からみる医科との診療連携と歯科診療-」をテーマとして開催した。山口剛史先生（本学市川総合病院眼科）、河野通良先生（本学市川総合病院皮膚科）、佐々木穂高先生（本学口腔インプラント学講座）、澁川義幸先生（本学生理学講座）、田坂彰規先生（本学パーシャルデンチャー補綴学講座）、藤関雅嗣先生（藤関歯科医院）らによる講演を通じ、口腔粘膜機能、インプラント周囲組織、顎堤粘膜特性および医科歯科連携などについて多角的な議論が行われた。参加者は 120 名以上（会場・ウェビナー合計）であり、口腔粘膜研究および臨床応用に関する理解促進に寄与した。本シンポジウムの開催案内は、「歯界展望」に掲載し、広く周知を行った（143 巻 1 号：69 頁、2024 年）。

図 6 東京歯科大学リカレント教育セミナー

2024 年度は、2025 年 2 月 9 日（日）に「口腔機能評価と口腔機能管理の実践のために」をテーマとして開催した。池邉一典先生（大阪大学）、星野照秀先生（本学口腔病態外科学講座）、太田緑先生（本学老年歯科補綴学講座）、本川佳子先生（東京都健康長寿医療センター研究所）、浜野美幸先生（千葉歯科医院）、大久保真衣先生（本学口腔健康科学講座）らによる講演を通じ、高齢者口腔機能、咀嚼筋老化、栄養・フレイル、小児口腔機能管理および摂食嚥下などについて幅広い議論が行われた。参加者は 239 名（会場・ウェビナー合計）であり、口腔機能管理に関する理解の深化に繋がった。

2025 年度は、2026 年 3 月 29 日（日）に「デジタル時代のクラウンブリッジ・有床義歯治療 - デジタルと機能的形態のフュージョンは必要か？ -」をテーマとして開催した。急速に進展するデジタル歯科医療（Digital Dentistry）を中心テーマとし、大学研究者および同窓の臨床家が、それぞれの立場から最新の知見や臨床応用について講演を行った。西井康先生（本学歯科矯正学講座）、木村正人先生（医療法人きむら歯科医院）、辻将先生（医療法人社団八龍会すずき歯科医院）、四ツ谷護先生（本学クラウンブリッジ補綴学講座）、田坂彰規先

生（本学パーシャルデンチャー補綴学講座）、竜正大先生（本学老年歯科補綴学講座）らによる講演を通じ、クラウンブリッジ補綴、有床義歯、CAD/CAM デンチャーおよび口腔内スキャナー活用などに関する最新知見が共有された。参加者は 229 名（会場・ウェビナー合計）であり、デジタル歯科医療に関する理解促進と、日常臨床への応用推進に寄与する有意義なセミナーとなった。本シンポジウムの開催案内は、「歯界展望」に掲載し、広く周知を行った（第 147 巻 3 号、393 頁、2026 年）。

以上のように、本リカレント教育セミナーは、大学研究者と同窓会との双方向的な学術交流を促進し、基礎研究成果の臨床応用ならびに臨床課題の共有に寄与した。また、大学と地域歯科医療との連携強化に貢献する有意義な取り組みとなった。

③プロジェクト関連セミナーの開催

2023 年度から 2025 年度にかけて、プロジェクト主催セミナーおよび共催大学院セミナーを計 31 回開催した（開催内容は参考資料 4 を参照）。これらのセミナーでは、当該研究領域の第一線で活躍する研究者や臨床医を招聘し、最新の研究成果や臨床知見を共有することで、本学における研究活動の活性化に寄与した。また、大学院生および若手研究者の将来的なキャリア形成支援するため、「キャリアアップシリーズ」を適宜開催し、研究活動のみならず、キャリア形成の観点から、多角的なテーマを取り上げた。2025 年度の実績を図 7 に示す。海外研究者による講演、基礎研究、臨床研究、大学における研究・教育キャリアなど、多様な内容のセミナーを実施し、若手研究者の視野の拡大と研究意欲の向上を図った。

図 7 2025年度 共催大学院セミナー実施内容

1. （海外研究者）「研究費申請へのAIの活用」
2. （基礎研究）「ATP濃度の可視化技術」
3. （海外研究者）「骨格幹細胞と骨生物学」
4. （海外研究者・キャリアアップ）「Harvard大学大学院から起業まで」
5. （海外研究者・キャリアアップ）「米国でのラボ運営」
6. （基礎研究）「歯髄の生物学と再生」
7. （キャリアアップ）「歯学部における研究・教育」
8. （臨床研究）「歯周組織再生」

多角的な内容でセミナーを開催

さらに、研究シーズの発見から社会実装に至るまでの流れを学ぶ機会として、大学院生および本学教育職員を対象に、保田尚孝先生（オリエンタル酵母工業株式会社・本学客員教授）および田村達也先生（AMED 感染症研究開発事業部感染症研究開発課主幹）を招聘し、産学連携や研究成果の実用化に関する講演を実施した。これらの取り組みを通じて、研究者育成、学際的交流、および研究推進基盤の充実に貢献した。

④研究成果の情報発信

本プロジェクトでは、研究成果を学術英文誌に発表するとともに、東京歯科大学学会機関誌「歯科学報」および東京歯科大学同窓会機関誌「東京歯科大学同窓会会報」において、「東京歯科大学研究プロジェクトからの情報発信」を継続的に連載した（参考資料 5）。本連載

では、プロジェクトで推進されている研究内容や成果を紹介し、幅広い層への情報発信を行った。プロジェクト期間中に、「歯科学報」および「東京歯科大学同窓会会報」を通じて、合計 23 報の記事を掲載し、本学研究活動の周知と研究成果の社会還元に寄与した。

Ⅳ. 研究成果

1. プロジェクト成果概要

2023 年度から 2025 年度の 3 年間にわたり、4 つのラボを中心に、基礎系・臨床系講座の枠を超えた全学的な研究体制を構築し、ウェルビーイング社会の実現を目指して、各ライフステージにおける口腔機能の維持・改善に寄与する研究に取り組んできた。プロジェクト期間を通して、英語原著論文 260 報、和文原著論文 29 報、和文総説・解説 42 報、臨床論文・症例報告 63 報、単行著書 43 冊を発表するとともに、招待講演・シンポジウム 148 件、学会発表 620 件の研究成果を発信した (参考資料 9)。

2. 各研究ラボにおける具体的な研究成果の概要

「生体防御ラボ」、「常態-病態機能解析ラボ」、「生体医工学ラボ」、「組織再生ラボ」の 4 つのグループの研究成果の概要を下記に示す。

【生体防御ラボ】

生体防御ラボは、細菌ユニット、免疫・代謝ユニットおよび硬組織代謝ユニットを中心として構成され、「口腔領域の恒常性維持機構の解明と、その破綻によって生じる疾患病態の理解」を共通目標として 2023～2025 年度に研究活動を推進した。口腔領域の恒常性は、口腔細菌叢、宿主免疫応答、エネルギー代謝および骨・軟骨代謝が相互に連関することで維持されていると考えられる。本ラボでは 2023 年度に各種疾患モデルや解析基盤の構築、講座横断的共同研究体制の整備を進め、2024～2025 年度にはそれらを発展させることで複数の研究成果を創出し、国際学術誌に発表した。本報告では、これらの研究成果の中から、生体防御ラボにおける研究の方向性と成果を代表する主な研究成果について紹介する。

まず、細菌ユニットを中心として口腔感染症研究を推進し、根尖性歯周炎病変から分離された口腔内細菌 *Fusobacterium vincentii* TDC100 株の完全ゲノム解析を実施した。本研究では、同菌株の完全ゲノム配列を決定し、生物学的特性や病原性の理解に資する基盤ゲノム情報を取得した。本成果は 2024 年に Microbiology Resource Announcements 誌に掲載され[(1)]、難治性口腔感染症における細菌－宿主相互作用研究の基盤となる重要なデータを提供した。今後は、本菌が有する病原因子や宿主応答との相互作用の解明を通じて、難治性根尖性歯周

炎の新たな病態理解につながることが期待される。

口腔感染症の発症や慢性化には、細菌側の病原性因子のみならず、それに応答する宿主免疫機構が重要な役割を果たす。そのため本ラボでは、免疫・代謝ユニットを中心として、宿主側の生体防御機構における免疫応答とエネルギー代謝の関連に着目した研究を展開した。特に、ミトコンドリア外膜タンパク質 TSPO および TSPO 関連分子を軸とした一連の研究を推進した。TSPO リガンドである Ro5-4864 を用いた解析では、Ro5-4864 の投与により、T 細胞活性化に伴って亢進する解糖系代謝が抑制され、ATP および乳酸産生の低下を介して T 細胞増殖と免疫応答が抑制されることを明らかにした。さらに、Ro5-4864 投与により T 細胞が疾患病理に深く関与する接触皮膚炎モデルにおける炎症反応の軽減が認められ、免疫細胞の代謝制御が炎症病態の制御につながる可能性を示した。本成果は 2025 年に International Immunology 誌に掲載され(2)、免疫応答と代謝制御の関連性に新たな知見を提供した。

さらに、本研究で得られた「細胞代謝が免疫機能を制御する」という知見を発展させ、免疫・代謝ユニットと硬組織代謝ユニットとの共同研究として、TSPO リガンド Ro5-4864 が骨吸収を担う破骨細胞分化に及ぼす影響を解析した。その結果、RANKL 刺激による破骨細胞形成および破骨細胞関連遺伝子発現が TSPO リガンド刺激により抑制されることを明らかにした。加えて、TSPO リガンド刺激による破骨細胞前駆細胞の ATP 産生低下やミトコンドリア機能変化が認められ、TSPO 関連分子を介したエネルギー代謝制御が骨吸収機構の調節に関与する可能性が示唆された。本成果は 2025 年に Biomedical Research 誌に掲載され(3)、免疫代謝研究から得られた知見が骨代謝研究へと発展した成果となった。また、TSPO 関連分子による代謝制御研究をさらに発展させるため、TSPO リガンドとしての作用も報告されている超短時間作用型ベンゾジアゼピン鎮静薬レミマゾラムについて解析を行った。その結果、レミマゾラムはマクロファージにおける炎症性サイトカイン産生および抗原提示関連分子の発現を抑制する一方で、病原体排除に重要な貪食能は維持されることを明らかにした。本成果は 2026 年に Bulletin of Tokyo Dental College 誌に掲載され(4)、生体防御機能を保持したまま炎症反応を制御する新たな免疫調節機構の存在を示した。

一方で、免疫応答の制御機構を包括的に理解するためには、代謝制御のみならず、炎症やアレルギー反応を担うシグナル伝達経路の解明も重要である。そこで免疫・代謝ユニットを中心として東京医科歯科大学との共同研究を推進し、プロスタグランジン D2 受容体 CRTH2 がアレルギー性気道炎症に果たす役割を解析した。その結果、CRTH2 が好酸球性炎症、IgE 産生および気道過敏性の形成に重要な役割を担うことを明らかにした。本成果は 2024 年に

International Archives of Allergy and Immunology 誌に掲載され[5]、アレルギー疾患に対する新たな治療標的探索につながる知見を提供した。

これら免疫応答や炎症制御に関する研究と並行して、本ラボでは硬組織代謝ユニットを中心に、骨・軟骨組織の恒常性維持機構とその破綻による疾患発症メカニズムの解明を推進した。変形性顎関節症 (TMJ-OA) に関する研究では、性ホルモンが顎関節組織に及ぼす影響を動物モデルで解析した。その結果、男性ホルモンから変換されるエストロゲンが顎関節における骨量維持や軟骨保護に関与し、変形性顎関節症の発症にみられる性差の形成に重要な役割を果たす可能性を示した。本成果は 2025 年に Scientific Reports 誌に掲載され[6]、顎関節症の病態解明に新たな視点を提供した。さらに、硬組織代謝ユニットを中心として、後天的な炎症性・変性疾患のみならず、骨形成機構の解明に向けた研究も展開した。骨形成を制御する主要転写因子 Runx2 の機能解析を行った結果、Runx2 の機能低下によって細胞核と細胞骨格を連結する Nesprin1 の発現が減少し、核構造異常と骨芽細胞分化障害が生じることを明らかにした。さらに、Runx2 機能が低下した細胞において Nesprin1 を再発現させることで、核機能および骨芽細胞分化が改善されることを示した。これらの結果から、Runx2 異常によって発症する骨形成異常疾患である鎖骨頭蓋異形成症 (CCD) について、Runx2 によって制御される Nesprin1 の発現異常を伴うラミノパチーとして捉える新たな病態概念を提唱した。本成果は 2025 年に PNAS 誌に掲載され[7]、骨形成異常疾患の病態解明に新たな視点を提供した。

以上の成果は、細菌ユニット、免疫・代謝ユニットおよび硬組織代謝ユニットが、それぞれの専門性を活かしながら連携して研究を推進したことで得られたものである。特に、免疫・代謝ユニットを中心として推進された TSPO 関連分子の研究は、T 細胞、マクロファージ、破骨細胞といった異なる細胞種に共通する代謝制御機構の存在を示し、硬組織代謝ユニットとの共同研究へと発展した。また、細菌ユニットが構築した口腔感染症関連細菌のゲノム情報は、宿主免疫応答や炎症制御機構の解析を進める上で重要な研究基盤となった。これらの成果は、口腔領域の恒常性が「口腔細菌叢－免疫応答－免疫代謝－骨代謝」から構成される統合的ネットワークによって維持されていることを支持するものであり、生体防御ラボにおける講座横断的研究の有効性を示す成果となった。

生体防御ラボとしての研究活動は 2025 年度をもって終了したが、本プロジェクトを通じて構築された研究基盤と共同研究ネットワークは各分野に継承されており、口腔感染症、炎症性疾患、顎関節疾患および骨形成異常疾患の病態解明と新たな予防・治療法の開発に向けた研究として、今後も学内外で発展的に展開されることが期待される。

【参考文献】

(1) H. Yonezawa, E. Kokubu, Y. Kikuchi, K. Ishihara, Complete genome sequence of *Fusobacterium vincentii* strain TDC100 isolated from an apical periodontitis lesion, Microbiol Resour Announc 13(3) (2024) e0119723.

(2) Y. Sendai, K. Takeda, K. Ohta, S. Nakae, K. Koshika, K. Kitamura, M. Higuchi, T. Ichinohe, T. Azuma, K. Okumura, T. Ohno, Ro5-4864, a translocator protein ligand, regulates T cell-mediated inflammatory responses in skin, Int Immunol 37(4) (2025) 221-234.

(3) N. Matsuura, K. Takeda, Y. Sendai, T. Ichinohe, N. Matsuura, T. Azuma, K. Okumura, T. Ohno, The translocator protein ligand Ro5-4864 inhibits RANKL-induced osteoclastogenesis in mice, Biomed Res 46(4) (2025) 167-176.

(4) N. Matsuura, Y. Sendai, M. Hasegawa, M. Fukada, N. Aida, S. Onodera, K. Koshika, T. Ohno, Remimazolam Attenuates Lipopolysaccharide-Induced Inflammatory Responses in Macrophages, Bull Tokyo Dent Coll 67(1) (2026) 1-10.

(5) S. Hanzawa, M. Sugiura, S. Nakae, M. Masuo, H. Morita, K. Matsumoto, K. Takeda, K. Okumura, M. Nakamura, T. Ohno, Y. Miyazaki, The Prostaglandin D2 Receptor CRTH2 Contributes to Airway Hyperresponsiveness during Airway Inflammation Induced by Sensitization without an Adjuvant in Mice, Int Arch Allergy Immunol 185(8) (2024) 752-760.

(6) T. Tomura, T. Ishii, N. Kasahara, Y. Nishii, Dihydrotestosterone and 17β-estradiol modulate TMJ osteoarthritis development and reveal sex-specific differences in pathogenesis, Sci Rep 15(1) (2025) 18740.

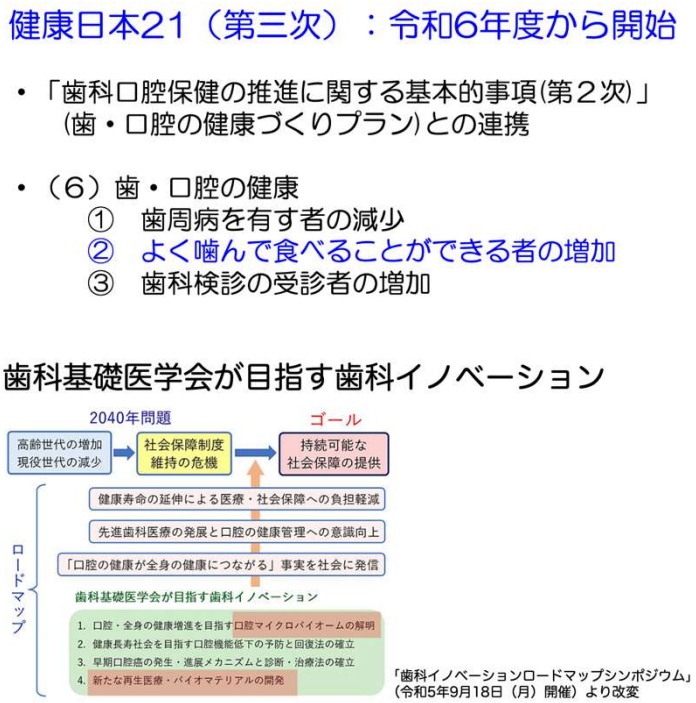
(7) A. Saito, K. Nagayama, H. Okada, S. Onodera, N. Aida, T. Nakamura, T. Sawada, H. Hojo, S. Kato, T. Azuma, Downregulation of Nesprin1 by Runx2 deficiency is critical for the development of skeletal laminopathy-like pathology, Proc Natl Acad Sci U S A 122(15) (2025) e2320138122.

【常態−病態機能解析ラボ】

概　要

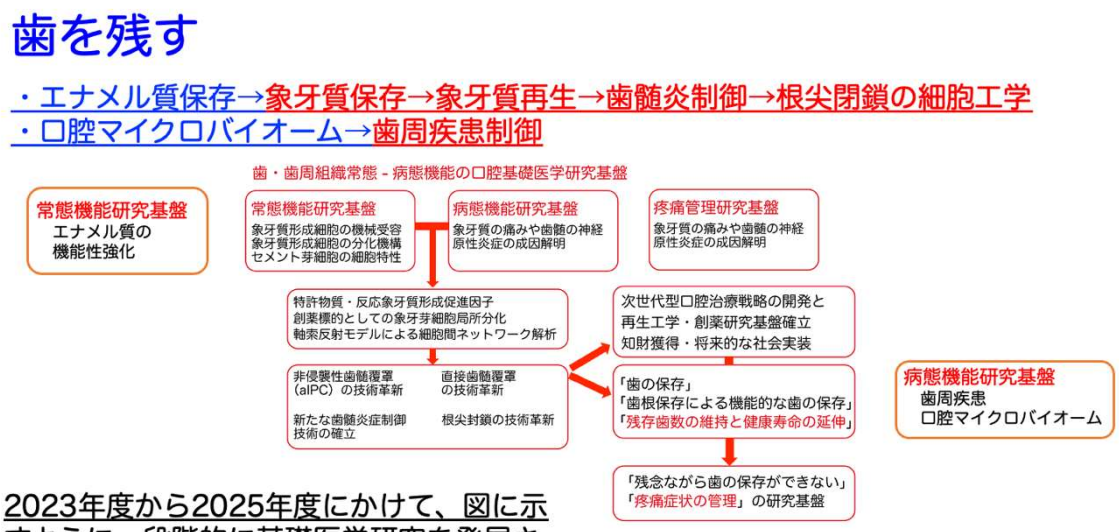
厚生労働省は国民の健康増進の総合的な推進を図る基本的な方針（健康日本 21（第二次））あるいは第 5 期科学技術基本計画（人間中心の社会 (Society5.0) ）の中で、健康寿命の延伸を大きな目的の一つに位置付けている。また、令和 6 年から開始された健康日本 21（第三次）（左上図）では「よく噛んで食べることができる者の増加」が提案された。歯科基礎医

学会では、学会が目指すイノベーションとして「口腔マイクロバイオームの解明」「新たな再生医療・バイオマテリアルの開発」が提案された（左下図）。



日本歯科医学会では、2040年への歯科イノベーションロードマップにおいて、1) 歯の神経や歯ぐきを修復する薬剤が開発、2) むし歯抑制、歯を強くする機能性素材が実用化される、3) 歯の神経と歯周組織の再生技術が開発される、4) 歯の神経と歯周組織の再生技術が実用化される、ことを目標としている（2040年への歯科イノベーションロードマップ、日本歯科医学会雑誌：39、5-30、2020）。さらに、歯が残存する人は寿命が長いだけではなく健康寿命が長く、要介護でいる期間が短く、認知症発症や転倒リスクが低いことが示され、高齢者における残存歯数あるいは口腔機能の維持が、これからの健康寿命の延伸に重要であることも示されている。

本研究では、高齢者における残存歯数の維持と健康寿命の延伸を目指し、生涯にわたり社会に参加し続けられる well-being 社会の実現に対する口腔医学の積極的寄与の可能性を見出すことを大きな目標として据えた。**2023 年度から 2025 年度にかけて、下図に示すように、段階的に、基礎医学研究を発展させ、最終的に残存歯の維持と寿命の延伸を達成することを目的とした。**特に、細胞内・細胞間シグナルネットワークに着目した象牙質歯髄複合体・根尖部歯周組織の常態機能研究、常態から病態に遷移する分子・細胞機能変調を解析し、結果としての病態出力との関連を明らかにすることを目標とし、研究を展開した。常態から病態への遷移を妨げる因子の探索から、「歯の保存」「歯根保存による機能的な歯の保存」ひいては歯の喪失後の「適正なインプラント材料開発」を可能とする臨床応用の道を模索し、次世代型口腔治療戦略・口腔再生工学・細胞工学の社会実装を目指した基礎医学研究基盤を確立することを目的とした（下図）。



2023 年度には、細胞内・細胞間シグナルネットワークに着目し、象牙質歯髄複合体・根尖部歯周組織の常態機能研究、常態から病態に遷移する分子・細胞機能変調を解析、結果としての病態出力との関連を明らかにすることを目標とし、研究を展開した。

2024 年度には、象牙質・歯髄・根尖部歯周組織の「常態生理機構」に加えて「病態機能解析」に取り組んだ。また歯周病の病態病因解析ならびにインプラント素材として有望なスマート材料の開発を行なった。また 2023 年度からの継続研究として、1) 象牙芽細胞の機械感受性 Piezo1 チャネルの活性化と、その downstream signal 解析ならびに象牙質形成への関与（生理学講座）、2) 象牙芽細胞前駆細胞プールの解明（生理学講座・口腔病態外科学講座・歯科麻酔学講座・歯内療法学講座・都立駒込病院・口腔科学研究センター）、3) 歯髄神経原性炎症のモデル解析（生理学講座・口腔病態外科学講座）、4) セメント芽細胞の機械感受性チャネル発現と根尖封鎖（生理学講座・都立駒込病院）、5) *Treponema denticola* の歯周病原性解析（微生物学講座）、6) インプラント素材として有望なスマート材料の開発（微生物学講座・東北大学）を行った。

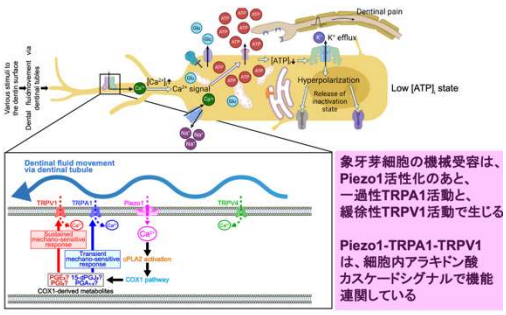
2025 年度には、2023・2024 年度からの継続研究に加えて、7) 歯周組織炎症研究基盤：感染因子・宿主因子・環境因子における独立解析（微生物学講座、歯周病学講座）、8) 象牙質形成過程と細胞分化と直接覆髄の技術革新（保存修復学講座）、9) テネイシン-C (TN-C) の歯髄組織再生医療における役割（病理学講座）、10) ケイ酸三カルシウム系歯科用セメントの骨形成促進作用解析（病理学講座）、11) 細菌叢の形成に影響する因子の探索（小児歯科学講座）、12) 齲蝕リスクの高い細菌叢の改善方略検討（小児歯科学講座）、13) ステロイド歯痛の解明（歯内療法学講座、生理学講座、小児歯科学講座）、14) 象牙芽細胞おけるグルココルチコイド受容体発現と新規シグナル経路（小児歯科学講座、歯内療法学講座、生理学講座）、15) 象牙芽細胞・三叉神経節ニューロンに対するグアヤコールの dual effects（歯

科麻酔学講座、生理学講座）、16) 象牙芽細胞と三叉神経節ニューロンにおける細胞内 cAMP のダイナミック制御-細胞機能連、17) *Wasabi Sulfinyl* による象牙質再生の基礎基盤研究、を行った。

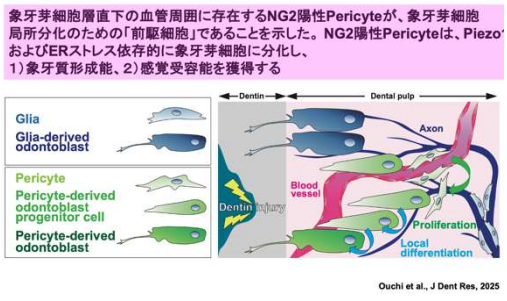
成果報告

1) 象牙芽細胞の機械感受性 Piezo1 チャネルの活性化と、その downstream signal 解析ならびに象牙質形成への関与（生理学講座）

象牙芽細胞への直接機械刺激は、温度・機械感受性イオンチャネルである transient receptor potential (TRP) channel subfamilies（TRPA1、TRPV1、TRPV2、TRPV4 チャネル）と機械感受性イオンチャネル Piezo1 を活性化する。結果としての象牙芽細胞内 Ca^{2+}シグナルは pannexin-1 channel（PANX1 チャネル）を活性化し、細胞外へ ATP を放出、細胞外へ放出された ATP が三叉神経節ニューロンを活性化する結果、象牙質痛が発生する。一方、細胞外から流入した Ca^{2+}は、細胞膜 Ca^{2+}-ATPase (PMCA) により排出され、結果として象牙質石灰化が促進する。そこで我々は、機械感受性応答が Piezo1 チャネルと TRP チャネルの細胞内シグナル経路を介した機能連関で生じると考え研究を実施した。その結果、Piezo1 チャネル活性化は、細胞内のホスホリパーゼ A2 (PLA2) –シクロキシゲナーゼ 1 (COX1) カスケードを介して TRPA1 チャネルを一過性に、TRPV1 チャネルを持続的に活性化した。加えて Piezo1 チャネル活性化は、直接 PANX1 チャネルを活性化し、細胞外へ ATP を放出する結果として細胞内 ATP が枯渇することで PMCA 活性が抑制され、象牙質石灰化レベルが低下することが示唆された。特に、象牙質痛には COX1 抑制薬は著効するが、COX2 抑制薬は効果が乏しいことが知られている。臨床像との一致から、細胞内 PLA2−COX1 カスケードを介した Piezo1-TRPA1-TRPV1 axis が象牙質痛の病態に関与すると考えた[1]。



2) 象牙芽細胞前駆細胞プールの解明（生理学講座・口腔病態外科学講座・歯科麻酔学講座・歯内療法学講座・都立駒込病院・口腔科学研究センター）



象牙芽細胞は最終分化成熟細胞である。一方で、象牙質・歯髄障害あるいは歯髄の炎症性応答では象牙芽細胞死が生じるが、一定期間の後、象牙芽細胞が再生し修復象牙質形成に働くことも知られている。しかし、どの様な細胞 phenotype あるいは幹細胞や前駆細胞が、病態および、その回復過程における修復象牙質形成に関与する

再生象牙芽細胞へ分化するのか、その詳細なメカニズムは永い間不明だった。本研究では、象牙芽細胞枯渇マウスで象牙芽細胞を死滅誘導後、血管周皮細胞（ペリサイト）のマーカーである NG2 に陽性を示す細胞（NG2 陽性細胞）が、細胞稠密層で増殖した後、Piezo1 陽性象牙芽細胞に分化することを明らかにした。また NG2 陽性ペリサイトから Piezo1 陽性象牙芽細胞に分化する過程における、ER ストレスセンサータンパク質である ATF6a の動態を検討した。ER ストレス誘導剤として知られる SERCA 阻害剤であるタプシガルジンを適用すると、象牙芽細胞系譜細胞の細胞内 Ca^{2+}濃度が増加した。加えて ATF6a/NG2 の遺伝子抑制実験により、象牙芽細胞系譜細胞の石灰化が損なわれた。以上から、NG2 陽性ペリサイトが、感覚受容機能と象牙質形成能を有する機能的な象牙芽細胞への分化能を有する「象牙芽細胞前駆細胞」であることが示され、その分化は ATF6a の制御下にあることが明らかとなった(2)。

3) 歯髄神経原性炎症のモデル解析（生理学講座・口腔病態外科学講座）

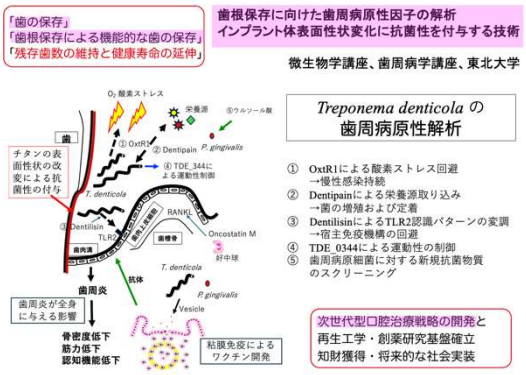
歯髄の炎症（歯髄炎）は非感染性炎症であり、神経原性炎症である。一方で、象牙質破壊に伴う歯髄への感染は全部性歯髄炎をもたらし、感染が根尖部へと波及する。その結果、根尖性歯周組織炎となり、歯の喪失の原因となる。歯髄炎の制御が可能となれば、歯を残す確率は高くなる。しかし炎症の成因である神経原性炎症の詳細は未解明のまま残されており、有効な薬物療法も存在しないのが現状である。そこで神経原性炎症の詳細を明らかにするため、内皮細胞-神経細胞の共培養系を用いて、炎症に伴う歯髄内圧の亢進と、引き続く軸索反射をモデル化、内皮細胞-神経細胞における細胞間ネットワーク解析から神経原性炎症の成因の解明に取り組んだ。歯髄内圧の上昇をモデル化するため培養神経細胞に機械刺激を加えると、共培養された周囲の内皮細胞の Gs-タンパク質共役型受容体活性化が生じた。このことから、神経ペプチドによって、神経細胞から内皮細胞への細胞間コミュニケーションが生じる、すなわち、軸索反射が生じることを明らかにした (In preparation) 。

4) セメント芽細胞の機械感受性チャネル発現と根尖封鎖（生理学講座・都立駒込病院）

残念ながら根尖性歯周組織炎に移行した場合、感染根管処置が必要となる。創傷治癒の観点で考えると感染根管処置の成否は、セメント質による根尖部の完全な閉鎖にほかならない。しかしながら、セメント芽細胞の詳細な細胞特性は未だ理解されていない。そこでセメント芽細胞の咬合力・矯正力に伴う機械受容性と、セメント質形成の関連を検討した。結果として、セメント芽細胞の機械感受性チャネルが、特定転写因子を核内局在に止め、石灰化の活性に働くであろうことが示された(3)。

5) *Treponema denticola* の歯周病原性解析（微生物学講座）

T. denticola は歯肉縁下に生息する偏性嫌気性の歯周病原細菌である。歯周ポケットを含め、口腔内の環境は常に変化しており、本菌が歯肉縁下に定着するためには酸素ストレスを



含む複数のストレスを回避する必要がある。しかし、*T. denticola* の酸素ストレス回避メカニズムについてはいまだ明らかにされていない。本菌を酸素暴露化で培養すると、転写調節因子 TDE_0259 (OxtR1) の遺伝子発現が増加し、それにより潜在的 ferrodoxin (TDE_0260) の発現が制御されていた。このことから、OxtR1 が酸素ストレスによって消耗した ferrodoxin を補うことによって *T. denticola* の酸素ストレス応答に寄与していることが明らかになった[4]。本菌の運動性は上皮組織侵入等の病原性に関わることが知られている。転写調節因子 TDE_0344 の欠損株では、flagellar motor switch protein (FliG) の発現が上昇し、運動性に変化が認められており、本遺伝子が運動性の調節に関わっていることを明らかにすることができた[5]。補体による傷害作用の回避に関わると考えられる本菌のタンパク質分解酵素 dentipain による解析では、本酵素が細胞外に分泌されており、その分泌には dentilisin による切断と、Msp が関わる事が示唆された[6]。さらに本酵素は、*T. denticola* の外膜に作用し、血清中の栄養源の取り込みや付着に関わっていることが示された。また本菌には 3 つのバクテリオシン様タンパクが存在するが、これらが菌体外に分泌されていることを明らかにした[7]。さらにバクテリオシン様タンパクと *T. denticola* 特有のリポタンパクの遺伝子は 3 組続けて存在し、複製の際に重複が起こったと考えられ、本菌にとって重要な役割を果たしていることが予測された。*T. denticola* を宿主上皮細胞に感染させ、その応答を解析すると、上皮細胞に TLR2 経由のシグナルが認められ、その強度は dentilisin 欠損株の感染によるものが最も強かった。この結果より、*T. denticola* は主に TLR2 を介して上皮細胞に認識されることと、outer sheath には TLR2 の潜在的なリガンドあり、それが dentilisin 欠損による outer sheath の組成の変化によって表在化することが示唆された。つまり *T. denticola* はタンパク質分解酵素である dentilisin により上皮細胞へ侵入するとともに TLR2 認識パターンを変調させ細胞の防御反応を回避し病原性を示すことを明らかにした[8]。

6) インプラント素材として有望なスマート材料の開発（微生物学講座・東北大学）

インプラント体への細菌付着はインプラント周囲炎のリスクとなる。そのため細菌の付着性の低いインプラント素材の解析が行われてきた。我々は、インプラント体に用いられているチタンを処理することによりその表面に異方的に配列した無数のナノ突起を形成させ、この異方的な配列が表面の電気的反応性を高めて物理的に細菌の付着抑制や殺菌効果を発揮することを明らかにした。これによって新たな細菌付着抑制作用を持つチタンの処理法が明らかとなり、臨床応用への可能性を得た[9]。

7) 歯周組織炎症研究基盤：感染因子・宿主因子・環境因子における独立解析（微生物学講座、歯周病学講座）

① 歯周病原細菌に対する新規抗菌物質のスクリーニング

歯周炎の治療には抗菌薬も使用されるが、耐性菌誘導の点から新たな抗菌成分の開発が必要とされている。我々は、クワ (Mulberry) の葉、コケモモ (bilberry) の実から抗 *P. gingivalis* 活性を指標に抗菌活性を示す成分を分離した[10),(11)]。コケモモから得られた抗菌物質については、ウルソール酸であることをも明らかにできた。

② Vesicle を用いた歯周病原細菌に対する新規抗菌物質のスクリーニング

細菌からは表層成分を含む vesicle が遊離する。Vesicle には病原因子を含む菌体表層成分が含まれるためワクチンの抗原となりうる。歯周病原細菌である *Porphyromonas gingvalis* と *T. denticola* の vesicle を用い、粘膜免疫によるワクチンの可能性を検討した。マウスとイヌのモデルで両菌種の vesicle を粘膜投与後ブースターで血中投与することによって両菌種に対する特異抗体を誘導できた。産生された抗体には gingipain を欠く *P. gingivalis* の増殖抑制効果を認め、粘膜免疫ワクチンの実用の可能性を示すことができた。

③ 歯周炎骨吸収における好中球の役割の解析

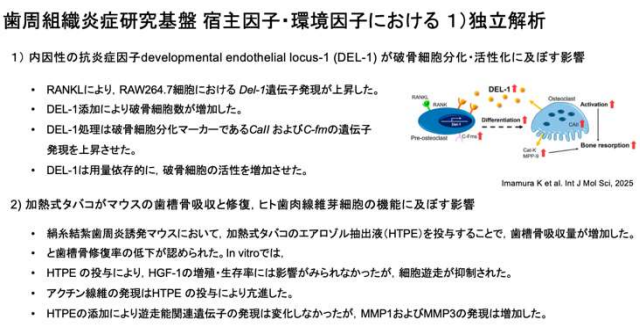
歯周炎のプロセスにおける骨吸収については、Th17 の機能が知られているがその全貌は明らかにされていない。本研究では、マウス歯周炎モデルの歯肉組織を用いて single cell RNA-seq を行い、好中球と骨細胞系の間に相互作用を見いだした。このメカニズムの解析を行うと、炎症巣に遊走してきた好中球の産生する OncostatinM が歯根膜細胞に作用し RANKL 発現を引き起こし骨吸収を誘導することを明らかにした[12)]。

④ 歯周炎が全身状態に及ぼす影響

歯周炎は慢性感染症であり、以前から動脈硬化、糖尿病等の慢性疾患を増悪することが知られている。しかし、歯周炎自体が生体にどのような作用を及ぼすかについては明らかにされていなかった、我々はマウス結紮モデルで歯周炎を起こしたマウスにおいてその全身にどのような影響を及ぼすかについて検討し、歯周炎が骨密度の低下、遅筋の弱体化、認知機能の低下を引き起こすことを明らかにした[13)]。

⑤ 歯周組織炎症研究基盤 宿主因子における独立解析

骨粗鬆症と歯周病は骨吸収を特徴とする疾患であり、その骨吸収は骨芽細胞と破骨細胞バランスの不調和によって引き起こされる。内因性の抗炎症因子 developmental endothelial locus-1 (DEL-1) は、発生の分野で注目され、好中球の遊走調節などの働きが明らかになっている。近年、歯周病分野でも DEL-1 による歯槽骨吸収抑制効果が報告されている。そこで、我々は DEL-1 が破骨細胞分化・活性化に及ぼす影響について検討する



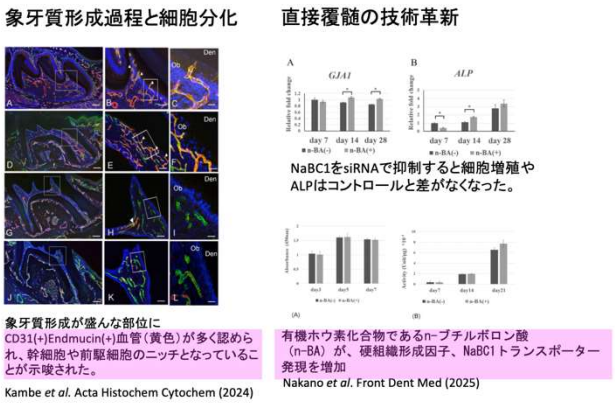
こととした[14]。RANKL で処理した RAW264.7 細胞における *Del-1* の遺伝子発現量を qRT-PCR により測定した。DEL-1 による破骨細胞への分化および機能に及ぼす影響を検討した。さらに、*Del-1* 発現を抑制する siRNA (*Del-1* siRNA) を用いて、破骨細胞分化の抑制効果を検討した。さらに、卵巣摘出 (OVX) マウスを作製し、*Del-1* の遺伝子発現量を測定した。RANKL 処理を行った RAW264.7 細胞で *Del-1* 遺伝子発現は未処理のものに比べて約 30 倍に上昇した。各種濃度の DEL-1 添加による破骨細胞数の増加が、TRAP 染色によって観察された。さらに、DEL-1 処理は破骨細胞分化マーカーである *CaII* および *C-fm* の遺伝子発現を上昇させた。DEL-1 は用量依存的に、破骨細胞によるリン酸カルシウムの分解を促進させた。さらに、OVX マウスは、コントロールと比較して *Del-1* 遺伝子が有意に高い値で発現していた。破骨細胞および OVX マウスにおいて *Del-1* 遺伝子発現が上昇していることから、DEL-1 が骨粗鬆症における骨吸収に関与していることが示唆された。DEL-1 は RAW264.7 細胞の破骨細胞への分化を促進し、濃度依存的に骨吸収活性を上昇させた。さらに、DEL-1 の発現を抑制することで、破骨細胞分化を制御されることが分かった。以上の結果より、DEL-1 はマクロファージ様細胞から破骨細胞への分化を促進させる因子であり、その発現抑制が骨粗鬆症や歯周病における骨吸収に対する治療標的の候補となる可能性が示唆された。今後、動物実験による DEL-1 抑制方法についての検討を進めていく。

⑥ 歯周組織炎症研究基盤 環境因子における独立解析

喫煙は歯周病の最大のリスクファクターの 1 つである。近年、新型タバコ（電子タバコや加熱式タバコ製品 (HTP) など）が登場している。しかし、HTP が歯周組織に与える影響については未だ不明な点が多い。そこで我々は HTP がマウスの歯槽骨吸収と修復、ヒト歯肉線維芽細胞 (HGF-1) の機能に及ぼす影響を明らかにすることとした[15]。加熱式タバコのエアロゾル抽出液 (HTPE) および従来型タバコ煙抽出液 (CSE) を作製した。*In vivo* では、HTPE と CSE が歯槽骨吸収に与える影響を絹糸結紮歯周炎誘発マウスにて評価した。C57BL/6 マウスを HTPE 群、CSE 群、コントロール群に分け、それぞれの溶液を結紮設置前に 3 日間、1 日 1 回、 腹腔内に投与した。HTPE および CSE 群ではニコチン濃度が 0.83 mg/kg となるように調製し投与した。上顎左側第二臼歯に絹糸を結紮し、7 日後、マイクロ CT 解析を行い、歯槽骨吸収量を評価した。歯槽骨修復率は、結紮除去後、さらに各溶液を 3 日間（8〜10 日目）投与し、17 日目にマイクロ CT にて評価した。*In vitro* では、HTPE と CSE が HGF-1 に与える影響を検討した。HGF-1 は、HTPE (6.25-200%) または CSE (3.125-100%) を添加し 24 時間培養した。細胞増殖、遊走、形態は、それぞれ WST-8、創傷治癒アッセイ、共焦点レーザー顕微鏡を用いて評価した。また細胞遊走に関連する遺伝子の発現量を、RT-qPCR にて解析を行った。絹糸結紮歯周炎誘発マウスにおいて、HTPE または CSE を投与することで、歯槽骨吸収量の増加と歯槽骨修復率の低下が認められた。*In vitro* では、HTPE の投与により、HGF-1 の増殖・生存率には影響がみられなかったが、細胞遊走が抑制

され、アクチン線維の発現が亢進した。一方 CSE 投与は細胞増殖・生存率を低下させるとともに、細胞遊走を抑制、アクチン線維の凝集を引き起こした。さらに HTPE または CSE の添加により遊走能関連遺伝子である *FN1*、*ITGA3*、*ITGB1* の発現は変化しなかったが、*MMP*1 および *MMP3* の発現は増加した。HTPE を投与した歯周炎誘発マウスにおける歯槽骨吸収の増加と修復の抑制は、ニコチン等による *MMP* の増加や血管収縮作用が関与すると考えられた。HTPE は CSE と比較して細胞毒性が低いものの、アクチン骨格の再構築を介し、細胞遊走を抑制する可能性がある。また *MMP* 発現増加は、アクチン骨格の変化による移動性の低下を補うために生じたと考えられ、HTPE は ECM リモデリングを介して歯周組織治癒に抑制的に作用する可能性がある。以上の結果から、 HTPE は CSE とは程度は異なるものの、歯周組織の破壊を促し、治癒を阻害することが示唆された。

8) 象牙質形成過程と細胞分化と直接覆髄の技術革新（保存修復学講座）



近年、CD31(+)Endomucin(+)を示す血管が間葉系幹細胞や前駆細胞のニッチとなって骨組織形成に関与していることが分かってきたが、象牙質形成については明らかになっていない。本研究ではマウス歯髄においてCD31(+)Endomucin(+)を示す血管の局在の変化を経時的に調べ、象牙質形成との関連性を明らかにすることを目的とした。1, 4, 8, 12, 56 週齢のマウスを用いて検討したところ、象牙質を形成する部位にCD31(+)Endomucin(+)が多くみられ、象牙質形成への寄与が示唆された[16]。

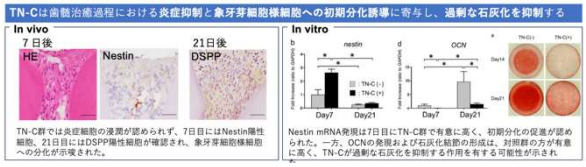
MMA 系接着性レジンセメントにはトリブチルボラン (TBB-O) が含まれているが、化学的に不安定な物質で直ぐに有機ホウ素化合物に変化することや硬組織形成能がないことが欠点とされてきた。近年、低濃度のホウ素が硬組織形成を促進したことが報告され、歯髄でも同様の効果が期待されている。そこで有機ホウ素化合物である n-ブチルボロン酸 (n-BA) を培養歯髄細胞に添加した際の細胞増殖能や硬組織形成能の変化を検討した。その結果、n-BA の添加により歯髄細胞の増殖能、ALP 活性は上昇し、これにはホウ素輸送に関与する NaBC1 が関与していることが明らかとなった[17]。

また、Pulp revascularization の治癒過程に Gli1 が関与することも明らかにした。

9) テネイシン-C (TN-C) の歯髄組織再生医療における役割（病理学講座）

細胞外マトリックス糖タンパク質であるテネイシン C (Tenascin-C, TN-C) が、歯髄組織および歯髄幹細胞に与える影響を、マウスモデルとヒト歯髄幹細胞(DPSCs)を用いた細胞培養

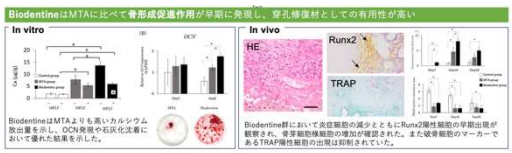
実験の両面から検討した。in vivo 実験では、マウスの歯髄に TN-C を含むコラーゲンスポンジを適用し、組織学的および免疫組織化学的観察を行った。その結果、TN-C 群では炎症細胞の浸潤が認められず、7 日目には Nestin 陽性細胞、21 日目には DSPP 陽性細胞が確認され、象牙芽細胞様細胞への分化が示唆された。一方、in vitro 実験では、DPSCs を TN-C の有無で培養し、細胞増殖、遺伝子発現、石灰化を評価した。細胞増殖に有意差は認められなかったが、TN-C 投与群では Nestin の mRNA 発現が 7 日目に有意に高く、初期分化が促進されていた。また、石灰化の指標である OCN の発現および石灰化結節の形成は、対照群の方が有意に高く、TN-C が過剰な石灰化を抑制する作用を有する可能性が示された。以上の結果より、TN-C は歯髄の炎症抑制や幹細胞の初期分化を促進する一方で、過剰な石灰化形成を抑える調整的役割を持つと考えられる。これにより、TN-C は歯髄組織の再生医療における有望な候補となる可能性が示唆されたが、ヒトにおける応用にはさらなる検討が必要である[18]。



10) ケイ酸三カルシウム系歯科用セメントの骨形成促進作用解析（病理学講座）

ケイ酸三カルシウム系歯科用セメント「Biodentine」が、既存の MTA (Mineral Trioxide Aggregate) に代わる有用な穿孔修復材となり得るかを検討するため、in vitro および in vivo の両面からその骨形成促進作用を比較評価したものである。

in vitro 実験では、ヒト歯根膜線維芽細胞 (HPLFs) を用い、pH、カルシウムイオン放出量、細胞接着および増殖、骨形成関連遺伝子の発現（RUNX2、OCN など）、ならびに石灰化沈着（Alizarin Red S 染色）を指標として比較を行った。結果として、Biodentine は MTA よりも高いカルシウム放出量を示し、OCN 発現や石灰化沈着においても優れた結果を示した。in vivo 実験では、ラット上顎第一大臼歯に髄床底穿孔を作成し、Biodentine または MTA で封鎖後、7、14、28 日目に組織学的評価を実施した。Biodentine 群では、炎症の減少とともに早期から Runx2 陽性細胞の出現が観察され、骨芽細胞様細胞の増加が確認された。また、破骨細胞マーカーである TRAP 陽性細胞は MTA および Biodentine 群で抑制されていた。これらの結果から、Biodentine は MTA に比べて骨形成促進作用がより早期に発現し、穿孔修復材としての可能性が高いことが示唆された。特に、ナノ粒子による微細構造や高いカルシウム放出性が、細胞分化や骨形成に寄与していると考えられる。ただし、その作用機序の詳細な解明にはさらなる研究が必要である[19]。



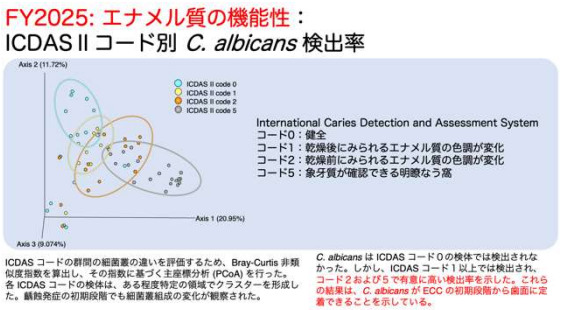
11) 細菌叢の形成に影響する因子の探索（小児歯科学講座）

12) 齲蝕リスクの高い細菌叢の改善方略検討（小児歯科学講座）

乳幼児期は口腔の細菌叢の形成時期にあたる。この時期に適切な食習慣や生活習慣を通じ、正しい口腔内細菌叢を構築するための環境作りが、健全な顎口腔機能の育成に重要である。一方、低年齢のうちに齲蝕を生じるような小児では、早期に細菌叢の改善を図らなければ、その後生涯にわたって口腔疾患のリスクが高い状態が続きかねない（左図）。

① 細菌叢の形成に影響する因子の探索

口腔内細菌叢の変化はごく初期の齲蝕歯面から見られるが、真菌が併存している場合、細菌叢の変化が顕著に進むことが明らかとなった。International Caries Detection and Assessment System（コード 0：健全、コード 1：乾燥後にみられるエナメル質の色調が変化、コード 2：乾燥前にみられるエナメル質の色調が変化、コード 5：象牙質が確認できる明瞭なう窩）の ICDAS コード群間の細菌叢の違いを評価するため、Bray-Curtis 非類似度指数を算出し、その指数に基づく主座標分析 (PCoA) を行った。各 ICDAS コードの検体は、ある程度特定の領域でクラスターを形成した。齲蝕発症の初期段階でも細菌叢組成の変化が観察された。*C. albicans* は ICDAS コード 0 の検体では検出されなかった。しかし、ICDAS コード 1 以上では検出され、コード 2 および 5 で有意に高い検出率を示した。これらの結果は、*C. albicans* が ECC の初期段階から歯面に定着できることを示している。

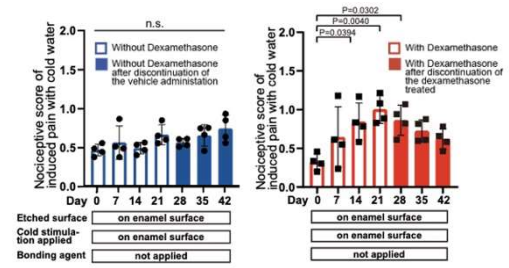


② 齲蝕リスクの高い細菌叢の改善方略検討

治療前試料と治療後試料は細菌叢が大きく変化する研究参加者が多く、健全な対象群の細菌叢に近づいていたが、一方でほとんど変化が見られなかった者も約 30%いたことが明らかになった[20), (21)]。

13) ステロイド歯痛の解明（歯内療法学講座、生理学講座、小児歯科学講座）

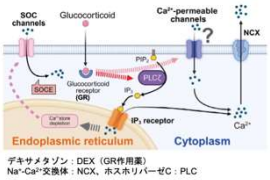
ステロイド服用患者では、象牙質知覚過敏様の歯痛（以下ステロイド由来歯痛；STiTp）が発生することが知られているが、その本態は不明である。そこでデキサメタゾン投与による STiTp 発症モデルマウスを作製し、その疼痛行動評価を行なった。21 日間のデキサメタゾン投与をマウスの切歯に冷水刺激を行うと、疼痛行動スコアは対照群と比較し有意に上昇した（左図左）。その疼痛行動スコアの上昇は、投薬中断によって停止し、スコアは減少に転じたことから、デキサメタゾンによる疼痛誘発は可逆性と示された（左図右）。デキサ



ステロイド由来歯痛(STiTp)の立証解析

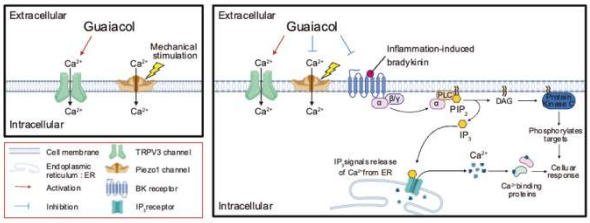
メタゾンが投与されたマウス下顎前歯歯髄では、歯髄充血が観察された。ステロイド由来歯痛は歯髄充血に続発する歯髄内応答で生じるであろうことが示唆された (In preparation) 。

14) 象牙芽細胞おけるグルココルチコイド受容体発現と新規シグナル経路（小児歯科学講座、歯内療法学講座、生理学講座）



ステロイドの長期投与により、冷・温水刺激で持続的な激しい歯痛（ステロイド由来歯痛）が生じるが、その象牙芽細胞への作用は不明である。そこで、象牙芽細胞機能に対するステロイドの影響を解明するため、ヒト培養象牙芽細胞（HOB 細胞）のグルココルチコイド受容体 (GR) 発現と、ステロイド誘発性細胞内 Ca^{2+}シグナル、ステロイド誘発性石灰化能を検討した。象牙芽細胞には GR が発現し、Ca^{2+}流入、Ca^{2+}ストアから Ca^{2+}放出を誘発することが示唆された。DEX で増加した細胞内 Ca^{2+}は NCX を介して細胞外へ排出され、象牙芽細胞による石灰化を、低濃度で促進し、高濃度では抑制することが示唆された（左図） (In preparation) 。

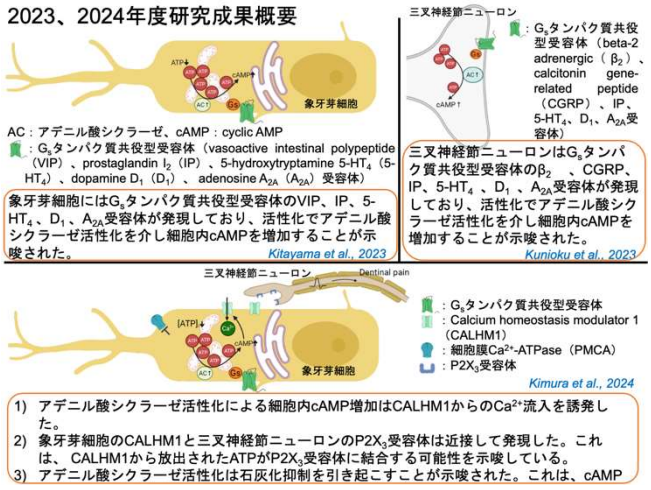
15) TRPV3 チャネルの象牙芽細胞・三叉神経節ニューロンに対するグアヤコールの dual effects（歯科麻酔学講座、生理学講座）



歯痛は、象牙芽細胞と歯髄に分布する三叉神経節 (trigeminal ganglion：TG) ニューロンとの機能連関[22-24]で生じる象牙質痛と、歯髄組織の神経原性炎症による歯髄痛に分類される。根管貼薬剤で用いられるグアヤコールは高い鎮痛効果を有しているが、その詳細な薬理学的作用機序に関しては未だ不明点が多い。そこで、象牙芽細胞と TG ニューロンに対して、グアヤコールを作用させた際の細胞内遊離 Ca^{2+}シグナル変化を検討した。グアヤコールは象牙芽細胞と TG ニューロンに発現する TRPV3 チャネルを介して細胞内 Ca^{2+}濃度を増加させる。グアヤコールは、TG ニューロンに作用し、機械感受性 Ca^{2+}流入を抑制することで鎮痛効果を示す可能性が示唆された。（左図） (In preparation)

16) 象牙芽細胞と三叉神経節ニューロンにおける細胞内 cAMP のダイナミック制御-細胞機能連

象牙芽細胞は象牙質感覚の感覚受容細胞であり象牙質形成細胞である。以前、我々は象牙芽細胞で cannabinoid 1 受容体活性化による細胞内 cyclic AMP (cAMP) 増加は transient receptor potential vanilloid subfamily 1 チャネルを介した Ca^{2+}流入を誘発する。これは細胞内 cAMP・Ca^{2+}シグナル連関が象牙質痛発生や反応象牙質形成に重要な役割を果たすことを示唆している。本研究では、象牙芽細胞の Gs タンパク質共役型受容体により活性化される細胞内 cAMP シグナルとその細胞機能に対する役割を明らかにするため、ヒト培養象牙芽細胞での様々な Gs タンパク質共役型受容体の発現と細胞内 cAMP 動態を検討した。ヒト培養象牙芽細胞は抗 Gαs タンパク質共役型受容体、vasoactive intestinal polypeptide (VIP) 受容体サブタイプの VPAC1 と VPAC2、prostaglandin I_2 (IP) 、5-hydroxytryptamine 5-HT_4 (5-HT_4) 、dopamine D_1 (D_1) 、adenosine A_2A (A_2A) 受容体、副甲状腺ホルモン (PTH) 抗体に免疫陽性反応を示した。IP、5-HT_4、D_1、A_2A、VIP、PTH 受容体アゴニストの投与は細胞内 cAMP レベルを増加した。その増加は各受容体の拮抗薬またはアデニル酸シクラーゼ抑制薬の投与で抑制された。したがって、象牙芽細胞に IP、5-HT_4、D_1、A_2A、VIP、PTH 受容体が発現すること、それら受容体の活性化はアデニル酸シクラーゼを活性化することで細胞内 cAMP を増加することが示唆された[25), (26)]。

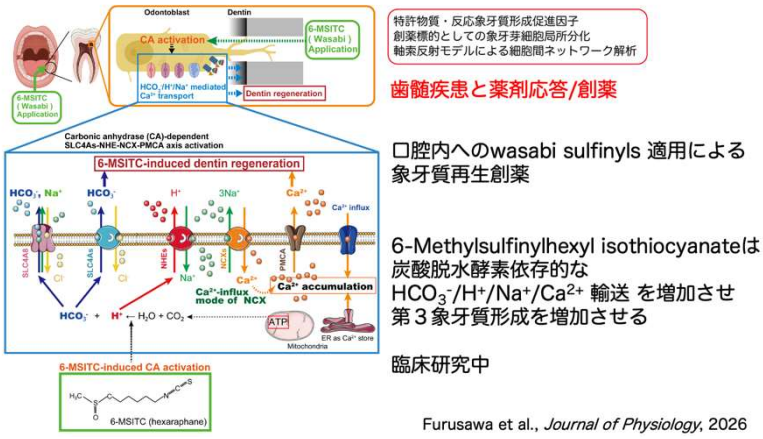


一方、三叉神経節 (TG) ニューロンの G タンパク質共役型受容体は侵害受容感覚などの感覚に関与することが報告されている。加えて、TG ニューロンでは細胞内 cyclic AMP (cAMP) レベルが細胞内 Ca^{2+}シグナルを調節することが示唆された。本研究では、新生仔ラットから急性単離した TG ニューロンにおける Gs タンパク質共役型受容体の詳細な発現パターンとそれら受容体活性化による細胞内 cAMP 動態を検討した。TG ニューロンは抗 Gαs タンパク質共役型受容体、beta-2 adrenergic (β_2) 、calcitonin gene-related peptide (CGRP) 、adenosine A_2A (A2A) 、dopamine 1 (D_1) 、prostaglandin I_2 (IP) 、5-hydroxytriptamine 4 (5-HT_4) 受容体抗体に免疫陽性反応を示した。アデニル酸シクラーゼ活性化薬、β_2、CGRP、A_2A、D_1、IP、5-HT_4 受容体のアゴニスト投与で細胞内 cAMP レベルが増加した。その増加はアデニル酸シクラーゼ抑制薬の投与で抑制された。したがって、TG ニューロンは β_2、CGRP、A_2A、D_1、IP、5-HT_4 受容体を発現しており、それら受容体の活性化はアデニル酸シクラーゼ活性化による細胞内 cAMP 増加を誘発することが示唆された。本研究で得られた結果は、口腔領域における侵害受容感覚の調節メカニズムの解明につながる成果である[27)]。

象牙芽細胞の細胞内 Ca^{2+}シグナルは反応象牙質形成や ATP 放出を介した象牙質痛の発生に重要な役割を果たす。象牙芽細胞はいくつかの Gs タンパク質共役型受容体を発現することが報告されており、細胞内 cAMP が細胞内 Ca^{2+}シグナルを調節する可能性が示唆されている。そこで、詳細な象牙芽細胞内 cAMP シグナル経路、cAMP の細胞機能に対する役割、細胞内 Ca^{2+}シグナルと cAMP シグナルのクロストークを明らかにするため、本研究はヒト培養象牙芽細胞を用いてアデニル酸シクラーゼまたは β_2 受容体の活性化で生じる細胞内 cAMP シグナルと細胞内 Ca^{2+}シグナル、両者のクロストークを検討した。加えて、ヒト培養象牙芽細胞の calcium homeostasis modulator 1 (CALHM1) の発現とマウス臼歯を用いた象牙芽細胞の CALHM1 と三叉神経節ニューロンの $P2X_3$ 受容体の位置関係、細胞内 cAMP のヒト培養象牙芽細胞による石灰化に対する影響も検討した。象牙芽細胞のアデニル酸シクラーゼの活性化は細胞内 cAMP レベルを増加すること、β_2 受容体の活性化はアデニル酸シクラーゼを活性化することで細胞内 cAMP レベルを増加することが示唆された。象牙芽細胞のアデニル酸シクラーゼ活性化はプロテインキナーゼ A 活性化を介した CALHM1 からの Ca^{2+}流入を誘発することが示唆された。象牙芽細胞の CALHM1 と三叉神経節ニューロンの $P2X_3$ 受容体が近接して発現することが示された。加えて、アデニル酸シクラーゼの活性化は象牙芽細胞による石灰化を抑制することが明らかになった。したがって、象牙芽細胞の Gs タンパク質共役型受容体活性化と cAMP－プロテインキナーゼ A シグナル、CALHM1 を介する cAMP 誘発性 Ca^{2+}流入は象牙質石灰化や象牙質痛発生などの象牙芽細胞機能調節に関与することが示唆された[28]。

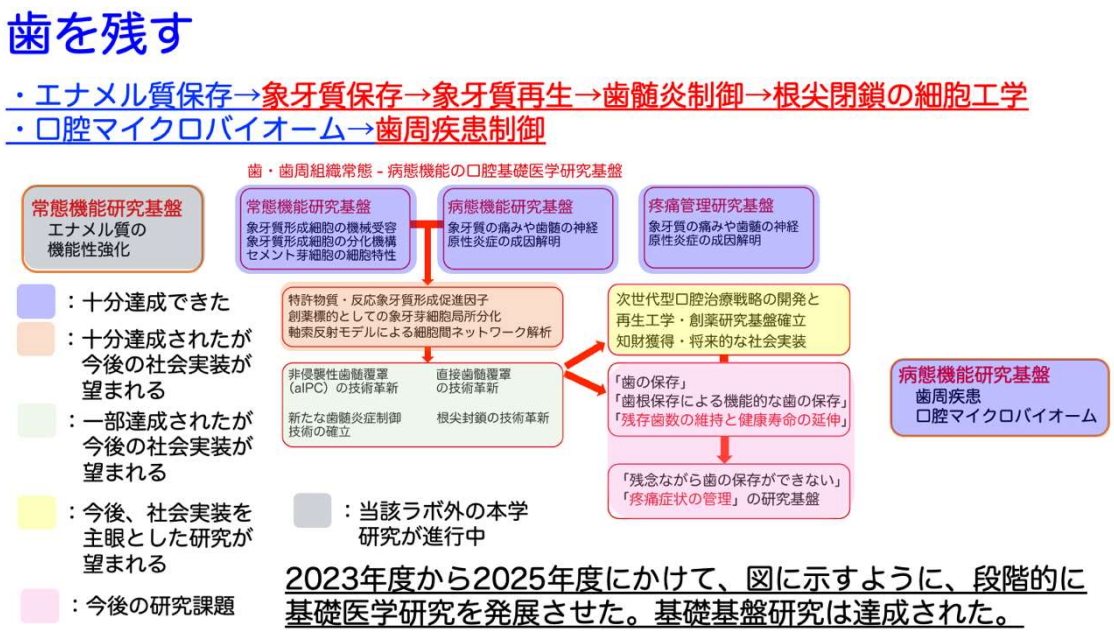
17) *Wasabi Sulfinyl* による象牙質再生の基礎基盤研究

ワサビ成分（ワサビスルフィニル）である 6-MSITC と、6-MSITC から化学構造を変化させた 7 つの化合物による石灰化能を評価したところ、6-MSITC および 6-MSFITC が象牙芽細胞の石灰化を有意に促進させた。象牙芽細胞による 6-MSITC で誘導される石灰化は、炭酸脱水酵素阻害薬、細胞膜カルシウムイオンポンプ阻害薬で抑制され、両者を同時投与するとその抑制効果は増強した。また重炭酸イオン輸送体阻害薬も 6-MSITC 誘発性の石灰化を有意に抑制した。象牙芽細胞には、重炭酸イオン輸送体 (SLC4A ファミリー) である SLC4A1、SLC4A2、SLC4A3、SLC4A4、SLC4A8、SLC4A9 に加え、重炭酸イオン生



成に必要な炭酸脱水素酵素 (CA) のサブタイプ CA1、CA2 が恒常的に発現していた。グラミシジン穿孔パッチクランプ法で記録される 6-MSITC 誘発性イオン電流は、ナトリウム–水素イオン交換輸送体（NHE）、ナトリウム–カルシウムイオン交換輸送体 (NCX) 阻害薬で抑制された。したがって、6-MSITC は、細胞内で重炭酸イオンとともに増加した水素イオンを NHE で細胞外へ輸送することで、細胞内ナトリウムイオン流入を増加する。細胞内に増加したナトリウムイオンは、NCX によって細胞外に排出されると共にカルシウムイオンが流入し、最終的に細胞膜カルシウムイオンポンプ (PMCA) で細胞外に排出される結果、石灰化が促進することが示された。窩洞形成して 6-MSITC を投与すると、投与しないコントロール群と比較して、投与群では新生コラーゲン形成および象牙質形成、象牙質石灰化の促進が観察された。6-MSITC は象牙芽細胞内で重炭酸イオンを生成し SLC4A ファミリーで細胞外に輸送、NHE、NCX および PMCA の連続的活性化を促進する。本研究で、これらイオン輸送メカニズムが、短期間で象牙質形成を促進することを示し、6-MSITC は、象牙質を再生可能な新規歯内療法用薬剤として応用できる可能性が示された[29]。

本研究プロジェクトでは、以上のように、硬組織（エナメル質・象牙質）、歯髄、根尖部歯周組織、辺縁歯周組織の常態および病態生理機構を解明、「歯の保存」「機能的な歯の保存」を可能とする次世代型口腔治療戦略・口腔再生工学・細胞工学の基礎研究基盤を築いた。



上図に示すように、常態機能研究基盤、病態機能研究基盤、疼痛管理研究基盤については、多くの知見を得た。特に象牙質再生については、大きな成果を得ている。象牙質を保全できれば、その後のさまざまな歯の疾患を抑制できることは間違いない。一方で、基礎基盤研究からの知見はあるものの、社会実装を考えなくてはいけない項目（上図オレンジ・グリーン）

は喫緊の課題として継続研究を展開している。しかし、最終的な知財獲得を含めた社会実装への研究知見は得られ難かったと言わざるを得ない（上図黄色）。加えて、当初目標の「歯を残す」という大きな目標に対する具体的な研究成果は得られていない（上図ピンク）。今後、本ラボは閉じることなく、3 年間で得られた研究者間での繋がりを活かし、知財獲得を含めた社会実装への研究展開を行う予定である。

「積小為大：Baby Steps to Giant Strides」という言葉がある。小さな一歩一歩の研究成果が大きな成果となることは間違いないことを示すものである。本研究プロジェクトの成果から、将来の本学研究者が「自身の Specialty」を「見つけ」「こつこつ」研究する「研究者としてのあり方」を身につけてほしいと願う。それこそが「研究者の横のつながり」を担保するものである。そのような意味において本ラボの成果は、今後のミライの本学研究を益々推進させる糧となると考える。

【参考文献】

(1) Kurashima R, Ouchi T, Kimura M, Iwasawa N, Sone Y,Shibukawa Y., Piezo1 channel dominates generation of dentinal pain slaving TRPV1 and TRPA1 channels via arachidonic acid cascade signaling in odontoblasts, In Preparation.

(2) Ouchi T, Ando M, Kurashima R, Kimura M, Saito N, Iwasaki A, Sekiya H, Nakajima K, Hasegawa T, Mizoguchi T, Shibukawa Y, Pericytes are odontoblast progenitor cells depending on ER stress, Journal of Dental Research, 104: 656-667, 2025

(3) Hasegawa T, Ouchi T, Kurashima R, Kimura M, Asoda S, Nakagawa T, Shibukawa Y., Piezo1 negatively regulates proliferation, but enhances mineralization in human cementoblasts, Journal of Oral Biosciences, 67, 100705, 2025, https://doi.org/10.1016/j.job.2025.100705

(4) Numata Y, Kikuchi Y, Sato T, Okamoto-Shibayama K, Ando Y, Miyai-Murai Y, Kokubu E, Ishihara K. Novel transcriptional regulator OxtR1 regulates potential ferrodoxin in response to oxygen stress in Treponema denticola. Anaerobe. 2024;87:102852.

(5) Yamashita K, Kokubu E, Kikuchi Y, Saito A, Ishihara K. Treponema denticola TDE_0344, a novel transcriptional regulator, is involved in switching of the flagellar motor. in preparation.

(6) Miyai-Murai Y, Okamoto-Shibayama K, Sato T, Kikuchi Y, Kokubu E, Potempa J, Ishihara K. Localization and pathogenic role of the cysteine protease dentipain in Treponema denticola. Mol Oral Microbiol. 2023;38:212-23.

(7) Nukaga T, Kokubu E, Okamoto-Shibayama K, Kikuchi Y, Furusawa M, Muramatsu T, Ishihara K. Characterization of clustered bacteriocin-type signal domain protein genes in Treponema denticola. Front Dent Med. 2025;6:1543535.

(8) Kokubu E, Ando Y, Kikuchi Y, Yonezawa H, Ishihara K. Treponema denticola activates NF-kappaB pathway via Toll-like receptor 2. Bull Tokyo Dent Coll. 2025.

(9) Kato E, Yamada M, Kokubu E, Egusa H, Ishihara K. Anisotropic patterns of nanospikes induces anti-biofouling and mechano-bactericidal effects of titanium nanosurfaces with electrical cue. Mater Today Bio. 2024;29:101352.

(10) Shirai T, Satoh Y, Ishihara K. Antibacterial activity of mulberry extracts and purified fractions against oral pathogenic bacteria. J Oral Biosci. 2024;66:439-46.

(11) Satoh Y, Ishihara K, Kubota T. Characterization of the anti-Porphyromonas gingivalis compound in bilberry (*Vaccinium myrtillus L.*) and comparison with its analogs. J Oral Biosci. 2024:100610.

(12) Ando Y, Tsukasaki M, Huynh NC, Zang S, Yan M, Muro R, Nakamura K, Komagamine M, Komatsu N, Okamoto K, Nakano K, Okamura T, Yamaguchi A, Ishihara K, Takayanagi H. The neutrophil-osteogenic cell axis promotes bone destruction in periodontitis. Int J Oral Sci. 2024;16:18.

(13) Kase Y, Morikawa S, Okano Y, Hosoi T, Yasui T, Taki-Miyashita Y, Yakabe M, Goto M, Ishihara K, Ogawa S, Nakagawa T, Okano H. Multi-organ frailty is enhanced by periodontitis-induced inflammaging. Inflamm Regen. 2025;45:3.

(14) Imamura K., Tachi K., Takayama T., Kasai H., Shohara R., Inoue K., Taguchi Y., Nakane-Koyachi S., Saito A., Yamano S. Developmental Endothelial Locus-1 Promotes Osteoclast Differentiation and Activation. Int J Mol Sci, 16;26:2673, 2025. doi: 10.3390/ijms26062673.

(15) Doya K., Imamura K., Mori S., Nakane-Koyachi S., Kokubu E., Ishihara K., Saito A. Investigating the effects of heated tobacco products on periodontal healing: insights from in vivo and in vitro experiments. Cureus, 2025. DOI: 10.7759/cureus.80733 (in press)

(16) Kambe R, Mitomo K, Ikarashi T, Haketa M, Tashiro K, Furusawa M, Muramatsu T., Localization of both CD31- and endomucin-expressing vessels in mouse dental pulp. Acta Histochemica et Cytochemica 57(5):157-163, 2024. doi:10.1267/ahc.24-00009

(17) Nakano T, Hamba H, Muramatsu T., Butylboronic acid promotes cell proliferation, alkaline phosphatase activity, and expression of GJA1, ALP, and NaBC1 in human dental pulp cells in vitro. Frontiers in Dental Medicine 6:1518389. doi:10.3389/fdmed.2025.1518389

(18) Kojima K, Akashi Y, Nakajima K, Kokubun K, Shintani S, Matsuzaka K., Effects of Tenascin-C on Dental Pulp Tissue in Mice In Vivo And on The Proliferation and Differentiation of Dental Pulp Stem Cells into Odontoblasts and Calcification In Vitro
J Pediatr Neonatal Biol. 9:1-9, 2024

(19) Ezawa N, Akashi Y, Nakajima K, Kokubun K, Furusawa M, Matsuzaka K., The Effects of Tricalcium-Silicate-Nanoparticle-Containing Cement: In Vitro and In Vivo Studies., Materials (Basel). 16:4451, 2023

(20)櫻井敦朗, 佐藤涼一, 間奈津子, 齋藤暁子, 国分栄仁, 新谷誠康, 歯学の進歩・現状 東京歯科大学研究プロジェクトからの情報発信 25. 子どもの齲蝕にまつわる温故知新と最新研究, 歯科学報, 123:317-325, 2024

(21)櫻井敦朗, 新谷誠康, 口腔内細菌叢からみた小児齲蝕の知見, 東京都歯科医師会誌, 72(9):3-9, 2024

(22)Kuroda H, Katagiri N, Kagawa K, Imaizumi U, Ishikawa N, Shibukawa Y, Morimoto Y, Sanuki Y., Comparison of lidocaine and mepivacaine for variation in regional tissue oxygenation in stellate ganglion block: A randomized, double-blind, crossover trial, Cureus, 15: e47938, 2023, DOI 10.7759/cureus.47938

(23)Kuroda H, Tsukimoto S, Kosai A, Komatsu N, Ouchi T, Kimura M, Sato-Boku A, Yoshida A, Yoshino F, Abe T, Shibukawa Y, Sanuki T, Effect of dental local anesthetics on reactive oxygen species: An in vitro study, Cureus, 16: e63479, 2024, doi: 10.7759/cureus.63479.

(24)Kaneko R, Ouchi T, Kimura M, Kuroda H, Ichinohe T, Shibukawa Y., Pregabalin acts on Na+–Ca2+ exchanger, which promotes Ca2+ extrusion from human Merkel cell line, Pain Reports, 11, e1381, 2026, http://dx.doi.org/10.1097/PR9.0000000000001381

(25)Kitayama E, Kimura M, Ouchi T, Furusawa M, Shibukawa Y., Functional Expression of IP, 5-HT4, D1, A2A, and VIP Receptors in Human Odontoblast Cell Line, Biomolecules, 13, 879, 2023, doi.org/10.3390/biom13060879

(26)Saito N, Ouchi T, Kimura M, Kurashima R, Shibukawa Y., Activation of G protein-coupled parathyroid hormone receptors in rat incisor odontoblasts promotes mineralization via cyclic adenosine monophosphate, not Ca^{2+} signalling: In vitro study. International Endodontic Journal, 58, 1616–1628, 2025, doi: https://doi.org/10.1111/iej.14280

(27)Kunioku Y, Kimura M, Ouchi T, Fukuda K, Shibukawa Y., Intracellular cAMP signaling pathway via Gs protein-coupled receptor activation in rat primary cultured trigeminal ganglion cells, Biomedicines, 11: 2347, 2023, doi.org/10.3390/biomedicines11092347

(28)Kimura M, Nomura S, Ouchi T, Kurashima R, Nakano R, Sekiya H, Kuroda H, Kono K, Shibukawa Y., Intracellular cAMP signaling-induced Ca^{2+} influx mediated by calcium homeostasis modulator 1 (CALHM1) in human odontoblasts, Pflugers Archives - European Journal of Physiolpgy, 477: 273-290, 2025, doi.org/10.1007/s00424-024-03038-4

(29)Furusawa Y, Kimura M, Okunishi I, Ouchi T, Kurashima R, Katou-Yamada T, Kuroda H, Sugita M, Furusawa M, Shibukawa Y., 6-Methylsulfinylhexyl isothiocyanate activates carbonic anhydrase-dependent $HCO_3^-/H^+/Na^+/Ca^{2+}$ transport via SLC4As–NHE–NCX–PMCA axis in odontoblasts, Journal of Physiology, Vol. 604, pp. 2816-2844, 2026

【生体医工学ラボ】

【全体概要】

生体医工学ラボでは、口腔腫瘍、顎変形症、MRONJ、顎関節症に注目した病因・病態解析を進めてきた。これらに加え、これまで不可視であった医療情報の可視化技術を新たに開発し、手術支援、術後リハビリテーション、アピアランスケアに関する研究を展開してきた。ラボ内に「口腔顎顔面疾患病態解析」と「FabLab (Fabrication Laboratory) 」の 2 つの研究ユニットを構築し、両研究ユニットで得られた基礎研究と臨床研究の成果を用い、科学的根拠を持った「臨床直結型」の研究・歯科医療イノベーションを推進してきた。これらの集学的な研究は、医学領域や医療産業界へも大きな波及効果をもたらしており、2025 年度にはラボリーダーの菅原圭亮が国際的な英文雑誌『Quantitative Imaging In Medicine and Surgery』の Outstanding Author 2025 に選出されるなどの高い評価を得た。

1)．口腔顎顔面疾患病態解析ユニットの成果

本ユニットでは、口腔がん悪性化の原因解明や新規治療法の確立を目的として、がん間質に多く存在するがん関連線維芽細胞 (CAF) が、口腔がんの浸潤・転移や薬剤抵抗性に与える影響や、その相互作用を媒介する遺伝子・シグナルの同定に取り組んできた。

① がん関連線維芽細胞の研究

乳がんの細胞株および検体を用い、RUNX3 (Runt-related transcription factor 3) 発現の増加ががん細胞の増殖や血管新生を媒介し、ヒト乳がん関連線維芽細胞の腫瘍促進能に寄与している可能性を報告した[(1)]。

② 口腔舌扁平上皮癌における PD-L1 発現因子と微小環境の病理解析

腫瘍の免疫回避に重要な PD-1 を標的とした治療法が頭頸部癌に適応となっていることに着目した。PD-1 のリガンドである PD-L1 は、癌細胞と間質細胞の両方に発現し、両細胞の PD-L1 陽性率である CPS (Combined Positive Score) は治療予測として用いられている。癌微小環境内の相互作用が PD-L1 の発現に影響を与えると仮説を設定し、PD-L1、癌抑制遺伝子である p53 および癌間質を構成する細胞のひとつで腫瘍促進能が報告されている筋線維芽細胞である carcinoma-associated fibroblasts; CAFs のマーカー・α-SMA の免疫組織学的染色を行った。PD-L1 の発現は CPS を用いてスコアリングし、さらに CPS を 3 群に分け、それぞれの p53 および α-SMA 陽性率について統計学的解析を行った。PD-L1 の染色を評価したところ、CPS≧20 が 7 例、1≦CPS<20 が 24 例、CPS<1 が 6 例であった。T 分類において T1 症例が 26 例、T2 症例は 11 例で、3 群間に有意差を認めた ($p<0.01$) 。また、NCCN ガイドラ

インにおいて予防的頸部郭清を考慮する DOI 4 mm をカットオフとした 2 群間においても有意差を認めた (p<0.02) 。p53 の変異を免疫組織学的に評価したところ、37.8%（14/37 例）で変異を認め、CPS の値ごとの変異型 p53 陽性率は CPS≧20 で 71.4% （5/7 例）、1≦CPS<20 で 37.5%（9/24 例）、CPS<1 で 0%（0/6 例）であり、3 群間に有意差 (p<0.03) を認めた。α-SMA の評価をしたところ、27.0%（10/37 例）で陽性であった。CPS の値ごとの α-SMA 陽性率はそれぞれ 85.7%（6/7 例）、16.7%（4/24 例）、0%（0/6 例）で 3 群間に有意差 (p<0.01) を認めた。本研究では、T 分類と 4 mm<DOI の症例において CPS に有意差を認めた。また、p53 および α-SMA の陽性率は、CPS の上昇と比例することが明らかとなった。その後、原発巣の大きい T3、T4 症例へと解析対象を広げ、継続して解析を行った[2]。

2). FabLab ユニットの成果

デジタルトランスフォーメーション (DX) の実現を主軸とし、補綴学、口腔外科、歯科医学教育の分野へデジタルテクノロジーを応用して多くの成果を上げてきた。

① デジタルデンティストリーの局部床義歯 (RPD) への応用

口腔内スキャナー (IOS) や 3D プリンタ、金属積層造形 (SLM) 技術を用いた高精度な補綴物（義歯）作製の検証・ワークフロー開発を行ってきた[3]。

・口腔内スキャナー (IOS) の特性検証: 噛みしめ強度が IOS による顎間関係記録に及ぼす影響を検証した。IOS は従来法（シリコーンゴム）に比べて噛みしめ強度による咬合接触面積への影響は少ないものの、誤差自体は従来法より大きく、歯根膜変位による歯の動きを適切に補償できない可能性が示唆された[4), (5]。

・金属積層造形 (SLM) 技術の優位性: 従来の鋳造法と SLM 法で製作した局部床義歯フレームワークを比較し、SLM 法はデータのばらつきが少なく、維持力も目標値 (5~10 N) を満たし適合性に優れることを証明した。さらに、SLM 法でコバルトクロム合金製クラスプを製作する際、従来の鋳造法 (0.25 mm) よりもアンダーカット量を少なく (0.15 mm) 設定することで、10,000 サイクル着脱しても安定した最適な維持力が発揮されることを突き止めた[6]。

・中空ジルコニア人工歯の最適化: セラミック 3D プリンタで製作する中空構造のジルコニア人工歯について検証した。形状精度の観点からは壁厚 0.5 mm 以上が必要であり、破壊抵抗性の観点からは壁厚 0.75 mm 以上で臨床許容値（500 N 以上）を満たすことが判明した。また、内部へレジンを充填することで破壊抵抗性がさらに向上し、完全破折を防止できる可能性を示した[7]。

・新規ワークフロー・新材料の導入: 歯科用 CAD ソフトと 3D プリンタを用いて構成要素を簡便に連結する、新しいレジン床 RPD の製作ワークフローを開発した。また、半焼結コバルトクロム合金ディスク (Pre-sintered) を用いたミリング法を検証し、高い靭性を持ちクラスプ製作に適した特性を有している可能性を報告した[8), (9)]。

② 口腔顎顔面外科手術支援

CAD/CAM 技術や、CT データから患者固有のホログラムを作製・投影する Extended Reality (XR) 技術を融合させたナビゲーション手術の開発・臨床応用を行ってきた。

・オトガイ形成術の確立と精度検証: 東京歯科大学発の新規オトガイ形成術の手法を報告し[(10)]、23 症例での精度検証（日本口腔科学会 Rising Scientist 賞や大韓民国口腔外科学会最優秀口演賞を受賞 ）を経て、ランダム化比較試験 (RCT) により XR 技術が手術精度を有意に向上させることを実証・論文報告した[(11)]。

・各種外科手術・一般臨床への波及: 腫瘍切除術[(12)]、上顎正中過剰埋伏歯抜歯術、下顎後静脈の走行パターンの新分類を報告した[(13)]。一般歯科診療所における骨移植・インプラント埋入への CAD/CAM 技術・XR 技術の応用事例も報告した[(14)]。さらに、口内法による下顎骨形成術（Dingman 法）[(15)]、頬部軟組織内異物除去術[(16)]、カスタムプレートを用いた腫瘍切除後の下顎再建術 に CAD/CAM および XR 技術を応用し、高精度な手術を実現した。

・超音波検査空間ガイダンスシステムの開発: 歯科放射線科において、HMD（ヘッドマウントディスプレイ）を用いて病変をファントム上に重畳表示する複合現実技術を開発し、その有用性を検証した。検査者のプローブ走査範囲の減少が認められ操作性の向上が示唆されたほか、臨床経験の浅い検査者でも熟練者と同等の診断成績を残せる可能性が示された[(17)]。

・眼科との AI 共同研究: 市川総合病院眼科と連携し、前眼部 OCT 画像を対象とした自動セグメンテーション AI モデル（nnU-Net 基盤）の構築と性能検証を開始した。角膜移植後の構造変化評価や疾患眼の定量解析に向けた、大幅な効率化と再現性向上への臨床応用の基盤を構築した。

③ 教育への応用 360 度カメラを用いた XR 教育システム: 術者や介助者の当事者目線を体験できる新規教育コンテンツ（手洗い、挿管、顎矯正、インプラント等）を構築した。歯学部学生らにおける学修効果を検討した結果、従来型の平面での学修効果が高いことが示された[(18), (19)]。

・Spatial Reality (SR) ディスプレイの応用: HMD を装着せずに術者視線を立体視でき、繰り返しトレーニング可能なコンテンツを開発した。VR と SR システムの有用性を同一手術で

比較検証する世界初の試みを行い、先行研究においてSRディスプレイの有意性を示唆するとともに、複数人への同時ライブ配信による教育効果の変革の可能性を報告した[20), (21)]。

④ ヒトの口腔と脳機能の連関味覚感受性と脳活動: 味覚感受性検査と脳機能MRIを用い、味覚の認知メカニズムの解明を進めてきた。高齢者は若年者よりも塩味を緩やかに、かつ有意に低く認知していることを明らかにした。また、甘味濃度の違い（1.5 Mと0.6 M）が一次味覚野だけでなく、報酬や嗜好性に関与する領域（両側島皮質、視床）の活動に影響を与えることを示した[(22)]。アルツハイマー病と歯の喪失: 対象者数を増やした再検討により、残存歯数と脳内タウ蓄積に相関が認められ、歯の喪失がアルツハイマー病の進行に関与する可能性を改めて示唆した[(23)]（本検討は日本脳神経核医学研究会学術奨励賞を受賞した）。

【参考文献】

(1) Yu Koyama, Hiroya Okazaki, Yang Shi, Yoshihiro Mezawa, Zixu Wang, Mizuki Sakimoto, Akane Ishizuka, Yasuhiko Ito, Takumi Koyama, Yataro Daigo, Atsushi Takano, Yohei Miyagi, Tomoyuki Yokose, Toshinari Yamashita, Keisuke Sugahara, Okio Hino, Liying Yang, Reo Maruyama, Akira Katakura, Takehiro Yasukawa, Akira Orimo. Increased RUNX3 expression mediates tumor-promoting ability of human breast cancer-associated fibroblasts. Cancer Medicine, 2023 Sep;12(17):18062-18077. doi: 10.1002/cam4.6421.

(2) Yu Koyama, Chiharu Ogawa, Chihiro Kurihara, Nao Hashimoto, Shota Shinagawa, Hiroya Okazaki, Takumi Koyama, Keisuke Sugahara, Akira Katakura; Pathological examination of factors involved in PD-L1 expression in patients with oral tongue squamous cell carcinoma. Maxillofacial Plastic and Reconstructive Surgery, 2024 Aug 8;46(1):31. doi: 10.1186/s40902-024-00441-w.

(3) Takahiro Shimizu, Akinori Tasaka, Juro Wadachi, Shuichiro Yamashita; A new proposal for improving the accuracy of intraoral scanning for partially edentulous residual ridge. ***Journal of Prosthodontic Research***. 67(2) 246-254 2023

(4) Akinori Tasaka, Hodaka Sasaki, Atsuro Harada, Kosei Ito, Hiro Kobayashi, Takahiro Shimizu, Shuichiro Yamashita. Simultaneous prosthodontic treatment for crowns of natural teeth and dental implants using digital technology: A case report. ***Clinical case reports.*** 11(5) e7187 2023

(5) Masumi Nishine, Hiro Kobayashi, Kosei Ito, Juro Wadachi, Akinori Tasaka, Shuichiro Yamashita. Comparison between interocclusal registration using silicone bite registration

material and intraoral scanner on clenching strength. ***The International journal of prosthodontics.*** 2023

(6) Stefan Rues, Akinori Tasaka, Isabella Fleckenstein, Shuichiro Yamashita, Peter Rammelsberg, Sophia Boehm, Franz Sebastian Schwindling. Fit and Retention of Cobalt–Chromium Removable Partial Denture Frameworks Fabricated with Selective Laser Melting ***Journal of Functional Biomaterials.*** 14(8) 416-416 2023

(7) Hiro Kobayashi, Stefan Rues, Akinori Tasaka, Peter Rammelsberg, Shuichiro Yamashita, Franz Sebastian Schwindling. Influence of wall thickness on the fracture resistance of hollow zirconia artificial teeth fabricated by 3D zirconia printing. ***Journal of Prosthodontic Research.*** 2025

(8) Akinori Tasaka, Ryota Mori, Takeshi Hirabayashi, Sato Kogawa, Kosei Ito, Juro Wadachi, Shuichiro Yamashita. A new proposal for the workflow using CAD/CAM technology for fabrication of resin-based removable partial dentures. ***Journal of Prosthodontic Research***. 2023

(9) Yuto Kato, Akinori Tasaka, Haruna Okano, Shinobu Uzawa, Shuichiro Yamashita. Accuracy and mechanical properties of denture clasps fabricated utilizing pre-sintered Co-Cr alloy discs. ***Journal of Prosthodontic Research.*** 2025

(10) Masahide Koyachi, Keisuke Sugahara, Kotaro Tachizawa, Akihiro Nishiyama, Kento Odaka, Satoru Matsunaga, Maki Sugimoto, Chie Tachiki, Yasushi Nishii, Akira Katakura. Enhanced Precision in Genioplasty: A Novel Intraoperative Spatial Repositioning Using Computer-Aided Design and Manufacturing Technology and a Holographic Mixed Reality Application. Journal of Clinical Medicine 12(23) 7408-7408 2023

(11) Kotaro Tachizawa, Keisuke Sugahara, Masahide Koyachi, Kento Odaka, Satoru Matsunaga, Maki Sugimoto, Akira Katakura. Enhancing the accuracy of genioplasty using mixed reality and computer-aided design/manufacturing: a randomized controlled trial. Quantitative Imaging in Medicine and Surgery. 2025

(12) Takahiro Nakada, Masahide Koyachi, Keisuke Sugahara, Akihiro Nishiyama, Mana Kawakami, Shintaro Nakajima, Kotaro Tachizawa, Kento Odaka, Satoru Matsunaga, Maki Sugimoto, Akira Katakura. A Case of Application of Computer-Aided Design and Manufacturing Technology and Extended Reality Surgical Assistance to Marginal Mandibulectomy. Journal of Clinical Medicine. 2024

(13) Keisuke Sugahara, Koki Oiwa, Satoru Matsunaga, Kento Odaka, Hidetomo Hirouchi, Masahide Koyachi, Norio Kasahara, Chie Tachiki, Yasushi Nishii, Klaus-Dietrich Wolff, Akira Katakura.

Contrast-enhanced computed tomography of retromandibular vein position and course patterns relative to the mandible during sagittal split ramus osteotomy. Quantitative Imaging in Medicine and Surgery. 2024

(14)伊藤和宏, 伊藤有美香, 佐川優子, 小高研人, 松永 智, 立澤孝太郎, 栗原智尋, 菅原圭亮, 片倉 朗. CAD/CAM および Mixed reality 技術を用いて骨造成およびインプラント埋入を行った 1 例. *茨城県歯科医師会雑誌* 32 3-7 2024

(15)Keisuke Sugahara, Kazuhiro Ito, Masahide Koyachi, Teruhide Hoshino, Kotaro Tachizawa, Shintaro Nakajima, Kazumitsu Aoki, Satoru Matsunaga, Kento Odaka, Akira Katakura. Intraoral approach using CAD/CAM technology for the Dingman method: a case description. Quantitative Imaging in Medicine and Surgery. 2025

(16)Teruhide Hoshino, Shuji Yoshida, Chihiro Kurihara, Koki Oiwa, Kotaro Tachizawa, Keisuke Sugahara, Akira Katakura. Using computer-aided design/computer-aided manufacturing technology for foreign body removal from soft tissues: a case report. Maxillofacial Plastic and Reconstructive Surgery. 2025

(17)Kento Odaka, Kotaro Tachizawa, Masahide Koyachi, Keisuke Sugahara, Satoru Matsunaga, Maki Sugimoto, Akira Katakura. Head-Mounted Display-Assisted Spatial Guidance in Ultrasonography: A Technical Report. Cureus 2025, 17(9): e91792. doi:10.7759/cureus.91792.

(18)Shintaro Nakajima, Keisuke Sugahara, Masahide Koyachi, Kotaro Tachizawa, Takahiro Nakada, Tetsushi Okumura, Akihiro Nishiyama, Kento Odaka, Satoru Matsunaga, Akira Katakura. Virtual reality enhances anatomical education for dental students and doctors. Journal of Oral and Maxillofacial Surgery, Medicine, and Pathology. 2025

(19)Masahide Koyachi, Keisuke Sugahara, Shintaro Nakajima, Sogo Ito, Kento Odaka, Satoru Matsunaga, Akira Watanabe, Akira Katakura. Oral and Maxillofacial Surgery Education for Undergraduate Students Using 360-Degree Videos in Virtual Reality System. Journal of Dental Education. 2025

(20)菅原圭亮, 大岩浩気, 片倉 朗. 口腔外科学における DX の推進. *小児歯科臨床* 29(4) 6-17 2024

(21)片倉 朗, 菅原 圭亮, 小谷地 雅秀, 立澤 孝太郎, 小高 研人, 松永 智. Extended Reality 技術を応用し sustainable な歯科教育を確立する. *日本歯科医学会誌* 43 40-45 2024

(22)Hirotaka Wada, Hideki Matsumoto, Mutsumi Takagiwa, Hitomi Sato, Kyoko Ishiguchi, Aya Inoue, Tazuko K. Goto. Differences in time–intensity sensory profiles of sweet taste intensity of glucose between older and young adults. Frontiers in Nutrition.11 2024

(23)Hideki Matsumoto, Kenji Tagai, Hironobu Endo, Kiwamu Matsuoka, Yuhei Takado, Naomi Kokubo, Hitoshi Shimada, Tetsuya Goto, Tazuko K Goto, Makoto Higuchi. Association of Tooth Loss with Alzheimer's Disease Tau Pathologies Assessed by Positron Emission Tomography. Journal of Alzheimer's disease 96(3) 1253-1265 2023

【組織再生ラボ】

人類のウェルビーイングの実現に向けて、「口腔」の健康維持・機能向上を支える予防法、診断法および治療法の開発は極めて重要な課題である。とりわけ、生涯にわたる咀嚼・嚥下機能の維持と改善は、健康寿命の延伸や QOL の向上に直結することから、その基盤となる生命現象の解明と新たな医療技術の創出が求められている。

組織再生ラボでは、口腔顎顔面領域の組織恒常性維持および再生機構の解明を通じて、将来的なイノベーションシーズの創出を目指し、多様な専門性を有する研究者が連携して研究を推進してきた。その結果、①運動器における筋腱接合部および筋内腱の形態形成メカニズムの解明、②硬組織修復に寄与する歯根膜細胞の解析、③骨成長を支える新規細胞集団の同定、④機械刺激による骨形態制御機構の解析、⑤核膜タンパク質による骨形成代謝制御機構の解明、⑥有機溶剤耐性を示す新規 TRAP 染色法の開発、⑦変形性顎関節症の発症メカニズムの解明、⑧味覚受容機構の解明、⑨咬傷部位に付着した唾液を用いた DNA 型鑑定の精度に関する研究、⑩精神疾患患者に対する摂食・嚥下機能評価法の開発、⑪更年期女性におけるホルモン補充療法のオーラルフレイルへの効果についてなど、多岐にわたる研究成果を創出した。

以下に、各研究課題の概要と主な研究成果を示す。

(1) 運動器：筋腱接合部・筋内腱の形態形成メカニズムの解明

運動器を構成する①筋腱接合部および②筋内腱の形態形成メカニズムの解明のため、申請期間内に明らかとなった研究成果についてまとめる。

① 筋腱接合部について

筋腱接合部 (MTJ) 損傷による形態的な変化や再生過程を明らかにすることを目的として、ヒラメ筋とアキレス腱の間の MTJ 領域にコラゲナーゼ注射することによって、その後の再

生の過程を検索した。その結果、コラゲナーゼ注射によって MTJ 領域に損傷が引き起こされ、腱断面積は優位に増加した。再生筋に特有に見られる中心核を持つ筋線維の割合は、コラゲナーゼ注射によって増加した。中心核を持ち、かつ MTJ マーカーを発現している筋線維がコラゲナーゼ注射群に認められた。連続切片を用いて MTJ の長さを定量化したところ、コラゲナーゼ注射 2 週後ではコントロール群と比較して短くなり、その後経時的に回復していく傾向が認められた。これらのことから、MTJ は隣接領域とともに大きく損傷された場合においても再生すること、および MTJ の再生は筋再生に伴って行われていることが示唆された。これらの知見は、これまで知られていなかった MTJ の再生過程について明らかにし、運動器疾患の原因追及に寄与する新たな研究の糸口を開くものであると考えられた[(1)]。

② 筋内腱について

腱の発生研究で特定された分子制御因子は、腱損傷と修復のメカニズムにも関与するが、発生時に必要不可欠な Sox9 については不明な点が多い。そこで我々は、腱損傷モデルマウスを作成することで機能再生と Sox9 の局在や経時的な変化を評価し腱損傷修復時における Sox9 の解明を目的に検索を行った。研究材料は、6 週齢の C57BL/6J マウスを用いた。運動機能の回復を確認するために関心領域をアキレス腱として、メスにて損傷を与えた。マウスは、疑似オペである Sham 群、損傷後 1 週群 (POW1) 、2 週群 (POW2) 、4 週群 (POW4) の各 4 ステージを設けた。各ステージで生理学的試験、RT-PCR を行ったのちに、通法通りパラフィン切片を作成し組織学的形態計測、免疫組織化学染色を施し解析を行った。その後、Sox9-CreERT2;dTomato マウスを作成し Sox9 の細胞系譜解析を行った。生理学的試験の結果、腱損傷により、運動器の機能が POW1 で低下するが、POW4 では機能が回復することが明らかとなった。次に組織学的検索を行った結果、POW1 では腱組織の連続性を欠いたが、POW2 では腱再生において重要な役割を示す腱外側部分の epitenon 領域の形成が認められた。しかしながら形態学的には、正常組織と同様な形態まで再生しないことが示された。次に、RT-PCR を行った結果、腱再生に重要な α-SMA, Periostin と共に Sox9 の発現も POW2 で特に有意な増加を示した。この事は、epitenon 領域の再生時期とも一致した。さらに免疫組織学的染色の結果、POW2 において epitenon 領域から流れ込むように Sox9 が損傷部位に集積することが明らかとなった。次に、Sox9-CreERT2;dTomato マウスを作成し、アキレス腱損傷前にタモキシフェンを投与した Pre 群と、損傷後にタモキシフェンを投与した Post 群を比較した。損傷部に集積する細胞は、Post 群の方が有意に多いことが明らかとなった。この研究成果より、腱再生時に Sox9 が損傷部に発現することが明らかとなった。また、生

理学的試験と Sox9 の組織学的形態計測、免疫組織化学染色、RT-PCR の結果が類似していることから，機能回復に Sox9 が関与していることが示唆された。また、損傷部に集積する Sox9 陽性細胞は、損傷後に集積してくる幹細胞が Sox9 にスイッチングすることで腱再生に関与していると考えられた。胎生期マウスを用いた解析において、ITMs と ETMs はいずれも腱の初期発生マーカーである Scleraxis (Scx) を発現していた。一方で、同じく腱発生時のマーカーとして知られる Tenascin は、ETMs には発現を認めたものの、ITMs にはその発現を認めなかった。この結果から、胎生期における筋内腱は、筋外腱とは分子特性の異なる腱組織であることが示唆された。この特異な腱組織の起源を明らかにするため、Sox9CreERT2;R26tdTomato マウスを用いた細胞系譜解析を行った。胎生 13.5 日 (E13.5) にタモキシフェンを投与して Sox9 陽性細胞を標識し、E18.5 における ITMs を解析したところ、ITMs 内に tdTomato 陽性細胞が散在的に存在することが明らかとなった。この結果は、筋内腱の形成に Sox9 陽性細胞、すなわち骨・軟骨系譜に属する細胞が関与している可能性を示唆するものであった。続いて、ITMs が骨由来であることを視覚的に検証するため、Wnt1Cre;R26RConfetti マウスを用いて解析を行った。その結果、骨および骨膜と同色の蛍光を示す細胞が、骨側の ITMs 構成細胞へと連続して分布していることが明らかとなった。これらの所見から、ITMs を構成する細胞の一部は骨由来であり、胎生期に骨膜由来細胞が筋内へ侵入・定着することで筋内腱が形成されることが示された[2-4]。

ウエルエージングプロジェクト研究期間に推進した我々の研究成果より、筋内腱は筋内環境のみで自律的に形成される腱組織ではなく、骨膜由来細胞の関与を受けて形成される複合的な構造であることが明らかとなった。このような筋内腱の形成様式は、従来の筋外腱とは本質的に異なるものであると考えられた。すなわち運動器の構造と機能を理解する場合、筋腱接合部と筋内腱の複合体として考えることが明らかとなった。

(2) 硬組織修復に寄与する歯根膜細胞の解析

基礎疾患保有者や高齢者における抜歯窩の骨修復遅延は、口腔機能に長期的な悪影響を及ぼすことが懸念される。歯根膜 (PDL) には幹細胞様細胞集団が存在することが知られており、その機能解明は効率的な骨修復法の開発に不可欠である。本研究では、Osterix (Osx) 陽性 PDL 細胞に着目し、抜歯窩修復組織のイメージング解析および 1 細胞解析を実施した。その結果、歯槽骨近傍に存在する Osx^+細胞が修復骨形成に寄与すること、さらに抜歯後 4 日目の修復組織において、Osx^+細胞集団内の alpha-smooth muscle actin (αSMA/Acta2) 陽性細胞が著明に増加することを明らかにした。加えて、1 細胞解析を進めた結果、Osx^+細胞集団内

には抜歯窩修復に直接関与する特異的サブポピュレーションが存在することを見出した。一方、これらの修復特異的細胞群とは対照的に、レプチン受容体 (LepR) 陽性細胞は PDL における幹細胞様細胞として機能するものの、加齢に伴いその寄与が低下し、抜歯窩修復への関与も限定的であることを報告した[5]。また、LepR$^+$細胞の硬組織における幹細胞性および組織恒常性維持機構に関する近年の知見を総説として取りまとめ、併せて報告している[6,7]。

(3) 骨成長を支える新規細胞集団の同定

出生後の骨形成過程において、ネスチン-GFP 陽性（Nes 陽性）細胞は骨幹端に存在することが知られているが、骨の成長や海綿骨のリモデリングにおける機能については、解明されていない。本研究では、Nes 陽性集団の一サブセットとして、レプチン受容体 (LepR)$^+$/MMP9$^+$骨格幹・前駆細胞 (SSPC) を同定した。この集団は、一部がアスポリン (Asporin)$^+$骨膜細胞に由来することがわかった。また、LepR$^+$/MMP9$^+$細胞は発生過程において一過性に現れ、それら細胞集団の枯渇は海綿骨形成を阻害し、骨の長さを短縮させることがわかった。LepR$^+$/MMP9$^+$ SSPC は骨系細胞および LepR$^+$/Adiopo-CXCL12 を発現する網状 (CAR) 細胞へと分化することがわかった。LepR$^+$/MMP9$^+$ SSPC の増殖は、破骨細胞に起因する骨代謝および骨調節型 H 型血管系の活性化と相関しており、これには Nes 陽性/CD31 陽性の血管が関与している可能性が示唆された。LepR$^+$/MMP9$^+$細胞および LepR$^+$/Adipo-CAR 細胞はいずれも、破骨細胞分化因子 RANKL を高レベルで発現しており、LepR$^+$細胞における RANKL の欠失は、海綿骨における破骨細胞形成を減少させることも明らかとなった。これらの知見は、骨形成と破骨細胞形成の連関を調整し、骨の成長を促進するとともに海綿骨の構造を維持する機能を持つ、LepR$^+$/MMP9$^+$骨幹端 SSPC 集団の存在を明らかにした。

(4) 機械刺激による骨形態制御機構の解析

運動の要である骨の形態異常は QOL 低下をもたらす。本研究では骨組織がメカニカルストレスに応じた柔軟な形態変化を起こす事に着目し、骨形態を任意に制御可能な骨再生技術の開発を視野に骨組織ストレス応答メカニズムの解明を試みた。ストレス刺激が間葉系幹細胞に与える影響を調べた結果、線維芽細胞増殖因子 2 (FGF2) の発現誘導に伴う間葉系幹細胞の増殖が骨形成を促進することを明らかにした[8]。

(5) 有機溶剤耐性を示す新規 TRAP 染色法の開発

酒石酸耐性酸性ホスファターゼ (TRAP) 染色は硬組織や培養下で形成された破骨細胞の染色に広く用いられているが、Naphthol AS-MX/AS-BI と Fast Red Violet LB/Garnet GBC から生成される赤色色素は有機溶剤に対して可溶性を示す。そのため、組織標本作成時におけるアルコールやキシレンを用いた脱水・透徹が不可能であり、封入前の風乾や水溶性マウント剤の使用が必須である。また長時間の酵素反応はジアゾニウム塩による黄色いバックグラウンド染色をもたらすという欠点も存在する。そこでキャプチャー剤に New Fuchsin を用いる事で有機溶剤を用いた脱水・透徹と非水溶性封入剤の使用が可能な低バックグラウンドの改良型 TRAP 染色（NewFuchsin TRAP 染色）プロトコルの確立を試みた。本法により作成した標本は長期にわたる保存に耐え、明視野のみならず蛍光での破骨細胞観察が可能であった。さらに桂皮酸エチルによる組織透明化を施す事で、骨組織内の破骨細胞を三次元で観察することも可能となった[9]。

(6) 変形性顎関節症の発症メカニズムの解明

変形性顎関節症 (TMJ-OA) は、軟骨変性や骨変化をともなう退行性病変であり、進行により疼痛や顎運動障害を生じるため、患者 QOL の低下を引き起こす。我々はこれまで、外科的侵襲モデルマウスを作出し、TMJ-OA の発症初期に下顎頭軟骨の Asporin 局在が増加することを明らかにした。本研究では、軟骨破壊と骨変化が生じる発症後期まで複数のエンドポイントを設定し、PCR および免疫組織化学染色にて Asporin 発現と局在の変化を評価した。その結果、Asporin は同時期の対照群と比較して常に高い発現を示し、TMJ-OA の発症初期から骨変化を生じる時期まで下顎頭軟骨において増加することを明らかにした。同時に、Asporin の増加機序が膝関節疾患とは異なる可能性が示唆された。そのため、網羅解析を行い TMJ-OA の進行に関わる分子経路を調査した。パスウェイ解析の結果、これまで関節疾患において Asporin の増加に関わるとされてきた TGF-β 経路は統計的有意差がなかった。一方、腫瘍や心血管疾患において Asporin と関連することが示唆されている PI3K–Akt 経路や MAPK 経路に有意な差が認められた[10]。

(7) 味覚受容機構の解明

中高年の摂食調節に影響を与える因子として、嗜好性を調節する味覚のメカニズムを解析した。 (1) マウスの舌咽神経支配領域における脂肪酸情報を調べたところ、GPR40 と CD36 は甘味やうま味を伝える神経線維が結合する味細胞に発現し、それらで受容された脂

肪酸情報は、脳で甘味やうま味と認識され、嗜好性を引き起こすことが示唆された[11]。 (2) 脂肪酸による味覚の修飾作用をマウスの鼓索神経で調べたところ、甘味（ショ糖)、うま味（グルタミン酸＋イノシン酸)、酸味 (HCl) 応答が 3 mM オレイン酸添加により増大し、舌咽神経切断マウスを用いた行動応答の結果も一致していた。さらに脂肪酸による甘味増強への脂肪酸受容体 GPR120 と GABA 受容体の関与を検討した。鼓索神経応答記録、行動記録、そして茸状乳頭の組織学的検索の結果、Ⅲ型味細胞に発現する GPR120 によって脂肪酸が受容され、Ⅲ型味細胞から放出された GABA がⅡ型味細胞の GABA 受容体へ結合し、脂肪酸により増大した甘味応答が抑制される可能性が示唆された。

(8) 咬傷部位に付着した唾液を用いた DNA 型鑑定の精度に関する研究

咬傷事件において、被害者の身体に付着した唾液の DNA 型鑑定は加害者特定の有効な手段となり得る。しかし、鑑定精度に影響を及ぼす要因として、唾液付着量、受傷から採取までの経過時間、被害者の発汗、着衣の有無や衣服素材の違いなどについて体系的に検討した報告は少ない。

本研究グループでは、咬傷部位に付着した唾液を対象に、一連の要因が DNA 型鑑定に及ぼす影響について段階的な検討を行った。まず、唾液付着量、採取までの経過時間および被害者の発汗条件について検討した結果、受傷後 9 時間以内であれば発汗程度にかかわらず加害者の特定が可能であり、さらに付着唾液量がわずか 1 µl であっても DNA 型鑑定が可能であることを明らかにした。さらに、着衣による擦過の影響について検討するため、コットン製衣服を用いて唾液付着部位に一定時間擦過を加えた結果、受傷後 9 時間経過後においても各アリルピークは識別可能であり、加害者の特定が可能であった。加えて、最終段階として衣服素材（コットン、アクリル、ポリエステル）の違いが DNA 型鑑定に及ぼす影響を検討した結果、素材の違いにかかわらず、受傷部位が衣服で覆われた条件下でも鑑定結果への影響は小さいことが示唆された。

以上の結果から、咬傷部位に付着した唾液を用いた DNA 型鑑定では、被害者の発汗や衣服による被覆などの外的条件が鑑定精度に与える影響は限定的であり、鑑定精度には DNA 自体の物理化学的安定性や核酸分解酵素による分解がより大きく関与する可能性が示された。本研究で得られた知見は、咬傷鑑定の信頼性向上に寄与するとともに、事件被害者や遺族に対する精神的負担の軽減、ひいては広義のウェルビーイング社会の実現にも貢献することが期待される。

(9) 精神疾患患者に対する摂食・嚥下機能評価法の開発

精神疾患患者に対し KT バランスチャート (KTBC) を用いた摂食嚥下評価を行い、その有用性の検討を行った。摂食嚥下機能障害を疑われ精査の依頼があった精神科病棟に入院中の患者を、嚥下障害の有無で 2 群に分けて検討を行った。すでに診断精度が検証されている MASA 合計点と KT 合計点の間に正の相関を認め、KTBC 合計点は『嚥下障害なし群』の方が統計学的に有意にスコアは低かった。以上より KTBC は精神疾患患者の摂食嚥下機能の評価方法として使用可能であることが示唆された。本研究により、精神疾患患者の摂食嚥下機能の向上や、安全な経口摂取の再開や継続に寄与ができると考える。

(10) 更年期女性におけるホルモン補充療法のオーラルフレイルへの効果について

女性は男性に比べて平均寿命や健康寿命が長い一方で両寿命の差も大きく、ADL や QOL の低下を認めやすい。これにはエストロゲンが影響しているといわれている。そこでホルモン補充療法（HRT）がオーラルフレイルに及ぼす効果を検討するために 40 歳以上 60 歳未満の HRT 群 37 名と非 HRT 群 30 名を対象に口腔機能低下症の検査と握力、GOHAI の測定、体成分分析を行い、群間比較を実施した。その結果、HRT 群の方が口腔乾燥、咬合力、舌圧において有意に低い値となったが、フレイル、口腔機能低下症には至っていないことが示唆された。ただし、両群ともに GOHAI の平均は基準値よりも低く、さらに HRT 群の方が低値であった。加えて、HRT 群では GOHAI のうち心理社会面および疼痛に関連する領域で非 HRT 群より低値を示した。このことから更年期における心理的・身体的ストレスが、口腔関連 QOL に何らかの影響がある可能性が考えられた。今後は、被験者数を増やしてさらなる検証をするとともに、HRT 施行前後での比較が必要である。

【参考文献】

(1) Yamamoto Y, Yamamoto M, Hirouchi H, Taniguchi S, Watanabe G, Matsunaga S, Abe S
Regeneration process of myotendinous junction injury induced by collagenase injection between Achilles tendon and soleus muscle in mice
Anatomical Science International, 99:138-145, 2024

(2) Amemiya H, Yamamoto M, Higa K, Watanabe G, Taniguchi S, Kitamura K, Jeong J, Yanagisawa N, Fukuda K, Abe S
Effects of myostatin on nuclear morphology at the myotendinous junction
International Journal of Molecular Sciences, 24(7):6634, 2023

(3) Watanabe G, Yamamoto M, Taniguchi S, Sugiyama Y, Hirouchi H, Ishizuka S, Kitamura K, Mizoguchi T, Takayama T, Hayashi K, Abe S
Chronological changes in expression and localisation of Sox9 from achilles tendon injuryto functional recovery in mice
International Journal of Molecular Sciences, 24:11305, 2023

(4) Kitamura A, Yamamoto M, Hirouchi H, Watanabe G, Taniguchi S, Sekiya S, Ishizuka S, Jeong J, Higa K, Yamashita S, Abe S
Downregulation of SOX9 expression in developing entheses adjacent to intramembranous bone
PLOS ONE, 19: e0301080, 2024

(5) Shidara S, Ito S, Desai K, Tokuyama A, Leng R, Kawakami M, Matsunaga S, Komori T, Hosoya A, Nishii Y, Mizoguchi T: Genetic profile of Lepr+ skeletal stem/progenitor cells in the periodontal ligament and functional compensation during aging and bone repair. *Bone*. 2026, 206:117833. doi: 10.1016/j.bone.2026.117833.

(6) Mizoguchi T: In vivo dynamics of hard tissue-forming cell origins: Insights from Cre/loxP-based cell lineage tracing studies. The Japanese Dental Science Review, 60, 109-119, 2024.

(7) Desai KM, Mizoguchi T: Multifunctional LepR^{+} skeletal stem/progenitor cells for bone and marrow homeostasis. *J Bone Miner Metab*. 2026. doi: 10.1007/s00774-026-01698-z

(8) Ogura H, Nakamura T, Ishii T, Saito A, Onodera S, Yamaguchi A, Nishii Y, Azuma T: Mechanical stress-induced FGF-2 promotes proliferation and consequently induces osteoblast differentiation in mesenchymal stem cells. Biochem Biophys Res Commun, 684: 149145, 2023

(9) Nakamura T, Kawaai K, Kuroda Y, Matsuo K: Osteoclast visualization: Tartrate-resistant acid phosphatase activity staining using NewFuchsin compatible with non-aqueous mounting and tissue clearing. MEthodsX, 14: 103136, 2025

(10) Aoi Owada, Mamoru Yotsuya, Toshihiko Kamikawatoko, Satoshi Ishizuka, Shinichirou Ito, Yu Tsuyuki, Shota Kuroda, Masataka Kasahara, Toshihide Mizoguchi, Shinichi Abe, Hideshi Sekine. Relationship between asporin expression and the pathological progression of murine temporomandibular joint osteoarthritis after partial discectomy. Journal of Oral Biosciences, Volume 68, Issue 3, 2026. https://doi.org/10.1016/j.job.2026.100784.

(11) Nagai Y, Tokita K, Yasumatsu K: Fatty Acid Taste Quality Information via GPR40 and CD36 in the Posterior Tongue of Mice. *Acta Physiol.* 2025;241(7):e70071. doi: 10.1111/apha. 70071.

3. 外部表彰・受賞実績

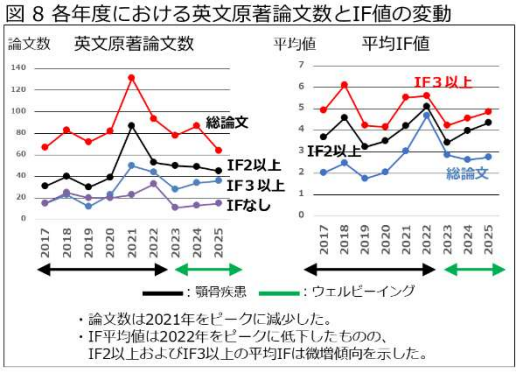
本プロジェクトを通して、多くの外部表彰・受賞実績が蓄積された（参考資料 6)。これらは、本プロジェクトによる研究支援が本学研究者の育成および研究活動の推進に寄与し、その成果が対外的にも高く評価されたことを示すものである。

4. 本プロジェクトにおける研究業績への貢献

各年度における英文原著論文数および IF 値の推移を図 8 に示す。英文原著論文数は 2017 年度以降増加傾向を示し、2021 年度にピークを迎えた後に減少した。一方、平均 IF 値は 2022 年度をピークに低下傾向を示したが、IF2 以上および IF3 以上の平均 IF は微増しており、一定水準以上の研究成果が継続的に創出されていることが示された。今後は引き続き、論文数のみならず研究成果の質にも着目し、より高いインパクトを有する学術誌への投稿を促進し、その成果を外部研究費の獲得につなげていくことが重要である。

また、本プロジェクトでは 2025 年度に国際共著論文の調査を実施した。その結果、2025 年度英文原著論文 79 報のうち 21 報（全て IF 付与論文）が国際共著論文であり、IF 付与論文全体に占める割合は 26.9%であった。国際共著論文は研究の国際的な連携を示す重要な指標の一つであることから、今後もその件数および割合を継続的に調査し、本学研究活動の国際性の向上を評価していく必要がある。

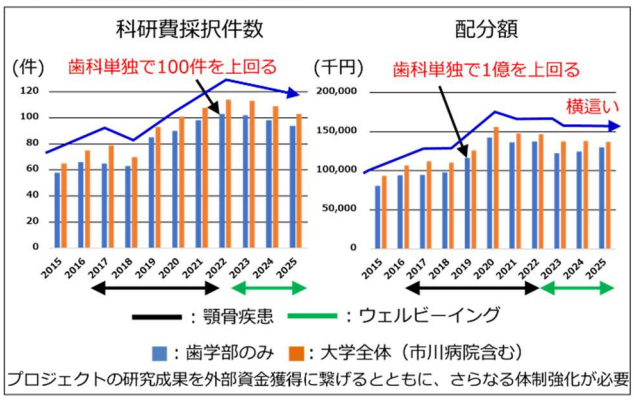
図 8 各年度における英文原著論文数とIF値の変動



5. 本プロジェクトにおける外部資金獲得への貢献

本研究プロジェクトは､大学からの年間約 3700 万円の支援を基盤として推進されており、本学の研究活動を支える重要な研究基盤となっている。一方で、今後も本学の研究推進体制を一層強化し、継続的かつ発展的に研究活動を維持・活性化していくためには、本プロジェクトを通して外部研究費を獲得できる研究者を継続的に育成していくことが不可欠である。本学における外部資金獲得状況を図 9 に示す。科研費採択件数は、「顎骨疾患プロジェクト」実施期間中の 2022 年度に 100 件を超え、配分額も 2019 年度には 1 億円を上回るなど、

図 9　外部資金獲得状況の推移

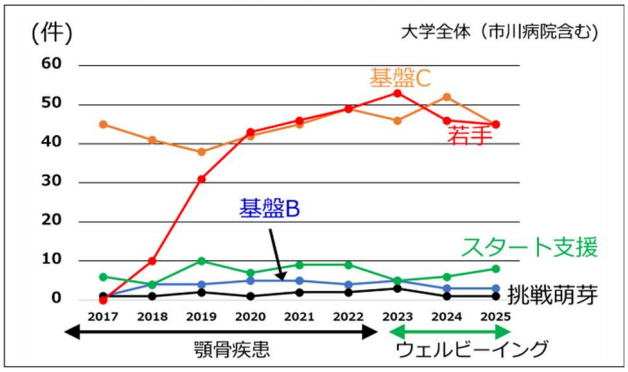


一定の成果が認められた。

しかしながら、本プロジェクト実施期間中においては、採択件数および配分額ともに大きな増加は認められず、概ね横ばいで推移した。

科研費種目別採択件数の年次推移を図 10 に示す。若手研究の採択件数は 2017 年度から 2023 年度にかけて顕著に増加し、本学における若手研究者の研究活動の活性化が示唆されたが、その後はやや減少傾向を示している。一方、基盤研究（C）および基盤研究（B）を含むその他の種目の採択件数については大きな変動は認められず、概ね横ばいで推移している。そのため、若手研究で培われた研究力を基盤研究（C）・基盤研究(B)等へと発展させ、これらの種目の採択件数を増加につなげるこが重要な課題とである。

図10　科研費種目別採択件数の年次推移



今後、外部資金獲得を一層強化していくためには、各世代の研究者が研究成果を継続的に創出し、英語論文の発表や学会活動、研究者間の交流を通じて研究実績を着実に積み重ね、それぞれの研究分野を牽引できる人材へと成長していくことが重要である。そのためには、研究費支援、研究交流機会の提供、外部資金申請支援などを通じて、本学における研究支援体制をさらに充実・強化していく必要がある。

Ⅴ．プロジェクト評価と今後の展望

1．外部評価委員会および自己点検・評価委員会の実施

本プロジェクトでは､2 回の外部評価委員会および 1 回の自己点検･評価委員会を開催し、プロジェクトの進捗状況、研究成果ならびに運営体制について評価・検証を行った。

(1) 第 1 回外部評価委員会（2023 年 6 月 27 日）（参考資料 7）

第 1 回外部評価委員会はウェルビーイングプロジェクト開始時に開催され、研究成果の評価ではなく、本プロジェクトの研究目的・目標、研究体制、独自性、各ラボの研究計画、若手研究者育成および研究費助成制度について評価をいただいた。委員からは、学際的な研究体制や研究目的などについて概ね高評価をいただいた。一方、プロジェクト成果を客観的に評価するための目標や指標の設定が求められた。また、若手研究者育成については、研究費支援に加え、研究指導体制の整備や、研究時間の確保に向けた取り組みの必要性が指摘された。さらに、研究成果の社会実装を推進するための産学連携支援体制や URA の整備の必要性が示された。

これらの指摘を踏まえ、2023 年度に口腔科学研究センター内に研究推進支援部門および産学連携支援部を設置し、リサーチ・アドミニストレーターを配置するなど、研究支援体制の整備を進めた。また、研究成果を評価する指標の整備については、2026 年度から開始した本研究プロジェクトの発展的継続計画（現行研究プロジェクト）に反映し、研究評価の導入を図った。一方、若手研究者の研究時間確保については引き続き課題として位置づけ、研究環境の改善に向けた検討を継続していく。

(2) 第 2 回外部評価委員会（2025 年 5 月 14 日）（参考資料 8）

第 2 回外部評価委員会では、本プロジェクト開始から約 2 年間の活動後に開催され、その活動実績を踏まえ、研究体制、研究成果、研究目標達成度、若手研究者育成、研究費助成制度および大学研究力向上への貢献について評価を受けた。委員からは、学際的な研究体制や安定した予算配分、若手研究者育成の取り組み、研究助成・研究支援体制、産学連携支援部の設置などについて概ね高い評価が示された。

一方で、今後の課題として、社会実装を見据えた研究推進、国際共著や被引用数等を含めた多面的な研究評価の導入が求められた。また、基盤研究(B)以上の中・大型外部研究費獲得を担う中堅・若手研究者の育成や、国際交流のさらなる活性化についても期待が示された。

これらの指摘を踏まえ、研究成果における国際共著論文数の調査を進めるとともに、若手サイエンスアカデミーの中堅・若手研究者を中心とした運営体制の強化や英語論文抄読会の導入を通じて、若手研究者の主体的な研究活動の促進と国際性の向上を図った。さらに、現行研究プロジェクトにおいては、中堅・若手研究者を中心とした研究体制の強化、社会実装を見据えた研究テーマの重点化、外部資金獲得の強化を支援する体制の構築を検討し、本学の研究力向上に向けた取り組みを継続的に推進していく方針とした。

(3) 自己点検・評価委員会（2026 年 1 月 26 日）

自己点検・評価委員会を開催し、本プロジェクトの活動状況および成果について点検・評価を実施した。委員会では、各ラボにおける研究活動や若手研究者支援について一定の成果が認められた一方で、英文原著論文数や平均 IF 値、外部資金の採択件数および獲得額が近年横ばい傾向にあることが報告され、より質の高い研究成果の創出や中・大型研究費の獲得に向けた取り組みの強化および研究支援体制（URA）のさらなる強化が課題として共有された。これに対し、今後の研究プロジェクトでは、中堅層を核とした研究体制の強化（ラボリーダーの世代交代）、プロジェクト研究成果評価指標の明確化、研究展開力および社会実装を見据えた研究体制の強化を進める方針を確認した。

さらに、委員からは、本プロジェクトの研究費助成支援を受けた研究課題における論文化状況の調査計画について質問があり、一定期間（概ね採択から 3 年ごと）に追跡調査を実施する予定であることを説明した。また、ラボ所属研究者の研究活動を定期的に点検・評価する必要性について意見が出され、これに対し、各グループリーダーが所属メンバーの研究進捗および成果を継続的に把握するとともに、必要に応じて推進委員会と研究継続について協議することで、研究体制の実効性を確保する方針が示された。

2. 本プロジェクトの推進から見えてきた課題

本プロジェクトを通じて、本学の研究力向上に向けた課題が明らかとなった。とりわけ、講師から准教授クラスに相当する中堅研究者は、自ら研究を推進するとともに若手研究者の育成を担う重要な立場にあり、本学の研究活動を持続的に発展させる上で中核的な人的基盤である。このため、中堅研究者を次世代の研究推進の中心として位置づけ、研究費支援や研究環境整備を含めた重点的な支援を継続的に実施していく必要がある。

また、口腔科学研究センターに研究支援部門を設置するなど、研究成果の社会実装を見据えた支援体制の整備に着手した。しかしながら、社会実装につながるイノベーションシーズの創出は十分とは言えず、今後はその創出を促進するための支援体制のさらなる充実が求められる。さらに、外部資金獲得に向けた研究成果の質的向上も重要な課題である。特に中・大型研究費の獲得を通じて、本学の研究力を一層向上させる取り組みが必要である。

以上のように、本プロジェクトでは研究基盤の整備や若手研究者支援をはじめ一定の成果が認められた一方で、中堅研究者の強化、外部研究費獲得の強化、ならびに社会実装を見据えた研究推進体制の構築など、今後取り組むべき課題が明らかとなった。

3. 今後に向けた展望

本プロジェクトの推進により、全学的な研究推進体制の充実や学際的研究ネットワークの構築に向けた取り組みが進められた。一方で、研究成果のさらなる質的向上、外部資金獲得力の強化、ならびに研究成果の社会実装を推進するための体制整備など、今後取り組むべき課題も明らかとなった。

今後は、全ての世代がそれぞれの役割を担いながら研究を推進できる体制をさらに発展させるとともに、中堅研究者が研究プロジェクト運営に参画し、卓越した研究を推進できる環境整備が重要である。そのため、チームリーダーの世代交代や目標設定の明確化などを通じて、学際的研究を効果的に推進できる体制の構築が求められる。また、若手研究者の研究意欲の向上とその持続を図ることも重要な課題である。そのため、若手サイエンスアカデミーを中心として、研究相談会や研究交流の機会を充実させることで、次世代研究者の育成、研究活動の活性化、ならびに研究の質の向上を推進していく必要がある。

また、競争的研究費の獲得に向けて、URA と連携しながら研究費申請支援体制の充実を図り、外部研究資金の獲得力強化を推進する必要がある。さらに、研究成果の社会実装を推進するためには、知的財産の創出や産学連携を促進する環境整備が求められる。

これらの取り組みを通じて、本学の研究基盤のさらなる強化を図り、「各ライフステージにおける口腔顎顔面機能維持・改善で目指すウェルビーイング社会の実現」に向けた研究成果の創出と社会展開を推進していくことを目指す。

Ⅵ. プロジェクト収支決算

2023 から 2025 年度の 3 年間において、本プロジェクトには毎年度 37,270 千円の予算が配分され、研究活動の推進および研究基盤の整備に活用した。3 年間の総予算額は 111,810 千円、総執行額は 97,769 千円であり、概ね計画どおりに予算を執行した。主な支出は、若手研究者支援、大学院生研究助成、イノベーション促進研究費助成、各ラボ研究計画推進費およびセミナー・シンポジウム開催費用であり、本プロジェクトを通じて研究活動の継続的な支援を行った。

1. 2023 年度予算・決算

プロジェクト共通経費	予算額	執行額
若手研究助成（50 万× 7 件）	3,500,000	3,499,274
大学院生研究助成（40 万× 9 件）	3,600,000	3,545,457
Travel Award（25 万× 4 件）	1,000,000	500,000
若手サイエンスアカデミー研究奨励賞（10 万× 2 件）	200,000	199,865
英文校正費助成	500,000	160,478
科学研究費申請支援補助費	2,000,000	966,826
イノベーション促進研究費助成 （150 万円 x 8 件）	12,000,000	11,363,910
IF 競争的資金研究費助成(IF 合計値上位 10 名に按分)	2,000,000	1,744,945
謝金、交通費等（大学院セミナー、シンポジウム等）	4,000,000	3,045,130
予備費	470,000	0
小計	**29,270,000**	**25,025,885**
各ラボ研究計画推進費		
生体防御ラボ	2,000,000	1,950,301
常態-病態機能解析ラボ	2,000,000	1,999,999
生体医工学ラボ	2,000,000	1,998,819
組織再生ラボ	2,000,000	2,000,000
小計	**8,000,000**	**7,949,119**
合計	**37,270,000**	**32,975,004**

（単位：円）

2. 2024 年度予算・決算

プロジェクト共通経費	予算額	執行額
若手研究助成（50 万× 7 件）	3,500,000	3,136,505
大学院生研究助成（40 万× 9 件）	3,600,000	3,451,452
Travel Award（最安値旅費 + 1 万× 3 泊分） x 3 件	1,000,000	877,240
若手サイエンスアカデミー研究奨励賞（10 万× 2 件）	200,000	100,000
英文校正費助成	500,000	143,654

科学研究費申請支援補助費	2,000,000	666,858
イノベーション促進研究費助成 （150 万円 x 8 件）	12,000,000	11,837,906
IF 競争的資金研究費助成(IF 合計値上位 10 名に按分)	2,000,000	1,764,179
謝金、交通費等（大学院セミナー、シンポジウム等）	3,700,000	2,785,014
外部評価委員会開催費用	400,000	0
予備費	370,000	0
小計	**29,270,000**	**24,762,808**
各ラボ研究計画推進費		
生体防御ラボ	2,000,000	1,897,950
常態-病態機能解析ラボ	2,000,000	2,000,000
生体医工学ラボ	2,000,000	1,998,952
組織再生ラボ	2,000,000	2,000,000
小計	**8,000,000**	**7,896,902**
合計	**37,270,000**	**32,659,710**

（単位：円）

3. 2025 年度予算・決算

プロジェクト共通経費	**予算額**	**執行額**
若手研究助成（50 万× 7 件）	3,500,000	2,926,416
大学院生研究助成（40 万× 9 件）	3,600,000	3,577,214
Travel Award（最安値旅費 + 2 万× 4 泊分） x 3 件	1,150,000	855,016
若手サイエンスアカデミー研究奨励賞（10 万× 2 件）	200,000	200,000
英文校正費助成	500,000	129,526
科学研究費申請支援補助費	2,000,000	1,698,069
イノベーション促進研究費助成 （150 万円 x 8 件）	12,000,000	9,936,066
IF 競争的資金研究費助成(IF 合計値上位 10 名に按分)	2,000,000	1,146,221
謝金、交通費等（大学院セミナー、シンポジウム等）	3,550,000	3,679,818
外部評価委員会開催費用	600,000	0
予備費	370,000	16,275
小計	**29,270,000**	**24,164,621**
各ラボ研究計画推進費		
生体防御ラボ	2,000,000	1,975,756
常態-病態機能解析ラボ	2,000,000	1,999,007
生体医工学ラボ	2,000,000	1,995,620
組織再生ラボ	2,000,000	1,999,658
小計	**8,000,000**	**7,970,041**
合計	**37,270,000**	**32,134,662**

（単位：円）

Ⅶ. おわりに

本報告書では、2023 年度から 2025 年度までの 3 年間にわたり推進してきた「各ライフステージに

おける口腔顎顔面機能維持・改善で目指すウェルビーイング社会の実現（ウェルビーイングプロジェクト）」の活動内容と成果について取りまとめた。本プロジェクトを通じて、研究活動の活性化、若手研究者支援および研究支援体制の整備において一定の成果を挙げることができた。一方で、より質の高い研究成果や社会実装につながる成果の創出、中・大型外部研究費の獲得、さらなる研究支援体制の強化など、今後取り組むべき課題も明らかとなった。

こうした成果と課題を踏まえ、本プロジェクトは 2026 年度よりさらに 3 年間の発展的継続が認められ、新たな体制のもとで推進している。今後は、本プロジェクトを最大限に活用しながら、若手・中堅研究者の育成を推進し、各専門分野において我が国の研究を牽引する研究者の輩出を目指していく。一連の取り組みを通じて、本学の研究基盤を一層強固なものとし、研究文化が世代を超えて継承・発展する大学の実現を目指したい。

参考引用文献

1） 顎骨疾患プロジェクト推進委員会著：東京歯科大学研究ブランディング事業「顎骨疾患の集学的研究拠点形成: 包括的な顎口腔機能回復によるサステナブルな健康長寿社会の実現」 (顎骨疾患プロジェクト)活動報告書(2017-2021 年)
https://www.tdc.ac.jp/Portals/0/images/college/activity/branding/sokatsu2017-2021-1.pdf
https://www.tdc.ac.jp/Portals/0/images/college/activity/branding/sokatsu2017-2021-2.pdf

2） 山口　朗：「顎骨疾患プロジェクトからの情報発信」20．東京歯科大学研究ブランディング事業（顎骨疾患プロジェクト）5 年間の研究成果報、歯科学報　123(3)277-287,2022

3） 山口　朗、東京歯科大学研究ブランディング事業からの情報発信 15.「東京歯科大学ブランディング事業」5 年間の成果報告、東京歯科大学同窓会報　428:17-19,2022

4） 山口　朗、溝口利英：東京歯科大学研究ブランディング事業の成果と将来展望、歯界展望, 141(4): 641-644, 2023

参　考　資　料

参考資料 1　ウェルビーイングプロジェクトに関する委員会構成　1

参考資料 2　若手サイエンスアカデミーの活動　3

参考資料 3　ウェルビーイングプロジェクト関連研究助成受賞者と研究課題　4

参考資料 4　ウェルビーイングプロジェクト関連シンポジウム、セミナー等の開催　10

参考資料 5　プロジェクトとからの情報発信　15

参考資料 6　外部表彰・受賞　18

参考資料 7　第１回外部評価委員会報告書　20

参考資料 8　第２回外部評価委員会報告書　26

参考資料 9　研究業績　31

参考資料１

ウェルビーイングプロジェクトに関する委員会構成

東京歯科大学口腔科学研究センター運営委員会

委員長	一戸　達也	学長
委　員	片倉　　朗	副学長
	山本　　仁	副学長
	溝口　利英	口腔科学研究センター所長
	新谷　誠康	口腔科学研究センター副所長
	齋藤　　淳	大学院研究科長
	松坂　賢一	研究部長
	田口　円裕	大学事務局長

ウェルビーイングプロジェクト推進委員会

委員長	溝口　利英	口腔科学研究センター 教授
委　員	大野　建州	生化学講座 教授
	上田　貴之	老年歯科補綴学講座 教授
	笠原　正貴	薬理学講座 教授
	新谷　誠康	小児歯科学講座 教授
	石井　武展	歯科矯正学講座 准教授
	小野寺晶子	生化学講座 准教授
	澁川　義幸	生理学講座 教授
	齋藤　　淳	歯周病学講座 教授
	村松　　敬	保存修復学講座 教授
	木村　麻記	生理学講座 講師
	櫻井　敦朗	小児歯科学講座 准教授
	今村健太郎	歯周病学講座 准教授
	菅原　圭亮	口腔病態外科学講座 准教授
	片倉　　朗	口腔病態外科学講座 教授
	松永　　智	解剖学講座 准教授
	後藤多津子	歯科放射線学講座 教授
	中島　純子	オーラルメディシン・病院歯科学講座 准教授
	笠原　典夫	組織・発生学講座 講師
	笠原　正彰	歯科理工学講座 講師
	阿部　伸一	解剖学講座 教授
	佐藤　正樹	生物学研究室 准教授
	安松　啓子	東京歯科大学短期大学 教授
	中村　　貴	口腔科学研究センター 講師
	石川　　昂	法歯学・法人類学講座 教授
	北村　　啓	組織・発生学講座 講師

ウェルビーイングプロジェクト自己点検・評価委員会

委員長	一戸　達也	学長
委　員	片倉　　朗	副学長
	山本　　仁	副学長
	山下秀一郎	水道橋病院長
	西田　次郎	市川総合病院長
	齋藤　　淳	大学院研究科長
	杉原　直樹	図書館長・基礎教授連絡会幹事
	松坂　賢一	研究部長
	澁川　義幸	研究機器管理部長
	村松　　敬	臨床教授連絡会幹事
	田口　円裕	事務局長

参考資料 2

若手サイエンスアカデミーの活動

【2023 年度】

1. TDC 1st Author（研究発表会） 開催回数：7回

2. TDC Journal Club（抄読会） 開催回数：23回

3. 第 5 回東京大学・東京歯科大学合同研究報告会
   2024 年 3 月 26 日　開催(東京歯科大学水道橋校舎本館　西棟ラウンジ)

4. Asian Rising Stars Symposium（ARSS）2023
   2023 年 7 月 29 日　WEB 開催

【2024 年度】

1. TDC 1st Author（研究発表会） 開催回数：5回

2. TDC Journal Club（抄読会） 開催回数：25回

3. 第 6 回東京大学・東京歯科大学合同研究報告会
   2025 年 3 月 18 日　開催(東京大学)

4. Asian Rising Stars Symposium（ARSS）2024
   2024 年 7 月 27 日　WEB 開催

【2025 年度】

1. TDC 1st Author（研究発表会） 開催回数：4回（Zoomは 3 回（5/12・6/9・10/5）作成）

2. TDC Journal Club（抄読会） 開催回数：19回（Zoomは 22 回作成）

3. 第 7 回東京大学・東京歯科大学合同研究報告会
   2026 年 3 月 17 日　開催(東京歯科大学水道橋校舎本館　西棟ラウンジ)

4. Asian Rising Stars Symposium（ARSS）2025
   2025 年 7 月 19 日　WEB 開催

参考資料 3

ウェルビーイングプロジェクト関連研究助成受賞者と研究課題

1. ウェルビーイングプロジェクト大学院生研究助成　採択課題

【2023 年度】

氏　名	学年	所　属	研 究 課 題
倉島　竜哉	2	生理学講座	象牙芽細胞における機械感受性 Piezo1-TRPV1/TRPA1 クロストークの疼痛制御－象牙質再生機能共関解析
石口　恭子	3	歯科放射線学講座	高齢者におけるうま味添加による塩味の増強効果の解明：脳機能 MRI による塩味の認知の可視化と減塩指導への応用
千代　侑香	4	歯科麻酔学講座	T 細胞上の内因性 TSPO は T 細胞応答をどのように制御しているのか？
徳山　彰秀	4	薬理学講座	抜歯窩修復骨に寄与する幹細胞画分の同定
鈴木　玲也	4	口腔ｲﾝﾌﾟﾗﾝﾄ学講座	チタン微粒子によるバイスタンダーな免疫応答増強作用の解明
松浦　信孝	4	歯科麻酔学講座	Translocator protein (TSPO)による破骨細胞分化制御機構の解明
設樂　沙月	2	歯科矯正学講座	誘導性の細胞標識システムを用いた歯根膜 LepR 陽性細胞の in vivo 動態解析
立澤孝太郎	4	口腔病態外科学講座	ホログラム手術ガイドを応用したオトガイ形成術における新たな顔貌プレディクションの開発
久永　理央	4	歯周病学講座	Treponema denticola の病原性発現および増殖における HxlR family transcriptional regulator の役割の検討

【2024 年度】

氏　名	学年	所　属	研 究 課 題
倉島　竜哉	3	生理学講座	象牙芽細胞の Piezo1－アラキドン酸カスケード－TRPA1 axis による歯痛発生－象牙質形成スイッチング機構の解明
設樂　沙月	3	歯科矯正学講座	矯正力牽引側における歯根膜 LepR 陽性細胞の骨形成細胞への寄与の解析
田上　聖章	4	歯科矯正学講座	歯根膜支配三叉神経中脳路核ニューロンの機械感受性イオンチャネル発現と矯正力適応時の発現変動
田代憲太朗	3	保存修復学講座	歯髄血管再生療法（pulp revascularization）の治癒過程における間葉系幹細胞の局在の変化と硬組織形成への関与
中島　克真	4	歯内療法学講座	Perlecan による象牙芽細胞膜 Ca2+排出制御と石灰化駆動との機能連関の解明
関矢日向子	3	歯内療法学講座	ステロイド由来歯痛の発症メカニズムの探索

氏　名	学年	所　属	研 究 課 題
大和田　碧	4	ｸﾗｳﾝﾌﾞﾘｯｼﾞ補綴学講座	変形性顎関節症モデルマウスにおける Asporin の機能解析
井上　　綾	3	歯科放射線学講座	中高年が好む塩味の歯磨剤の嗜好性に関わる脳内報酬系領域間結合の解明
淺井　七海	2	ﾊﾟｰｼｬﾙﾃﾞﾝﾁｬｰ補綴学講座	積層造形と切削加工で製作した局部床義歯フレームワークの疲労強度の解明

【2025 年度】

氏　名	学年	所　属	研 究 課 題
倉島　竜哉	4	生理学講座	細胞内 ATP ダイナミクスが象牙芽細胞による歯痛発生 －象牙質形成機能連関を駆動する
設樂　沙月	4	歯科矯正学講座	矯正力下における歯根膜 LepR 陽性細胞による骨リモデリング誘導機構の解析
志田　菜奈	2	歯科放射線学講座	うま味による塩味の増強効果に関わる高齢者の脳活動の解明と減塩指導への展開
冷　然	3	歯科矯正学講座	LepR 陽性骨格幹細胞の組織環境に依存した骨細胞への分化機構の解析
牧野　将大	4	口腔ｲﾝﾌﾟﾗﾝﾄ学講座	チタン微粒子はアジュバント作用により T 細胞活性を増強させるのか？
関矢日向子	4	歯内療法学	TRPV4 を介したステロイド由来歯痛発症メカニズムの解明
窪山　裕也	4	小児歯科学	ステロイド治療患者に見られる象牙質知覚過敏症様歯痛の解明
秦　加純	4	ｵｰﾗﾙﾒﾃﾞｨｼﾝ・病院歯科学講座	マウス鼓索神経味覚応答に対する脂肪酸の混合効果と GPR120 の関与
田代憲太朗	4	保存修復学講座	歯髄血管再生療法（pulp revascularization）の治癒過程における Axin2 および Gli1 発現細胞の局在の変化と硬組織形成への関与

2. ウェルビーイングプロジェクト若手研究助成　採択課題

【2023 年度】

氏　名	職名	所　属	研 究 課 題
黄地　健仁	助教	生理学講座	ATF6a 制御による歯の延命と健康寿命延伸戦略
佐藤　涼一	講師	衛生学講座	生活リズム再現型 pH-cycling 酸蝕症モデルによる AP-MFP 歯面塗布の効果検討
伊藤慎一郎	助教	薬理学講座	骨格部位依存的な骨再生幹細胞の分化多様性の検証

氏　名	職名	所　属	研 究 課 題
髙橋　有希	講師	薬理学講座	筋特異的プロモーターを応用した低ホスファターゼ症に対する新規胎児治療戦略の創生
小谷地雅秀	助教	口腔病態外科学講座	360 度カメラによる新規 VR 手術トレーニングシステムの開発
齋藤　菜月	助教	歯科麻酔学講座	CGRP と PTH 依存的 cAMP シグナルの解析および異なるリガンド由来の cAMP 依存的象牙質再生の根底にある新しい調節メカニズムの解明
鎌田　聡仁	助教	ﾊﾟｰｼｬﾙﾃﾞﾝﾁｬｰ補綴学講座	セメント芽細胞における Ca2+活性化 K+チャネルおよび内向き電流の解明

【2024 年度】

氏　名	職名	所　属	研 究 課 題
黄地　健仁	講師	生理学講座	外傷性神経腫に起因する機械的アロディニアでの Piezo チャネルの生物学的および臨床的意義
伊藤慎一郎	助教	薬理学講座	LepR 陽性骨格幹細胞における新規亜集団の性状解析
白根茉利子	臨床専修医	市川総合病院眼科	口腔粘膜 Organoids を用いた新たな角膜上皮再生方法の検討
星野　照秀	助教	口腔病態外科学講座	老齢マウスの咬筋におけるオートファジー機能の検証
齋藤　菜月	助教	歯科麻酔学講座	痛覚における二次感覚ニューロンへの上行性伝導システムの解明
小山　　侑	助教	口腔病態外科学講座	口腔扁平上皮癌におけるコリントランスポーターの局在解明および早期診断マーカーへの応用
小谷地雅秀	助教	口腔病態外科学講座	空間再現（Spatial Reality：SR）ディスプレイを用いた新規手術トレーニングシステムの有用性の検証

【2025 年度】

氏　名	職名	所　属	研 究 課 題
黄地　健仁	講師	生理学講座	病的 Pericyte マーカーRgs5 を標的とした象牙質再生に向けたシグナル制御機構の解明
高橋　有希	講師	薬理学講座	マイクロ RNA を用いた軽症低ホスファターゼ症の新規分子マーカーの探索
Desai Karishma	PF	口腔科学研究センター	Identification of stromal cells required for osteoclastogenesis during long bone development
菊池 布恵	助教	組織･発生学講座	多根歯発生における象牙芽細胞分化過程の組織学的解明

氏　名	職名	所　属	研 究 課 題
森田 奈那	助教	ｵｰﾗﾙﾒﾃﾞｨｼﾝ・病院歯科学講座	高齢者の誤嚥防止へ向けた基盤研究:咽喉上皮構造の加齢変化と嚥下反射機能の関連解明
加藤 禎彬	助教	口腔病態外科学講座	プロテオーム解析を用いた咬筋サルコペニアの病態解明への基盤構築
中澤 和真	助教	老年歯科補綴学講座	三次元造形法で製作した顎義歯の主観的・客観的機能評価の検討

3. ウェルビーイングプロジェクトイノベーション促進研究費助成　採択課題

【2023 年度】

代表者氏名	職名	所　属	研 究 課 題
安松　啓子	教授	短期大学	脂肪・糖・塩の混合味覚の受容機構の解明
黄地　健仁	助教	生理学講座	微小重力環境下における唾液腺幹細胞の機械受容・時計遺伝子関連因子機能調節解析：1/6G 環境順応機序から見た 1G 環境口腔乾燥症制圧に向けた基盤研究
澁川　義幸	教授	生理学講座	ヒト神経障害性疼痛を誘発する疼痛制御因子の臨床応用前段階解析：神経障害性疼痛モデルマウス三叉神経節ニューロン In Vivo ライブイメージングと疼痛行動相関
櫻井　敦朗	講師	小児歯科学講座	Early childhood caries の発生に関与する口腔内の細菌−真菌連関の解明
河野　通良	准教授	市川総合病院皮膚科	自己免疫性水疱症の口腔粘膜症状に対する口腔衛生管理の効果と口腔内細菌叢の変化との相関についての研究
阿部　伸一	教授	解剖学講座	咀嚼筋腱・腱膜過形成症の病因解明に向けた基礎研究 ～“筋内腱”の由来は何処に？～
中村　　貴	講師	生化学講座	デザイナー骨の作製を目指したメカノトランスダクション分子機構の解明
中島　純子	准教授	ｵｰﾗﾙﾒﾃﾞｨｼﾝ・病院歯科学講座	TRP チャネルに着目した、効果的な嚥下反射誘発に関するバイオメカニズムの探索

【2024 年度】

氏　名	職名	所　属	研 究 課 題
黄地　健仁	講師	生理学講座	病態を反映可能な新規三叉神経感覚ニューロン分類の確立：形態−感覚受容タンパク質発現系による multi-dimensional neuron classification の基盤確立
安松　啓子	教授	短期大学	脂肪・糖・塩の混合味覚の受容機構の解明

氏　名	職名	所　属	研 究 課 題
山口　剛史	教授	市川総合病院 眼科	口腔粘膜間葉系細胞(hOMFs)の細胞外小胞体(EVs)の上皮系創傷治癒への効果
国分　栄仁	講師	微生物学講座	口腔がんに影響する口腔細菌叢の解明
石井　武展	准教授	歯科矯正学講座	矯正学的歯の移動モデルを用いた歯根膜における Gli1 陽性幹細胞の細胞増殖および分化機序の解明
小野寺晶子	准教授	生化学講座	起源細胞に基づく歯原性角化嚢胞の発生機序の解明
小高　研人	講師	歯科放射線学 講座	深層学習による CT 画像上でのリンパ節自動抽出 AI モデルの構築

【2025 年度】

氏　名	職名	所　属	研 究 課 題
安松　啓子	教授	短期大学	脂肪・糖・塩の混合味覚の受容機構の解明
木村　麻記	講師	生理学講座	"Odontoblast decoding" : Glucose 輸送-細胞膜イオントランスポート軸と細胞機能連関
北村　　啓	講師	組織・発生学講座	オトガイ舌筋に起こる筋委縮の機能・構造特性を解明する。
笠原　典夫	講師	組織・発生学講座	唾液に含まれる代謝物をバイオマーカーとして口腔がんの早期発見を実現する
国分　栄仁	講師	微生物学講座	口腔がんに影響する口腔細菌叢の解明
小野寺晶子	准教授	生化学講座	IL33 中和抗体は Sjögren 症候群の薬剤となるか
小高　研人	講師	歯科放射線学 講座	自動セグメンテーション技術を応用した三次元画像解析法の開発

4. 若手サイエンスアカデミー研究奨励賞　受賞者

【2023 年度】

・佐藤　　涼一　講師（衛生学講座）

・五十嵐 彰智　大学院生（保存修復学講座）

【2024 年度】

・大和田　　碧 大学院生（クラウンブリッジ補綴学講座）

【2025 年度】

・倉島　竜哉　大学院生（生理学講座）

・設楽　沙月　大学院生（歯科矯正学講座）

5. ウェルビーイングプロジェクト　その他の研究助成の採択件数

【2023 年度】

・IF 競争的資金研究費助成　　10 件

・科学研究費申請支援補助費　　3 件

・英文校正費助成　　2 件

・Travel Award　　2 件

【2024 年度】

・IF 競争的資金研究費助成　　10 件

・科学研究費申請支援補助費　　2 件

・英文校正費助成　　1 件

・Travel Award　　3 件

【2025 年度】

・IF 競争的資金研究費助成　　9 件

・科学研究費申請支援補助費　　7 件

・英文校正費助成　　1 件

・Travel Award　　3 件

参考資料 4

ウェルビーイングプロジェクト関連シンポジウム、セミナー等の開催

１. シンポジウム等

1) ウェルビーイングプロジェクト 東京歯科大学学会シンポジウム

【2023 年度】

第 316 回東京歯科大学学会シンポジウム

「口腔内と腸内細菌叢の理解から紐解く歯周疾患

－口腔からのウェルビーイング社会創生への道しるべ－」

2023 年 10 月 21 日　開催（東京歯科大学水道橋校舎新館　血脇記念ホール）

【2024 年度】

第 318 回東京歯科大学学会シンポジウム

「味覚の理解深化による口腔機能の維持と改善

－「味」の科学が拓くウェルビーイング社会－」

2024 年 10 月 19 日　開催（東京歯科大学水道橋校舎新館　血脇記念ホール）

【2025 年度】

第 320 回東京歯科大学学会シンポジウム

「かかりつけ歯科医と大学研究者のクロストーク

－口腔機能低下症とカリエスマネージメント－」

2025 年 10 月 18 日　開催（東京歯科大学水道橋校舎本館 13 階第 1 講義室）

2) 東京歯科大学リカレント教育セミナー

【2023 年度】

「今どきの目で口腔粘膜を見直そう

－口腔粘膜からみる医科との診療連携と歯科診療－」

2024 年 3 月 3 日　開催（東京歯科大学水道橋校舎新館　血脇記念ホール）

【2024 年度】

「口腔機能評価と口腔機能管理の実践のために」

2025 年 2 月 9 日　開催（東京歯科大学水道橋校舎新館　血脇記念ホール）

【2025 年度】

「デジタル時代のクラウンブリッジ・有床義歯治療

－デジタルと機能的形態のフュージョンは必要か？－」

2026 年 3 月 29 日　開催（東京歯科大学水道橋校舎新館　血脇記念ホール）

２．ウェルビーイングプロジェクト主催セミナーおよび共催大学院セミナー

【2023 年度】

	日時／演題／講師（講師の所属、職名は発表日現在）
1.	第 487 回大学院セミナー（2023 年 5 月 8 日 WEB 開催） 【キャリアアップシリーズ：臨床系】 「開業でも得られる長期観察による NEUES（新知見）」 久保歯科医院（稚内市）院長　久保　四郎　先生
2.	第 488 回大学院セミナー（2023 年 6 月 22 日開催） 「歯の硬組織形成における時計遺伝子の乱れと病的な STIM1 シグナリングの影響」 カナダ　ラヴァル大学　歯学部　歯学部長　ペトロ　パパゲラキス　先生
3.	第 207 回歯科医学教育セミナー（2023 年 6 月 27 日 WEB 開催） 「東京歯科大学の新たな研究プロジェクトの紹介」 東京歯科大学　溝口　利英　教授、澁川　義幸　教授、菅原　圭亮　准教授、大野　建州　講師
4.	第 489 回大学院セミナー（2023 年 7 月 18 日 WEB 開催） 【若手サイエンスアカデミー】 「アレルギーはなぜ増えた？～増え続けるアレルギーを克服するには～」 国立成育医療センター　免疫アレルギー・感染研究部　室長　森田　英明　先生
5.	第 491 回大学院セミナー（2023 年 9 月 21 日開催） 「Microbial Extracellular DNA (eDNA) and AG Fibroblasts in Periodontitis Initiation」 UCLA　歯学部　教授・ワイントローブ再建生体工学研究所　教授　西村　一郎　先生
6.	第 208 回歯科医学教育セミナー（2023 年 9 月 25 日 WEB 開催） 「ウェルビーイングを口腔から考える-イギリス国民保健局の資料を中心として-」 明海大学　保健医療学部　特任教授　茂木　伸夫　先生
7.	第 492 回大学院セミナー（2023 年 10 月 2 日 WEB 開催） 【若手サイエンスアカデミー】 「分子疫学的調査から見えてきた口腔常在微生物叢と健康との関わり」 九州大学大学院歯学研究院　口腔保健推進学講座　口腔予防医学分野　教授　竹下　徹　先生
8.	第 495 回大学院セミナー（2023 年 11 月 22 日開催） 【若手サイエンスアカデミー】 「診査・診断機器を用いた客観的・定量的齲蝕発見・検出」 インディアナ大学歯学部　カリオロジー学講座　准教授　安藤　昌俊　先生
9.	第 497 回大学院セミナー（2023 年 12 月 4 日開催） 【若手サイエンスアカデミー】 「乳酸菌による抗腫瘍免疫治療の増強」 順天堂大学大学院医学研究科　准教授　竹田　和由　先生

	日時／演題／講師（講師の所属、職名は発表日現在）
10.	第 498 回大学院セミナー（2023 年 12 月 22 日開催） 「NGS 解析・シングル細胞解析を用いた骨発生を中心とした転写制御機構解析」 東京大学大学院医学系研究科附属疾患生命工学センター 准教授 北條 宏徳 先生
11.	第 499 回大学院セミナー（2024 年 2 月 8 日開催） 【若手サイエンスアカデミー】 「矯正歯科治療における MOP の可能性について」 渡辺矯正歯科（東京・吉祥寺）医院長 渡辺 和也 先生
12.	第 1 回ウェルビーイングプロジェクトセミナー（2024 年 2 月 9 日開催） 「遺伝子発現・エピゲノムの観点で骨と軟骨を理解する －NGS 解析とヒト多能性幹細胞による発生過程再現系の統合－」 大阪大学大学院歯学研究科組織発生生物学講座 教授 大庭 伸介 先生
13.	2023 年度口腔科学研究センターワークショップ（2024 年 2 月 22 日開催） 「2023 年度東京歯科大学ウェルビーイングプロジェクト成果報告」 東京歯科大学 溝口 利英 教授、澁川 義幸 教授、菅原 圭亮 准教授、大野 建州 准教授

【2024 年度】

	日時／演題／講師（講師の所属、職名は発表日現在）
1.	第 500 回大学院セミナー（2024 年 4 月 23 日開催） 「エナメル上皮から考える歯周組織再生とインプラントへの応用」 岩手医科大学 解剖学講座 発生生物・再生医学分野 教授 原田 英光 先生
2.	第 501 回大学院セミナー（2024 年 7 月 9 日開催） 【キャリアアップシリーズ：基礎系】 「歯科医師が研究することで広がる無限の可能性と臨床への貢献」 長崎大学 大学院医歯薬学総合研究科 細胞生物学分野 准教授 松下 祐樹 先生
3.	第 502 回大学院セミナー（2024 年 7 月 18 日開催） 【大学院 FD セミナー】 「長期海外出張報告」 東京歯科大学 小野寺 晶子 准教授、菊池 有一郎 講師
4.	第 503 回大学院セミナー（2024 年 9 月 6 日開催） 【キャリアアップシリーズ：基礎系】 「歯科臨床から破骨細胞、そして Wnt シグナルへ」 松本歯科大学総合歯科医学研究所 教授 小林 泰浩 先生

	日時／演題／講師（講師の所属、職名は発表日現在）
5.	第 2 回ウェルビーイングプロジェクトセミナー（2024 年 9 月 27 日開催） 「Photo-isolation chemistry による局所的高深度トランスクリプトーム解析」 熊本大学大学生命資源研究支援センター 教授 沖 真弥 先生
6.	第 505 回大学院セミナー（2024 年 10 月 17 日開催） 「WHAT HAS NEUROSCIENCE RESEARCH CONTRIBUTED TO OUR UNDERSTANDING, DIAGNOSIS AND MANAGEMENT OF OROFACIAL PAIN?」 Faculties of Dentistry and Medicine University of Toronto, Toronto, Canada Barry J. Sessle 先生
7.	第 509 回大学院セミナー（2025 年 1 月 14 日開催） 「メカノバイオロジーへの招待：細胞はどのように力を感じ応答するのか？」 金沢工業大学 人間情報システム研究所 教授 曽我部 正博 先生
8.	第 510 回大学院セミナー（2025 年 1 月 30 日開催） 【産学連携・社会実装シリーズ】 「RANKL の発見から未来への展望へ －社会実装を目指した産学連携に係るリスクマネジメント－」 オリエンタル酵母工業株式会社 バイオ事業本部本部長付 保田 尚孝 先生
9.	2024 年度口腔科学研究センターワークショップ（2025 年 2 月 25 日開催） 「2024 年度東京歯科大学ウェルビーイングプロジェクト成果報告」 東京歯科大学 溝口 利英 教授、澁川 義幸 教授、菅原 圭亮 准教授、大野 建州 准教授
10.	科研費講習会（2025 年 3 月 11 日開催） 東京歯科大学 山口 朗 客員教授、溝口 利英 教授、世木田 晋 事務主任

【2025 年度】

	日時／演題／講師（講師の所属、職名は発表日現在）
1.	第 511 回大学院セミナー（2025 年 4 月 21 日開催） 【キャリアアップセミナー】 「研究費申請への AI・データベースの応用」 元ハーバード大学医学部病理学講座 辻 孝憲 先生
2.	第 512 回大学院セミナー（2025 年 5 月 19 日開催） 「細胞内 ATP 濃度を可視化する技術の開発と応用」 山口大学大学研究推進機構 教授 今村 博臣 先生
3.	第 513 回大学院セミナー（2025 年 5 月 30 日開催） 「骨格幹細胞からみた骨生物学」 テキサス大学ヒューストン校歯学部 教授 小野 法明 先生

	日時／演題／講師（講師の所属、職名は発表日現在）
4.	第 514 回大学院セミナー（2025 年 6 月 19 日開催） 「アメリカでの研究生活 ：Harvard大学大学院から起業まで」 UCLA歯学部ワイントローブ研究所 教授 REMONOCE Pharm・共同設立者、理事 西村 一郎 先生
5.	研究マネジメント人材養成に係る SD（2025 年 9 月 16 日開催） 「研究費獲得とその成果の社会実装を目指して」 東京歯科大学口腔科学研究センター 客員教授 山口 朗 先生、 AMED・感染症研究開発事業部感染症研究開発課主幹 田村 達也 先生、 口腔科学研究センター客員教授（オリエンタル酵母工業株式会社バイオ事業本部長付） 保田 尚孝 先生
6.	第 518 回大学院セミナー（2025 年 10 月 1 日開催） 「 The Significance of Running a Lab in the U.S. : Metabolic Contributions to Hematopoietic Homeostasis and Hematological Disease Pathogenesis」 アルバート・アインシュタイン医科大学 教授 伊藤 圭介 先生
7.	第 519 回大学院セミナー（2025 年 10 月 29 日開催） 「歯髄の生物学的特性と再生能の観点から歯髄保護を考える」 新潟大学大学院医歯学総合研究科硬組織形態学分野 教授 大島 勇人 先生
8.	第 520 回大学院セミナー（2025 年 11 月 28 日開催） 「歯学部における研究・教育・診療体制の充実を目指して-破骨細胞に魅せられて-」 松本歯科大学生化学講座 教授 宇田川 信之 先生
9.	第 520 回大学院セミナー（2026 年 2 月 19 日開催） 「歯の保存への挑戦～歯牙移植から歯周組織再生療法まで～」 医療法人社団明佳会理事長 片山 明彦 先生

参考資料 5

プロジェクトからの情報発信

1. 東京歯科大学学会機関紙「歯科学報」

【2023 年度】

・溝口利英、澁川義幸、大野建州、菅原圭亮、山口朗 「新たな研究プロジェクト「各ライフステージにおける口腔顔面機能維持・改善で目指すウェルビーイング社会の実現(ウェルビーイングプロジェクト) 」の概要紹介」 2023 年 7 月号

・菅原圭亮、田坂彰規、松永智、片倉朗 「基礎-臨床橋渡し研究に基づいた FabLab グループの成果とこれからの展望 」2023 年 10 月号

・櫻井敦朗、佐藤涼一、間奈津子、齋藤暁子、国分栄仁、新谷誠康 「子どもの齲蝕にまつわる温故知新と最新研究」 2024 年 1 月号

【2024 年度】

・溝口利英 「東京歯科大学研究プロジェクト(ウェルビーイングプロジェクト)/組織再生ラボの研究概要」 2024 年 4 月号

・菅原圭亮、田坂彰規、松永智、片倉朗 「生体医工学ラボとこれからの展望」 2024 年7月号

・澁川義幸「常態-病態機能解析ラボの現状と将来」 2024 年 10 月号

・大野建州、上田貴之、石井武展、小野寺晶子、米澤英雄、恩田健志 「生体防御ラボのこれからの展望」 2025 年 1 月号

【2025 年度】

・比嘉一成、 白根茉利子、 山口剛史「ウェルビーイングプロジェクトにおける口腔粘膜を活用した角膜再生」 2025 年 4 月号

・田坂彰規、小林裕、山下秀一郎 「パーシャルデンチャー製作におけるデジタルテクノロジーの応用」 2025 年 7 月号

・黄地健仁、倉島竜哉、木村麻記、澁川義幸 「歯髄血管周囲のニッチ機構とペリサイトが担う象牙質再生－歯髄における小胞体ストレス制御機構:恒常性維持と再生応答の鍵－」 2025 年 10 月号

・　竜正大、上田貴之 「口腔機能低下症の管理とオーラルフレイルに関する最新知見」
2026 年 1 月号

2. 東京歯科大学学会同窓会機関紙「東京歯科大学同窓会会報」

【2023 年度】

・溝口利英、澁川義幸、大野建州、菅原圭亮、山口朗 「新たな東京歯科大学研究プロジェクト 各ライフステージにおける口腔顔面機能維持・改善で目指すウェルビーイング社会の実現（ウェルビーイングプロジェクト）」 2023 年 6 月号

・大野建州 「新たな東京歯科大学研究プロジェクト 各ライフステージにおける口腔顔面機能維持・ 改善で目指すウェルビーイング社会の実現 （ウェルビーイングプロジェクト）～生体防御ラボ～」 2023 年 10 月号

・澁川義幸、木村麻記、黄地健仁、倉島竜哉 「新たな東京歯科大学研究プロジェクト 歯を削るとなぜ痛いのか？象牙質痛を徹底解明する」 2023 年 12 月号

・菅原圭亮、松永智、小髙研人、片倉朗 「新たな東京歯科大学研究プロジェクト「生体医工学ラボの研究概要」想像できるものは現実になるーデジタルテクノロジーの口腔外科領域への応用」2024 年 2 月号

【2024 年度】

・溝口利英 「新たな東京歯科大学研究プロジェクト（ウェルビーイングプロジェクト）組織再生ラボの研究概要」 2024 年 6 月号

・米澤英雄 「「腸活」？「菌活」？細菌学研究から紐解くフローラ解析」 2024 年 10 月号

・河野通良 「掌蹠嚢胞症と歯性病巣感染の関連を示す口腔マイクロバイオーム研究」 2024 年 12 月号

・笠原正彰 「骨解析に基づいた舌骨の構造特性解明」 2025 年 2 月号

【2025 年度】

・四ツ谷護 「変形性顎関節症モデルマウスにおける下顎頭形態及び Asporin の初期変化」 2025 年 6 月号

・田坂彰規「デジタル技術のパーシャルデンチャーへの応用―IOS・3D プリンターを用いた研究から―」 2025 年 10 月号

・黄地健仁「メカニカルストレス制御性の歯と歯周組織再生」 2025 年 12 月号

・石田晃裕、上田貴之 「咀嚼の意義の再発見 ～食物の経口摂取とウェルビーイング～」 2026 年 2 月号

参考資料 6

外部表彰・受賞

【受賞・表彰】

＜2023 年度＞

1. 日本補綴歯科学会 学会論文賞受賞, 田坂彰規, 2023.5.19
2. 第 55 回日本臨床分子形態学会 論文賞, 小野寺晶子, 2023.9.30
3. 第 55 回日本臨床分子形態学会 最優秀演題賞, 小野寺晶子, 2023.9.30
4. 令和 5 年度助成金研究, 老年歯科医学総合研究所, デジタル式３次元下顎運動解析システムを用いた咬合採得用デバイスの精度検証 －体位変化による顆頭位への影響－, 四ツ谷護, 2023.9

＜2024 年度＞

1. 第 64 回日本歯科放射線学会 優秀論文賞, 松元秀樹(recipient), 後藤多津子 (as the mentor)
2. 第 25 回日本脳神経核医学研究会 学術奨励賞, 松元秀樹(recipient), 後藤多津子 (as the mentor)
3. 第 78 回日本口腔科学会 Rising Scientist 賞, 松元秀樹(recipient), 後藤多津子 (as the mentor)
4. APPW2025(第 130 回日本解剖学会/第 102 回日本生理学会/第 98 回日本薬理学会合同大会) Graduate Student Presentation Award(共同演者), 倉島竜哉, 黄地健仁, 木村麻記, 澁川義幸: 象牙芽細胞における細胞内アラキドン酸カスケードを介した Piezo1-TRPV1/TRPA1 チャネル機能連関, , 2025.3.17-19
5. 第 78 回 NPO 法人 日本口腔科学会学術集会 若手優秀ポスター賞(共同演者), Akira Iwasaki, Takehito Ouchi, Maki Kimura, Akihiro Nishiyama, Hidetaka Kuroda, Yoshiyuki Shibukawa, Akira Katakura: CGRP family-CALCRL axis regulates neuron-endothelial signal transmission, , 2024.7.19-21
6. 第 66 回歯科基礎医学会 歯科基礎医学会ライオン学術賞, 溝口利英, 2024.11.2
7. Quantitative Imaging In Medicine And Surgery Outstanding Author, Sugahara K
8. 第 83 回日本矯正歯科学会学術大会 優秀演題賞, Yamamoto F, Matsunaga S, Sugahara K, Nishii Y et al. , 2024.10.31
9. 第 83 回日本矯正歯科学会学術大会 優秀演題賞, Hidari H, Matsunaga S, Sugahara K, Nishii Y et al. , 2024.10.31
10. 第 161 回日本歯科保存学会 松風優秀ポスター賞, 村松敬, 2024.11.21-22
11. 第 83 回日本矯正歯科学会優秀発表賞, 石井武展, 2024.10.31
12. 第 37 回日本顎関節学会 ポスター発表優秀賞, 笠原典夫, 2024.7.14

＜2025 年度＞

1. 第 43 回日本骨代謝学会 学術賞（基礎系）, 溝口利英, 2025.7.25
2. 第 71 回日本宇宙航空環境医学会大会 最優秀論文賞, 黄地健仁, 河野恭佑, 佐藤涼一, 倉島竜哉,山口耕司, 木村麻記, 澁川義幸, 2025.11.20
3. 第 79 回 NPO 法人 日本口腔科学会学術集会 若手優秀ポスター賞, 倉島竜哉, 黄地健仁, 木村麻記, 澁川義幸, 2025.5.15-17
4. 第 79 回 NPO 法人 日本口腔科学会学術集会 若手優秀ポスター賞, 窪山裕也, 木村麻記, 黄地健仁, 倉島竜哉, 澁川義幸, 2025.5.15-17
5. 第 79 回 NPO 法人 日本口腔科学会学術集会 優秀ポスター賞, 木村麻記, 黄地健仁, 倉島竜哉,澁川義幸, 2025.5.15-17
6. 第 79 回日本口腔科学会 Rising Scientist 賞, 和田大岳, 後藤多津子(as the mentor and supervisor), 2025.6.20
7. 第 65 回日本歯科放射線学会優秀論文賞, 和田大岳, 後藤多津子(as the mentor and supervisor), 2025.5.26
8. 第 27 回日本生理学会奨励賞, 黄地健仁, 2026.3.12

参考資料 7

第 1 回外部評価委員会報告書

2023 年 6 月 27 日(火)に外部評価委員会を開催し、下記の①～⑦の項目について 7 名(1 名欠席)の外部評価委員からコメントを得たのでその概略を報告する。また、外部評価委員会の開催後に下記の①～⑥の項目について、5 点満点で点数化による外部評価を行ったので、併せて報告する。

① 本研究プロジェクトの研究目的及び目標について
② 本研究プロジェクトの研究体制について
③ 本研究プロジェクトの独自性について
④ 本研究プロジェクトにおける各ラボの研究計画について
⑤ 本研究プロジェクトで推進する若手研究者育成について
⑥ 本研究プロジェクトにおける研究費助成制度について
⑦ その他

(1)上記項目に関する各委員からのコメントの概略

1. 本研究プロジェクトの研究目的及び目標について

【優れた点】

- 3 年間という時間を考慮されて、現実的なメッセージが発信されている。
- 口腔疾患を高度な専門知識と独自のアプローチをもって、より高い次元で俯瞰することで、歯科領域の次世代の挑戦的課題が漏れなく抽出され、その解明、解決に向けた戦略が見事に計画されている。
- これまでの顎骨疾患プロジェクトを基盤に発展させた研究プロジェクトであり、研究目的および目標が明確に示されている。
- ビジョン、バリュー、ミッションが明確に示されており、初年度の取り組みとしては申し分ない。
- 大変意欲的な計画が立てられていると感じた。「社会実装を目指して」ということが、4 つのリーダーから説明を受けたなかで、それを将来的にはしっかりと目指しているという思いを非常に感じた。
- 東京歯科大学は、これまでの研究体制の基盤が非常にしっかりとしており、それを基盤として、新しくウェルビーイングプロジェクトを立ち上げ、学際的に展開していこうとしているので、非常にわかりやすい。これまでの研究成果をイノベーションの創生と社会実装まで視野に入れながら取り組むところも非常に意欲的だと感じる。そのなかでこのウェルビーイングの社会を実現しようという非常に明確な目的であり、具体的な内容である。
- 口腔の研究でほぼすべての医学生物学的領域をカバーしており、研究もそれぞれに深みがあると理解できた。既に研究基盤がしっかりとできてきている。

【検討が必要な点】

・ 3年後にどうなると目標が達成されたと判断できるのか、といった具体的な指標があるとさらに良い。
・ Society5.0 を意識し、元来、「社会実装」まで視野に入れているので、さらに将来的なステークホルダーとして「行政（産学官民の官）」を意識し、行政と協働して進める視点と方向性があっても良い。
・ 研究対象が広範に及んでおり、オール東京歯科大学の側面があるが、本気で社会実装を目指すなら、もっとテーマを絞った方が良いのかも知れない。
・ すべての医学歯学を含めたところでのエッジを狙っていくという意気込みが伝わってきたので、次からは具体的に現在の最先端の研究手法、あるいは領域が被る耳鼻咽喉科との切磋琢磨、全身の関節炎との協調といったところが楽しみである。
・ 歯は失うと崩壊の道が始まってしまうように感じ、何をしても止められないといった印象を持っているが、その関係も含めて、このプロジェクトを通して何か答えが見えれば良いと思う。

2. 本研究プロジェクトの研究体制について

【優れた点】

・ 運営委員会、推進委員会、外部評価や自己点検・評価委員会等を含む本事業の実施体制は見事である。また、顎骨疾患プロジェクトの研究体制を継続した4つのラボを維持しつつ交互作用を意図した研究体制は優れており、創出される成果が期待される。
・ 基礎・臨床の融合研究にも緻密な連携の布陣が用意されており、サイエンスしての高みと、医療への応用、導出が相加・相乗的に推進されることが大いに期待される。
・ 横の繋がりが強く、基礎−臨床の共同研究体制が築かれていると感じた。研究プロジェクトも DX（Digital Transformation）の導入や社会実装を目指す研究内容であり、独自性を感じた。
・ 非常に臨床や様々な分野の先生が職位も関係なく、しっかりとした体制になっていると思う。
・ 横のつながりの連携がすごく取れていると感じた。ますます縦横の連携を取りながら研究を進めていければ素晴らしいと思う。

【検討が必要な点】

・ これからも少しは流動性をもたせて、必要に応じた改善があるともっと良い。

3. 本研究プロジェクトの独自性について

【優れた点】

・ 「ウェルビーイング」が新しい独自性（ブランド価値）になることが期待される。概念としての「ウェルビーイング」という方向性は理解できる。

【検討が必要な点】

・ 研究内容（本プロジェクト）が、ウェルビーイングに直結するかは、本研究の成果次第である。3年後に実現されて、改めて独自性となることが期待される。

4. 本研究プロジェクトにおける各ラボの研究計画について

【優れた点】

- それぞれの研究者の特性が活かされる研究計画になっている。「各ライフステージ」「ウェルビーイング」というビジョンに多くのラボの方向性が向かいつつあると感じる。これから本プロジェクトを実施していく中で、プロジェクト構成員の一人ひとりの皆さまが細かい粒度でそれらを意識・共有して、一本の束ねられた「大河のような流れ」になることを願う。
- 生体防御ラボは、いくつかユニットが形成されており、免疫代謝ユニットを中心としてそれぞれのつながりのなかで行われるということが非常にユニークで良いと感じた。
- 生体防御ラボに関しては、口は自分でケアでき、しなければならないところであるが、未だに研究課題が残されている部分が多い。生体防御のなかでも口腔がリーディングプロジェクトの一つになるのではないかと非常に興味を持った。
- 生体防御ラボに関して、咀嚼と免疫を内分泌と絡めて研究を展開するということは、新しいアプローチの仕方だと思われる。また、生体防御・免疫反応を中心に硬組織や細菌ユニットというところと研究を発展させるという概念については先見性のあるよい研究だと感じた。
- 歯の喪失ということについては、非常に様々な健康と結びついているということは確かなことであり、常態−病態機能解析ラボでは、そういったことをしっかりとサイエンスとして研究するということは非常に良い内容だと思う。さらに、社会実装を目指しているということに関して、具体的なものがいくつかあり、実装が単に空想ではなく、実体があるのだと感じた。
- 常態−病態機能解析ラボでは、プロジェクトが歯の保存から始めて、失われ、再生し、無くなり、そのあとの疼痛という流れまでトータルに研究プランニングがされているので、素晴らしいと思う。しっかりと知財も取り、今後の臨床展開も見据えてやられているということは素晴らしい。
- 生体医工学ラボでは、基礎と臨床を一緒に行うイノベーションということが、非常にわかりやすく伝わってきた。
- 組織再生ラボで展開する、摂食、咀嚼、嚥下は、一般の歯科医院においてもホットな話題のテーマでもある。私を通して同窓会の OB 等へアピールするときには、このテーマは大変アピールしやすいと思う。

【検討が必要な点】

- 海外留学中の研究者を国際協力研究分担者として加えるだけでなく、協定校や生体医工学分野の研究概要で紹介されたような各分野の共同研究相手を加え、国際共著論文数の増加も 1 つの目標に入れられると良い。
- 生体防御ラボは、細菌ユニットについて研究計画書に記載されていたが、詳細な話が無かったように思われる。
- 生体医工学ラボでは、AI (Artificial Intelligence)の次の AR (Augmented Reality)とか VR (Virtual Reality)とか、MR (Mixed Reality)とかそういったところを発見できれば、こういう研究をやることによって、また、教育に新たな側面を与えることができるのではないかと感じた。
- 常態−病態機能解析ラボで、既存の象牙芽細胞を活性化させることと、無くなって再生させるためのストラテジーをどのようにするのかを詳しく伺いたい。

・ 組織再生ラボでは、マウスとヒトでは顎運動の違いがあるので、マウスを用いた咀嚼の研究がどのくらいヒトに応用できるのかということが気になった。

5. 本研究プロジェクトで推進する若手研究者育成について

【優れた点】

・ さまざまな育成支援が十分な予算をもって仕掛けられている。歯科単科の私立大学であることを考えると、予算的には他の歯科単科の私立大学の追随を許さない恵まれた状況と感じる。また、人材育成に向けた投資戦略として、大学組織の見事な判断だと言わざるを得ない。
・ 若手研究者支援、研究費助成制度も充実していると感じた。次回以降の外部評価の際に、投稿雑誌の IF の上昇、科研費の採択率の上昇を成果として見せて頂けることを期待する。

【検討が必要な点】

・ 若手研究者を支援する研究費が充実しているが、若手育成には、それを実現するための人的リソースが不可欠である。研究費以外の若手を育成するシステムを明示されていなかった。国立大学では、研究者の研究活動の活性化や研究開発マネージメントの強化を支える業務に従事するURAが一般的になっているが、貴校では個々の研究者の研究そのものを支援する仕組みが十分であるのか理解できなかった。大学院生の教育（研究指導や論文執筆サポート）に関して、忙しい教育・研究者（Faculty）をサポートする体制が必要だと思うが、今後、若手指導体制についても紹介して欲しい。
・ 若手研究者育成のための研究を楽しめる時間の確保には組織的なご支援をお願いする一方で、特に若手サイエンスアカデミー（TDC Journal Club, TDC 1st Author）は単なる継続にならないように、あえて危機感を持たせて研究活動を活性化させるカンフル剤を打っていただくことを願う。

6. 本研究プロジェクトにおける研究費助成制度について

【優れた点】

・ 学内の研究費助成として申し分ないと思われる。
・ 次世代の研究者養成において、Award として多面的に学生・研究者を鼓舞するシステムが構築されており、より多くの若手研究者のプロジェクト興味と参入を促進させるものであろう。
・ 様々なプログラムがあり、外部から講師を呼ぶなどの予算も十分に組まれており、非常に頼もしいと感じる。
・ 大学院生、そして、アーリステージの研究者ということで、それぞれ違うステージにある方が、賞のようなかたちで認められるというのは、履歴書にも書けるので、本人にとっても勲章になる。

【検討が必要な点】

・ URA や知財部の創設は、小規模の私立大学ではハードルが高く、悲願でもある。貴学において是非とも道を切り拓いて欲しいと期待する。

7. その他

【優れた点】

・　本プロジェクトが滑走路となって、更に多方面への飛躍に繋がる成果が確信できる。

【検討が必要な点】

・　今後、成果発表の機会では、専門家に対してだけでなく、一般の歯科医にもわかるように発表していただけると、社会実装の目標に近づく一助となると思われる。
・　若手研究者の研究時間を確保するための取り組みを大学・口腔科学研究センターレベルで実施していただきたい。時には時間の無駄になるような雑談をエンカレッジしてサポートすることを上層部でも考えていただけると助かるのではないかと思う。
・　社会実装に行くためには、大学から社会へ行くための門戸になるような事務的なサポートをしてくれる方、すなわち URA や産学連携室などを設置する必要がある。そのような方々がいればいるほど、こういった事業は社会実装に向けて動きだすことができるのではないかと思う。また、こういったところがあれば、より現場の研究者が研究に専念できる。

（2）総括

本プロジェクトは、顎骨疾患プロジェクトによって形成された横の連携に基づき発展したプロジェクトであることが非常にわかりやすく伝わった。学内の各部局での連携は本来であれば壁となる要因が多いが、前プロジェクトにより、基礎と臨床の教室の垣根が低くなり、学際的に融合してきた成果が現れている。立ち上げられている 4 つのラボもそれぞれの独自性・特徴を保ちながら具体的で魅力的な研究方針が提言されている。このような横の連携のみならず、若手の研究支援として多くの助成を準備していることは、本プロジェクトが時間的な縦の連携も重視している姿勢の表れだと感じた。前プロジェクトから次のステップとして求められているのは社会的実装性がキーワードになる。今後、多くの研究シーズが形成され、それを広く社会に還元させていくことが期待されている。そのためには、今後、得られた知財を活用した産学連携、研究助成金の獲得は必須となる。そのためにも、より実効性をもって組織として邁進するためには、研究支援室や産学連携機構などを充実することも重要な要素であると思う。

（3）外部評価委員会開催後の上記項目①～⑥における数値による評価

全般的に高評価であり、①、②、⑤、⑥は 1 名が 4 点で他が 5 点（平均 4.9 点）、③は 2 名が 4 点で他が 5 点（平均 4.7 点）、④は 3 名が 4 点で他が 5 点（平均 4.6 点）であった。④については、国際共同研究を推進する取り組みが、各ラボの研究計画にやや不足していたためなどの理由が考えられ、今後改善する必要があるとの意見があった。

外部評価委員（五十音、敬称略）

上岡　寛（岡山大学大学院医歯薬学総合研究科 歯科矯正学分野 教授）（委員長）
淺原 弘嗣（東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科 医歯学系専攻 先端医療開発学講座システム発生・再生医学 教授）
大島 勇人（新潟大学大学院医歯学総合研究科 口腔生命科学専攻 顎顔面再建学 教授）
自見英治郎（九州大学歯学研究院附属 OBT 研究センター 教授）
高野 直樹（慶應義塾大学 理工学部 機械工学科 教授）
高橋 潤一（東京歯科大学同窓会 総務担当理事、東京歯科大学水道橋病院保存科 臨床准教授）
田中 芳彦（福岡歯科大学 口腔歯学部 感染生物学分野 教授）
山崎 和久（理化学研究所生命医科学研究センター 粘膜システム研究チーム 客員主管研究員）

参考資料８

第２回外部評価委員会報告書

2025 年 5 月 14 日(水)に外部評価委員会を開催し、7 名(1 名欠席)の外部評価委員から外部評価委員会開催後にコメントを得たのでその概略を報告する。また、下記の①～⑥の項目について、5 点満点で点数化による外部評価を行ったので、併せて報告する。

① 本研究プロジェクトの目的、研究体制および予算の妥当性について
② 本研究プロジェクトにおける各ラボの研究体制および成果について
③ 本研究プロジェクトの現在までの目標達成度について
④ 本研究プロジェクトにおける研究費助成制度の研究力向上への有効性について
⑤ 本研究プロジェクトで推進する若手研究者育成について
⑥ 本研究プロジェクトの推進による大学の研究力向上への貢献について
⑦ その他

（1）上記項目に関する各委員からのコメントの概略

① 本研究プロジェクトの目的、研究体制および予算の妥当性について

【優れた点】

・目的が明確で学際的な体制と安定した予算配分が確立されている。
・研究への意欲を成果にするべく、素晴らしい体制が敷かれ、成果も上げられていると思いました。
・以前も感じたが、学内での臨床、基礎の垣根をこえて一つのテーマに向かって進んでいくことは非常に大切であり、そのための体制は十分に練られていると改めて感じた。
・本研究プロジェクト開始から2年間において、目的と研究体制の構築・維持のために人的支援と予算確保が確実に実践されており、大学と執行部が研究力向上に驚異的な貢献をしている。研究費助成制度、若手研究者育成や産学連携支援部の創設など、プロジェクトにかかる研究体制について極めて高く評価できる。研究成果から、それぞれの研究者が努力して研究を推進していると考えられる。
・「ウェルビーイング」を意識したさまざまなシンポジウムなどが開催されており、プロジェクトの方向性を実感することができます。研究体制や予算などの仕組みは理想的な状況です。

【検討が必要な点】

・一方、臨床研究、動物実験、細胞実験、遺伝子解析などを一貫してマネージメントした研究が生まれる土壌は整っているので、研究体制を活かして複数の内容が有機的に連携するとさらにインパクトのある研究成果を創出する伸び代があるかもしれない。
・本プロジェクトの目的が、研究成果から新規歯科医療の開発に繋がるイノベーションを見出すこととなっており、プロジェクト期間中に達成することが可能な具体的な目的設定があった方が、プロジェクトの

達成度を具体的に示せると思われた。

② 本研究プロジェクトにおける各ラボの研究体制および成果について

【優れた点】

・各ラボが専門性を活かし多様なテーマで成果を挙げている。

・論文業績など量的に十分な成果が出ていると感じました。

【検討が必要な点】

・質に関する話題がありましたが、4つの各ラボは基礎または臨床に所属する研究者で構成されているので、基礎研究と臨床研究をさらに有機的に連携することで、相乗効果のある研究が生まれて社会実装の現実性が高まり、よりインパクトのある成果が創出される余地が残されているように思いました。

・研究業績評価に IF 平均値等を用いているが、論文引用数、h-index、構成員の筆頭著者や責任著者の論文数など、本プロジェクトの効果を判定できる客観的評価基準があると良いと思われた。

・分野横断的な研究プロジェクトの実効性について、客観的データがあると良いと思われた。

・IF 評価から被引用数、国際共著論文数、社会実装・特許・技術移転などの評価指標を加える。

・一部のラボでは連携が活発に行われているが、他のラボでは連携が形式的にとどまり、実質的な共同研究や新たな融合的テーマの創出につながっていないケースがある。成功事例の共有や、連携の質を評価する指標の導入を検討する。

・同窓、あるいは一般の臨床医に対して、その成果をなるべく早く有意義な形で下ろしていただきたいです。リカレントセミナーは、その代表ですが、産学協同のプロジェクトが進めば、製品として我々1歯科医師にも恩恵が得られるのではないでしょうか。是非、お願いいたします。

・また、リカレントセミナーの様に大きな会ではない小さな会での発表の機会が増えることも良いかと思います。たとえば同窓会支部の学術講演の様なところでの基礎的研究の発表の機会が増えると、双方のメリットにもなるかと思います。

③ 本研究プロジェクトの現在までの目標達成度について

【優れた点】

・期間が限られている中での成果としては、十分なものであると考えられるが、最後の総評で述べたように今は大きな成果を生み出す前の平衡状態であるように感じられた。そのような次のステップを目指すといった願いをこめて、あえて成果については 4 を付けた。

・短期間において、プロジェクト遂行による研究力の向上、若手の鼓舞が見受けられ、今後の発展も期待できた。研究環境は高いレベルで整っており、地理的な利点も生かして、とても魅力的な研究室を提供できている。特に、溝口博士を筆頭に、各研究領域のリーダーが、それぞれのサイエンスの面で優れた成果をあげており、若手の育成においても十分な手腕を発揮できている。

・それぞれの研究者が真摯に目標に向かって研究を推進していると感じます。目標達成度を%表示で数値化したのは分かりやすかったと思います。

【検討が必要な点】

・今後の課題としては、これをたゆまなく継続し、さらに次のステップに進めることが大切かと思われる。具体的には、PI や若手研究者の研究時間が可能な範囲で確保されることで、AMED PRIME や JST 創発、さきがけなどの医歯学研究者の登竜門となるようなファンドにも積極的に応募し、これを獲得することも十分可能であると思われる。

・改善する点が残されているとすると、KPI（重要業績評価指数）とは申しませんが、数値化できるマイルストーンのようなものを目標として事前に設定しておくとさらに客観的で分かりやすいかもしれません。

・いかに高い目標を持って、難題、そして、世界を見渡しても他者（他大学）が取り組まない課題や手法論の開拓に挑戦するか、が次のステージではないか。そうすると、研究は、ある意味で失敗の連続となるかもしれない。よって、若手あるいは准教授以下の先生方には明確なシナリオで確実に成果を出していただきつつ、教授の先生方には失敗を恐れずに冒頭のチャレンジングなテーマに取り組んでいただきつつ、科研費基盤 B 等へも果敢に応募していただきたい。

いろいろな個別要素技術を組合せて行う研究において、イノベーションは、はるか雲の上と思わず、自身が得意なツール（武器）の使い方を少し変えるといった発想の転換を加えて、そういう個別要素技術を組み合わせれば、これまで誰も提案しなかった新しい手法論が生まれる可能性は十分にあって、つまり、イノベーションの種は意外と身近にあるに違いないと私は信じています。

④ 本研究プロジェクトにおける研究費助成制度の研究力向上への有効性について

【優れた点】

・学内の研究費助成制度として極めて恵まれた状況です。

【検討が必要な点】

・報告書 p.8 ②イノベーション促進研究費助成の「一部の採択課題では異分野連携の促進が見られたが、期待したほどの効果が見られない課題も散見された」点については、大学として今後進む方向を示すことも関連すると思われるので、吟味いただけると幸いです。

⑤ 本研究プロジェクトで推進する若手研究者育成について

【優れた点】

・次世代研究者育成については大きな成果をあげており、今後の展開が期待される。

・若手サイエンスアカデミー等を通じて育成が活発に行われている。

・若手研究者を育成する多くの仕掛けが作られていて素晴らしいと感じます。今後の研究者の育成成果が楽しみです。

【検討が必要な点】

・若手主体の運営体制構築と更なる国際交流強化が望まれる。

⑥ 本研究プロジェクトの推進による大学の研究力向上への貢献について

【優れた点】

・多数の論文発表や外部資金獲得など目標達成が進んでいる。

・科研費配分額で全国首位を維持するなど大学の研究力向上に大きく貢献。

・前回提案した産学連携組織作りに関しても、兼任ではあるが URA などの外部との窓口を設立、外部顧問の採用など、迅速に変わられていることに今後の発展性を確信した。今後も新しいテーマで、学内での連携を構築して、対外的に広く研究を発展していけるような体制を維持してほしい。そして、いま醸成されている次のステップのための平衡状態を突き抜けて頂くことに期待したい。

・経営陣から各研究者まで「大学全体が同じ方向を向いている」ということが本当に大切だと感じました。簡単に実現できることではなく、貴学の一強時代は当分の間は揺るぎないものと期待しています。

・この2年間で産学連携支援部を創設されて、保田尚孝先生をアドバイザーとしてリクルートされたことに感銘を受けました。時間がかかり労力の要する課題と思いますが、これから実装していくことを祈念しています。

【検討が必要な点】

・科研費種目別採択件数について、「若手」「基盤 C」で大きな成果をあげている一方で、「基盤 B」では変化がなかった。より高みを目指す研究者の育成が今後の課題であると思われる。

・URA の整備についても着手しているが、更なる充実した研究支援体制が期待される。

・論文数・IF が横ばいで質的向上が求められる。

・基盤 C から B 以上への採択増が課題。

⑦ その他

特に無し

（2）総括

前回の外部評価委員会では、本研究プロジェクトによる社会的実装性の実現がキーワードとして挙げられていた。今回の同委員会では、2 年間という短い期間にもかかわらず、産学連携支援部が創設され、保田尚孝先生(オリエンタル酵母工業)をアドバイザーとして採用されていたことに非常に感銘を受けた。そして、顎骨疾患プロジェクトからバトンを受けたウェルビーイングプロジェクトにより大学が研究を本気で推進していこうといった姿勢を強く感じた。これら結果を振り返り、大学からの潤沢な研究費助成が有効に使われていることを感じた。

以前にも述べたが、立ち上げられている 4 つのラボもそれぞれの独自性・特徴を保ちながら具体的で魅力的な研究方針が提言され実行されていた。そして、若手の研究支援として多くの助成を行ったことは、本プロジェクトが時間的な縦の繋がりも重視した結果だと改めて感じた。今後、得られた多くの研究シーズからさらに研究を絞っていき、4 つのラボの相互関与を強め大きなテーマを発掘していかれることに期待したい。そして、基盤研究 B 以上の大型研究費が大学としてとれるように積極的にチャレンジしてほし

い。そして、いま醸成されている“次のステップのための平衡状態”を突き抜けて頂くことに期待したい。

（3）外部評価委員会開催後の上記項目①～⑥における数値による評価

評価は、以下の 6 項目についてそれぞれ 5 段階で行われ、具体的なコメントは文章にて提示された。総合平均点は 4.7 であったが、項目別では②「各ラボの研究体制および成果」が最も低く、平均点は 4.4 であった。これに関しては、以下のような改善案が示された。(1)基礎と臨床の連携を強化し、研究の実用性や社会実装性を向上させること、(2)被引用数や h-index など、IF 以外の多面的な評価指標の導入、(3)分野横断型研究やラボ間連携の質を客観的に評価・可視化する仕組みの整備、(4)成果の早期還元に向けた発表機会の拡充。これらは、研究体制および運用面における改善の必要性を示す意見として提示された。

評価項目	評価委員A	評価委員B	評価委員C	評価委員D	評価委員E	評価委員F	評価委員G	平均点
① 目的、研究体制および予算の妥当性について	5	5	4	5	5	5	5	4.9
② 各ラボの研究体制および成果について	4	5	4	4	5	5	4	4.4
③ 現在までの目標達成度について	5	5	4	4	5	5	4	4.6
④ 研究費助成制度の研究力向上への有効性について	5	5	4	4	5	5	5	4.7
⑤ 若手研究者育成について	5	5	5	5	5	5	5	5.0
⑥ 大学の研究力向上への貢献について	5	5	4	5	5	5	5	4.9
平均点	4.8	5.0	4.2	4.5	5.0	5.0	4.7	4.7

外部評価委員（五十音、敬称略）

上岡　寛（岡山大学大学院医歯薬学総合研究科 歯科矯正学分野 教授）（委員長）
淺原 弘嗣（東京科学大学大学院医歯学総合研究科 医歯学系専攻 先端医療開発学講座システム発生・再生医学 教授）
大島 勇人（新潟大学大学院医歯学総合研究科 口腔生命科学専攻 顎顔面再建学 教授）
自見英治郎（九州大学歯学研究院附属 OBT 研究センター 教授）
高野 直樹（慶應義塾大学 理工学部 機械工学科 教授）
高橋 潤一（東京歯科大学同窓会 総務担当理事、東京歯科大学水道橋病院保存科 臨床准教授）
田中 芳彦（福岡歯科大学 口腔歯学部 感染生物学分野 教授）
山崎 和久（理化学研究所生命医科学研究センター 粘膜システム研究チーム 客員主管研究員）

参考資料 9

研 究 業 績

【原著論文：英文】

＜2023 年度＞

1. Aida N, Koi K, Amaya-Pajares SP, Furusawa M. Watanabe H.: Bond strength of Two Resin Cements with Leucite-reinforced Ceramic Using Different Bonding Agents.: ***J Contemp Dent Pract*** 24(11):859-863, 2023. doi: 10.5005/jp-journals-10024-3591.
2. Aida N, Saito A, Azuma T.: Current Status of Next-Generation Sequencing in Bone Genetic Diseases.: ***Int J Mol Sci*** 24(18):13802, 2023. doi: 10.3390/ijms241813802.
3. Amemiya H, Yamamoto M, Higa K, Watanabe G, Taniguchi S, Kitamura K, Jeong J, Yanagisawa N, Fukuda K, Abe S: Effects of myostatin on nuclear morphology at the myotendinous junction.: ***Int J Mol Sci*** 24(7):6634, 2023. doi: 10.3390/ijms24076634
4. Arisa Fujii, Taiki Suzuki, Katsuhiko Sakai, Nobuyuki Matsuura, Keisuke Sugahara, Akira Katakura, Takeshi Nomura: Impact of skeletal muscle mass on postoperative complications in oral cancer surgery: Maxillofacial Plastic and Reconstructive Surgery https://doi.org/10.1186/s40902-024-00417-w
5. Baba Y, Kamata A, Kouno M, Takahashi S.: Autoimmune hemolytic anemia associated with herpes zoster.: ***J Dermatol***. 50(3):e94-e95, 2023. doi: 10.1111/1346-8138.16594.
6. Cho KH, Sato N, Yamamoto M, Watanabe G, Taniguchi S, Murakami G, Abe S: Histology of the optic nerve head with special reference to the layer-specific distribution of composite fibers at and near the lamina cribrosa.: ***Ann Anat*** 247:152051, 2023. doi: 10.1016/j.aanat.2023.152051.
7. Choi D, Ishii T, Ishikawa M, Ootake T, Kamei H, Nagai K, Sueishi K.: Vertical Vibration of Mouse Osteoblasts Promotes Cellular Differentiation and Cell Cycle Progression and Induces Aging In Vitro.: ***Biomedicines*** 11(2):2023. doi: 10.3390/biomedicines11020444
8. Ezawa N, Akashi Y, Nakajima K, Kokubun K, Furusawa M, Matsuzaka K: The Effects of Tricalcium-Silicate-Nanoparticle-Containing Cement: In Vitro and In Vivo Studies.: ***Materials (Basel)*** 16(12). doi: 10.3390/ma16124451.
9. Hanada S, Kim JH, Taniguchi S, Yamamoto M, Murakami G, Rodríguez-Vázquez JF, Abe S: Changing the topographical anatomy among the maxilla, palatine bone, and greater palatine nerve: a histological study using human fetuses. : ***Surg Radiol Anat*** 45:159-168, 2023. doi: 10.1007/s00276-023-03081-3.
10. Hanzawa S, Sugiura M, Nakae S, Masuo M, Morita H, Matsumoto K, Takeda K, Okumura K, Nakamura M, Ohno T, Miyazaki Y: The Prostaglandin D2 Receptor CRTH2 Contributes to Airway Hyperresponsiveness during Airway Inflammation Induced by Sensitization without an Adjuvant in Mice.: ***Int Arch Allergy Immunol***. 10:1-9, 2024. doi: 10.1159/000537840.
11. Hayakawa M, Baba Y, Kouno M: Allergic Contact Stomatitis Caused by (Meth)acrylates in a Gingival Protection Product Used During Teeth Whitening.: ***Dermatitis***. 35(1):96-98, 2024 doi: 10.1089/derm.2023.0180.
12. Hayakawa M, Baba Y, Kouno M, Ishii K: Dermoscopy in the diagnosis and treatment of childhood granulomatous periorificial dermatitis.: ***J Dermatol***. 50(10):e349-e351, 2023. doi: 10.1111/1346-8138.16858
13. Hayashi Y, Tachiki C, Morikawa T, Aihara Y, Matsunaga S, Sugahara K, Watanabe A, Kawamata T, Nishii Y.: Three-Dimensional Analysis of the Cranial Base Structure in Patients with Facial Asymmetry: ***Diagnostics (Basel)***. 14(1):24, 2023. doi: 10.3390/diagnostics14010024.
14. Hideo Yonezawa, Eitoyo Kokubu,Yuichiro Kikuchi, Kazuyuki Ishihara: Complete genome sequence of *Fusobacterium vincentii* strain TDC100 isolated from an apical periodontitis lesion: ***Microbiol Resour Announc*** 13(3) e0119723, 2024. doi: 10.1128/mra.01197-23
15. Hiraga C.; Saito D.; Yoshida S.; Kawano T.; Yamamoto M.; Nomura T: Efficient removal technique of foreign body in the mandible with optimization of 3D simulation: ***Oral Sci. int***

2024;21(1):143-149 doi.org/10.1002/osi2.1189
16. Hoshino T, Onodera S, Kimura M, Suematsu M, Ichinohe T, Azuma T: FGF4 and FGF9 have synergistic effects on odontoblast differentiation: ***Med Mol Morphol***. 56(3):159-176, 2023. doi: 10.1007/s00795-023-00351-2.
17. Ichikawa E, Tachiki C, Nojima K, Matsunaga S, Sugahara K, Watanabe A, Kasahara N, Nishii Y.: Characteristics of Mandibular Arch Forms in Patients with Skeletal Mandibular Prognathism: ***Diagnostics (Basel)***. 13(20):3237, 2023. doi: 10.3390/diagnostics13203237.
18. Ishida S, Ohta M, Kobayashi T, Yamamoto Y, Hori A, Ryu M, Ueda T.: Influence of Chewing Gummy Jelly Containing Aroma Compound on Psychological Stress and Autonomic Nervous System Activity; A Randomized Crossover Trial: ***Bull Tokyo Dent Coll*** 64(3): 97-104, 2023. doi: 10.2209/tdcpublication.2022-0039
19. Ishii T, Torruella MR, Kim JY, Kanzaki H, Albassam A, Wisitrasameewong W, Shindo S, Pierrelus R, Heidari A, Kandalam U, Nakamura S, Movila A, Minond D, Kawai T: Soluble Sema4D cleaved from osteoclast precursors by TACE suppresses osteoblastogenesis.: ***J Cell Mol Med*** 27(12):1750-1756, 2023. doi: 10.1111/jcmm.17416
20. Ishikawa N, Nakamura Y, Miura Y, Kuroda H, Kitamura K, Hashimoto M: Influence of the Amount of Saliva deposition and Time Elapsed after deposition on Bite Mark Analysis: ***Forensic Sci Med Pathol***, 2023. doi: 10.1007/s12024-023-00742-y.
21. Kamata M, Sakamoto Y, Ogata H, Sakamoto T, Ishii T, Kishi K.: Influence of Lip Revision Surgery on Facial Growth in Patients With A Cleft Lip.: ***J Craniofac Surg*** 34(4):1203-1206, 2023. doi: 10.1097/SCS.0000000000009191
22. Kaneko R, Koshika K, Shionoya M, Shimizu K, Sendai Y, Matsuura N, Ichinohe T: Retrospective study on the incidence of postoperative nausea and vomiting and hypotension during orthognathic surgery using propofol or remimazolam: ***Anesth Prog*** 71(1): 2024. doi: 10.2344/23-00002
23. Kang Y, Koshika K, Takashima K, Nakakuki A, Hasunuma K, Hayashi M, Miyamoto K, Yamamoto M, Yoshida K, Ichinohe T: Combination of Dexamethasone and Ondansetron Decreases Postoperative Nausea and Vomiting in Orthognathic Surgery Compared with Dexamethasone Alone: A Prospective Randomized Controlled Trial: ***Anesth Prog***. 2024. in press
24. Kasahara M, Someya T, Kitamura K, Watanabe G, Matsunaga S, Abe S, Hattori M: Analysis of Bone Mineral Density and Bone Quality of Cortical Bone in the Human Hyoid Body and Histological Observation of the Entheses: ***J Funct Biomater***.15(3):56-56. doi: 10.3390/jfb15030056
25. Kawano Y, Okamura H, Shinchi H, Ueda K. Nomura T, Shiba K: Differentiation of large extracellular vesicles in oral fluid: Combined protocol of small force centrifugation and sedimentation pattern analysis: ***J Extracell Biol***. 2024 Feb 14;3(2):e143. doi: 10.1002/jex2.143.
26. Kim JH, Kitamura K, Honkura Y, Murakami G, Abe SI.: Striated muscle fiber crossings of the head and neck: a histological study using near-term human fetuses and elderly cadavers: ***Anat Cell Biol***. 2024. doi: 10.5115/acb.24.094. Epub
27. Kim SB, Bae H, Lee KW, Hu KS, Abe S, Kim HJ: Anatomical consideration of ultrasonography-guided intraoral injection for temporal tendinitis.: ***Clin Anat***, 2023. doi:10.1002/ca.24130
28. Kitamura K, Watanabe T, Yamamoto M, Ishikawa N, Kasahara N, Abe S, Yamamoto H: A newly discovered tendon between the genioglossus muscle and epiglottic cartilage identified by histological observation of the pre-epiglottic space.: ***Dysphagia*** 38:315-329, 2023. doi: 10.1007/s00455-022-10469-7.
29. Kokubun K, Chujo T, Yamamoto K, Akashi Y, Nakajima N, Takano M, Katakura A, Matsuzaka K: Intraoral Minor Salivary Gland Tumors: A Retrospective, Clinicopathologic, Single-Center Study of 432 Cases in Japan and a Comparison with Epidemiological Data: ***Head Neck Pathol*** 17(3): 739-750. doi: 10.1007/s12105-023-01551-z.
30. Kokubun K, Nakajima N, Akashi Y, Yamamoto K, Katakura A, Matsuzaka K: Clinicopathological evaluation of oral leukoplakia: a single-center study of 676 cases in Japan: ***Oral Surg Oral Med Oral Pathol Oral Radiol*** 137(5): 529-536. doi: 10.1016/j.oooo.2024.02.02.
31. Kuroda S, Yotsuya M, Sato T, Hisanaga R, Nomoto S, Sekine H: The effect of scanning pathways on trueness and precision in full-arch optical impression: ***BMC oral health*** 23:390, 2023.

doi.org/10.1186/s12903-023-03101-z
32. Lekroengsin B, Tachiki C, Takaki T, Nishii Y: Relationship between Changes in Condylar Morphology and Masticatory Muscle Volume after Skeletal Class II Surgery:*J Clin Med*. 12(14):4875, 2023. doi: 10.3390/jcm12144875.
33. Li XT, Bette M,Rusche J, Roth K, Kasahara N, Stuck BA, Bakowsky U, Wartenberg M, Sauer H, Geisthoff UW, Mandic R: Generation of a Syngeneic Heterozygous ACVRL1(wt/mut) Knockout iPS Cell Line for the In Vitro Study of HHT2-Associated Angiogenesis.: ***Cells*** 12(12):1600. doi: 10.3390/cells12121600
34. Mariko Ohira, Mai Ohkubo, Keina Miura, Shuichiro Yamashita, Tomoko Morimitsu, Yuko Goto: Diagnostic Accuracy of Mann Assessment of Swallowing Ability for Predicting Dysphagia in Patients with Psychiatric Disorders: ***Bull Tokyo Dent Coll***. 2023 Dec 28;64(3):79-87. doi: 10.2209
35. Miura A, Nomoto S, Sato T, Kuroda S, Yotyuya M, Sekine H: Three-dimensional morphological accuracy of optical impressions of fixed dental prostheses: Effects of the distance between abutment teeth and the presence of an intermediate abutment tooth: ***Journal of Digital Dentistry*** 1, 2023. doi.org/10.57516/jdigitaldent.1.1_16
36. Mizuno S, Matsunaga S, Kasahara N, Kasahara M, Shimoo Y, Abe S, Nakano T, Ishimoto T, Hikita A, Nojima K, Nishii Y.: Effect of the Correction of Bilateral Differences in Masseter Muscle Functional Pressure on the Mandible of Growing Rats: ***J Funct Biomater***. 14(8):435, 2023. doi: 10.3390/jfb14080435.
37. Morii M, Ohka S, Nishizawa D, Hasegawa J, Nakayama K, Ebata Y, Soeda M, Fukuda K, Yoshida K, Koshika K, Ichinohe T, Ikeda K: The rs216009 single-nucleotide polymorphism of the CACNA1C gene is associated with phantom tooth pain: ***Mol Pain*** 19: PMC10437699, 2023. doi: 10.1177/17448069231193383.
38. Nakamura T, Honda S, Ito S, Mizoguchi T, Yamamoto T, Kasahara M, Kabe Y, Matsuo K, Suematsu M: Generation of bicistronic Dmp1-Cre knock-in mice using a self-cleaving 2A peptide. ***J Bone Miner Metab*** 41:470-480, 2023. doi: 10.1007/s00774-023-01425-y
39. Nishijima T, Okuyama K, Shibata S, Kimura H, Shinozaki M, Ouchi T, Mabuchi Y, Ohno T, Nakayama J, Hayatsu M, Uchiyama K, Shindo T, Niiyama E, Toita S, Kawada J, Iwamoto T, Nakamura M, Okano H, Nagoshi N.: Novel artificial nerve transplantation of human iPSC-derived neurite bundles enhanced nerve regeneration after peripheral nerve injury.: ***Inflamm Regen***. 44(1):6, 2024. doi: 10.1186/s41232-024-00319-4.
40. Nishimura T, Matsunaga S, Kasahara M, Kasahara N, Nakano T, Ishimoto T, Yamamoto H, Abe S, Nishii Y: The effects of orthodontic anchor screw inserted into the femur of growth-phase or mature rats —Osteoid formation, bone mineral density, collagen fiber bundles, biological apatite crystal orientation—: ***Dent Mater J*** 42(4):542-551. doi: 10.4012/dmj.2022-209
41. Nishine M, Kobayashi H, Ito K, Wadachi J, Tasaka A, Yamashita S.: Comparison between interocclusal registration using silicone bite registration material and intraoral scanner on clenching strength.: ***Int J Prosthodont***. 2023 Jun 5. doi: 10.11607/ijp.8445.
42. Nomura S, Matsunaga S, Yamada S, Kasahara N, Abe S, Furusawa S: Age-Related Differences in Side Walls of Maxillary First Molar Pulp Cavities in Japanese Using Micro-Computed Tomography.: ***J Hard Tissue Biol*** 32(3):191-6, 2023. doi: 10.2485/jhtb.32.191
43. Ogura H, Nakamura T, Ishii T, Saito A, Onodera S, Yamaguchi A, Nishii Y, Azuma T.: Mechanical stress-induced FGF-2 promotes proliferation and consequently induces osteoblast differentiation in mesenchymal stem cells: ***Biochem Biophys Res Commun***. 684:149145, 2023. doi: 10.1016/j.bbrc.2023.149145. Epub 2023 Oct 24.
44. Ohta M, Ryu M, Ogami K, Ueda T: Oral Function for Diagnosing Oral Hypofunction in Healthy Young Adults: A Comparison with the Literature: ***Bull Tokyo Dent Coll*** 64(3): 97-104, 2023. doi: 10.2209/tdcpublication.2022-0039
45. Oka H, Ito S, Kawakami M, Sasaki H, Abe S, Matsunaga S, Morita S, Noguchi T, Kasahara N, Tokuyama A, Kasahara M, Katakura A, Yajima Y, Mizoguchi T: Subset of the periodontal ligament expressed leptin receptor contributes to part of hard tissue-forming cells.: ***Sci Rep*** 13(1):3442, 2023. doi: 10.1038/s41598-023-30446-w.
46. Okawa K, Matsunaga S, Kasahara N, Kasahara M, Tachiki C, Nakano T, Abe S, Nishii Y. Alveolar

Bone Microstructure Surrounding Orthodontic Anchor Screws with Plasma Surface Treatment in Rats: *J Funct Biomater*. 14(7):356, 2023. doi: 10.3390/jfb14070356.
47. Ono S, Tsuji N, Sakamoto T, Oguchi S, Nakamura T, Hoshi K, Hikita A: Inhibition of cysteine protease disturbs the topological relationship between bone resorption and formation in vitro.: *J Bone Miner Metab* 42(2):166, 2023. doi: 10.1007/s00774-023-01489-w
48. Ono S.; Tachiki C, Morikawa T, Aihara Y, Matsunaga S, Sugahara K, Watanabe A, Kawamata T, Nishii Y. Morphological Evaluation of Cranium Facial Asymmetry in Class III Malocclusion Patients: *Applied Sciences (Switzerland)*. 13(11):6533, 2023.
49. Rues S, Tasaka A, Fleckenstein I, Yamashita S, Rammelsberg P, Boehm S, Schwindling FS.: Fit and Retention of Cobalt–Chromium Removable Partial Denture Frameworks Fabricated with Selective Laser Melting: *J Funct Biomater*. 2023 Aug 8;14(8):416. doi: 10.3390/jfb14080416.
50. Sakamoto Y, Wakabayashi K, Ishii T, Kishi K.: Incidence of Otalgia After Orthognathic Surgery.: *J Craniofac Surg* 34(7): e694-e696-E696, 2023. doi: 10.1097/SCS.0000000000009609
51. Satou R, Miki N, Iwasaki M, Sugihara N.: Fully Automated Bioreactor-Based pH-Cycling System for Demineralization: A Comparative Study with a Conventional Method: *Materials*, 16(14), 4929, 2023. doi:10.3390/ma16144929
52. Satou R, Shibata C, Takayanagi A, Yamagishi A, Birkhed D, Sugihara N.: Delivery of Low-Diluted Toothpaste during Brushing Improves Enamel Acid Resistance: *Materials*, 16(14), 5089, 2023. doi:10.3390/ma16145089
53. Satou R, Sugihara N.: In Vitro Risk Assessment of Dental Acid Erosion Caused by Long-Term Exposure to Oral Liquid Bandages: *Dent. J.*, 12(3), 70, 2024. doi: 10.3390/dj12030070
54. Satou R, Ueno S, Kamijo H, Sugihara N.: Inhibition of Citric Acid-induced Dentin Erosion by an Acidulated Phosphate Sodium Monofluorophosphate Solution: *Materials*, 16(15), 5230, 2023. doi:10.3390/ma16155230
55. Shiga T, Kato H, Saito A, Onodera S, Shibahara T, Takano M, Azuma T: Three-dimensional Culture Using Atelocollagen Sponge and Self-assembling Peptide Hydrogel: *Bull Tokyo Dent Coll*. 10;64(2):43-54, 2023. doi: 10.2209/tdcpublication.2022-0027.
56. Shigematsu M, Takeda K, Matsunaga S, Sendai Y, Matsuura N, Suzuki R, Azuma T, Sasaki H, Okumura K, Sekine H, Yajima Y, Ohno T.: Subgingival titanium wire implantation induces weak inflammatory responses but does not promote substantial T cell activation.: *Dent Mater J*. 42(5):633-640, 2024. doi: 10.4012/dmj.2022-258.
57. Someya T, Kasahara M, Takemoto S, Hattori M.: The wear behavior of glass-ceramic CAD/CAM blocks against bovine enamel: *Materials (Basel)* 16(21): 6839, 2023 doi: 10.3390/ma16216839
58. Sugahara K, Oiwa K, Matsunaga S, Odaka K, Hirouchi H, Koyachi M, Kasahara N, Tachiki C, Nishii Y, Wolf KD, Katakura A: Contrast-enhanced computed tomography of retromandibular vein position and course patterns relative to the mandible during sagittal split ramus osteotomy.: *Quant Imaging Med Surg* 14(2):1652-1659. doi: 10.21037/qims-23-1301
59. Sugiura T, Hashimoto K, Kikuta K, Anazawa U, Nomura T, Kameyama A.: Expression and localisation of MUC1 modified with sialylated core-2 O-glycans in mucoepidermoid carcinoma: *Sci Rep*. 2023 Apr 8;13(1):5752. doi: 10.1038/s41598-023-32597-2.
60. Suzuki M, Kasahara N, Matsunaga S, Yamada M, Abe S, Furusawa M: Microstructural analysis of accessory canals in the furcation area of the mandibular first molar using micro-computed tomography: *Saudi Endod J* 13(2):135-141. doi: 10.4103/sej.sej_156_22
61. Takagi Y, Sudo K, Yamaguchi S, Urata S, Ohno T, Hirose S, Matsumoto K, Kuramoto T, Serikawa T, Yasuda J, Ikutani M, Nakae S.: Characterization of novel, severely immunodeficient Prkdc Δex57/ Δex57 mice.: *Biochem Biophys Res Commun*. 678:193-199, 2023. doi: 10.1016/j.bbrc.2023.08.055.
62. Taku Noguchi, Sumiharu Morita, Ryu Suzuki, Satoru Matsunaga, Hidetomo Hirouchi, Norio Kasahara, Keisuke Sugahara, Shinichi Abe: Structural analysis of the mylohyoid muscle as a septum dividing the floor of the oral cavity for the purposes of dental implant surgery: variety of muscle attachment positions and ranges of distribution: *International Journal of Implant Dentistry*, https://doi.org/10.1186/s40729-023-00513-y
63. Tasaka A, Mori R, Hirabayashi T, Kogawa S, Ito K, Wadachi J, Yamashita S.: A new proposal for the workflow using CAD/CAM technology for fabrication of resin-based removable partial

dentures: *J Prosthodont Res*. 2024 Jul 8;68(3):355-357. doi: 10.2186/jpr.JPR_D_23_00153. Epub 2023 Oct 17.

64. Watanabe G, Yamamoto M, Taniguchi S, Sugiyama Y, Hirouchi H, Ishizuka S, Kitamura K, Mizoguchi T, Takayama T, Hayashi K, Abe S: Chronological Changes in the Expression and Localization of Sox9 between Achilles Tendon Injury and Functional Recovery in Mice.: *Int J Mol Sci* 24(14):11305, 2023. doi: 10.3390/ijms241411305.
65. Watanabe Y, Ohkubo M, Miura K, Sugiyama T, Nakata H, Ishida R: Relationship Between Submental Superficial Layer Hardness and Tongue Pressure Determined Using a Tissue Durometer.: *Dysphagia*, 2024 doi: 10.1007/s00455-024-10692-4. Online ahead of print.
66. Yamada M, Matsunaga S, Kasahara N, Kitamura K, Suzuki M, Tamiya Y, Takeuchi Y, Takahashi A, Yamamoto H, Abe S, Furusawa M: The Microscopic Structure of the Root Canal Morphology of the Distobuccal Root of the Maxillary First Molar in Japanese People: A Micro-Computed Tomography Study.: *J Hard Tissue Biol* 32(1):35-40, 2023. doi: 10.2485/jhtb.32.35
67. Yamamoto M, Hayashi S, Honkura Y, Hirano-Kawamoto A, Katori Y, Murakami G, Rodríguez-Vázquez JF, Abe S: Nasal capsule ossification: a histological study using human foetuses to find an association between the foetus and adult morphologies of the nasal wall.: *J Anat* 243:517-533, 2023. doi: 10.1111/joa.13867.
68. Yamamoto M, Hirota Y, Watanabe G, Taniguchi S, Murakami G, Rodríguez-Vázquez JF, Abe S: Development and growth of median structures in the human tongue: a histological study using human fetuses and adult cadavers.: *Anat Rec* 307(2):426-441, 2024. doi: 10.1002/ar.25198.
69. Yamamoto Y, Yamamoto M, Hirouchi H, Taniguchi S, Watanabe G, Matsunaga S, Abe S: Regeneration process of myotendinous junction injury induced by collagenase injection between Achilles tendon and soleus muscle in mice.: *Anat Sci Int* 99:138-145, 2024.
70. Yamazaki M, Sekikawa S, Suzuki T, Ogane S, Hashimoto K, Sasaki A, Nomura T.: Rac1 activation in oral squamous cell carcinoma as a predictive factor associated with lymph node metastasis: *Int J Clin Oncol*. 2023 Sep;28(9):1129-1138. doi: 10.1007/s10147-023-02374-2.
71. Yoshida K, Ishizuka S, Nakamura-Takahashi A, Hasegawa A, Umezawa A, Koshika K, Ichinohe T, Kasahara M: Prenatal asfotase alfa-mediated enzyme replacement therapy restores delayed calcification in a severe infantile form of hypophosphatasia model mice: *Eur J Med Genet* 66(7):104787, 2023. doi: 10.1016/j.ejmg.2023.104787.
72. Yu Koyama, Hiroya Okazaki, Yang Shi, Yoshihiro Mezawa, Zixu Wang, Mizuki Sakimoto, Akane Ishizuka, Yasuhiko Ito, Takumi Koyama, Yataro Daigo, Atsushi Takano, Yohei Miyagi, Tomoyuki Yokose,Toshinari Yamashita, Keisuke Sugahara, Okio Hino, Liying Yang, Reo Maruyama, Akira Katakura, Takehiro Yasukawa, Akira Orimo: Increased RUNX3 expression mediates tumor‐promoting ability of human breast cancer‐associated fibroblasts: *Cancer Medicine* https://doi.org/10.1002/cam4.6421
73. Yutaro Ando, Masayuki Tsukasaki, Nam Cong-Nhat Huynh, Shizao Zang, Minglu Yan, Ryunosuke Muro, Kazutaka Nakamura, Masatsugu Komagamine, Noriko Komatsu, Kazuo Okamoto, Kenta Nakano, Tadashi Okamura, Akira Yamaguchi, Kazuyuki Ishihara, Hiroshi Takayanagi: The neutrophil–osteogenic cell axis promotes bone destruction in periodontitis: *Int J Oral Sci* 16(1): 18, 2024.doi: 10.1038/s41368-023-00275-8

＜2024 年度＞

1. Ahn H, Hu H, Kim SB, Lee JH, Choi YJ, Hu KS, Shah-Desai S, Abe S, Kim HJ.: Anatomical etiology of bunny lines based on cadaveric dissection and ultrasonographic evaluation.: *Clin Anat*, Online ahead of print. doi.10.1002/ca.24249
2. Cho KH, Sugiyama Y, Watanabe G, Hirouchi H, Murakami G, Rodríguez-Vázquez JF, Abe S.: Mentalis nerve branches supplying the lower lip revisited: A study of human fetuses and donated elderly cadavers.: *Surg Radiol Anat*, 46:895-904, 2024. doi.10.1007/s00276-024-03365-2
3. Desai KM, Tanaka Y, Angadi PV, Kheur SM, Puranik U, Tatsumi A, Sekikawa S, Nomura T.: Characterization of stromal calcifications in odontogenic keratocyst: a multicentric study.: *Odontology* 113(1):438-447. 2025 doi: 10.1007/s10266-024-00975-5
4. Doya K, Imamura K, Mori S, Nakane-Koyachi S, Kokubu E, Ishihara K, Saito A: Investigating the

effects of heated tobacco products on periodontal healing: insights from in vivo and in vitro experiments: ***Cureus*** 2025 in press, doi: 10.7759/cureus.80733

5. E. Kokubu, Y. Ando, Y. Kikuchi, H. Yonezawa and K. Ishihara: *Treponema Denticola* Activates NF- κ B Pathway via Toll-like Receptor 2: ***Bull Tokyo Dent Coll***. 2025;66(1):41-50. doi: 10.2209/tdcpublication.2024-0023.
6. Edahiro A, Ishizaki T, Mitsutake S, Kitamura A, Hirata T, Saito A.: Periodontal management may reduce hospitalization for acute coronary syndrome and stroke in older individuals: ***Arch Gerontol Geriatr Plus*** 1: 100075, 2024. 10.1016/j.aggp.2024.100075
7. Eguchi T, Sugito H, Kusaka-Yoshino Y, Nagai Y, Tada M, Haruyama A, Muramatsu T.: Changes in the colors and surface structures of bovine enamel using three different in-office bleaching agents.: ODEP (in press)
8. Fan Y, Lyu P, Wang J, Wei Y, Li Z, Zhang S, Ouchi T, Jing J, Yuan Q, Rosen CJ, Zhou C: Negative feedback between PTH1R and IGF1 through the Hedgehog pathway in mediating craniofacial bone remodeling.: ***JCI Insight*** 10(3): e183684, 2024. doi: 10.1172/jci.insight.183684.
9. Felix FA, Zhou J, Li D, Onodera S, Yu Q.: Endogenous IL-22 contributes to the pathogenesis of salivary gland dysfunction in the non-obese diabetic model of Sjögren's syndrome.: ***Mol Immunol***. 73:20-29, 2024 doi: 10.1016/j.molimm.2024.06.010.
10. Flügge T., Vinayahalingam S., van Nistelrooij N., Kellner S., Xi T., van Ginneken B., Bergé S., Heiland M., Kernen F., Ludwig U., Odaka K.: Automated Tooth Segmentation in Magnetic Resonance Scans Using Deep Learning.: ***Dentomaxillofac Radiol*** twae059, 2024. doi: 10.1093/dmfr/twae059
11. Fukushima T, Sugahara K, Ito K, Koyachi M, Nishiyama A, Kurihara C, Nakajima S, Matsunaga S, Katakura A: Posture analysis during tooth extraction: ***BDJ Open*** doi.org/10.1038/s41405-025-00311-1
12. Haruyama A, Muramatsu T, Kameyama A.: Effect of silane treatment of a resin-based composite on its microtensile bond strength to a ceramic restorative material.: ***Appl Sci*** 14:9178, 2024. doi:10.3390/app14209178
13. Hideshima I, Nakamura Y, Onodera S, Akashi Y, Matsuzaka K, Takano M, Nomura T, Katakura A, Azuma T: Analysis of Germline and Somatic Mutation in Patients With Developmental Odontogenic Cysts Using Targeted Gene Panel.: ***J Oral Pathol Med*** 54(1):12-21. 2025 doi: 10.1111/jop.13586
14. Higa K, Ishiwata M, Kimoto R, Hirayama M, Yamaguchi T, Shimmura S.:Human corneal organoid has a limbal function that supplies epithelium to the cornea with limbal deficiency.: ***Regenerative Therapy*** 29:247-253, 2025. doi: 10.1016/j.reth.2025.03.004.
15. Hirano-Kawamoto A, Honkura Y, Murakami G, Abe S, Rodríguez-Vázquez JF, Katori Y.: Development and growth of fasciae in and around the esophageal hiatus: a histological study using human fetuses.: ***Surg Radiol Anat***, 47: 16, 2025. doi.org/10.1007/s00276-024-03517-4
16. Hirouchi H, Suzuki R, Hanada S, Takeuchi Y, Sugiyama Y, Takayama T, Hayashi K, Murakami G, Abe S.: Exploratory study of the growth of the circumference of mandibular fossa adjacent to the petrous part of the temporal bone using dried skulls.: ***Bull Tokyo Dent Coll***, 65:11-17, 2024. doi:10.2209/tdcpublication.2023-0009
17. Hirouchi H, Takeuchi Y, Yang T, Yamamoto M, Hayashi S, Murakami G, Rodríguez-Vázquez JF, Abe S.: Transient contribution of the sphenoid ala major to the socket of the temporomandibular joint in near-term fetuses.: ***Anat Rec***, 307(11):3574-3581, 2024. doi: 10.1002/ar.25507.
18. Horie F, Sanematsu K, Yasumatsu K, Hirokawa T, Shigemura N, Yamashita A, Kusakabe Y: Receptor mechanism producing a sweet taste from plant aroma compounds.: ***Sci Rep*** 15(1):6795, 2025. doi: 10.1038/s41598-025-89711-9.
19. Ide F, Ito Y, Watanabe J, Muramatsu T, Yamamoto H, Kikuchi K.: Ectopic salivary duct cyst in the median mandible: a case report with radiological, immunohistochemical and genetic studies.: ***Int J Surg Pathol***, 2025. doi:10.1177/10668969241308230
20. Imamura H, Adachi T, Zhu W, Yamamoto T, Kanamura N, Onoda H, Takahashi AN, Kasahara M, Nakada M, Sato H, Pezzotti G: Raman spectroscopic analysis of molecular structure and mechanical properties of hypophosphatasia primary tooth: ***Molecules*** 22;29(24):6049, 2024. doi: 10.3390/molecules29246049.

21. Imamura K, Yoshida W, Seshima F, Aoki H, Yamashita K, Kitamura Y, Murakami T, Ambiru M, Bizenjima T, Katayama A, Tomita S, Saito A: Periodontal regenerative therapy using recombinant human fibroblast growth factor (rhFGF)-2 in combination with carbonate apatite granules or rhFGF-2 alone: 12-month randomized controlled trial: ***Clin Oral Investig*** 28, 574, 2024.10.1007/s00784-024-05979-7.
22. Ishikawa S, Suzuki T, Tanaka S, Tatsumi A, Aiso Y, Sekikawa S, Ogane S, Katakura A, Nomura T: The use of cetuximab for oral cancer and adverse events with different treatment regimens: A single-center retrospective study over an 11-year period: ***Oral sci.*** int. 22(1), e1251, 2025. doi:10.1002/osi2.1251
23. Ishizuka H, Ishihara K, Yonezawa H, Ishihara K, Muramatsu T: Inhibitory effect of bovine milk osteopontin on the initial attachment of *Streptococcus mutans*: ***JDS Commun*** 5(6): 535, 2024. doi: 10.3168/jdsc.2024-0558
24. Kagoura H, Munakata R, Kasahara M, Someya T, Hattori M: Wear behavior of crown restoration materials and bovine tooth enamel opposed by pure titanium.: ***Dent Mater J*** 44(2):157-167, 2025. doi: 10.4012/dmj.
25. Kaida N, Matsunaga S, Tachiki C, Otsu Y, Sugahara K, Kasahara N, Abe S, Katakura A, Yamamoto H, Nishii Y: Ridge preservation using octacalcium phosphate collagen to induce new bone containing a vascular network of mainly Type H vessels: ***Scientific Reports*** 14(1): doi.org/10.1038/s41598-024-75931-y
26. Kambe R, Mitomo K, Ikarashi T, Haketa M, Tashiro K, Furusawa M, Muramatsu T: Localization of both CD31- and endomucin-expressing vessels in mouse dental pulp.: ***Acta Histochem Cytochem*** 57(5):157-163, 2024. doi:10.1267/ahc.24-00009
27. Kamikawatoko T, Yotsuya M, Owada A, Ishizuka S, Kasahara M, Yamamoto M, Abe S, Sekine H: Early changes in asporin levels in osteoarthritis of the temporomandibular joint: ***J Oral Biosci*** 66:546-553, 2024. doi:10.1016/j.job.2024.06.009
28. Kang Y, Nishizawa D, Ohka S, Terui T, Ishitani K, Moriono R, Yokota M, Hasegawa J, Ebata Y, Nakayama K, Koshika K, Ichinohe T, Ikeda K: TMEM132C rs7296262 single-nucleotide polymorphism is significantly associated with nausea induced by opioids administered for cancer pain and postoperative pain: ***Int J Mol Sci*** 14;25(16):8845, 2024. doi: 10.3390/ijms25168845.
29. Kasahara N, Yamada M, Fujii R, Shiozaki K, Sekiya S, Matsunaga S, Kikuchi N, Kitamura K, Abe S, Yamamoto H: Morphological Classification of Mandibular Central Incisor Root Canals and Incidence of Accessory Root Canals in Japanese People Using Micro-Computed Tomography.: ***J Hard Tissue Biol*** 34(2): 57-62, 2025. doi: 10.2485/jhtb.34.57
30. Kase Y, Morikawa S, Okano Y, Hosoi T, Yasui T, Taki-Miyashita Y, Yakabe M, Goto M, Ishihara K, Ogawa S, Nakagawa T, Okano H: Multi-organ frailty is enhanced by periodontitis-induced inflammaging: ***Inflamm Regen*** 45(1): 3, 2025. doi: 10.1186/s41232-025-00366-5
31. Kato E, Yamada M, Kokubu E, Egusa H, Ishihara K: Anisotropic patterns of nanospikes induces anti-biofouling and mechano-bactericidal effects of titanium nanosurfaces with electrical cue: ***Mater Today Bio*** 29: 101352, 2024. doi: 10.1016/j.mtbio.2024.101352
32. Kato Y, Hoshino T, Ogawa Y, Sugahara K, Katakura A: Aging-Related Metabolome Analysis of the Masseter Muscle in Senescence-Accelerated Mouse-Prone 8: ***International Journal of Molecular Sciences*** doi.org/10.3390/ijms25179684
33. Kentaro Imamura, Keita Tachi, Tadahiro Takayama, Hironori Kasai, Ryutaro Shohara, Kenji Inoue, Yoichiro Taguchi, Saki Nakane-Koyachi, Atsushi Saito, Seiichi Yamano: Developmental Endothelial Locus-1 Promotes Osteoclast Differentiation and Activation: ***Int J Mol Sci***. 2025 Mar 16;26(6):2673. doi: 10.3390/ijms26062673.
34. Kikuchi T, Kurihara K, Kawachi H, Ogane S, Hashimoto K, Shibahara T, Nomura T: Tumor budding and complete epithelial mesenchymal transition correlate with late nodal metastasis in early-stage tongue squamous cell carcinoma: ***J Oral Maxillofac Surg Med Pathol*** 37(1)201-209, 2025 doi:10.1016/j.ajoms.2024.08.012
35. Kim JH, Ishizuka S, Kitamura K, Murakami G, Rodríguez-Vázquez JF, Abe S, Kasahara M.: Ontogenic transformation of the ankle from the initial mediolateral arrangement of the calcaneus and talus: a histological study of human embryos and early fetuses.: ***J Anat***, 245(3):392-404, 2024. doi.org/10.1111/joa.14039

36. Kim JH, Murakami G, Rodríguez-Vázquez JF, Sekiya R, Yang T, Abe S.: Insertions of the striated muscles in the skin and mucosa: a histological study of fetuses and cadavers.: ***Anat Cell Biol***, 57(2):278-287, 2024. doi: 10.5115/acb.24.048
37. Kimura M, Nomura S, Ouchi T, Kurashima R, Nakano R, Sekiya H, Kuroda H, Kono K, Shibukawa Y: Intracellular cAMP signaling-induced Ca2+ influx mediated by calcium homeostasis modulator 1 (CALHM1) in human odontoblasts: ***Pflugers Archives - European Journal of Physiolpgy***, 477: 273-290, 2025. doi.org/10.1007/s00424-024-03038-4
38. Kitamura A, Yamamoto M, Hirouchi H, Watanabe G, Taniguchi S, Sekiya S, Ishizuka S, Jeong J, Higa K, Yamashita S, Abe S.: Downregulation of SOX9 expression in developing entheses adjacent to intramembranous bone.: ***PLOS ONE***, 19: e0301080, 2024. doi: 10.1371/journal.pone.0301080.
39. Kitamura K, Ishizuka S, Kim JH, Yamamoto H, Murakami G, Rodríguez-Vázquez JF, Abe S.: Development and growth of the temporal fascia: a histological study using human fetuses.: ***Anat Cell Biol***, 57(2):288-293, 2024. doi.10.5115/acb.23.298
40. Kitamura K, Sugiyama Y, Imai K, Yang T, Sekiya R, Morita K, Murakami G, Yamamoto H, Abe S: The mucocutaneous junction and its associated nerves, immunoreactive cells and changes with age: a review with novel observations from human fetal and cadaveric specimens.: ***Annals of Dermatological Science***, 5(1):1-26, 2024. doi.10.52338/aods.2024.3997
41. Kitamura K, Suzuki R, Ishizuka S, Murakami G, Rodríguez-Vázquez JF, Yamamoto H, Abe S.: Growing stylohyoideus muscle insertion to the hyoid bone with special reference to its topographical relation to the intermediate endon of digastricus muscle: A histological study using human feruses.: ***Ann Anat***, 254:152246, 2024. doi.10.1016/j.aanat.2024.152246
42. Kitamura Y, Okuyama K, Saito A: Periodontal surgery using recombinant human fibroblast growth factor-2 in combination with carbonate apatite granules for stage III grade C periodontitis: a 30-month case report.: ***Bull Tokyo Dent Coll*** 66:31-40, 2025. 10.2209/tdcpublication.2024-0029
43. Kobayashi H, Rues S, Tasaka A, Rammelsberg P, Yamashita S, Schwindling FS: Influence of wall thickness on the fracture resistance of hollow zirconia artificial teeth fabricated by 3D zirconia printing.: ***J Prosthodont Res*** ,2025 doi: 10.2186/jpr.JPR_D_24_00166.
44. Kobayashi H, Schwindling FS, Tasaka A, Rammelsberg P, Yamashita S, Rues S: Effect of wall thickness on shape accuracy of hollow zirconia artificial teeth fabricated by a 3D printer.: ***J Prosthodont Res*** ,2024. doi: 10.2186/jpr.JPR_D_23_00300.
45. Kokubu E, Kikuchi Y, Yonezawa H, Sasaki H, Matsuzaka K, Ishihara K: Effect of P*orphyromonas gingivalis* infection on epithelial rests of Malassez: ***Bull Tokyo Dent Coll*** 11;66(1):13-23, 2024. doi: 10.2209/tdcpublication.2024-0028.
46. Koshika K, Hashimoto W, Nakakuki A, Yajima K, Ichinohe T: Comparative efficacy of different video laryngoscopy types in difficult tracheal intubation cases: a randomized crossover manikin study: ***J Dent Anesth Pain Med*** 25(1):33, 2025. doi: 10.17245/jdapm.2025.25.1.33.
47. Koyama Y, Ogawa C, Kurihara C, Hashimoto N, Shinagawa S, Okazaki H, Koyama T, Sugahara K, Katakura A: Pathological examination of factors involved in PD-L1 expression in patients with oral tongue squamous cell carcinoma: ***Maxillofacial Plastic and Reconstructive Surgery*** 46(1) doi.org/10.1186/s40902-024-00441-w
48. Kuroda H, Tsukimoto S, Kosai A, Komatsu N, Ouchi T, Kimura M, Sato-Boku A, Yoshida A, Yoshino F, Abe T, Shibukawa Y, Sanuki T: Effect of dental local anesthetics on reactive oxygen species: An in vitro study: ***Cureus***, 16: e63479, 2024. doi: 10.7759/cureus.63479.
49. Kuroda Y, Yoda M, Kawaai K, Tatenuma M, Mizoguchi T, Ito S, Kasahara M, Wu Y, Takano H, Momose A, Matsuo K: Developing long bones respond to surrounding tissues by trans-pairing of periosteal osteoclasts and endocortical osteoblasts.: ***Development*** 151(17): dev202194, 2024. doi: 10.1242/dev.202194
50. Li B, Ding Z, Ouchi T, Liao Y, Li B, Gong J, Xie Y, Zhao Z, Li L: Deciphering the spatial distribution of Gli1-lineage cells in dental, oral, and craniofacial regions.: ***J Bone Miner Res*** 39(12):1809-1820, 2024. doi: 10.1093/jbmr/zjae152.
51. Li B, Li W, Liao Y, Weng Z, Chen Y, Ouchi T, Fan Y, Zhao Z, Li L: Multi-omics approach reveals TGF-β signaling-driven senescence in periodontium stem cells.: ***J Adv Res*** 2024. doi:

10.1016/j.jare.2024.12.037. in press.
52. Li D, Onodera S, Yu Q, Zhou J.: The impact of alternate-day fasting on the salivary gland stem cell compartments in non-obese diabetic mice with newly established Sjögren's syndrome.: ***Biochim Biophys Acta Mol Cell Res***. 1871(7):119817,2024. doi: 10.1016/j.bbamcr.2024.119817.
53. Mai Ohkubo, Saki Kuriyama, Haruka Nakata, Tetsuya Sugiyama: Evaluating the Effectiveness of Articulation Practice with Tongue Movement Distance Using Ultrasound: ***Bull Tokyo Dent Coll*** 66(3) 2025 in presss
54. Martins, JNR., Ensinas, P., Chan, F., Babayeva, N., von Zuben, M., Berti, L., Lam, EWN., Antunez, M., Pei, F., Espriella, CM., Vargas, W., Camacho, JC., Alkhawas, MBAM., Pimentel, T., Santiago, F., Herrmann, HW., Chaniotis, A., Benyocs, G., Ragnarsson, MF., Kottoor, J., Shemesh, A., Castagnola, R., Tummala, S., Matsunaga, S., Maksimova, A., Ounsi, H., Parolia, A., Aguilar, RR., Oderinu, O., Naeer, M., Heilborn, C., Nole, C., Nicola, S., Lipatova, E., Alfawaz, H., Seedat, HC., Chang, SW., Gonzalez, JA., Altaki, Z., Banomyong, D., Keles, A., Modyeievsky, I., Monroe, A., Boveda, C., Silva, EJNL., Solomonov, M., Itzhak, JB., Versiani, MA.: Worldwide anatomic characteristics of the mandibular canine- a multicenter cross-sectional study with meta-analysis.: ***J Endod***, 26:S0099-2399(24)00049-9, 2024. doi: 10.1016/j.joen.2024.01.016.
55. Matsuda S, Shintani T, Miyagawa T, Yumoto H, Komatsu Y, Dewake N, Iwata T, Nagano T, Morozumi T, Goto R, Kato S, Kitamura M, Shin K, Sekino S, Yamashita A, Yamashita K, Yoshimura A, Sugaya T, Takashiba S, Taguchi Y, Nemoto E, Nishi H, Mizuno N, Numabe Y, Kawaguchi H.: Effect of Periodontal Treatment on Reducing Chronic Inflammation in Systemically Healthy Patients With Periodontal Disease.: ***Am J Med***. 2024 Mar;137(3):273-279.e2. doi: 10.1016/j.amjmed.2023.11.001.
56. Mikami A, Huang H, Hyodo A, Horie K, Yasumatsu K, Ninomiya Y, Mitoh Y, Iida S, Yoshida R: The role of GABA in modulation of taste signaling within the taste bud,: ***Pflugers Arch***. 476(11):1761-1775. 2024. doi: 10.1007/s00424-024-03007-x.
57. Miura Y, Hashimoto M, Nakamura Y, Ishikawa N: Investigation of a DNA profiling method using only cementum more than 70 years after death.: ***Cureus*** 16(3): e56998, 2024. doi: 10.7759/cureus.56998. eCollection 2024 Mar.
58. Miyata N, Mori S, Murakami T, Bizenjima T, Seshima F, Imamura K, Saito A: Combined effects of fibroblast growth factor-2 and carbonate apatite granules on periodontal healing: An in vivo and in vitro study: ***Biomedicines*** 12(8): 1664, 2024. 10.3390/biomedicines12081664
59. Muramatsu K, Yoshida S, Narita M, Takano M, Watanabe A: Clinical evaluation of greater palatine artery hemodynamics in Le Fort I osteotomy: ***Journal of Oral and Maxillofacial Surgery, Medicine, and Pathology*** 37(3): 427-434, 2024
60. Nakajima S, Sugahara K, Koyachi M, Tachizawa K, Nakada T, Okumura T, Nishiyama A, Odaka K, Matsunaga S, Katakura A: Virtual reality enhances anatomical education for dental students and doctors: ***Journal of Oral and Maxillofacial Surgery, Medicine, and Pathology*** doi.org/10.1016/j.ajoms.2025.03.004
61. Nakakuki A, Koshika K, Nakazawa M, Nishino M, Nomura R, Yoshida K, Ichinohe T: Does Prophylactic Administration of Antiemetic Drugs for Varying Intravenous Anesthetics Result in a Different Incidence of Postoperative Nausea and Vomiting?: ***Anesth Prog*** (in press)
62. Nakamura K, Tsukasaki M, Tsunematsu T, Yan M, Ando Y, Huynh NCN, Hashimoto K, Gou Q, Muro R, Itabashi A, Iguchi T, Okamoto K, Nakamura T, Nakano K, Okamura T, Ueno T, Ito K, Ishimaru N, Hoshi K, Takayanagi H: The periosteum provides a stromal defence against cancer invasion into the bone: ***Nature*** 634(8033): 474-481, 2024. doi: 10.1038/s41586-024-07822-1
63. Nakamura T, Kawaai K, Kuroda Y, Matsuo K: Osteoclast visualization: Tartrate-resistant acid phosphatase activity staining using NewFuchsin compatible with non-aqueous mounting and tissue clearing: ***MethodsX*** 14: 103136, 2025. doi: 10.1016/j.mex.2024.103136
64. Nakamura-Takahashi, A., Ishizuka, S., Hirai, K., Matsunaga, S., Kasahara, N., Shintani, S., Abe, S., Kasahara, M.: Administration of bisphosphonate preparations to mice with mild hypophosphatasia reduces the quality of spontaneous locomotor activity.: ***Calcif Tissue Int***, 116(1):30, 2025. doi: 10.1007/s00223-024-01326-w.
65. Nakano T, Hamba H, Muramatsu T.: Butylboronic acid promotes cell proliferation, alkaline phosphatase activity, and expression of GJA1, ALP, and NaBC1 in human dental pulp cells in

vitro.: ***Front Dent Med*** 6:1518389, 2025. doi:10.3389/fdmed.2025.1518389
66. Nakao R, Yamaguchi T, Shibasaki H, Saeki J, Takahashi A, Tominaga R, Abe K, Akeda Y, Nakagawa-Nakamura T, Nishino T, Ishihara K, Jinno-Oue A, Inoue S: Assessment of periodontitis vaccine using three different bacterial outer membrane vesicles in canine model: ***mSphere*** e0103324, 2025. doi: 10.1128/msphere.01033-24
67. Nakazato H, Onodera S, Aida N, Furusawa M, Azuma T.: Comprehensive analysis of transcription factors involved in odontoblast differentiation mechanism.: ***Med Mol Morphol***. 57(4):253-267, 2024. doi: 10.1007/s00795-024-00389-w.
68. Niikura Y, Ishii T, Sakamoto Y, Ariizumi D, Sakamoto T, Sueishi K.: Assessment and Identification of Improvement Areas for Facial Symmetry in Hemifacial Microsomia (Type IIB) Using Three-dimensional Measurements.: ***Plast Reconstr Surg Glob Open***. 12(6): e5877, 2024. doi: 10.1097/GOX.0000000000005877.
69. Nukaga T, Kokubu E, Okamoto-Shibayama K, Kikuchi Y, Furusawa M, Muramatsu T, Ishihara K: Characterization of clustered bacteriocin-type signal domain protein genes in *Treponema denticola*: ***Frontiers in Dental Medicine*** 19:6:1543535.2025. doi: 10.3389/fdmed.2025.1543535.
70. Numata T, Ikutani M, Arae K, Ohno T, Okada K, Yoshimoto T, Sudo K, Suto H, Okumura K, Saito H, Harada K, Nakae S.: IL-10 promotes Th17 cell differentiation by enhancing STAT1-dependent IL-6 production via IgE-stimulated mast cells.: ***Sci Rep*** 14(1):26706, 2024. doi: 10.1038/s41598-024-77929-y.
71. Numata Y, Kikuchi Y, Sato T, Okamoto-Shibayama K, Ando Y, Miyai-Murai Y, Kokubu E, Ishihara K: Novel transcriptional regulator OxtR1 regulates potential ferrodoxin in response to oxygen stress in *Treponema denticola*: ***Anaerobe*** 87:102852, 2024. doi: 10.1016/j.anaerobe.2024.102852.
72. Odaka K., Steffen C., Wagendorf O., Geissler S., Ebker T., Rubarth K., Nguyen T.T., Bortel E.L., Sarasaen C., Duda G.N., Heiland M., Voss J.O.: Volumetric evaluation of osteotomy gap following mandibular bilateral sagittal split osteotomy using a novel semi-automated approach: a pilot study.: ***Clin Oral Investig*** 28(358), 2024. doi: 10.1007/s00784-024-05753-9
73. Odaka, K., Sugano, M., Kawamoto, T., Takano, N., Matsunaga, S.: Finite element analysis of fatigue life of commercially pure titanium clasps additively manufactured with different building orientations.: ***Dent Mater J***, 43:656-666, 2024. doi: 10.4012/dmj.2024-023.
74. Ogawa Y, Aslan S, Goto H, Kawanabe D, Nagai T, Maekawa S, Ishikawa T, Saito A, Cortellini P, Imamura K.: Clinical outcomes of periodontal regenerative therapy with Double-sided Entire Papilla Preservation (DEPP) technique for intrabony defects: a case-series with 12-month follow-up: ***Int J Periodontol Restorative Dent*** 2025 10.11607/prd.7532
75. Ogawa Y, Yoshikawa K, Ishikawa T, Saito A, Imamura K.: Double-sided Entire Papilla Preservation (DEPP) technique in the combination periodontal regenerative therapy: A case report.: ***Clin Adv Periodontics*** 14:100-107, 2024. 10.1002/cap.10258.
76. Ouchi T, Ando M, Kurashima R, Kimura M, Saito N, Iwasaki A, Sekiya H, Nakajima K, Hasegawa T, Mizoguchi T, Shibukawa Y.: Pericytes are odontoblast progenitor cells depending on ER stress.: ***J Dent Res*** 4:220345241307944, 2025. doi: 10.1177/00220345241307944.
77. Ouchi T, Kono K, Satou R, Kurashima R, Yamaguchi K, Kimura M, Shibukawa Y.:Upregulation of Amy1 in the salivary glands of mice exposed to a lunar gravity environment using the multiple artificial gravity research system: ***Front Physiol*** 15:1417719, 2024. doi: 10.3389/fphys.2024.1417719.
78. Ouchi T, Morikawa S, Nakagawa T, Asoda S: Platelet-derived Growth Factor Receptor- α as a Biomarker for Tongue Spindle Cell Carcinoma.: ***Anticancer Res*** 45(4):1387-1393, 2025. doi: 10.21873/anticanres.17524.
79. Ryu M: Effective denture care in an aging society: ***J Prosthodont Res*** 68(4): ix-x, 2024. doi: 10.2186/jpr.JPR_D_24_00233.
80. Saito A, Nagayama K, Okada H, Onodera S, Aida N, Nakamura T, Sawada T, Hojo H, Kato S, Azuma T.: Downregulation of Nesprin1 by Runx2 deficiency is critical for the development of skeletal laminopathy-like pathology.: ***Proc Natl Acad Sci USA***. 15;122(15): e2320138122, 2025. doi: 10.1073/pnas.2320138122.
81. Sakurai N, Sawada T, Kuwajima Y, Yamanaka K, Nomura N, Kasahara M, Chiba A, Satoh K,

Takemoto S: Metallic Ion Release Behaviors from Cobalt–Chromium Alloys Fabricated by Additive Manufacturing with Mechanical Grinding in an Acidic Saline Solution: ***Materials (Basel)*** 18(2):432, 2025. doi: 10.3390/ma18020432.

82. Satoh Y, Ishihara K, Kubota T: Characterization of the anti-*Porphyromonas gingivalis* compound in bilberry (*Vaccinium myrtillus* L.) and comparison with its analogs: ***J Oral Biosci*** 67(1): 100610, 2025. doi: 10.1016/j.job.2024.100610
83. Satou R, Odaka K, Sako R, Ando M, Sugihara N: Improving Enamel Acid Resistance by an Intraoral Fluoride-Release Device Incorporating Cationic Hydroxy Cellulose Gel Using 3D Printer Molding: ***Materials***, 17(23):5731, 2024. doi: 10.3390/ma17235731
84. Sekikawa S, Tatsumi A, Ishikawa S, Tanaka S, Aiso Y, Kikuchi T, Suzuki T, Ogane S, Nomura T, Katakura A, Watanabe A.: Clinical efficacy and safety of tegafur, gimeracil, and oteracil potassium (S-1) monotherapy for incurable oral squamous cell carcinoma patients: ***J Oral Maxillofac Surg Med Pathol*** In Press. doi:10.1016/j.ajoms.2025.02.015
85. Sendai Y, Takeda K, Ohta K, Nakae S, Koshika K, Kitamura K, Higuchi M, Ichinohe T, Azuma T, Okamura K, Ohno T: Ro5-4864, a translocator protein ligand, regulates T cell-mediated inflammatory responses in skin: ***Int Immunol*** 6;37(4):221, 2025. doi: 10.1093/intimm/dxae065.
86. Shimamura, Y., Tachiki, C., Takahashi, K., Matsunaga, S., Takaki, T., Hagiwara, M., Nishii, Y.: Accuracy of cephalometric landmark and cephalometric analysis from lateral facial photograph by using CNN-based algorithm.: ***Sci Rep***, 14(1):31089, 2024. doi: 10.1038/s41598-024-82230-z.
87. Shimazu K, Kasahara M, Koshika K, Ichinohe T: Effects of remimazolam anesthesia with or without remifentanil on oral tissue blood flow and oxygen tension in rabbits: ***Anesth Prog*** (in press)
88. Shirai T, Satoh Y, Ishihara K: Antibacterial activity of mulberry extracts and purified fractions against oral pathogenic bacteria: ***J Oral Biosci*** 66(2): 439, 2024. doi: 10.1016/j.job.2023.12.009
89. Suzuki M, Koshika K, Ichinohe T: Recovery of sedation and psychomotor and equilibrium functions following remimazolam anesthesia with or without flumazenil: a randomized, double-blind, controlled trial: ***J Dent Anesth Pain Med*** 25(1):55, 2025. doi: 10.17245/jdapm.2025.25.1.55.
90. Suzuki S, Yoshino K, Takayanagi A, Onose Y, Ohyama A, Shibuya T, Satou R, Eguchi T, Kamijo H, Sugihara N: Oral Health Status of Workers in Acid Exposure Environments in Japan: A Cross-sectional Study: ***Bull Tokyo Dent Coll.***, 65(2-3):47-52, 2024. doi: 10.2209/tdcpublication.2023-0034.
91. Takahashi S, Ishizuka S, Kitamura K, Yang T, Abe S, Murakami G, Rodríguez-Vázquez J.F.: Growth patterns of facial muscles at the angle of the mouth: a histological study using midterm and near-term human fetuses.: ***J Anat***, 245(4):535-550, 2024. doi.org/10.1111/joa.14101
92. Takebe H, Sato H, Mizoguchi T, Hosoya A: Localization of α-smooth muscle actin in osteoblast differentiation during periodontal development.: ***Cell Tissue Res*** 399(1):119-127, 2025. doi: 10.1007/s00441-024-03940-4
93. Tang J, Li J, Hou Z, He R, Li B, Gong J, Xie Y, Meng W, Liu Y, Ouchi T, Li L, Li B: Dasatinib and Quercetin Mitigate Age-Related Alveolar Bone Inflammaging and Neutrophil Infiltration.: ***Oral Dis*** 2025. doi: 10.1111/odi.15291. in press.
94. Taniguchi S, Yamamoto M, Tanaka T, Yang T, Watanabe G, Sugiyama Y, Takagi T, Murakami G, Hayashi S, Abe S.: Anatomical study of pterygoid implants: artery and nerve passage through bone dehiscence of the greater palatine canal.: ***Int J Implant Dent***, 70(1):51, 2024. doi: 10.1186/s40729-024-00560-z.
95. Tazuhama Y, Miyazaki H, Hirai M, Hoshino Y, Ishii T, Nishii Y.: An Orthodontic Study of Non-syndromic Oligodontia: An Examination of Occlusion and Occlusal Support.: ***Bull Tokyo Dent Coll***. 66(1):1-11, 2025. doi: 10.2209/tdcpublication.2024-0017.
96. Tomono K, Kato Y, Wadachi J, Tasaka A, Takemoto S, Yamashita S: Influence of Different Undercut Depths of Clasp Fabricated by Selective Laser Melting on Retentive Force.: ***Eur J Prosthodont Restor Dent*** 32(3):261-269, 2024. doi: 10.1922/EJPRD_2648Tomono09.
97. Tsuji Y, Koshika K, Ichinohe T: Effect of remimazolam and propofol anesthesia on autonomic nerve activities during Le Fort Ⅰ osteotomy under general anesthesia: a randomized clinical trial: ***J Dent Anesth Pain Med*** 24(4):273, 2024. doi: 10.17245/jdapm.2024.24.4.273.

98. Voss J.O., Pivetta F., Elkilany A., Schmidt-Bleek K., Duda G.N., Odaka K., Dimitriou I.M., Ort M.J., Streitz M., Heiland M., Koerdt S., Reinke S., Geissler S.: Prognostic implications of a CD8+ TEMRA to CD4+Treg imbalance in mandibular fracture healing: a prospective analysis of immune profiles.: ***Front Immunol*** 15, 2024. doi: 10.3389/fimmu.2024.1476009
99. Watanabe, A. Suga, K. Doucet, JC. Yoshida, S. Narita, M. Kanno, K. Uchiyama, T.: Surgical Correction of Secondary Bilateral Cleft lip and Nasal Deformities Using the Delaire-Precious Technique.: ***The Cleft Palate-Craniofacial Journal*** DOI: 10.1177/10556656241287079 journals.sagepub.com/home/cpc
100. Yamada M, Kasahara N, Matsunaga S, Fujii R, Miyayoshi N, Sekiya S, Ding I, McCulloch C: Critical Factors Affecting Outcomes of Endodontic Microsurgery: A Retrospective Japanese Study.: ***Dent J*** 12(8): 266, 2024. doi: 10.3390/dj12080266.
101. Yambe S, Yoshimoto Y, Ikeda K, Maki K, Takimoto A., Tokuyama A., Higuchi S, Yu X, Uchibe K, Miura S, Watanabe H, Sakuma T, Yamamoto T, Tanimoto K, Kondoh G, Kasahara M, Mizoguchi T, Docheva D, Adachi T, Shukunami C: Sclerostin modulates mineralization degree and stiffness profile in the fibrocartilaginous enthesis for mechanical tissue integrity.: ***Front Cell Dev Biol*** 12:1360041, 2024. doi: 10.3389/fcell.2024.1360041
102. Yorioka, H., Matsunaga, S., Otsu, Y., Nakano, T., Abe, S., Sasaki, H.: Effect of immediate Implant placement and immediate loading on peri-implant jaw bone quality: Rat implant occlusal loading model.: ***Int J Implant Dent***, 10:24, 2024. doi: 10.1186/s40729-024-00538-x.

＜2025 年度＞

1. Furusawa Y, Kimura M, Okunishi I, Ouchi T, Kurashima R, Katou-Yamada T, Kuroda H, Sugita M, Furusawa M, Shibukawa Y:6-Methylsulfinylhexyl isothiocyanate activates carbonic anhydrase-dependent HCO3-/H+/Na+/Ca2+ transport via SLC4As-NHE-NCX-PMCA axis in odontoblasts.J Physiol. 604(7):2816-2844, 2026. doi: 10.1113/JP287809.
2. Kitamura K, Kim JH, Hirano-Kawamoto A, Katori Y, Murakami G, Abe SI, Yamamoto H: A novel division of the nasalis muscle of face with special reference to the elastic fiber-mediated insertion: a cadaveric study.Surg Radiol Anat 13;48(1):39, 2026. doi: 10.1007/s00276-025-03807-5.
3. Kato Y, Tasaka A, Okano H, Uzawa S, Yamashita S: Accuracy and mechanical properties of denture clasps fabricated utilizing pre-sintered Co-Cr alloy discs.J Prosthodont Res 69(4):578-587. 2025. doi: 10.2186/jpr.JPR_D_24_00186.
4. Saito N, Ouchi T, Kimura M, Kurashima R, Shibukawa Y: Activation of G protein-coupled parathyroid hormone receptors in rat incisor odontoblasts promotes mineralization via cyclic adenosine monophosphate, not Ca2+ signalling: In vitro study.Int Endod J. 58(10):1616-1628, 2025. doi: 10.1111/iej.14280.
5. Takahashi A, Ishizuka S, Hirai K, Matsunaga S, Kasahara N, Shintani S, Abe S, Kasahara M: Administration of Bisphosphonate Preparations to Mice with Mild-type Hypophosphatasia Reduces the Quality of Spontaneous Locomotor Activity.Calcif Tissue Int 116(1):30, 2025 doi:10.1007/s00223-024-01326-w
6. Philipp Thoenissen, Jannik Schaaf, Sophie Zorn, Robert Sader, Sugahara K, Thomas MaalAI-driven surgical decision making in oral and maxillofacial surgery: from diagnostic ambiguity to personalized therapy via data structuring, predictive modeling, and XR-enhanced executionInnovative Surgical Sciences. doi.org/10.1515/iss-2025-0051, 2026
7. Tomaru H, Tachiki C, Nakamura Y, Ariizumi D, Matsunaga S, Sugahara K, Watanabe A, Katakura A, Nishii Y. Anterior Tooth Inclination Between Skeletal Class II and III Malocclusions After SurgicalAnterior Tooth Inclination Between Skeletal Class II and III Malocclusions After Surgical Orthodontic TreatmentDiagnostics (Basel). 2025 Jun 18;15(12):1553. doi: 10.3390/diagnostics15121553.
8. Noguchi T, Odaka K, Fukuda KChallenges in Developing an Effective Inferior Alveolar Nerve Block GuideAnesth Prog 9;72(2):72–79, 2025. doi: 10.2344/22-0045
9. Milleman K, Bosma ML, Saito A, Gorecki P, Ding Y, Lanka U, DelSasso A, Wills K,.Milleman J: Changes in salivary flow and oral pH following use of different mouthrinse formulations in

addition to brushing versus brushing only.JDH 100: 9-19, 2026. https://doi.org/10.1000/jdh.2026.100.2.9
10. Hashimoto N, Nakajima K, Akashi Y, Kokubun K, Sugahara K, Katakura A, Matsuzaka KCholine transporter-like protein 1 in tongue squamous cell carcinoma: implications for cell proliferation and differentiationScientific Reports, 15:31927. doi: 10.1038/s41598-025-17702-x, 2025
11. Tokunaga K, Miyoshi S, Hojo F, Yonezawa H, Ida Y, Oka K, Takahashi M, Kamiya S, Miyoshi J, Hisamatsu T, Osaki T: Comparative study of gastric microbiota between patients with autoimmune gastritis and those with atrophic gastritis, Sci Rep. 15(1):27658, 2025. doi: 10.1038/s41598-025-12211-3
12. Yamamoto K, Akashi Y, Nakajima K, Kokubun K, Ohno T, Matsuzaka K.Comparison of lymphocytic response to oral epithelial pre-neoplastic and inflammatory lesions.J Oral Maxillofac Surg Med Pathol 38(2):302-311, 2026. doi.org/10.1016/j.ajoms.2025.09.013
13. Milleman K, Bosma ML, Saito A, Gorecki P, Ding Y, DelSasso A, Wills K,.Milleman J: Comparison of safety, salivary flow rate, and pH with different mouthrinse formulations in addition to toothbrushing vs toothbrushing only: Results from a 2-week phase 4 randomized controlled clinical trial.JADA 156(12), 991-1000. https://doi.org/10.1016/j.adaj.2025.08.022
14. Nishimura M, Tachiki C, Morikawa T, Ariizumi D, Matsunaga S, Sugahara K, Aihara Y, Watanabe A, Katakura A, Kawamata T, Nishii YCranial Vault Deformation and Its Association with Mandibular Deviation in Patients with Facial Asymmetry: A CT-Based StudyDiagnostics, 15:1702, doi: 10.3390/diagnostics15131702, 2025
15. Tang J, Li J, Hou Z, He R, Li B, Gong J, Xie Y, Meng W, Liu Y, Ouchi T, Li L, Li B: Dasatinib and Quercetin Mitigate Age-Related Alveolar Bone Inflammaging and Neutrophil Infiltration.Oral Dis. 31(6):1800-1815, 2025. doi: 10.1111/odi.15291.
16. Imamura K, Tachi K, Takayama T, Kasai H, Shohara R, Inoue K, Taguchi Y, Nakane-Koyachi S, Saito A, Yamano S: Developmental endothelial locus-1 promotes osteoclast differentiation and activationInt J Mol Sci 26:2673, 2025. 10.3390/ijms26062673
17. Tomura T, Ishii T, Kasahara N, Nishii Y.Dihydrotestosterone and 17β-estradiol modulate TMJ osteoarthritis development and reveal sex-specific differences in pathogenesis. Sci Rep. 2025 May 28;15(1):18740. doi: 10.1038/s41598-025-03475-w.
18. Tanaka T, Miyamoto E, Yoshihashi Y, Kitamura K, Hirano-Kawamoto A, Murakami G, Abe SDistribution of dendritic cells and macrophages in the nose with special reference to site-dependent differences: A cadaveric study.Ann Anat 262:152710, 2025. Doi: 10.1016/j.aanat.2025.152710
19. Saito A, Nagayama K, Okada H, Onodera S, Aida N, Nakamura T, Sawada T, Hojo H, Kato S, Azuma T.Downregulation of Nesprin1 by Runx2 deficiency is critical for the development of skeletal laminopathy-like pathologyProc Natl Acad Sci U S A. 2025 Apr 15;122(15): e2320138122. doi: 10.1073/pnas.2320138122.
20. Yang T, Yamamoto M, Abe M, Ishizuka S, Kitamura K, Abe K, Murakami G, Abe S: Dual attachment of the buccinator muscle at the pterygoid hamulus: implications for pterygoid implant surgeryInt J Implant Dent 31;12(1):5, 2025. doi: 10.1186/s40729-025-00663-1.
21. Horie K, Wang K, Huang H, Yasumatsu K, Ninomiya Y, Mitoh Y, Yoshida R.Dual functions of SNAP25 in mouse taste budsJ Physiol. 2025 603(16):4555-4571. doi: 10.1113/JP288683.
22. Ryu M., Takano T., Ohta M., Saito T., Nakazawa K., Kobayashi T., Yamamoto Y., Abe S., Ueda T.Educational challenges associated with edentulous models for teaching the structure of edentulous mucosa and submucosa of older adultsThe Bulletin of Tokyo Dental College, 67: 2026 (in press)
23. Kobayashi H, Schwindling FS, Tasaka A, Rammelsberg P, Yamashita S, Rues S: Effect of wall thickness on shape accuracy of hollow zirconia artificial teeth fabricated by a 3D printerJ Prosthodont Res 69(2): 233-242.2025.doi: 10.2186/jpr.JPR_D_23_00300.
24. Shimizu K, Yajima K, Kasahara M, Koshika K, Matsuura N, Ichinohe T: Effects of a combination of remifentanil amd desflirane or sevoflurane on hemodynamic fluctuations during eleftrical stimulation od the mental nerve in rabbits.J Vet Med Sci 87(6):640-646, 2025. doi: 10.1292/jvms.24-0440.

25. Shimazu K, Kasahara M, Koshika K, Ichinohe T: Effects of remimazolam with or without remifentanil on oral tissue blood flow and oxygen tension in rabbits.Anesth Prog 72(2):80-89, 2025. doi: 10.2344/23-0045.
26. Sato H, Gunkel K, Tödtmann N, Hummel T, Haehner AEfficacy of acupuncture in burning mouth syndrome: A placebo-controlled trialEur Arch Otorhinolaryngol 2026. doi: 10.1007/s00405-025-10001-1
27. Amemiya T, Ouchi T, Kimura H, Okuyama K, Phan TQ, Iwamoto T, Nakagawa T, Matsumoto M, Nakamura M, Okano H, Nagoshi N, Shibata S: Enhanced nerve regeneration after transplantation of NCAM-positive neural crest-like cells derived from human iPSC.Inflamm Regen. 46(1):10, 2026. doi: 10.1186/s41232-026-00409-5.
28. Tachizawa K, Sugahara K, Koyachi M, Odaka K, Matsunaga S, Sugimoto M, Katakura AEnhancing the accuracy of genioplasty using mixed reality and computer-aided design/manufacturing: a randomized controlled trialQuant Imaging Med Surg 15(5), 2025. doi: 10.21037/qims-2025-1348
29. Takano T., Ryu M., Ohta M., Saito T., Nakazawa K., Kobayashi T., Yamamoto Y., Ueda T.Enhancing undergraduate dental students' understanding of occlusal balance through small-group discussions combined with a digThe Bulletin of Tokyo Dental College, 67: 2026 (in press)
30. Ito K, Tasaka A, Kobayashi H, Nakata S, Yamashita S: Evaluation of CAD-CAM methods for fabrication of removable partial denture frameworks from commercially pure titanium.J Prosthodont Res. 2026 Mar 18. doi: 10.2186/jpr.JPR_D_25_00209.
31. Nagai Y, Tokita K, Yasumatsu KFatty Acid Taste Quality Information via GPR40 and CD36 in the Posterior Tongue of Mice.Acta Physiol. 2025 241(7): e70071. doi: 10.1111/apha.70071.
32. Suzuki S, Miyamoto E, Yoshihashi Y, Yamamoto M, Murakami G, Abe S, Rodríguez-Vázquez JFFetal development and growth of the human neck axial musculature.Anat Cell Biol, Online ahead of print. doi.org/10.5115/acb.25.186
33. Kim JH, Jin ZW, Miyamoto E, Takahashi S, Suzuki S, Murakami G, Abe SFetal development of chromogranin A-positive gastrointestinal endocrine cells revisited: a histological study using human fetuses.Anat Cell Biol 59(1):82-93, 2025. doi.org/10.5115/acb.25.196
34. Kikuchi Y, Kokubu E, Ishihara K: *Fusobacterium nucleatum* Increases Growth of Motile Bacterium *Treponema denticola* without Contact In Vitro. Bull Tokyo Dent Coll 66(4):145–156, 2025. doi: 10.2209/tdcpublication.2025-0015.
35. Yonezawa H, Kato H, Kamei S, Senpuku H：Gene expression analysis of the *Streptococcus mutans* competence regulon associated with the biofilm formation, International Journal of Oral-Medical Sciences. 24（1）:10–18, 2025. doi: 10.5466/ijoms.24.10
36. Shidara S, Ito S, Desai K, Tokuyama A, Leng R, Kawakami M, Matsunaga S, Komori T, Hosoya A, Nishii Y, Mizoguchi T.Genetic profile of Lepr+ skeletal stem/progenitor cells in the periodontal ligament and functional compensation during aging and bone repair.Bone 206:117833, 2026. doi: 10.1016/j.bone.2026.117833.
37. Rodríguez-Vázquez JF, Abe K, Morita K, Yoshihashi Y, Yamamoto M, Abe SGrowing lesser horn of the hyoid in human fetuses with special references to muscles attaching to it.J Oral Biosci 68(1)：100733, 2026. doi.org/10.1016/j.job.2026.100733
38. Odaka K, Tachizawa K, Koyachi M, Sugahara K, Matsunaga S, Sugimoto M, Katakura AHead-Mounted Display-Assisted Spatial Guidance in Ultrasonography: A Technical ReportCureus 17(9): e91792, 2025. doi:10.7759/cureus.91792
39. Fukuyo M, Takahashi N, Hanada K, Ishikawa K, Venclovas Č, Yahara K, Yonezawa H, Terabayashi T, Katsura Y, Osada N, Kaneda A, Camargo MC, Rabkin CS, Uchiyama I, Osaki T, Kobayashi I: *Helicobacter pylori* base-excision restriction enzyme in stomach carcinogenesis, PNAS Nexus. 4(8): pgaf244, 2025. doi: 10.1093/pnasnexus/pgaf244.
40. Shi L, He Z, Hiraga T, Liu Z, Yamashita T, Iwamoto R, Mizoguchi T, Nakamichi Y, Kubota Y, Udagawa N, Kobayashi Y;Identification of novel macrophages and bone morphogenetic protein signals causing ectopic calcification and impairing muscle regeneration.iScience 28(7):112841, 2025. doi: 10.1016/j.isci.2025.112841.

41. Räther S, Schwindling FS, Tasaka A, Rammelsberg P, Zenthöfer A, Rues S: Impact of Cutting Direction in CAD/CAM FRC Blanks on the Shear Bond Strength of Veneering Composites.Fibers 13(11), 144. 2025. doi.org/10.3390/fib13110144
42. Kobayashi H, Rues S, Tasaka A, Rammelsberg P, Yamashita S, Schwindling FS:Influence of wall thickness on the fracture resistance of hollow zirconia artificial teeth fabricated by 3D zirconia printing.J Prosthodont Res 69(3):421-428. 2025. doi: 10.2186/jpr.JPR_D_24_00166.
43. Li B, Ouchi T, Liu J, Yang Y: Injury-induced niche factors Cxcl12 and Shh/Ihh coordinate suture stem cell activation during calvarial bone regeneration.Sci Signal. 18(909): eadw7107, 2025. doi: 10.1126/scisignal. adw7107.
44. Sugahara K, Ito K, Koyachi M, Hoshino T, Tachizawa K, Nakajima S, Aoki K, Matsunaga S, Odaka K, Katakura AIntraoral approach using CAD/CAM technology for the Dingman method: a case description Quant Imaging Med Surg 16(1), 2026. doi: 10.21037/qims-2025-1348
45. Kitamura N, Hasegawa A, Nakamura-Takahashi A, Kasahara M, Akutsu H, Sago H, Samura O, Okamoto A, Umezawa A: In-utero cell transplantation for hypophosphatasia with gene-edited hESC-derived MSCs in a murine model. Mol Ther Adv in press, 2026.
46. Doya K, Imamura K, Mori S, Nakane-Koyachi S, Kokubu E, Ishihara K, Saito A: Investigating the effects of heated tobacco products on periodontal healing: insights from in vivo and in vitro experiments.Cureus 17: e80733, 2025. 10.7759/cureus.80733
47. Imai K, Kitamura K, Sekiya R, Morita K, Takahashi S, Murakami G, Rodríguez-Vázquez JF, Abe SJunction between membranous and endochondral bones in the developing occipital squamosa.Anat Cell Biol 58(4):570-580, 2025. doi.org/10.5115/acb.25.095
48. Tashiro K, Ikarashi T, Haketa M, Mitomo K, Mizoguchi T, Yamaguchi A, Muramatsu T.Localization of Gli1-expressing cells after pulp revascularization and their involvement in newly formed mineralized tissue in mice.Sci Rep 16(1):10065, 2026. doi: 10.1038/s41598-026-40945-1.
49. Matsumoto M, Shiotani A, Osawa M, Handa O, Matsumoto H, Umegaki E, Yonezawa H, Osaki T: Metagenomic analysis of the intragastric and oral microbiome associated with gastric carcinogenesis after *Helicobacter pylori* eradication.Gastric Cancer. 29(2):338-346, 2026. doi: 10.1007/s10120-026-01720-3.
50. Li S, Kim EJ, Kim HY, Muramatsu T, Kim JY, Park JH, Jung YS, Jung HS.Modulation of the tumor microenvironment through BMAL1 augments the sensitivity of ameloblastoma to vemurafenib.J Adv Res S2090-1232(25)00965-8. 2025. doi: 10.1016/j.are.2025.11.069
51. Kasahara N, Yamada M, Fujii R, Shiozaki K, Sekiya S, Matsunaga S, Kikuchi N, Kitamura K, Abe S, Yamamoto H: Morphological classification of mandibular central incisor root canals and incidence of accessory root canals in Japanese people using micro-computed tomography, J Hard Tissue Biol, 34(2), 2025 (https://doi.org/10.2485/jhtb.34.57)
52. Li B, Li W, Liao Y, Weng Z, Chen Y, Ouchi T, Fan Y, Zhao Z, Li L: Multi-omics approach reveals TGF-β signaling-driven senescence in periodontium stem cells.J Adv Res. 76:387-403, 2025. doi: 10.1016/j.jare.2024.12.037.
53. Koyachi M, Sugahara K, Nakajima S, Ito S, Odaka K, Matsunaga S, Watanabe A, Katakura AOral and Maxillofacial Surgery Education for Undergraduate Students Using 360‐Degree Videos in Virtual Reality SystemJournal of Dental Education, e13944. doi: 10.1002/jdd.13944, 2025
54. Muramatsu T, Yanagisawa A, Mitomo K, Takada K, Furusawa M, Abiko Y, Jung HS.Palmitate condition is involved in inflammatory environment and is involved in pyroptosis in a human dental pulp cell line.Dent J 14(1):51, 2026. doi:10.3390/dj14010051.
55. Ariizumi D, Ishii T, Hoshi S, Araida H, Morikawa T, Nishii Y.Patterns of Mandibular Incisor Agenesis in Japanese Patients With Non-syndromic Oligodontia: A Retrospective Study.Cureus. 2026 Jan 24;18(1): e102223. doi: 10.7759/cureus.102223.
56. Morikawa S, Yoda M, Ouchi T, Yasui T, Fukuda K, Sugimoto M, Harada R, Matsumoto T, Mabuchi Y, Tsuji O, Nagoshi N, Kase Y, Okano H, Kitagawa Y, Nakamura M, Nakagawa T, Nakayama Y:PDGFRα-positive mesenchymal stem/stromal cells contribute to autonomous vascular formation through in-body tissue architecturePLoS One. 2026. (in press)

57. Ouchi T, Ando M, Kurashima R, Kimura M, Saito N, Iwasaki A, Sekiya H, Nakajima K, Hasegawa T, Mizoguchi T, Shibukawa Y.Pericytes Are Odontoblast Progenitor Cells Depending on ER Stress.J Dent Res 104(6):656-667, 2025. doi: 10.1177/00220345241307944.
58. Hasegawa T, Ouchi T, Kurashima R, Kimura M, Asoda S, Nakagawa T, Shibukawa Y. Piezo1 negatively regulates proliferation, but enhances mineralization in human cementoblasts.J Oral Biosci 67(4):100705, 2025. doi: 10.1016/j.job.2025.100705.
59. Ouchi T, Morikawa S, Nakagawa T, Asoda S: Platelet-derived Growth Factor Receptor- α as a Biomarker for Tongue Spindle Cell Carcinoma.Anticancer Res. 45(4):1387-1393, 2025. doi: 10.21873/anticanres.17524.
60. Ishikawa N, Mori T, Nakamura Y: Postmortem changes in enzyme activity in rat teethForensic Dental Journal, 18(1):10-16, 2025
61. Fukushima T, Sugahara K, Ito K, Koyachi M, Nishiyama A, Kurihara C, Nakajima S, Matsunaga S,Katakura APosture analysis during tooth extractionBDJ Open, 11:16, doi: 10.1038/s41405-025-00311-1, 202
62. Kaneko R, Ouchi T, Kimura M, Kuroda H, Ichinohe T, Shibukawa Y: Pregabalin acts on Na+-Ca2+ exchanger, which promotes Ca2+ extrusion from human Merkel cell line.Pain Rep. 11(1): e1381, 2025. doi: 10.1097/PR9.0000000000001381.
63. Ono K, Someda H, Hashimoto M, Nakamura Y, Tayasu I, Yoshimizu C, Ishikawa N.Regional estimation by oxygen isotope ratio analysis using tooth enamel of Japanese individualsForensic Sciences Research, 10(4), 2025. doi: 10.1093/fsr/owaf024.
64. Jimbo Y, Kasahara M, Koshika K, Akiike Y, Ichinohe T: Remifentanil decreases changes in oral tissue blood flow during electrical stimulation of the mental nerve in anesthetized rabbitsAnesthesia Progress, in press
65. Jinbo Y, Kasahara M, Koshika K, Akiike Y, Ichinohe T: Remifentanil diminishes stimulation-indeced oral tissue blood flow changes.Anesth Prog 73(1):14-21, 2026. doi: 10.2344/24-0033.
66. Shionoya M, Koshika K, Ichinohe T: Remimazolam and epinephrine containing local anesthesia increase muscle relaxation associated with rocuroniumAnesthesia Progress, in press
67. Matsuura N, Sendai Y, Hasegawa M, Fukada M, Aida N, Onodera S, Koshika K, Ohno T.Remimazolam Attenuates Lipopolysaccharide-Induced Inflammatory Responses in Macrophages.Bull Tokyo Dent Coll 67(1):1-10, 2026. doi: 10.2209/tdcpublication.2025-0003.
68. Hayashi M, Ohka S, Nishizawa D, Inoue R, Hayashida M, Hasegawa J, Nakayama K, Ebata Y, Kang Y, Yoshida K, Koshika K, Fukuda K, Ichinohe T, Ikeda K:rs1051931 nonsynonymous polymorphism of platelet-activating factor acetylhydrolase PLA2G7 gene is associated with dysesthesia and pain severity after surgeryInternational Journal of Molecular Sciences, 26(9): 3931, 2025
69. Kikuchi Y, Kokubu E, Yonezawa H, Ishihara K: SigH of *Porphyromonas gingivalis* regulates oxidative stress resistance and invasion of oral epithelial cells.Bull Tokyo Dent Coll. Nov 15, 2025. doi: 10.2209/tdcpublication.2025-0013.
70. Miyamoto E, Aoki M, Kitamura K, Sekiya R, Morita K, Murakami G, Abe SSite-dependent differences and common features of lymph node architecture, with special reference to the distribution of nodal dendritic cells and macrophages: a cadaveric study.Anat Cell Biol 58(4):528-543, 2025. doi.org/10.5115/acb.25.138
71. Abe M, Kitamura K, Morita K, Abe K, Hirano-Kawamoto A, Murakami G, Abe SSupportive fibrous tissues of the nasal epithelium with special reference to the site-dependent difference.Anat Cell Biol, Online ahead of print. doi.org/10.5115/acb.25.252
72. Akira Watanabe, Kenichiro Suga, Jean-Charles Doucet, Shuji Yoshida, Masato Narita, Katsuya Kanno, Takeshi Uchiyama Surgical Correction of Secondary Bilateral Cleft lip and Nasal Deformities Using the Delaire-Precious TechniqueCleft Palate Craniofac J . 2025 Nov;62(11):1881-1887. doi: 10.1177/10556656241287079. Epub 2024 Oct 17.
73. Abe K, Morita K, Yamamoto M, Abe S, Murakami G, Rodríguez-Vázquez JF, Kasahara M: Tensor veli palatini muscle and palatine aponeurosis: Their independent fetal development and delayed meeting.Anat Rec 2026 Jan 23. doi: 10.1002/ar.70144. Online ahead of print.

74. Matsuura N, Takeda K, Sendai Y, Ichinohe T, Matsuura N, Azuma T, Okumura K, Ohno T.The translocator protein ligand Ro5-4864 inhibits RANKL-induced osteoclastogenesis in mice.Biomed Res 46(4):167-176, 2025. doi: 10.2220/biomedres.46.167.
75. Mori S, Mano S, Miyata N, Murakami T, Yoshida W, Imamura K, Saito A: Therapeutic potential of local application of fibroblast growth factor-2 to periodontal defects in a preclinical osteoporosis model.Bioengineering 12(7): 748, 2025. 10.3390/bioengineering12070748
76. Inose T, Matsunaga S, Kasahara N, Yamada M, Abe S, Furusawa M. Three-dimensional observation and classification of root and root canal morphology in Japanese mandibular third molars.J Hard Tissue Biol, 35(1):7-12, 2026. https://doi.org/10.2485/jhtb.35.7.
77. Kitamura Y, Kikuchi Y, Kokubu E, Yamashita K, Yonezawa H, Saito A, Ishihara K: Transcription regulator TrtA modulates oxygen stress response in *Treponema denticola*, Appl Environ Microbiol. 12: e0075025, 2025. doi: 10.1128/aem.00750-25.
78. Kitamura Y., Kikuchi Y, Kokubu E, Yamashita K, Yonezawa H, Saito A, Ishihara, K: TrtA modulates oxygen stress response in *Treponema denticola*, Appl Environ Microbiol e00750-25. 2025 https://doi.org/10.1128/aem.00750-25
79. Nakajima S, Sugahara K, Koyachi M, Tachizawa K, Nakada T, Okumura T, Nishiyama A, Odaka K, Matsunaga S, Katakura AVirtual reality enhances anatomical education for dental students and doctorsJournal of Oral and Maxillofacial Surgery, Medicine, and Pathology, 37:900-905, 2025

【総説および解説論文：英文】

＜2023 年度＞

1. Onodera S, Toshifumi A: Hedgehog-Related Mutation Causes Bone Malformations with or without Hereditary Gene Mutations: ***Int J Mol Sci***. doi: 10.3390/ijms241612903.
2. Taira K., Watanabe Y., Okada K., Kondo M., Takeda M., Ito K., Nakajima J., Iwasaki M., Itoda M., Inohara K., Sasaski R., Nishi Y., Furuya J., Watanabe Y., Umemoto G., Kishima M., Tohara T., Sato Y., Yoshida M., Yamazaki Y.: Association between denture use and food form in older adults requiring long team care: A multicenter cross-sectional study.: ***J of Prosthodont. Res*** 67(3):366-375,2023
3 Takeda M, Watanabe Y, Taira K, Miura K, Ohara Y, Iwasaki M, Ito K, Nakajima J, Iwasa Y, Itoda M, Nishi Y, Watanabe Y, Kishima M, Hirano H, Shirobe M, Minakuchi S, Yoshida M, Yamazaki Y.: Association Between Death or Hospitalization and Observable Variables of Eating and Swallowing Function among Elderly Residents in Long-Term Care Facilities: A Multicenter Prospective Cohort Study: ***Healthcare*** 11(14):1827, 2023

＜2024 年度＞

1. Li B, Lyu P, Tang J, Li J, Ouchi T, Fan Y, Zhao Z, Li L: The Potential Role and Therapeutic Relevance of Cellular Senescence in Skeletal Pathophysiology.: ***J Gerontol A Biol Sci Med Sci*** 79(4): glae037, 2024. doi: 10.1093/gerona/glae037.
2 Ouchi T, Shimizu E, Li B: Editorial: Perivascular niche and stem cell signaling in tooth.: ***Front Cell Dev Biol*** 13:1555739, 2025. doi: 10.3389/fcell.2025.1555739.

＜2025 年度＞

1. Desai KM, Mizoguchi T.Multifunctional LepR$^+$ skeletal stem/progenitor cells for bone and marrow homeostasis.J Bone Miner Metab 2026. doi: 10.1007/s00774-026-01698-z

【臨床論文および症例報告：英文】

＜2023 年度＞

1. Hashimoto K.; Muramoto H.; Suzuki T.; Kawachi H.; Nomura T.; Tanaka Y.; Sasaki A.: A case of clear cell odontogenic carcinoma with an aggressive extension arising in the maxilla: ***J Oral Maxillofac Surg, Med, Pathol*** 2024;36(2):247-252
2. Kato H, Watanabe A, Abe E, Nakajima K, Matsuzaka K, Takano M: A Case of Vascular Malformation in the Buccal Fat Pad.: ***The Bulletin of Tokyo Dental College***. doi: 10.2209/tdcpublication.2022-0029
3. Koyachi M, Sugahara K, Tachizawa K, Nishiyama A, Odaka K, Matsunaga S, Sugimoto M, Tachiki C, Nishii Y, Katakura A: Enhanced Precision in Genioplasty: A Novel Intraoperative Spatial Repositioning Using Computer-Aided Design and Manufacturing Technology and a Holographic Mixed Reality Application: ***J Clin Med***. 2023 Nov 29;12(23):7408. doi: 10.3390/jcm12237408.
4. Mika Otonari-Yamamoto, Kei Nakajima, Hitomi Sato, Hirotaka Wada, Hideki Matsumoto, Akihiro Nishiyama, Teruhide Hoshino, Kenichi Matsuzaka, Akira Katakura, Tazuko K. Goto: Dentigerous cysts suspected the other odontogenic lesions on panoramic radiography and CT: ***Oral Radiology***,40:319-326,2024. doi：10.1007/s11282-023-00732-4
5. Minabe M.; Inada J.; Akiyama Y.; Hashimoto K.; Minabe M.; Nomura T.; Kouno M.: Two cases of plasma cell mucositis successfully treated with antibacterial therapy based on periodontal bacterial test: ***J Oral Maxillofac Surg, Med, Pathol*** 2023;35(5):488-494
6. Ogane S, Fujii A, Suzuki T, Hashimoto K, Hashimoto S, Takano M, Katakura A, Nomura T.: Ameloblastic carcinoma of the mandible: a case report: ***Maxillofac Plast Reconstr Surg***. 2023 Apr 27;45(1):17. doi: 10.1186/s40902-023-00380-y.
7. Tasaka A, Sasaki H, Harada A, Ito K, Kobayashi H, Shimizu T, Yamashita S: Simultaneous prosthodontic treatment for crowns of natural teeth and dental implants using digital technology: A case report: ***Clin Case Rep***. 2023 May 16;11(5): e7187. doi: 10.1002/ccr3.7187. eCollection 2023 May.
8. Tasaka A, Shimizu T, Ito K, Wadachi J, Odaka K, Yamashita S: Digital technology for fabrication of removable dental prosthesis with double crowns combining fiber-reinforced composite and zirconia: ***J Prosthodont Res***. 2023 Jul 31;67(3):487-492. doi: 10.2186/jpr.JPR_D_22_00064. Epub 2022 Aug 27.
9. Teruhide Hoshino, Yu Koyama, Akira Katakura: Kissing molars class III detected at a young age: ***Maxillofacial Plastic and Reconstructive Surgery***, 45(1):20-24, 2023. Doi: 10.1186/s40902-023-00388-4
10. Yoshida K, Eriguchi A, Koshika K, Ichinohe T: A case of suspected negative pressure pulmonary edema after general anesthesia: ***Bull Tokyo Dent Coll*** 64(2):61-66, 2023. doi: 10.2209/tdcpublication.2022-0030.

＜2024 年度＞

1. Haku-Mizuhara K, Tanabe G, Kadempour A, Mirafzali S, Yotsuya M, Yamaguchi S: Development of a 4-dimensional virtual patient in motion: A digital concept: ***J Prosthet Dent***, 2025, doi.org/10.1016/j.prosdent.2025.02.064, in press
2. Hiraga C, Ishikawa S, Hashimoto K, Suzuki T, Sato K, Nomura T: Hyalinizing clear cell carcinoma of the base of tongue: A case report with distant metastasis: ***Oral sci. int***. 21(3):528-537, 2024. doi: 10.1002/osi2.1247
3. Ide F, Sakamoto S, Nishimura M, Miyazaki Y, Muramatsu T, Kikuchi K.: Misleading ameloblastomatoid and squamobasaloid rests growing within the nerve: a 100-year-old concept revisited.: ***Oral Surg Oral Med Oral Pathol Oral Radiol***, 2025 doi:10.1016/.oooo.2025.02.018
4. Inoue A, Ikeda K, Goto TK, Hashimoto K: A case of sialodochitis fibrinosa with MR findings leading to selection of an appropriate treatment.: ***Radiology Case Reports*** 19(10):4670-4674,2024. doi: 10.1016/j.radcr.2024.07.104.

5. Nagai S, Hoshino T, Yoshida S, Watanabe A, Katakura A: A case of evaluation of the bony beam structure in a patient with skeletal mandibular prognathism with X-linked hypophosphatemic rickets treated with surgical orthodontic treatment: ***JJournal of Oral and Maxillofacial Surgery, Medicine, and Pathology***, 2025 in press
6. Nakada T, Koyachi M, Sugahara K, Nishiyama A, Kawakami M, Nakajima S, Tachizawa S, Odaka K, Matsunaga S, Sugimoto M, Katakura A: A Case of Application of Computer-Aided Design and Manufacturing Technology and Extended Reality Surgical Assistance to Marginal Mandibulectomy: ***J Clin Med*** 14(1), 8, 2025. doi: 10.3390/jcm14010008
7. Sakai K, Minabe M, Hata K, Kamemoto K, Masuda K, Hashimoto K, Nomura T, Matsuura N: Successful Treatment of a Rapidly Enlarging Mandibular Aneurysmal Bone Cyst With Sclerotherapy and Intralesional Curettage.: ***Cureus*** 17(1): e78256. 2025. doi: 10.7759/cureus.78256
8. Tsurumi A, Minabe M, Ueno S, Akira Y, Morita N, Hashimoto K, Natsyyra N, Nomura T, Kouno M: Two cases of lichen planus in the oral cavity and laryngopharynx: ***J Oral Maxillofac Surg Med Pathol*** 37(1):221-227. 2025. doi: 10.1016/j.ajoms.2024.06.009

＜2025 年度＞

1. Noguchi T, Odaka K, Fukuda KChallenges in Developing an Effective Inferior Alveolar Nerve Block GuideAnesth Prog 9;72(2):72–79, 2025. doi: 10.2344/22-0045
2. Ogawa Y, Aslan S, Goto H, Kawanabe D, Nagai T, Maekawa S, Ishikawa T, Saito A, Cortellini P, Imamura K: Clinical outcomes of periodontal regenerative therapy with Double-sided Entire Papilla Preservation (DEPP) technique for intrabony defects: a case-series with 12-month follow-up.Int J Periodontics Restorative Dent 2025. 10.11607/prd.7532
3. Kazuki Morimoto, Kamichika Hayashi, Akane Ogiwara, Satoki Nshimura, Shuji Yoshida, Akira WatanabeDelayed Inflammatory Foreign Body Reaction to PLLA After Genioplasty: A Case ReportOral Science International 23 2025. doi: 10.1002/osi2.70040
4. Iwasaki A, Nishiyama A, Otonari M, Sugahara K, Katakura ADetection of Iatrogenic Lingual Nerve Injury Using Ultrasonography: Technical NoteAdvances in Oral and Maxillofacial Surgery, doi.org/10.1016/j.adoms.2025.100601, 2025
5. Iida Y, Kameda Y, Tasaka A, Yamashita S：Digital Removable Partial Denture Fabrication Using an Intraoral Scanner and the Altered-Cast Technique for a Patient With Free-End Partial Edentulism: A Case Report.Case Rep Dent. 2025 Nov 12; 2025:3588047. doi: 10.1155/crid/3588047.
6. Odaka K, Tachizawa K, Koyachi M, Sugahara K, Matsunaga S, Sugimoto M, Katakura AHead-Mounted Display-Assisted Spatial Guidance in Ultrasonography: A Technical ReportCureus 17(9): e91792, 2025. doi:10.7759/cureus.91792
7. Sugahara K, Ito K, Koyachi M, Hoshino T, Tachizawa K, Nakajima S, Aoki K, Matsunaga S, Odaka K, Katakura AIntraoral approach using CAD/CAM technology for the Dingman method: a case description Quant Imaging Med Surg 16(1), 2026. doi: 10.21037/qims-2025-1348
8. Nishiyama A, Neff A, Nakada T, Ariizumi T, Iwasaki A, Sugahara K, Katakura KInvasion of calcium hydroxide preparations leading to severe nerve injury treated through nerve repair using artificial nerve conduit: A case report Case Reports in Dentistry, doi.org/10.1155/crid/6610331, 2025
9. Homma H, Sakurai A, Ariizumi D, Nishii Y, Shintani SLong-term Oral Management for 2q37 Deletion Syndrome Patient.Bulletin of Tokyo Dental College 67(1):17-25, 2026
10. Kamichika Hayashi, Takaharu Ariizumi, Hiroshi Kato, Shuji Yoshida, Akira WatanabeMultiple Myeloma That Required Differentiation From Temporomandibular Joint Disorder: A Case ReportCase Reports Dentistry 20 2025 https://doi.org/10.1155/crid/4403039Digital Object Identifier (DOI)
11. Tomita S, Bizenjima T, Shirahata A, Takayama H, Saito A: Periodontal regenerative therapy for Stage III Grade B periodontitis with degree 2 furcation involvement and angular bone defect: a 7-year follow-up report.Bull Tokyo Dent Coll 66:73-82, 2025. 10.2209/tdcpublication.2024-0040

12. Harada R, Yamashita K, Imamura K, Inagaki S, Saito A: Periodontal regenerative therapy with recombinant human fibroblast growth factor-2 and autogenous bone graft in treatment of generalized aggressive periodontitis (Stage III, Grade C): A case report with 1-year follow-up. Bull Tokyo Dent Coll 66:123-132, 2025 10.2209/tdcpublication.2024-0049.
13. Kitamura Y, Okuyama K, Saito A:Periodontal surgery using recombinant human fibroblast growth factor-2 in combination with carbonate apatite granules for stage III grade C periodontitis: a 30-month case report.Bull Tokyo Dent Coll 66:31-40, 2025. https://doi.org/10.2209/tdcpublication.2024-0029
14. Minabe M, Ueno S, Hata K, Akira Y, Morita N, Kawachi H, Sakai K, Takahashi K, Kouno M, Nomura T: Questionnaire Survey on Enterococcus faecalis-2001 Supplementation in 137 Patients With Oral Diseases at Two Facilities. Cureus 17(9): e91382, 2025. doi: 10.7759/cureus.91382.
15. Miyata N, Aoki H, Imamura K, Saito A: Recombinant human fibroblast growth factor (rhFGF)-2 and autogenous bone graft in periodontal regenerative therapy for stage III grade C periodontitis: a case report.Bull Tokyo Dent Coll 66:83-92, 2025. 10.2209/tdcpublication.2024-0044
16. Hisanaga-Mokudai R, Yoshikawa K, Saito A: Treatment of Stage III Grade C periodontitis with smoking cessation care and periodontal surgery including regenerative therapy: a case report with a two-year follow-up.Cureus 17: e85449, 2025. 10.7759/cureus.85449
17. Hoshino T, Yoshida S, Kurihara C, Oiwa K, Tachizawa K, Sugahara K, Katakura AUsing computer-aided design/computer-aided manufacturing technology for foreign body removal from soft tissues: a case reportMaxillofacial Plastic and Reconstructive Surgery, 47:27, doi: 10.1186/s40902-025-00479-4, 2025

【原著論文：和文】

＜2023 年度＞

1. 沖野早苗, 森川泰紀, 石井武展, 坂本輝雄, 西井康, 渡邉美貴, 吉田秀児, 渡邊 章, 成田真人, 中野洋子, 石垣達也, 鈴木啓之: 片側性唇顎口蓋裂患者の外科的矯正治療が選択される歯・顎顔面形態の検討: ***日本口蓋裂学会雑誌*** 48:34-42, 2023.
2. 加藤 宏, 藤川 秋, 小山 侑, 小谷地雅秀, 星野照秀, 西山明宏, 吉田秀児, 渡邊 章, 髙野正行, 片倉朗: 東京歯科大学水道橋病院口腔外科における最近 3 年間の全身麻酔での入院手術症例の臨床的観察：COVID-19 感染拡大の影響の評価について: ***歯科学報*** 123(4):373-380, 2023.
3. 鎌田聡仁, 田坂彰規, 染屋智子, 服部雅之, 山下秀一郎: 新しい光重合型リライン材と義歯床用レジンとの接着強度に関する検証, ***歯科学報*** 124:23-28, 2024.
4. 小出真菜, 森川泰紀, 石井武展, 坂本輝雄, 西井 康, 石垣達也, 鈴木啓之: 片側性唇顎口蓋裂患者における上顎前方牽引装置の長期的経過観察: ***日本口蓋裂学会雑誌*** 48:209-216, 2023.
5. 辛 麻由, 星野照秀, 菅原圭亮, 髙野正行, 片倉 朗: 東京歯科大学水道橋病院における全身麻酔下での上顎正中部過剰埋伏歯の臨床的検討: ***小児口外*** 33(3)：41-48, 2024.
6. 森田奈那, 三邉正樹, 橋本和彦, 稲田潤一郎, 秋山友理恵, 青木勇介, 河野通良, 高橋 慎一, 野村武史, 松浦信幸: 口腔苔癬様病変 11 例の臨床的・病理組織学的検討: ***日口外誌*** 69（4）：185-196, 2023.

＜2024 年度＞

1. 相磯友里, 石川早紀, 巽 綾香, 田中詩織, 関川翔一, 鈴木大貴, 片倉 朗, 野村武史: 終末期口腔癌患者の転院および看取りに関する臨床的検討: ***日口腔腫瘍会誌*** 36(3)：63-72,2024. https://doi.org/10.5843/jsot.36.63
2. 小林奈菜美, 森川泰紀, 石井武展, 原崎ひとみ, 渡邉美貴, 渡邊 章, 成田真人, 西井 康: 東京歯科大学千葉歯科医療センター矯正歯科における口唇裂,口蓋裂患者に関する 40 年間の臨床疫学的調査: ***歯科学報*** 124(2)：117-125. 2024.
3. 小谷地雅秀, 菅原圭亮, 立澤孝太郎, 小髙研人, 松永 智, 中島信太郎, 中田貴大, 片倉 朗: 360 度

カメラによる新規 VR 手術トレーニングシステムの開発: ***歯科学報*** 124(2): 154, 2024.

4. 澁川義幸: 東京歯科大学研究プロジェクトからの情報発信　常態-病態機能解析ラボの現状と将来: ***歯科学報,*** 124：42-46, 2024.
5. 立木千恵, 松永 智, 菅原圭亮, 笠原典夫, 西井 康: 歯科矯正用アンカースクリューを加強固定として用いた矯正歯科治療の歯の移動様相: ***臨床バイオメカニクス*** 45：222-226, 2024.
6. 立澤孝太郎, 小谷地雅秀, 菅原圭亮, 小髙研人, 松永 智, 片倉 朗: ホログラム手術ガイドを応用したオトガイ形成術における新たな顔貌プレディクションの開発: ***歯科学報*** 124(2): 154, 2024.
7. 立澤孝太郎, 菅原圭亮, 小谷地雅秀, 中島信太郎, 中田貴大, 小髙研人, 松永 智, 片倉 朗: CAD/CAM 技術と Mixed Reality 技術を併用したオトガイ形成術は手術の精度を向上させる: ***日本口腔外科学会雑誌*** 73(2):118-9, 2024.
8. 原崎ひとみ, 森川泰紀, 石井武展, 小林奈菜美, 坂本輝雄, 渡邊美貴, 渡邊 章, 成田真人, 石垣達也, 西井 康: 東京歯科大学千葉歯科医療センター矯正歯科における口唇裂・口蓋裂患者の交叉咬合に関する 40 年間の臨床統計的観察: ***日本口蓋裂学会雑誌*** 49(1), 1-9. 2024.
9. 山本楓華, 立木千恵, 松永 智, 菅原圭亮, 笠原典夫, 西井 康: ラットを用いた Ridge preservation 後の歯の移動と周囲顎骨の構造解析: ***臨床バイオメカニクス*** 45：236-240, 2024.

＜2025 年度＞

1. 櫻井敦朗, 田中亜生, 新谷誠康: Skill Up! 乳歯の歯冠修復: ***The Quintessence*** 44(10):2056-2076, 2025.
2. 森本和樹, 林 宰央, 村松賢太郎, 有泉高晴, 渡邊 章: ナビゲーションガイド下に除去を行った内側翼突筋に迷入した歯科用注射針の 1 例: ***日本口腔外科学会雑誌*** 71：509-514, 2025.
3. 黄地健仁, 倉島竜哉, 木村麻記, 澁川義幸: 東京歯科大学研究プロジェクトからの情報発信 ㉙ 新たな東京歯科大学研究プロジェクト（ウェルビーイングプロジェクト）「メカニカルストレス制御性の歯と歯周組織再生」: ***東京歯科大学同窓会会報*** 442:15-19, 2025.
4. 塩崎一成, 勝村聖子, 佐藤慶太, 笠原典夫, 山田雅司, 松永 智: マイクロ CT を用いた日本人上顎中切歯における根管形態の微細構造学的研究: ***日本デジタル歯科学会雑誌***, 14(3):127-132, 2025 .
5. 塩崎一成, 勝村聖子, 佐藤慶太, 笠原典夫, 山田雅司, 松永 智: マルチスライス CT を用いたインド人前頭洞の三次元構造解析～無歯期・乳歯列期・永久歯列期の比較研究～: 日本デジタル歯科学会雑誌, 14(3):133-138, 2025 .
6. 塩崎一成, 松永 智, 山田雅司, 笠原典夫: 個人識別における左右耳介の三次元的相同性: ***日本デジタル歯科学会誌*** 14(3) 139-144, 2025.
7. 上田貴之, 堀 綾夏, 堀部耕広, 太田 緑, 竜 正大: 口腔機能低下症の検査法の違いが口腔機能管理料算定に与える影響: ***老年歯科医学***, 40:129-133, 2025.
8. 平井研吾, 櫻井敦朗, 新谷誠康: 歯（スピードアップデート！各領域の 3 大ニュース・トピックス 2025）: ***小児科*** 66(13):1590-1593, 2025.
9. 髙野智史, 齋藤 壮, 堀 綾夏, 久保慶太郎, 眞田知基, 河野立行, 堀部耕広, 太田 緑, 竜 正大, 上田貴之: 歯科外来患者における OF-5 によるオーラルフレイル該当者と非該当者の口腔機能およびフレイルの比較: ***老年歯科医学***, 40, 2026 (in press)
10. 櫻井敦朗: 小児のフッ化物の使い方（簡単にも!詳しくも!DH のための説明力向上講座）: ***歯科衛生士*** 49(2):47-53, 2025.
11. 黄地健仁, 倉島竜哉, 木村麻記, 澁川義幸: 象牙質痛および象牙質再生制御機構から考える, 歯髄幹細胞ネットワーク: ***日本口腔科学会雑誌***, 75(1):8-15, 2026.
12. 塩崎一成, 勝村聖子, 佐藤慶太, 笠原典夫, 山田雅司, 松永 智: 上顎洞と眼窩下管の成長発育に関する研究　～メディカル CT を用いた三次元構造解析による比較研究～: ***日本デジタル歯科学会雑誌***, 14(3):145-150, 2025 .
13. 新行内恵, 岩本昌士, 中島 啓, 和光 衛, 渡邉美貴, 成田真人, 柴原孝彦, 松坂賢一, 渡邊 章, 片倉 朗: 知的障害を有する患者に発生した顆粒細胞腫の 1 例: ***歯科学報*** 125:261-267, 2025.
14. 塩崎一成, 勝村聖子, 佐藤慶太, 笠原典夫, 山田雅司, 松永智: 日本人下顎中切歯における根管形態の微視的構造：マイクロ CT を用いた三次元的な構造解析本: ***デジタル歯科学会雑誌***, 14(3):121-126, 2025.

【総説論文および解説論文：和文】

＜2023 年度＞

1. 石井武展: 性ホルモンと機械的刺激による変形性顎関節症の病態発生機序の解明とその治療戦略: ***細胞*** 56(1) 58-61, 2024.
2. 大久保真衣: 【口腔筋機能療法(MFT)を学ぶ】摂食嚥下リハビリテーションを行う上で: ***小児歯科臨床*** 29(3)： 28-35, 2024.
3. 大久保真衣: 関連領域と MFT　摂食嚥下リハビリテーションの実際: ***MFT 学会会誌*** 13(1)： 25-27, 2024.
4. 笠原正貴: 漢方薬を知る: ***老年歯科医学*** 38(4)：136-140, 2024.
5. 菊池有一郎: コロナ禍におけるルイビル大学での研究生活: ***歯科学報*** 123(4):354-359. 2023.
6. 櫻井敦朗, 佐藤涼一, 間奈津子, 齋藤暁子, 国分栄仁, 新谷誠康: 「東京歯科大学研究プロジェクトからの情報発信」25.子供の齲蝕にまつわる温故知新と最新研究: ***歯科学報***, 123-4:317-326, 2024.
7. 佐藤涼一: う蝕になりにくい食品とは？～非う蝕誘発性甘味料と食品表示～: ***日本食品安全協会会誌*** 第 18 巻(3):160-166, 2023.
8. 佐藤涼一: カラーアトラス「リン酸酸性モノフルオロリン酸ナトリウム溶液（AP-MFP）によるエナメル質耐酸性の向上」: ***歯科学報***, 123-4:367-369, 2024.
9. 菅野亜紀: 日本の老年歯科医療における歯科衛生士の役割: ***老年歯科医学*** 38(3):68-71, 2023.
10. 菅原圭亮, 田坂彰規, 松永 智, 片倉 朗: 「東京歯科大学研究プロジェクトからの情報発信」24. 基礎－臨床橋渡し研究に基づいた FabLab グループの成果とこれからの展望: ***歯科学報***, 123(3):239-249, 2023.
11. 田坂彰規, 山下秀一郎: 特集「口腔内スキャナー：アップデート」パーシャルデンチャーへの IOS の応用－研究・臨床での試み－: ***日本歯科理工学会誌*** 42(2):89-92, 2023.
12. 西井 康: II 級外科症例の安定性について　短期,長期リテンションと不安定要因: ***中・四国矯正歯科学会雑誌*** 35:15-19, 2023.
13. 西山明宏, 有泉高晴, 片倉 朗: 末梢神経損傷の修復と機能回復　基礎と臨床: ***日本歯科医師会雑誌*** 76(4):281-289, 2023.
14. 野村武史: 口腔扁平上皮癌の早期診断に対する光学機器の臨床応用: ***日本口腔診断学会雑誌*** 36(2):106-114, 2023.
15. 溝口利英, 澁川義幸, 大野建州, 菅原圭亮, 山口 朗: 「東京歯科大学研究プロジェクトからの情報発信」 新たな研究プロジェクト「各ライフステージにおける口腔顎顔面機能維持・改善で目指すウェルビーイング社会の実現(ウェルビーイングプロジェクト)」の概要紹介: ***歯科学報*** 123(2): 73-82, 2023.

＜2024 年度＞

1. 石田晃裕, 竜 正大, 上田貴之: 高齢者歯科における義歯臨床のキーポイント　6　新製・調整だけではダメ？　高齢の義歯装着者における口腔機能低下へのアプローチ,: ***歯界展望*** 145(3)： 2025.
2. 大野建州, 上田貴之, 石井武展, 小野寺晶子, 米澤英雄, 恩田健志: 歯学の進歩・現状「東京歯科大学研究プロジェクトからの情報発信」　生体防御ラボのこれからの展望: ***歯科学報*** 124(4)：291-299. 2025.
3. 櫻井敦朗: むし歯予防・フッ素: ***小児科*** 65:1392-1397, 2024.
4. 櫻井敦朗, 新谷誠康: 口腔内細菌叢からみた小児齲蝕の知見: ***東京都歯科医師会誌*** 72(9):3-9, 2024.
5. 櫻井敦朗: 舌下免疫療法中の患児への適切な対応: ***デンタルダイヤモンド*** 49(13):134-136, 2024.
6. 櫻井敦朗, 新谷誠康: 第一大臼歯にみられるエナメル質形成不全の疫学: ***日本歯科評論別冊*** 22-27, 2024.
7. 佐藤涼一, 上條英之: ナノ粒子卵殻由来アパタイトと高濃度フッ化物の作用による新規酸蝕症予防法の開発: ***日本労働衛生研究協議会雑誌***, 30(1):34-36, 2024.
8. 菅原圭亮, 大岩浩気, 片倉 朗: 口腔外科学における DX の推進: ***小児歯科臨床*** 29(4): 6-17,

2024.

9. 菅原圭亮, 田坂彰規, 松永 智, 片倉 朗: 生体医工学ラボの成果とこれからの展望: ***歯科学報*** 124(2): 77-84, 2024.
10. 田坂彰規, 伊東紘世, 清水廷浩, 長島基幸, 平林　剛, 森　亮太, 山下秀一郎: デジタル技術を活かしたパーシャルデンチャーの臨床応用 －現在の到達点と課題－: ***日本歯科評論***, 84: 27-53, 2024.
11. 比嘉一成, 白根茉莉子, 山口剛史:「東京歯科大学研究プロジェクトからの情報発信」30. ウェルビーイングプロジェクトにおける口腔粘膜を活用した角膜再生: ***歯科学報***, 125(1):1-5, 2025.
12. 水口俊介, 會田英紀, 伊藤加代子, 有友たかね, 大渡凡人, 中根綾子, 原野 望, 竜 正大, 小笠原正, 尾立 光: 老年歯科医学　診療参加型臨床実習マニュアル「口腔機能低下症の検査」: ***老年歯科医学*** 39(supplement)：13-40, 2024.
13. 宮吉美仁, 春山亜貴子, 村松 敬: CR 修復の際の適正な照射時間・照射方向について教えていただきたいです。 照射時間が長いほど，重合度は高くなるのでしょうか。: ***歯科学報*** 124(1)：47-49, 2024.
14. 安松啓子, 永井由美子, 上島文江: 日常に潜む味覚感受性低下の原因と健康リスク: 脂肪酸の味覚を含めて, 新規創薬標的を導く感覚器研究の新展開: ***日本薬理学雑誌*** 160:73-78, 2025.

＜2025 年度＞

1. 黄地健仁, 倉島竜哉, 木村麻記, 澁川義幸:「東京歯科大学研究プロジェクトからの情報発信」32. 歯髄血管周囲のニッチ機構とペリサイトが担う象牙質再生－歯髄における小胞体ストレス制御機構：恒常性維持と再生応答の鍵－“ Report by the Tokyo Dental College Research Project” 32： Dentin regeneration mediated by perivascular niche mechanisms and pericytes in the dental pulp － Endoplasmic reticulum stress regulation as a key to homeostasis and the regenerative response in dental pulp －:***歯科学報*** 125(3):221-228, 2025.
2. 柳下寿郎, 明石良彦, 茨生田整治, 石川文隆, 伊藤由美, 猪俣 徹, 河内 洋, 佐藤由紀子, 里見貴史, 関川翔一, 相馬智也, 舘原誠晃, 野村武史, 藤井誠志, 松坂賢一, 辺見卓男, 道 泰之, 八木原一博, 山城正司: WHO 頭頸部腫瘍分類の改訂(第 5 版)に伴う口腔潜在的悪性疾患と口腔上皮性異形成の臨床と病理:***日口腔腫瘍会誌***　37（2）：41－51, 2025.
3. 平井研吾, 櫻井敦朗, 新谷誠康：スピードアップデート！　各領域の 3 大ニュース・トピックス 2025: ***小児科***　66（13）: 1590-1593, 2022.
4. 田坂彰規, 小林 裕：パーシャルデンチャー製作におけるデジタルテクノロジーの応用: ***歯科学報***, 125(2): 85-91, 2025.
5. 竜 正大, 上田貴之: 口腔機能低下症の管理とオーラルフレイルに関する最新知見: ***歯科学報***, 125(4): 277-284,
6. 澁川義幸, 木村麻記, 黄地健仁, 倉島竜哉, 山本 仁: 口腔粘膜からみる医科との診療連携と歯科診療 - 東京歯科大学リカレント教育セミナーより-(1) 口腔粘膜の機能 : Revisiting - 口腔粘膜構造と感覚受容: ***歯界展望*** 145(5) 844-851, 2025.
7. 田中康裕, 荒井 亮, 小松千晃, 丹羽佳世子, 本間宏実, 辻野啓一郎, 櫻井敦朗, 新谷誠康: 根管治療剤が原因と考えられる為害作用を生じた 2 例: ***小児歯科学雑誌***, 63(3):79-86, 2025.
8. 黄地健仁, 倉島竜哉, 木村麻記, 澁川義幸：象牙質痛および象牙質再生制御機構から考える歯髄幹細胞ネットワーク: ***日本口腔科学会雑誌***, 75 巻 1 号 : 8-15, 2026.
9. Ouchi T, Li B, Yang Y：損傷誘導性微小環境（ニッチ）因子 Cxcl12 および Shh/Ihh が頭頂骨の再生過程で縫合幹細胞の活性化を協調させる Science Signaling : ***Japanese Scientists in Science Signaling 2025: シグナリングに載った日本の研究者***. P10-11. American Association for the Advancement of Science. 2026.
10. 田坂彰規：東京歯科大学研究ブランディング事業からの情報発信 デジタル技術のパーシャルデンチャーへの応用　-IOS・3D プリンターを用いた研究から: ***東京歯科大学同窓会会報***, 441：11-15, 2025.
11. 黄地健仁, 倉島竜哉, 木村麻記, 澁川義幸：東京歯科大学研究プロジェクトからの情報発信 ㉙ 新たな東京歯科大学研究プロジェクト（ウェルビーイングプロジェクト）「メカニカルストレス制御性の歯と歯周組織再生」: ***東京歯科大学同窓会会報***　No.442（2025 年 12 月号）. P15-19, 2025.

12. 櫻井敦朗, 田中亜生, 新谷誠康：乳歯の歯冠修復: ***ザ・クインテッセンス*** 44（10）：78-98（2056-2076）, 2025.
13. 四ツ谷護: 変形性顎関節症モデルマウスにおける下顎頭形態及び Asporin の初期変化, ***Precision Medicine*** 8（5）：77-80, 2025.

【臨床論文および症例報告：和文】

＜2023 年度＞

1. 内山沙姫, 石井武展, 坂本輝雄, 末石研二, 矢澤真樹, 坂本好昭, 玉田一敬, 西井 康, 小方清和: 両側唇顎口蓋裂患者に IDO(Interdental Distraction Osteogenesis)を用いて咬合の回復をした症例: ***日本口蓋裂学会雑誌*** 48:225-233, 2023.
2. 大久保真衣, 平田創一郎, 石塚洋一, 大澤航介, 渡部友莉, 奥村知里, 府馬亮介, 杉山哲也, 石田瞭: 多職種連携を考慮した歯科と栄養学科の合同実習の取り組み: ***歯科学報*** 123(2) : 129-138, 2023.
3. 加藤禎彬, 西山明宏, 山本裕義, 小谷地雅秀, 高木 亮, 片倉 朗: 内反性導管乳頭腫と粘液嚢胞が下唇に併発した 1 例: ***日本口腔外科学会雑誌*** 69(5): 241-246, 2023.
4. 木村絵美子, 有泉 大, 西井 康: 思春期性成長後から矯正治療を開始した鋏状咬合を伴う重度過蓋咬合症例: ***歯科学報*** 123:300-309, 2023.
5. 小谷地雅秀, 菅原圭亮, 立澤孝太郎, 西山明宏, 小高研人, 松永 智, 杉本真樹, 立木千恵, 西井 康, 片倉 朗: 口腔外科領域における XR 技術の応用 デジタルテクノロジーで手術精度・安全性と教育効果は向上する: ***INNERVISION*** 38(12): 86-90, 2023.
6. 小山拓洋, 西山明宏, 小川内香帆, 品川翔太, 片倉 朗: アロディニアを併発した急性下顎骨骨髄炎の 1 例: ***日本口腔診断学会雑誌*** 36(2)： 153-157, 2023.
7. 小山 侑, 西山明宏, 立澤孝太郎, 加藤禎彬, 小谷地雅秀, 片倉 朗: 上顎に発生した Kissing molars の 1 例: ***日本口腔外科学会雑誌*** 69(7): 348-352, 2023.
8. 櫻井敦朗: MIH の原因と対応: ***大阪府学校歯科医会雑誌***, 27(3): 1-5, 2023.
9. 辛 麻由, 星野照秀, 菅原圭亮, 髙野正行, 片倉 朗: 東京歯科大学水道橋病院における全身麻酔下での上顎正中部過剰埋伏歯抜歯の臨床的検討: ***小児口腔外科*** 33(3): 41-48, 2024.
10. 瀧沢寛律, 吉田佳史, 巽 綾香, 田中詩織, 齋藤大幹, 小松万純, 松浦信幸, 飯村慈朗, 野村武史:歯科と耳鼻咽喉科の連携による歯性上顎洞炎の治療: ***歯科学報*** 123:327-332, 2023.
11. 戸嶋 翼, 立木千恵, 西井 康: 側方タングクリブ付き保定装置を使用して安定を得た側方歯開咬を伴う Angle II 級 1 類症例: ***東京矯正歯科学会雑誌*** 33:121-126, 2023.
12. 戸嶋未妃, 立木千恵, 西井 康: 上下顎移動術を施行した開咬を伴う著しい骨格性下顎前突症例: ***東京矯正歯科学会雑誌*** 33:127-132, 2023.
13. 中島 啓, 國分克寿, 吉田秀児, 鳥山 茜, 泉 浩, 肥後隆三郎, 高野正行, 冨田茂樹, 松坂賢一: 隆起性病変として発見された正中菱形舌炎の 2 例 免疫染色による検討を含む: ***診断病理*** 40(2): 186-192, 2023.
14. 二階堂純彦, 星野照秀, 吉田秀児, 栗原智尋, 杉浦 慧, 片倉 朗: 眼窩下縁に認めた異所性埋伏犬歯の 1 例: ***口外誌*** 70(1) : 27-30, 2024.
15. 星野照秀, 片倉朗: 骨吸収抑制薬関連顎骨壊死（ARONJ）stage II の高齢者に対して外科的療法を行った 1 例: ***老年歯学*** 38(3) : E80-E83, 2023.
16. 四ツ谷護: 下顎左側臼歯部遊離端欠損に対してインプラント治療を行った 1 症例: ***日口腔インプラント誌***, 第 36 巻　第 4 号, E269.

＜2024 年度＞

1. 秋山友理恵, 三邉正樹, 鶴見 惇, 橋本和彦, 河野道良, 野村武史: 口腔に限局した多形紅斑（Oral Erythema Multiforme）の 4 例: ***日口外誌*** 71（2）: 44-50, 2025.
2. 伊藤和宏, 伊藤有美香, 佐川優子, 小高研人, 松永 智, 立澤孝太郎, 栗原智尋, 菅原圭亮, 片倉 朗: CAD/CAM および Mixed reality 技術を用いて骨造成およびインプラント埋入を行った 1 例: ***茨城県歯科医師会雑誌*** 32: 3-7, 2024.

3. 浜野美幸, 櫻井敦朗, 新谷誠康: フッ化物配合歯磨剤の推奨される利用方法について: ***小児保健研究*** 83:238-243, 2024
4. 和田大岳, 音成実佳, 中島 啓, 有泉高晴, 松元秀樹, 佐藤仁美, 渡邊 章, 松坂賢一, 後藤多津子: 対側の下顎隆起好発部位に生じた類骨骨腫の一例: ***歯科放射線***, 第 64 巻第 2 号,

＜2025 年度＞

1. 中村ゆり子, 森田奈那, 酒井克彦, 橋本和彦, 松浦信幸, 野村武史: Hedgehog 関連遺伝子に多重変異を認めた小児 Gorlin 症候群の 1 例: ***日口外学会誌***, 71（9）：398-403, 2025.
2. 松元秀樹, 音成実佳, 明石良彦, 和田大岳, 佐藤仁美, 加藤宏, 渡邊章, 松坂賢一, 後藤多津子: 隔壁様所見を呈した下顎枝部にまで進展した単純性骨嚢胞の画像所見: ***歯科放射線***: 65(2):81-86, 2025.
3. 金井美緒, 小鹿恭太郎, 四万村梓, 橋本 渉, 吉田香織, 松浦信幸: 好塩基球活性化試験(BAT)と皮内テストの結果が一致しなかったアナフィラキシーショックの 1 例: ***日本歯科麻酔学会雑誌***, 54(1)：34-37, 2026.
4. 田中康裕, 荒井 亮, 小松千晶, 丹羽佳世子, 本間宏実, 辻野啓一郎, 櫻井敦朗, 新谷誠康: 根管治療剤が原因と考えられる為害作用を生じた 2 例: ***小児歯誌***, 63（3）：79-86, 2025.
5. 中久喜藍, 小鹿恭太郎, 加藤理絵, 鈴木萌子, 田山史織, 一戸達也: 静脈内鎮静法下嚢胞摘出術中に生じた発作性心房細動を契機にバセドウ病が判明した 1 例: ***日本歯科麻酔学会雑誌*** 54(1)：21-24, 2026.
6. 荒井 亮, 長門 慶, 今井裕樹, 辻野啓一郎, 新谷誠康: 多数歯欠損を伴う低汗型外胚葉形成不全に咬合管理と発育評価を行なった 1 例: ***歯科学報***, 124（4）：357-369, 2025.
7. 平賀智豊, 有川風雅, 江澤美穂, 洲崎裕子, 深田美緒, 亀本滉樹, 齋藤大幹, 中島庸也, 飯村慈朗, 野村武史: 東京歯科大学市川総合病院における閉塞性睡眠時無呼吸患者の臨床統計: ***歯科学報***, 125（4）： 299-307, 2026.
8. 露木 悠, 菅野亜紀, 黒田祥太, 酒井貴徳, 平野瑞穂, 四ツ谷護, 野本俊太郎, 佐藤 亨, 関根秀志: 補綴科臨床実習における歯学部学生と歯科衛生学科学生による合同実習についてのアンケート調査: ***歯科学報***, 125(1)：50-61, 2025.

【単行図書】

＜2023 年度＞

1. 阿部 修, 石原和幸: 細菌学的アプローチによる歯内療法の臨床: 1-95, ***医歯薬出版社***, 2023.
2. 笠原正貴 他(分担執筆): 現代歯科薬理学第 7 版: 142-148, 274-278, ***医歯薬出版株式会社***, 2024.
3. 桐田忠昭, 鄭 漢忠, 池邊 哲郎, 原田浩之, 古郷幹彦, 瀬戸晥一, 野間弘康, 他(分担加筆): 西山明宏: 一般臨床家,口腔外科医のための口腔外科ハンドマニュアル 口腔外科 YEARBOOK: 166-173, ***クインテッセンス出版***, 2023.
4. 櫻井敦朗(分担執筆): 子どものお口の発育段階別で答える 小児歯科の Q&A: 44-51, ***デンタルダイヤモンド***, 2023.
5. 櫻井敦朗, 新谷誠康(分担執筆): 第 11 章 齲蝕の予防と進行抑制 小児歯科学ベーシックテキスト第 3 版: 206-222, ***永末書店***, 2023.
6. 櫻井敦朗, 新谷誠康(分担執筆): 第 1 章 予防塡塞と小児の歯冠修復 小児歯科学クリニカルテキスト第 3 版: 2-7, ***永末書店***, 2023.
7. 杉原直樹, 福田雅臣, 川戸貴行, 小松﨑明, 有川量崇(監修), 松久保隆, 齋藤 淳, 石塚洋一, 佐藤涼一, 鈴木誠太郎, 田中とも子, 堀江哲郎, 山下万美子, 岩原香織, 前野正夫, 田中秀樹, 中井久美子, 田口千恵子, 木本一成(分担執筆): 口腔衛生学 2024: 1-512, ***一世出版***, 2023.
8. 野間弘康, 佐々木研一, 柴原孝彦, 髙野正行, 片倉 朗, 他 (分担加筆): 西山明宏, 小鹿恭太郎, 一戸達也: カラーグラフィックス　下歯槽神経・舌神経麻痺　第 3 版: 複数頁あり, ***医歯薬出版株式会社***, 2023.
9. 野村武史(編集): 歯科衛生学シリーズ　口腔外科・歯科麻酔学: 147-229, ***医歯薬出版株式会社***,

2023.

10. 野村武史, 松浦信幸, 升井一朗, 白鳥たかみ, 水上美樹, 菅野亜紀, 他(分担執筆): 歯科衛生学シリーズ　口腔外科学・歯科麻酔学: 304-308, ***医歯薬出版株式会社***, 2024.
11. 野村武史(分担執筆): 標準口腔外科学: 243-250, 294-308, ***医学書院***, 2023.
12. 古澤成博, 齋藤隆史, 菅野亜紀, 林美加子, 村松敬, 山本一世, 吉田隆(編者): 歯科衛生士講座　保存修復学・歯内療法学: 12-21, 36, ***株式会社永末書店***, 2023.
13. 松久保隆, 佐藤涼一, 竹之内茜, 大谷悦世: パッと見ておぼえられるまとめテーブル 2024 : 歯科医師・歯科衛生士国試対策ブック衛生・公衆衛生・口腔衛生・社会福祉・関係法規, 1-296, ***一世出版***, 2023.
14. 向井美惠, 千木良あき子, 田村文誉, 大久保真衣(分担執筆): 赤ちゃんが自分で食べていくためのサポートガイド : 摂食機能発達のための口・手・こころの育て方: 84-103, ***医歯薬出版株式会社***, 2023.

＜2024 年度＞

1. 編集代表：一戸達也, (分担執筆): 中島純子: 歯科のくすりが分かる本: 126-130,***医歯薬出版株式会社***, 2024.
2. 編集代表：一戸達也, (分担執筆): 渡邊 章: 歯科のくすりがわかる本: 64-65, 78-83, ***医歯薬出版株式会社***, 2024.
3. 上田貴之, 菊谷 武, 菅野亜紀, 高橋一也, 他編集, 分担執筆): 歯科衛生士講座　高齢者歯科学第 4 版: 195-237, ***永末書店***, 2025.
4. 監修: 内山健志, 近藤壽郎, 編集: 片倉 朗, 中嶋正博, 里見貴文, (分担執筆): 中島純子: 標準口腔外科学　第 5 版: 514-17, ***医学書院***, 2024.
5. 監修: 内山健志, 近藤壽郎, 編集: 片倉 朗, 中嶋正博, 里見貴文, (分担執筆): 渡邊 章:標準口腔外科学　第 5 版: 86-94, 106-120: ***医学書院***, 2024.
6. 黄地健仁, 和嶋浩一: “痛み”の臨床推論　診断過程を可視化するための教科書: 138-143, ***デンタルダイヤモンド社***, 2024.
7. 大久保真衣(分担執筆): 第 6 分野小児の摂食嚥下障害 : 日本摂食嚥下リハビリテーション学会 e ラーニング対応: ***医歯薬出版株式会社***, 2024.
8. 編著: 倉智雅子, (分担執筆): 中島純子: 最新言語聴覚学講座　摂食嚥下障害学: 126-131, 医歯薬出版株式会社, 2025.
9. 高橋有希, 笠原正貴, 他(分担執筆): 月刊「歯界展望」別冊　Q&A 歯科のくすりがわかる本 2024 主な歯科適応薬剤一覧: 162-174, ***医歯薬出版株式会社***, 2024.
10. 髙橋信博, 小野寺晶子, 山越康雄, 石崎 明, 池尾 隆, 田村正人, 宇田川信之, 中村美どり(分担執筆): 歯科衛生学シリーズ 人体の構造と機能 2 生化学・口腔生化学: ***医歯薬出版株式会社***, 2025.
11. 野村武史, 他(分担執筆): 口腔外科ハンドマニュアル’24: 14-55, ***クインンテッセンス出版株式会社***, 2024
12. 野村武史, 他(分担執筆): 細胞診のベーシックサイエンスと臨床の実際: 147-151, ***医学書院***, 2024.
13. 松久保隆, 佐藤涼一, 竹之内茜, 大谷悦世: パッと見ておぼえられるまとめテーブル 2025 : 歯科医師・歯科衛生士国試対策ブック衛生・公衆衛生・口腔衛生・社会福祉・関係法規: 1-294, ***一世出版***, 2024.
14. 編著者: 松坂賢一, 著者: 福本雅彦, 村上 聡, 國分克寿, 他: 歯学生・歯科医療従事者のための臨床検査学: ***わかば出版***, 2024.
15. 山田雅司, 田宮資己, 淺井知宏, 古澤成博, 笠原典夫, 松永 智, 阿部伸一: NiTi 製ハンドファイルを極める 5 NiTi ハンドファイルの研究と臨床　歯界展望（月刊歯界展望): 269-280, ***医歯薬出版株式会社***, 2024.

＜2025 年度＞

1. 齋藤 淳（編集主幹，分担執筆）: 臨床歯周病学第 4 版医歯薬出版
2. 下野正基 他 編集：村松 敬 第 3 版 新口腔病理学 Chaper 4 象牙質歯髄複合体の病変 48-66 医歯薬出版株式会社

3. 渡邊章: 口腔外科ハンドマニュアル'25　初メス体験記 91-92 クインテッセンス出版株式会社
4. 西井 康（分担執筆）: アライナー矯正治療受診ナビ: 矯正治療をご希望の方へクインテッセンス出版
5. 山本一世, 斎藤隆史, 村松 敬, 島田康史 監修: 第七版　保存修復学２１　第１章：概論　第７章：修復方法 1-30,131-157,永末書店
6. 興地隆史 他 編集：村松 敬　第７版　エンドドンティクス　第４章：歯髄疾患、第５章：根尖性歯周疾患 37-51, 52-68 永末書店
7. 1. 新谷誠康, 辻野啓一郎, 荒井 亮（監修：新谷誠康）（分担執筆）：これで安心！　乳歯・幼若永久歯の外傷への対応　保存か抜歯かを見極め，良好な長期予後を獲得する治療・術後管理のポイント 1-177（全頁）ヒョーロン・パブリッシャーズ
8. 笠原正貴（分担執筆）：歯科麻酔学第９版　Ⅰ　物理・化学 488-492,医歯薬出版株式会社,
9. 笠原正貴（分担執筆）：歯科麻酔学第９版　Ⅱ　救急医薬品 492-499,医歯薬出版株式会社,
10. 澁川義幸, 木村麻記, 黄地健仁, 倉島竜哉, 山本 仁：歯界展望 145(5)．特集 口腔粘膜からみる医科との診療連携と歯科診療 - 東京歯科大学リカレント教育セミナーより -(1) 口腔粘膜の機能 : Revisiting - 口腔粘膜構造と感覚受容 844-851,医歯薬出版株式会社,
11. 澁川義幸, 木村麻記, 黄地健仁, 倉島竜哉, 山本 仁：歯界展望 145(5)．特集 口腔粘膜からみる医科との診療連携と歯科診療 - 東京歯科大学リカレント教育セミナーより -(1) 口腔粘膜の機能 : Revisiting - 口腔粘膜構造と感覚受容 844-851,医歯薬出版株式会社,
12. 植田耕一郎編集代表，井上 誠，佐藤陽子，菅野亜紀ら編著（分担執筆）歯科衛生士のための摂食嚥下リハビリテーション第 3 版 256-262 医歯薬出版株式会社,
13. 松久保隆, 佐藤涼一, 竹之内茜, 大谷悦世（分担執筆）: パッと見ておぼえられるまとめテーブル 2026 : 歯科医師・歯科衛生士国試対策ブック 衛生・公衆衛生・口腔衛生・社会福祉・関係法規 1-296 一世出版株式会社
14. 上田貴之, 竜 正大, 他（分担執筆）: 歯科衛生士講座　高齢者歯科学第 4 版　第 2 章　加齢の科学　５．老化による口腔内の形態変化　③歯列／④顎骨／⑤口腔粘膜 46-49 永末書店

【招待講演・シンポジウム】

＜2023 年度＞

（国際発表）

1. Hong Wang, Jiang Xu, Keiko Yasumatsu, Masafumi Jotaki, Cailu Lin, Akihito Kuboki, Liquan Huang, Emad Alnemri, Yuzo Ninomiya, Peihua Jiang, Danielle R. Reed, Robert F. Margolskee,: Differential roles of IFN-γ and TNF in taste loss, AChems, 2023.4, Hyatt Regency Coconut Point Resort and Spa, Frolida
2. Kazuyuki Ishihara: The effect of responses against environmental stress on the pathogenicity of *Treponema denticola*. (invited speaker), Gordon Confernce, Biology of Spirocnetes, January 14 - 19, 2024, Ventura Beach Marriott, USA
3. Keiko Yasumatsu: The effect of single nucleotide polymorphisms of GPR120 on detection threshold, liking and fattiness ratings of oleic acid, The 20th International symposium on molecular and neural mechanisms of taste and olfactory perception, 2023.11.25-26, 岡山大学
4. Keisuke Sugahara: Mixed-reality and CAD/CAM technology for reconstructive surgery, 2nd Japanese-German CMF convention, 2023.6.12, Frankfurt
5. Keisuke Sugahara: Application of Mixed-reality and CAD/CAM technologies for Orthognathic surgery, 第 68 回日本口腔外科学会シンポジウム Japanese-Korea symposium, 2023.11.10, 大阪国際会議場
6. K. Hirai, A. Takahashi, S. Ishizuka, A. Sakurai, M. Kasahara, S. Shintani: Effect of Bisphosphonates on Mandibular Bone in Mild Type Hypophosphatasia.: 102nd General Session & Exhibition of the IADR: 2024.3.13, ニューオーリンズ
7. 西井 康: Trial for Education and Clinical Practice in the DX Era, The BSC 40th Anniversary Meeting – The 7th International Orthodontic Conference, 2023.11.20, 明治記念館
8. Sugano A: The role of dental hygienists in geriatric dentistry in Japan, European College of

Gerodontology Congress 2023, 2023.9.14, ERSTA HOTEL & KONFERENS（Stockholm）

9. Ryouichi Satou: Improved enamel acid resistance by acidulated phosphate sodium monofluorophosphate solution, Asian Rising Stars Symposium 2023, 2023.7.29, 東京歯科大学

（国内発表）

1. 石原和幸: ディスバイオーシスにおける細菌間相互作用, 第 316 回東京歯科大学学会総会　シンポジウム　口腔内と腸内細菌叢の理解から紐解く歯周疾患-口腔からのウェルビーイング社会創生への道しるべ-, 2023.10.21－22, 東京歯科大学
2. 大久保真衣: 関連領域と MFT,　摂食嚥下リハビリテーションの実際, 第 21 回日本口腔筋機能療法（MFT）学会学術大会, 2023.10.19, 有楽町朝日ホール
3. 太田大聖, 久保周平, 本間宏実, 荒井亮, 永井宜子, 田中亜生, 坂田望, 平井研吾, 森下志穂, 牧口哲英, 飯田哲也, 白土俊佑, 渡部茂, 櫻井敦朗, 新谷誠康: 新規開設した障がい者歯科診療所の開院準備および開院直後の患者来院状況, 第 40 回日本障害者歯科学会, 2023.11.11, ロイトン札幌
4. 大谷理沙, 櫻井敦朗, 本間宏実, 辻野啓一郎, 新谷誠康: マイクロスコープを使用した小児患者の過剰歯抜歯: 第 35 回日本小児口腔外科学会, 2023.11.26, 東京歯科大学
5. 大谷理沙, 櫻井敦朗, 山本絢子, 本間宏実, 辻野啓一郎, 新谷誠康: マイクロスコープを使用した幼若永久歯に対する歯科処置　予防填塞を行った 2 例: 第 61 回日本小児歯科学会大会: 2023.5.19: 出島メッセ長崎
6. 笠原正貴: 漢方を知る～漢方の基礎知識と使ってみたい漢方薬～, 日本老年歯科医学会第 34 回学術大会, 2023.6.18, パシフィコ横浜ノース
7. 樺澤由佳李, 田中亜生, 坂田望, 濱口翔一, 本間宏実, 辻野啓一郎, 櫻井敦朗, 西本由紀, 牧口哲英, 新谷誠康: MTA を使用した乳歯への歯髄処置　生活歯髄切断の 2 例: 第 61 回日本小児歯科学会大会, 2023.5.19, 出島メッセ長崎
8. 小谷地雅秀: Digital Transformation により手術経験の不足を補うことを推進する, 第 1 回若手口腔外科医交流会シンポジウム, 2023.7.29, 大阪私学会館
9. 坂田望, 田中亜生, 樺澤由佳李, 濱口翔一, 本間宏実, 辻野啓一郎, 櫻井敦朗, 西本由紀, 牧口哲英, 新谷誠康: MTA を使用した乳歯への歯髄処置　直接覆髄の 2 例, 第 61 回日本小児歯科学会大会, 2023.5.18, 出島メッセ長崎
10. 坂田望, 久保周平, 本間宏実, 荒井亮, 永井宜子, 田中亜生, 太田大聖, 平井研吾, 森下志穂, 牧口哲英, 飯田哲也, 白土俊佑, 渡部茂, 櫻井敦朗, 新谷誠康: 新規開設した障がい者歯科診療所における来院患者の実態調査: 第 40 回日本障害者歯科学会, 2023.11.11, ロイトン札幌
11. 佐藤涼一: シンポジウム SY01「特定保健用食品の動向－疾病リスク低減表示を中心に－：う蝕の現状と食品によるリスク低減の可能性」, 第 77 回 日本栄養・食糧学会大会, 2023.5.12-14, 札幌市
12. 佐藤涼一: 酸蝕症の基礎知識とオラプラ委託研究結果の報告について, 富士フィルム富山化学株式会社 社内研修会, 2023.8.2, 富士フィルム富山化学株式会社
13. 菅原圭亮, 小谷地雅秀, 片倉 朗: Extended Reality 技術と CAD/CAM 技術を顎矯正手術に応用する, 第 77 回 日本口腔科学会シンポジウム, 2023.5.13, 岡山コンベンションセンター
14. 菅原圭亮: デジタルテクノロジーを駆使して矯正歯科-口腔外科の連携をより強固なものにする, 第 82 回 日本矯正歯科学会シンポジウム, 2023.11.1, 朱鷺メッセ新潟コンベンションセンター
15. 髙橋有希: 基礎の観点から見た臨床現場における低ホスファターゼ症：現状と課題, 第 66 回秋季日本歯周病学会学術大会, 2023.10.13, 出島メッセ長崎
16. 髙橋有希: 低ホスファターゼ症における早期診断の重要性～典型的な症状を持たない低ホスファターゼ症について～, 第 56 回日本整形外科学会骨・軟部腫瘍学術集会・ランチョンセミナー6, 2023.7.13, 京王プラザホテル
17. 田坂彰規: CAD/CAM 技術を応用したダブルクラウン義歯, 第 132 回日本補綴歯科学会学術大会・臨床リレーセッション 2, 2023.5.20, パシフィコ横浜
18. 田中亜生, 平井研吾, 渡辺麻衣子, 本間宏実, 辻野啓一郎, 櫻井敦朗, 新谷誠康:口腔内スキャナーを用いた乳歯 CAD/CAM 冠の応用, 第 61 回日本小児歯科学会大会, 2023.5.18, 出島メッセ長崎
19. 田中康裕, 櫻井敦朗, 本間宏実, 新谷誠康: 乳歯への根管治療薬が原因と思われる歯性上顎洞炎を生じた 1 例: 第 38 回日本小児歯科学会関東地方会, 2023.10.1, 川口総合文化センター リリア

20. 棚瀬稔貴, 櫻井敦朗, 小島健太郎, 木村基善, 新谷誠康: 乳歯歯根嚢胞のために後継永久歯の萌出障害が生じた 1 例: 第 35 回日本小児口腔外科学会, 2023.11.26, 東京歯科大学
21. 西井 康: 外科的矯正治療における治療計画と術前矯正治療の関係, 第 41 回日本頭蓋顎顔面外科学会学術集会, 2023.11.10, 淡路夢舞台国際会議場
22. 西井 康: 上下顎移動術における上顎骨位置決めの最新知見 上顎位置決めの判断と実際, 第 33 回日本顎変形症学会, 2023.6.8, 一橋講堂
23. 西井 康: 埋伏歯のタイプと治療戦略, 第 35 回日本小児口腔外科学会総会・学術大会, 2023.11.26, 血脇ホール
24. 西山明宏: 日常臨床で使える口腔外科の基礎・知識の再診整理, 福島・東石歯科医師会　学術講演, 2024.3.23, 福島県・新白河
25. 西山明宏: データから下歯槽神経・舌神経損傷の外科的アプローチの適応を考察する, 第 28 回一般社団法人日本口腔顔面痛学会総会・学術大会, 第 21 回アジア口腔顔面痛学会学術大会, シンポジウム 3　神経障害の外科的アプローチ, 2023.11.19, 筑紫野市生涯学習センター
26. 西山明宏: 新たな骨補填材 OCP/Col(ボナーク®)の骨造成法における多様性, 第 68 回（公社）日本口腔外科学会総会・学術大会・ランチョンセミナー4, 2023.11.10, グランキューブ大阪
27. 丹羽佳世子, 大多和由美, 本間宏実, 辻野啓一郎, 櫻井敦朗, 新谷誠康: 歯原性嚢胞により著しく偏位した上顎右側前歯が開窓後自然萌出した 1 例, 第 38 回日本小児歯科学会関東地方会, 2023.10.1, 川口総合文化センター リリア
28. 野村武史: Clinical application of optical devices for management of oral pre-cancer and cancerous lesions, 第 68 回公益社団法人 日本口腔外科学会総会・学術大会・IS3-4, 2023.11.11, 大阪国際会議場
29. 野村武史: MRONJ ポジションペーパー2023 からわかる今後の課題　-治療医の立場から-, 第 68 回公益社団法人 日本口腔外科学会総会・学術大会・SY5-5, 2023.11.11, 大阪国際会議場
30. 野村武史: エナメル上皮腫の診療ガイドライン改定にむけて, 第 42 回日本口腔腫瘍学会総会・学術大会, 2024.1.25, 北海道立道民活動センター
31. 野村武史: 表在型口腔扁平上皮癌のマネージメント―光学機器の臨床応用―, 第 61 回日本癌治療学会学術集会・臓器別シンポジウム 14, 2023.10.20, パシフィコ横浜
32. 星野照秀: Aging-related metabolic changes in the extensor digitorum longus muscle of senescence-accelerated mouse-prone 8, 第 315 回東京歯科大学学会・学長奨励研究賞受賞講演, 2023.6.3, 東京歯科大学新館
33. 星野照秀: 老齢マウスの筋組織を用いたメタボローム解析, WEB セミナー：ヒューマンメタボロームテクノロジーズ株式会社, 2024.3.13, WEB
34. 本間宏実, 櫻井敦朗, 辻野啓一郎, 新谷誠康: 上顎両側乳側切歯部の真性乳歯過剰歯および上顎両側切歯部に後継過剰歯を認めた 1 例, 第 61 回日本小児歯科学会大会, 2023.5.19, 出島メッセ長崎
35. 安松啓子: GPR120 の一塩基多型が脂肪味に与える影響, 第 28 回うま味研究助成成果発表会ランチョンレクチャー, 2024.1.19, オフィス東京
36. 安松啓子: 脂肪味と甘味の最新研究から高齢社会の健康を考える, 山口県玖珂歯科医師会学術講演会, 2023.11.18, 岩国国際観光ホテル
37. 竜 正大: デジタルデンチャーの現状と臨床応用のポイント, 日本補綴歯科学会第 132 回学術大会・歯科技工士セッション, 2023.5.21, パシフィコ横浜
38. 竜 正大: デジタルデンチャー導入に際し考慮すべきポイント, 日本臨床歯科 CADCAM 学会第 9 回学術大会・シンポジウム 1, 2023.12.2, パシフィコ横浜

＜2024 年度＞

(国際発表)

1. Hirotaka Wada: The brain activity of sweet taste intensity in older adults, 第 72 回 国際歯科研究学会 日本部会 総会・学術大会 Rising Scientist Session “Frontiers of Neuroscience in Dentistry” 2024, 2024.11.17, カクイックス交流センター　鹿児島
2. 星野照秀: Metabolome analysis using muscle tissue of old mice, 4th Goethe symposium, 2024.6.3, 4, Germany
3. 星野照秀: Nerve injury after extracting the wisdom teeth, The 2nd Next-Generation Oral and

Maxillofacial Surgeons Symposium of KAOMS, 2024.10.5, Korea

4. Kitamura Kei: A morphological approach to understanding swallowing mechanisms ~The genioglossus muscle is the only muscle that attaches to the epiglottis.~, Asian Rising Stars Symposium 2024, 2024.7.27, Web 開催
5. Odaka K: The volumetric medical image for more accurate and reliable guided dentistry, Tokyo Dental College Well-being Project Asian Rising Stars Symposium 2024, 2024.7.27, Web
6. Shibukawa Y: Odontoblast mechanosensory/hydrodynamic receptor model explains dentinal sensitivity via the Piezo1–PANX1–P2X3 axis, Symposium Session IV Recent Advances in neurophysiology of oral sensory and motor function, The 72nd Annual Meeting of Japanese Association for Dental, Oral, and Craniofacial Research, November 17th, 2024, Kagoshima
7. Sugahara K: Application of digital technologies for orthognathic surgery and dealing with various complications, Annual Conference of Taiwanese Association of Oral and Maxillofacial Surgeons (TAOMS), 2025.3.8, Taipei
8. Sugahara K: Application of digital technologies for orthognathic surgery and education, 27th EACMFS（European Association of Cranio-Maxillofacial Surgery）Congress, 2024.9.10, Rome
9. Yasumatsu K, Nagai Y: Role of GPR40 and CD36 expressed in mouse posterior tongue in fatty acid sensing, The 21th International symposium on molecular and neural mechanisms of taste and olfactory perception, 2025.3.1-2, 岡山大学
10. Yingzi Yang, Bo Li, Takehito Ouchi: Cxcl12-Hedgehog Signaling Regulates Calvaria Homeostasis and Injury Repair, 2025 AADOCR/CADR Annual Meeting & Exhibition, Skull Suture Cell Dynamics and Pathogenesis Session, 2025.3.12-15, the Jacob K. Javits Convention Center

(国内発表)

1. 石井武展: かみ合わせを整える　Hemifacial Microsomia(Type IIB)における適切な咬合と顔面対称性を得るための三次元的解析, 第 42 回日本頭蓋顎顔面外科学会・シンポジウム 8, 2024.11.15, 御茶ノ水ソラシティカンファレンスセンター
2. 石井武展: 顎関節症治療への情熱を語る座談会　変形性顎関節症の発症には性ホルモンと機械的刺激が関与する, 第 37 回一般社団法人日本顎関節学会総会・学術大会, 2024.7.13, あわぎんホール
3. 黄地健仁: ATF6a 制御による象牙質再生, 新潟歯学会共催セミナー 大学院特別セミナー, 2024.9.26, 新潟大学
4. 黄地健仁: 小胞体ストレスセンサーATF6 はペリサイトから象牙芽細胞への分化と石灰化駆動を制御する, 第 6 回口腔医科学フロンティア研究会, 2024.5.18-19, 北海道大学
5. 黄地健仁: 新規局所歯髄幹細胞の同定, 次世代研究者が挑む再生医療の最前線　【第 2 回 体性幹細胞】(日本再生医療学会 U45, Link-J 共催), 2025.1.20, GLOBAL LIFESCIENCE HUB
6. 黄地健仁: 神経堤由来細胞の特性を応用した口腔組織再生, 第 167 回日本獣医学会学術集会, 生理学・生化学分科会シンポジウム「機能再生の実現化戦略 －発生・老化・分子・細胞・個体の統合理解と再生医療－」, 2024.9.10-13, 帯広畜産大学
7. 黄地健仁: 東京歯科大学での国際交流活動と今後の展望, 日本歯科保健医療国際協力学会（JAICOH）第 34 回総会・学術集会, シンポジウム 1, 2024.7.5-7, 幕張国際研修センター
8. 黄地健仁: 入門講座 2「口腔顔面痛に必要な生理学」, 第 29 回日本口腔顔面痛学会学術大会, 入門講座 2, 2024.11.29-12.1, 東京歯科大学
9. 坂本好昭, 三輪 点, 石井武展, 坂本輝雄, 貴志和生: 頭蓋縫合早期癒合症の顔貌を整える　頭蓋縫合早期癒合症の顔貌を整える　Monobloc Advancement の力, 第 42 回日本頭蓋顎顔面外科学会・シンポジウム 3 , 2024.11.14, 御茶ノ水ソラシティカンファレンスセンター
10. 櫻井敦朗: フッ素を上手に利用しよう　臨床の疑問を解決するための知識, 第 62 回日本小児歯科学会大会, 2024.5.17, 横須賀芸術劇場
11. 澁川義幸: イントロダクション：味覚とは何か？ 味覚の理解深化による口腔機能の維持と改善－「味」の科学が拓くウェルビーイング社会, 第 318 回東京歯科大学学会シンポジウム東京歯科大学研究プロジェクト(ウェルビーイングプロジェクト) 第 318 回東京歯科大学学会 例会, 2024.10.19, 千代田区
12. 澁川義幸: ワサビで歯を強くする－Wasabi Sulfinyl による象牙質再生創薬, 第 254 回 生理学東京談話会, 2024.11.2, 文京区

13. 澁川義幸: 歯痛の細胞分子生理学を再考する, 第 29 回日本口腔顔面痛学会学術大会, 2024.11.29-12.1, 千代田区
14. 澁川義幸: 常態-病態機能解析ラボ 成果報告, 2024 年度 東京歯科大学口腔科学研究センターワークショップ, 2025.2.25, 千代田区
15. 菅野亜紀: 口腔機能に関する業務記録の書き方とは？－歯科衛生過程を実践してみよう！, 令和 6 年度愛知県歯科衛生士会研修会, 2024.7.21, 愛知県歯科医師会
16. 菅野亜紀: 口腔機能に関する業務記録の書き方とは？－歯科衛生過程を理解しよう！, 令和 6 年度愛知県歯科衛生士会研修会, 2024.7.7, オンデマンド研修
17. 菅原圭亮: デジタルテクノロジーを駆使した外科的矯正治療の今, 第 83 回 日本矯正歯科学会学術大会 サテライトセミナー, 2024.10.29, パシフィコ横浜
18. 菅原圭亮: 矯正歯科-口腔外科の連携はデジタルテクノロジーを駆使してより強固なものになる, 第 175 回 中日本矯正歯科医会例会・臨時総会, 2024.12.11, OKB Harmony Plaza
19. 菅原圭亮: 口腔粘膜疾患・ 観察力を高める –, 東京都立心身障害者口腔保健センター　第 4 回歯科衛生士研修会, 2024.11.17, Web 開催
20. 髙橋有希: 典型的な症状を持たない低ホスファターゼ症-骨以外の組織への影響-, 第 35 回小児整形外科学会学術集会・ランチョンセミナー(アレクシオンファーマ招待講演), 2024.12.13, 福岡国際会議場
21. 髙橋有希: 典型的な症状を示さない低ホスファターゼ症について, 第 66 回歯科基礎医学会学術大会・アップデートシンポジウム 4 , 2024.11.3, 長崎大学医学部キャンパス
22. 田坂彰規: CAD/CAM 技術の台頭で部分床義歯製作はどのように変わったのか？ CAD/CAM 技術を活かしたパーシャルデンチャーの臨床, 第 133 回日本補綴歯科学会学術大会・臨床リレーセッション 1, 2024.7.6, 幕張メッセ
23. 田坂彰規: 口腔機能管理の基本を見直す 超高齢社会における咬合再構成のための補綴診断と治療プロセス , 令和 6 年度日本歯科医師会生涯研修セミナー, 2024.9.29, 宮崎県歯科医師会館
24. 中島純子: 「口腔がん患者の術後機能」口腔がん患者に対する顎補綴による機能回復, 第 43 回日本口腔腫瘍学会総会・学術大会, 2025.2.27, 一橋会館
25. 西島貴之, 奥山健太郎, 木村洋朗, 黄地健仁, 馬渕洋, 大野建州, 信藤知子, 川田治良, 名越慈人, 岩本卓士, 岡野栄之, 芝田晋介, 中村雅也: 坐骨神経切断モデルラットに対するヒト iPS 細胞由来の神経突起束を用いた新規人工神経移植法の検討, 第 35 回日本末梢神経学会学術集会, シンポジウム 4 「脊髄末梢神経再生を目指して：新たな医療の光」, 2024.9.6-7, 鹿児島県医師会館
26. 野村武史: エナメル上皮腫の診療ガイドライン改定にむけて, 第 43 回日本口腔腫瘍学会総会・学術大会　WS エナメル上皮腫診療ガイドラインワーキンググループ, 2024.2.27, 一橋講堂
27. 野村武史: 口腔がん治療における化学放射線療法に関連する口腔ケア対策-口腔がんの特徴と理解-, 第 21 回日本口腔ケア学会総会・学術大会 第 4 回国際口腔ケア学会総会・学術大会 合同会議 ランチョンセミナー3, 2024.4.28, 一橋講堂
28. 野村武史: 口腔粘膜の特殊性とそこに生じる病変～細胞診の役割, 第 63 回日本臨床細胞学会秋期大会　教育講演: 口腔病変の臨床像, 2024.11.17, 幕張メッセ国際会議場
29. 野村武史: 頭頸部アルミノックス治療の導入から治療までの流れ, 第 48 回日本頭頸部癌学会 楽天メディカル主催セミナー, 2024.6.21, アクトシティ浜松
30. 星野照秀: 筋代謝の観点から考える咀嚼筋の変化に関する基礎研究, 2024 年度 東京歯科大学リカレント教育セミナー ～口腔機能評価と口腔機能管理の実践のために～, 2025.2.9, 東京歯科大学
31. 松永 智: 骨リモデリング時に特異的に出現する Type H 血管が制御する顎骨のミクロ/ナノ構造特性, 第 83 回 日本矯正歯科学会学術大会 サテライトセミナー, 2024.10.29, パシフィコ横浜
32. Hideki Matsumoto, Kenji Tagai, Hironobu Endo, Kiwamu Matsuoka, Yuhei Takado, Naomi Kokubo, Hitoshi Shimada, Tetsuya Goto, Goto TK, Makoto Higuchi: Association of Tooth Loss with Alzheimer's Disease Tau Pathologies Assessed by Positron Emission Tomography, NPO 法人日本歯科放射線学会 第 64 回学術大会・優秀論文賞受賞講演, 2024.5.26, ホテルイタリア軒
33. 溝口利英: 硬組織修復を司る骨格幹細胞制御機構の全容解明, 第 66 回歯科基礎医学会学術大会ライオン学術賞講演, 2024.11.3, 長崎大学医学部

34. 溝口利英: レプチン受容体陽性骨格幹細胞の多様性, 第 1 回 IC2NEMO, 2025.1.28, 野沢温泉朝日屋旅館
35. 安松啓子: 脂肪酸の美味しさ不味さの生体メカニズムの解明, 2024 年度加工油脂技術検討会, 2024.11.22, 油脂工業会館 (東京)
36. 安松啓子: 脂肪味 〜機能解明の最前線〜, 特別講演Ⅱ、第 65 回日本食肉科学会大会, 2024.6.22, 北里大学十和田キャンパス
37. 安松啓子: 脂肪味の発見から栄養センシングと健康のつながりを考える, 味覚の理解深化による口腔機能の維持と改善 −「味」の科学が拓くウェルビーイング社会−, 第 318 回東京歯科大学学会(総会), 2024.10.19, 東京歯科大学
38. 安松啓子: 舌咽神経は脂肪酸をうま味・甘味として伝える, 第 29 回うま味研究助成成果発表会ランチョンレクチャー, 2025.1.24, オフィス東京
39. 安松啓子: 味覚の神経伝達機構, 味覚障害シンポジウムⅠ, 第 44 回歯科薬物療法学会, 2024.7.13, 新潟県民会館
40. 安松啓子: 味覚研究から！美味しさと健康のヒント, 市民講座「味と匂から見つめる食」, 日本味と匂学会第 58 回大会, 2024.9.13, 岡山大学
41. 米澤英雄: Helicobacter pylori の基礎, 第 30 回日本ヘリコバクター学会学術集会・教育講演会, 2024.6.23, 倉敷アイビースクエアー
42. 米澤英雄: 口腔内細菌叢が関与する全身疾患とその発症のメカニズム, 第 30 回日本ヘリコバクター学会学術集会・第 10 回 Gut Microbiota 研究会合同シンポジウム, 2024.6.22, 倉敷アイビースクエアー
43. 渡邊 章: 我々が行う合併症を回避する安全な顎矯正手術への挑戦, 第 34 回日本顎変形症学会総会・学術大会 シンポジウム 4 , 2024.6.28, TFT ホール　東京
44. 渡邊 章: 口唇裂・口蓋裂一貫治療における手術治療　−基本術式と注意点−　口蓋形成術, 第 78 回日本口腔科学会学術集会 第 26 回顎顔面手術手技研究会 招待講演 2, 2024.7.20, 東京大学
42. 渡邊 章: 私たちの行っている下顎枝矢状分割術における顎位の決定, 第 78 回日本口腔科学会学術集会 シンポジウム 7, 2024.7.21, 東京大学

＜2025 年度＞

(国際発表)

1. Takehito Ouchi：Perivascular Niche in the Dental Pulp-Endoplasmic Reticulum Stress Regulation as a key to Homeostasis and Regenerative Response in Dental Pulp,2026 IADR/AADOCR/CADR General Session & Exhibition. Satellite Symposium, Stem Cell-Niche Interactions in Craniofacial Homeostasis and Regeneration, IADR/AADOCR/CADR General Session & Exhibition.March 28, 2026, San Diego Convention Center

(国内発表)

1. 溝口利英: レプチン受容体陽性細胞が司る骨格形成の多層的制御メカニズム 第 43 回骨代謝学会学術集会学術賞講演, 2025.7.25, 熊本城ホール
2. 佐藤涼一:「かかりつけ歯科医と大学研究者のクロストーク−口腔機能低下症とカリエスマネージメント−」シンポジウムⅡの概要第 320 回東京歯科大学学会例会, 東京歯科大学研究プロジェクト（ウェルビーイングプロジェクト）/東京歯科大学同窓会 共催シンポジウム, 2025.10.18, 東京歯科大学
3. 佐藤涼一:「かかりつけ歯科医と大学研究者のクロストーク−口腔機能低下症とカリエスマネージメント−」臨床研究報告から診るフッ化物応用の問題点と開発課題第 320 回東京歯科大学学会例会, 東京歯科大学研究プロジェクト（ウェルビーイングプロジェクト）/東京歯科大学同窓会 共催シンポジウム, 2025.10.18, 東京歯科大学
4. 竜 正大: 3Ｄプリント義歯の臨床ステップ（装着、修理、リライン）日本デジタル歯科学会 2025 年度冬季セミナー, 2026.2.16, Web 開催
5. 倉島竜哉, 黄地健仁, 木村麻記, 澁川義幸：ATP-dynamics による象牙芽細胞制御, 第 67 回歯科基礎医学会学術大会, アップデートシンポジウム, 2025.9.5-7, 北九州国際会議場
6. 田坂彰規：CAD/CAM 技術を活用したパーシャルデンチャーの研究と臨床応用：デジタルの現状と課題鶴見大学歯学部補綴全体症例会, 2025.6.26, 鶴見大学歯学部
7. 田坂彰規：CAD/CAM 技術を活用したパーシャルデンチャーの臨床：デジタル化に向けた現

状と課題国立市歯科医師会学術講演会, 2025.5.21, 国立市歯科医師会館

8. Hirotaka Wada, Hideki Matsumoto, Mutsumi Takagiwa, Hitomi Sato, Kyoko Ishiguchi, Aya Inoue, Tazuko K. Goto: Differences in time–intensity sensory profiles of sweet taste intensity of glucose between older and young adults The 65th Annual Meeting of Japanese Society for Oral and Maxillofacial Radiology, 2025.5.26, 北海道大学
9. 櫻井敦朗: Meet The PD 日本小児歯科学会男女共同参画委員会企画セミナー, 2026.2.26, Web
10. 黄地健仁:Pericytes are odontoblast progenitors depending on ER-stress, 第 103 回 日本生理学会大会 受賞講演, 2026.3.12, 東京医科大学
11. 小野寺晶子: RUNX2 欠損 iPS 細胞から見えてきた骨形成制御の新しい側面第 25 回日本再生医療学会総会・データ駆動研究現場の会, 2026.3.19, 神戸国際会議場
12. 黄地健仁: Upregulation of Amy1 in the salivary glands of mice exposed to a lunar gravity environment using the multiple artificial gravity research system, 第 71 回日本宇宙航空環境医学会大会, 最優秀論文賞 受賞講演, 2025.11.20, ピアザ淡海 滋賀県立県民交流センター
13. 西井康: アンカースクリュー時代における開咬の治療戦略と安定性第 35 回日本顎変形症学会総会·学術大会, 2025.6.5, 小倉市
14. 四ツ谷護: クラウンブリッジ補綴学におけるデジタルデンティストリーの学生技能教育, 2025 年度東京歯科大学リカレント教育セミナー　デジタル時代のクラウンブリッジ・有床義歯治療-デジタルと機能的形態のフュージョンは必要か？-, 2026.3.29, 東京歯科大学水道橋校舎新館　血脇記念ホール
15. 四ツ谷護: 光学印象におけるスキャンデータの精確さに影響する因子, 第 134 回日本補綴歯科学会学術大会・イブニングセッション 3, 2025.5.16, 出島メッセ長崎
16. 後藤多津子: 口腔からの AD 予防：臨床研究と画像的研究愛媛大学脳神経内科認知症セミナー, 2025.11.15, TKP 松山市駅前カンファレンスセンター
17. 竜 正大: ここまでできる、義歯のデジタル活用第 25 回日本歯科医学会学術大会シンポジウム 21, 2025.9.28, パシフィコ横浜
18. 菅野亜紀: 歯科衛生士の問題解決する力をつけよう！令和 7 年度愛知県歯科衛生士会研修会, 2025.7.6, 愛知県歯科医師会館
19. 田坂彰規: デジタル技術で広がるパーシャルデンチャーの臨床応用―ダブルクラウンへの展開とその可能性―熊本デンティストミーティング特別講演会, 2025.11.30, TKP 熊本カンファレンスセンター
20. 田坂彰規: デジタルデンティストリーのパーシャルデンチャーへの応用　パーシャルデンチャーにおけるデジタルデンティストリーの実践応用 ―臨床と研究の現場から―, 日本補綴歯科学会 令和 7 年度東北・北海道支部学術大会 シンポジウム, 2025.10.5, 盛岡市民文化ホール
21. 田坂彰規: デジタルデンティストリーのパーシャルデンチャーへの臨床応用岩手医科大学医療工学講座・歯科補綴学講座 合同セミナー, 2025.10.3, 岩手医科大学歯学部
22. 田坂彰規: デジタルパーシャルデンチャーに機能的形態は融合できるのか―口腔内スキャナーによる顎堤印象の現状と課題―, 2025 年度東京歯科大学リカレント教育セミナー, 2025.3.29, 東京歯科大学水道橋校舎
23. 田坂彰規: パーシャルデンチャーのデジタル化はどこまで進んだか？―臨床応用の現状と課題―, 東京歯科大学同窓会熊本県支部「蘇山会」学術講演会, 2025.11.29, 熊本県歯科医師会館
24. 田坂彰規: パーシャルデンチャーの臨床はどこまでデジタル化できるのか？ ―その現状と課題―, 東京歯科大学神奈川県支部連合同窓会 学術研修会, 2025.9.14, 神奈川県歯科医師会館
25. 髙橋有希: ビスホスホネートの投与が典型的な症状を持たない低ホスファターゼ症におよぼす影響について, 第 27 回日本骨粗鬆症学会・ランチョンセミナーC, 2025.9.13, 幕張メッセ国際会議場
26. 安松啓子: マウスの味覚神経伝達機構, 第 29 回口腔顔面神経機能学会総会・学術大会・特別講演 II, 2026.3.14, 東京歯科大学
27. 溝口利英: レプチン受容体陽性骨格幹細胞の多様性と生体内機能, 第 2 回 IC2NEMO, 2026.3.3, ロッテアライリゾート
28. 澁川義幸: ワサビで歯を強くする-歯の痛みと象牙質再生の ATP-機能連関, 山口大学 特別講演セミナー, 2025.4.3, 山口大学
29. 渡邊 章: 我々の行っている唇顎口蓋裂の顎矯正手術, 第 70 回日本口腔外科学会総会・学術集会 シンポジウム 5, 2025.11.16, 福岡国際会議場
30. 菅原圭亮, 小谷地雅秀, 片倉 朗: 外科的矯正治療におけるシミュレーションの重要性と必然性,

第 35 回特定非営利活動法人日本顎変形症学会総会・学術大会,シンポジウム 4 「外科的矯正治療におけるコンピューターシミュレーションの現在地とこれから」, 2025.6.4-5, 北九州国際会議場

31. 西井 康: 外科的矯正治療における顎顔面の形態評価と応用, 日本歯科審美学会, 第 36 回学術大会, 2025.12.13, 横浜市
32. 西井 康: 外科的矯正治療の考え方と専門教育, 第 41 回東北矯正歯科学会学術大会, 2025.6.8, 山形市
33. 黄地健仁: 幹細胞と痛み, 第 29 回口腔顔面神経機能学会学術大会, 特別講演 I , 2026.3.14 日, 東京歯科大学水道橋校舎 新館
34. 和田大岳, 後藤多津子: 甘味認知について : 高齢者における特徴, 第 30 回国際食品素材/添加物展・会議, 第 23 回フードエキスポ, 2025.5.22, 東京ビッグサイト
35. 田坂彰規: 金属積層造形で製作した局部床義歯フレームワークの形状精度と機械的特性の検証, 金属光造形複合加工医療機器フォーラム 第 21 回シンポジウム, 2025.10.11, 東京歯科大学水道橋校舎
36. 小谷地雅秀, 菅原圭亮, 片倉 朗: 効率よく認定医・専門医になろう －臨床・研究・教育のハードルの超え方－, 第 70 回 公益社団法人 日本口腔外科学会総会・学術大会 若手から一歩先へ 私のターニングポイント, 2025.11.15, 福岡国際会議場
37. 竜 正大: 口腔機能低下症患者に対する口腔機能管理の重要性, 第 320 回東京歯科大学学会シンポジウム, 2025.10.18, 東京歯科大学水道橋校舎
38. 渡邊 章: 口唇裂・口蓋裂における顎骨への手術, 第 49 回日本口蓋裂学会総会・学術集会 教育講演, 2025.10.24, 国立京都国際会館
39. 澁川義幸: 今がチャンス！学び直そう！咬合・顎運動と全身機能に関連する臨床生理学, 第 35 回 日本全身咬合学会 学術大会・総会, 2025.12.13-14, 東京歯科大学水道橋校舎 新館
40. 澁川義幸: 細胞内外 ATP-dynamics が制御する口腔機能, 第 67 回歯科基礎医学会学術大会, 2025.9.5-7, 北九州国際会議場
41. 澁川義幸: 三叉神経系では adrenomedullin シグナル軸が優位なのか, 神経障害性疼痛関連歯科学会合同シンポジウム 2026, 歯科治療後神経損傷と三叉神経痛病態の違いを考える―その対応法を再考―, 2026.3.22, WEB
42. 澁川義幸: 三叉神経節ニューロンの CGRP/adrenomedullin を介する細胞間ネットワーク, 第 53 回 日本頭痛学会総会, シンポジウム「CGRP と二次性頭痛」, 2025.11.21, パシフィコ横浜
43. 安松啓子: 脂肪酸の味覚修飾作用と GPR120 の関与, 第 30 回うま味研究助成成果発表会ランチョンレクチャー, 2026.1.23, オフィス東京
44. 後藤多津子: 歯科医師の力で国民健康長寿 〜口腔力でボケ知らず〜, 麻布赤坂歯科医師会公衆衛生講演会, 2025.11.19, 東京ミッドタウンカンファレンス
42. 澁川義幸, 佐藤涼一, 小高研人, 木村麻記, 黄地健仁, 倉島竜哉, 池田わたる, 山口耕司, 曽我部正博, 三谷烈史: 生細胞内マルチモーダルシグナル蛍光ライブ 4D イメージングデバイス統合システム基盤開発/技術実証, 第 40 回 宇宙環境利用シンポジウム, 2026.3.2-3, JAXA 宇宙科学研究所
43. 後藤多津子, 佐藤仁美, 和田大岳, 松元秀樹, 井上 綾, 志田菜奈, Andy Yeung, WK Leung, 高際睦, 田邊宏樹, 阿部 修: 静的官能評価・動的官能評価・脳機能 MRI によるヒトの味覚認知解析, 第 18 回日本ポリフェノール学会学術集会, 2025.9.6, 芝浦工業大学豊洲キャンパス
44. 安松啓子: 舌における脂肪酸情報の解明：脂肪酸受容体―味覚神経―行動応答の解析から, 第 98 回日本生化学会大会・2S19e 全身で味を感じる：生命の根源機能を司る味覚受容体, 2025.11.4, 京都国際会館
45. 竜 正大: 超高齢社会におけるデジタルデンチャー製作に必要なアプローチ, 日本臨床歯科 CADCAM 学会第 11 回学術大会デンチャーシンポジウム, 2025.12.6, パシフィコ横浜
46. 竜 正大: 保険導入された 3 次元プリント有床義歯の臨床応用と機能的形態を考える－総義歯の機能的形態をどう得るのか－, 2025 年度東京歯科大学リカレント教育セミナー, 2026.3.29, 東京歯科大学水道橋校舎
47. 田坂彰規: 臨床セミナー デジタルセミナー 「デジタル有床義歯の現在」〜基本は同じ デジタルワークフローがもたらす革新的なメリットとは何か〜, 東京歯科大学同窓会 2025 TDC アカデミア, 2025.6.1, 東京歯科大学水道橋校舎
48. 竜 正大: 臨床基礎実習と診療参加型臨床実習を通した口腔機能低下症の学生教育, 日本老年歯科医学会第 36 回学術大会シンポジウム 1, 2025.6.28, 幕張メッセ

【学会発表（一般講演)】

＜2023 年度＞

（国際発表）

1. Goto T, Koshika K, Yoshida K, Tsuya R, Saito N, Tejima A, Hayashi S, Ichinohe T, Sakurai S: A multicenter exploratory clinical study of the usefulness and safety of intravenous sedation with remimazolam in dental practice: single and continuous ascending-dose study, 17th International Dental Congress on Anesthesia, Sedation and Pain Control, 2024.3.15-16, ARIA Resort & Casino
2. Hori A, Horibe Y, Ohta M, Ryu M, Ueda T: 3-month oral function management for outpatients with oral hypofunction, International College of Prosthodontists (ICP) 2023 London Symposium Satellite Meeting, 2023.8.31, KING'S College of LONDON
3. Hori A, Horibe Y, Ohta M, Ryu M, Ueda T: Effect of 3-month oral function management for patients with oral hypofunction, IAGG Asia/Oceania Regional Congress 2023, 2023.6.14, パシフィコ横浜
4. Ito K, Tasaka A, Kobayashi H, Nakata S, Yamashita S: Optimal CAD/CAM Technique for Fabricating CP-Ti Removable Partial Denture Frameworks, 2024 IADR General Session & Exhibition March 13-16 102nd 2024 New Orleans, LA, USA, 2023.3.15, Ernest N. Morial Convention Center
5. J Nakajima, Y Seito, K Sakai, M Suzuki, A Zaitsu, R Aoki, T Ooya, N Matsuura: Comparison of Lip-Seal Strength and Lip-Closure Strength and analysis of their related factors, IADR (International Association for Dental, Oral, and Craniofacial Research) General Session, 2024.3.11-16, New Orleans, USA
6. Kasahara N, San Lucas Zambrano JS, Hytham HA, Neff A, Stuck BA, Theiß U, Bette M, Meißner W, Mandic R.: HPV-16 positive HNSCC cells exhibit a pronounced oxygen dependence and reduced glycolytic capacity for energy production., 36th Deutscher Krebskongress, 2024.2.21, CityCube, Berlin
7. Kasumi Hata, Junko Nakajima, Nobuyuki Matsuura, Keiko Yasumatsu: The effect of fatty acids and involvement of GPR120 on sweet taste in mouse chorda tympani nerve, The 20th International symposium on molecular and neural mechanisms of taste and olfactory perception, 2023.11.25-26, 岡山大学
8. Kobayashi H, Schwindling S, Tasaka A, Rammelsberg P, Yamashita S, Rues S: Effect of Wall-Thickness on Accuracy of 3D-Printed Zirconia Artificial Teeth, CED/NOF IADR Oral Health Research Congress 2023 in Greece, 2023.9.21, Rodos Palace Hotel
9. Kobayashi T, Ryu M, Ishihara K, Ueda T: Adhesion of *Candida albicans* to CAD/CAM denture base resin with the presence of saliva., International College of Prosthodontists (ICP) 2023 London Symposium Satellite Meeting, 2023.8.31, KING'S College of LONDON
10. Konno T, Sampei C, Arasaki Y, Nakamura T, Kato S, Nishinakamura R, Asou Y, Ezura Y, Hayata T: Ctdnep1 deletion in the Cathepsin K-expressing progenitor in the tendons and periosteum causes osteochondroma, ASBMR 2023 Annual Meeting. 2023.10.13-16, Vancouver Convention Centre
11. Koshika K, Koitabashi T, Ichinohe T: Can remimazolam become an alternative agent of propofol in orthognathic surgery?, International Society for Anaesthetic Pharmacology 32nd Annual Meeting, 2023.10.13, Hilton Union Square
12. Ohta M, Nishimiya A, Sakurai K, Ryu M, Ueda T: Effects of oral hypofunction on chewing duration in older adults, International College of Prosthodontists (ICP) 2023 London Symposium Satellite Meeting, 2023.8.31, KING'S College of LONDON
13. Ryu M, Kobayashi T, Yamamoto Y, Ohta M, Ueda T: Using information and communication technology for 3D-printed dentures: A case of oral rehabilitation of hospitalized older adults with care needs, International College of Prosthodontists (ICP) 2023 London Symposium Satellite Meeting, 2023.8.31, KING'S College of LONDON
14. Sendai Y, Takeda K, Ichinohe Y, Koshika K, Okumura K, Azuma T, Ohno T: T cell-dependent regulatory roles of 18-kDa Translocator protein (TSPO), IMMUNOLOGY2023TM Meeting,

2023.5.11-15, Washington Convention Center

15. Shinichirou Ito, Masataka Kasahara, Toshihide Mizoguchi: Identification of metaphyseal Nestin-GFPbright stromal cells as a skeletal stem cell subpopulation in growing trabecular bone, ASBMR2023, 2023.10.15, Vancouver Convention Centre
16. Yamamoto Y, Saito T, Ryu M, Ueda T: Effect of Brushing on the Surface Roughness of 3D-printed and Milled Denture Base Resins, International College of Prosthodontists (ICP) 2023 London Symposium Satellite Meeting, 2023.8.31, KING'S College of LONDON
17. Akira Y, Akiyama Y, Ishihara K Kouno M, Nomura T: Association between salivary cytokines and microbiome of palmoplantar pustulosis patients., 第 71 回国際歯科研究学会　日本部会〔JADR〕総会・学術大会, 2023.11.25-26, 東北大学医学部開設百周年記念ホール
18. KAWANO T, NOMURA T: Characterization of large extracellular vesicles from oral fluid, 第 71 回国際歯科研究学会　日本部会〔JADR〕総会・学術大会, 2023.11.25-26, 東北大学医学部開設百周年記念ホール

（国内発表）

1. 間奈津子, 大野建州, 齋藤暁子, 加藤 宏, 小野寺晶子, 東 俊文: NOTCH2 遺伝子変異を伴う Hajdu-Cheney 症候群疾患特異的 iPS 細胞を用いた破骨細胞分化誘導, 第 41 回日本骨代謝学会学術集会, 2023.7.27, 都市センターホテル(東京)
2. 青木勇介, 野村武史: 電気メスによると思われたインプラント周囲の歯槽骨壊死の一例, 第 68 回(公社)日本口腔外科学会総会・学術大会, 2023.11.10-12, 大阪国際会議場
3. 明石良彦, 山本 圭, 中島 啓, 國分克寿, 吉田秀児, 岡野友宏, 松坂賢一: 下顎臼歯部に生じた epithelioid osteoblastoma の 1 例, 第 112 回日本病理学会総会, 2023.4.13-15, 下関生涯学習プラザ
4. 浅見洋佑, 野本冬歌, 吉田光孝, 平野友基, 小田由香里, 飯島典子, 佐々木穂高, 小谷地雅秀, 高野正行, 矢島安朝: 骨造成後の創面露出に対して真皮欠損用グラフト材と保護床が有効であった 1 例, 第 316 回東京歯科大学学会・例会, 2023.10.21, 東京歯科大学水道橋校舎
5. 東 俊文, 齋藤暁子, 長山和亮, 小野寺晶子, 間奈津子, 岡田寛之, 北條宏徳, 加藤茂明: Runx 2 による Lamina-LINC タンパク質発現の調節は、アクチンフィラメントによって発生する細胞内張力を介して骨芽細胞の機械的ストレス応答を調節する。ラミノパチー骨病態との関係解明: 第 41 回日本骨代謝学会学術集会, 2023.7.29, 都市センターホテル(東京)
6. 有泉高晴, 西山明宏, 小原身知子, 山本裕義, 山崎 梓, 星野照秀, 片倉 朗: 舌神経損傷に対してスリッドタイプ神経再生誘導チューブ（リナーブ®）を使用した治療経験, 第 27 回口腔顔面神経機能学会総会・学術大会, 2024.2.17, 和歌山県立医科大学 紀三井寺キャンパス
7. 有川風雅, 三邉正樹, 上野紗璃, 西原孝博, 明由理亜, 鶴見 惇, 秋山友理恵, 森田奈那, 松浦信幸, 河野通良, 野村武史: リツキシマブが奏功した尋常性天疱瘡の 3 例, 第 36 回日本口腔診断学会／第 33 回日本口腔内科学会総会・学術大会　4 学会合同学術大会, 2023.9.22-24, 栃木県総合文化センター
8. 安藤雄太郎, 山口 朗, 石原和幸: 骨免疫学による異所性石灰化の病態解明および新規制御法の確立, 第 315 回東京歯科大学学会・例会, 2023.6.3, 東京歯科大学
9. 安藤雄太郎, 塚崎雅之, 山口朗, 石原和幸, 高柳広: OPG による血管石灰化制御機構の解明, 第 41 回日本骨代謝学会学術集会, 2023.7.27-29, 都市センターホテル
10. 石川曉美, 染屋智子, 笠原正彰, 服部雅之, 関根秀志: PEEK と支台築造用コンポジットレジンとのサーマルサイクル後の維持力について, 第 81 回日本歯科理工学会, 2023.4.15, タワーホール船堀
11. 石川早紀, 関川翔一, 鈴木大貴, 齋藤寛一, 高野正行, 片倉 朗, 野村武史: 当センターにおける過去 11 年間のセツキシマブの使用状況と安全性に関する検討, 第 47 回日本頭頸部癌学会総会・学術講演会, 2023.6.15-16, 大阪国際会議場
12. 石川早紀, 巽 綾香, 関川翔一, 鈴木大貴, 大金 覚, 片倉 朗, 野村武史: 過去 10 年間で遠隔転移をきたした口腔癌一次症例の検討, 第 42 回日本口腔腫瘍学会総会・学術大会, 2024.1.25-26, 北海道立道民活動センター
13. 石川 昂, 中村安孝, 三浦優奈, 橋本正次: 淡水に浸漬された歯牙表面の物質分析による水中浸漬時間推定法の開発, 第 107 次日本法医学会学術全国集会, 2023.6.7-9, 小田原三の丸ホール
14. 石束 叡, 吉田香織, 髙橋有希, 長谷川瑛洋, 梅澤明弘, 小鹿恭太郎, 一戸達也, 笠原正貴: 胎児期からの酵素補充療法は重症型低フォスファターゼ症マウスの顎顔面領域の石灰化不全を改善する, 第 97 回日本薬理学会年会, 2023.12.14-16, 神戸国際会議場・神戸国際展示場

15. 石原和幸: デンタルプラークにおける細菌間相互作用と病原性の変化, 第 66 回春季日本歯周病学会学術大会, 2023.5.26-27, レグザムホール(高松)
16. 石原和奈, 石塚久子, 米澤英雄, 石原和幸, 村松 敬: 牛乳由来オステオポンチンの Streptococcus mutans に対する付着抑制効果の検討, 第 316 回東京歯科大学学会総会, 2023.10.21-22, 東京歯科大学
17. 伊東紘世, 田坂彰規, 小林 裕, 仲田誠一, 山下秀一郎: 純チタンを局部床義歯フレームワークへ応用する際の最適な CAD／CAM 技術の検討, 日本補綴歯科学会第 132 回学術大会, 2023.5.20, パシフィコ横浜
18. 伊東紘世, 田坂彰規, 岡野日奈, 淺井七海, 平林 剛, 武本真治, 山下秀一郎: CAD/CAM を用いた義歯床用レジンに対する Co-Cr 合金製試料の引抜き強度評価, 日本補綴歯科学会東京支部総会・第 27 回学術大会, 2023.12.4, 日本大学
19. 伊藤慎一郎, 溝口利英, 笠原正貴, 山口 朗: 抜歯窩と大腿骨骨欠損部の骨再生過程から探る 骨格部位依存的な幹細胞の多様性, 第 315 回東京歯科大学学会(例会), 2023.6.4, 東京歯科大学
20. 伊藤慎一郎, 徳山彰秀, 笠原正貴, 溝口利英: 歯根膜のレプチン受容体陽性細胞は硬組織形成に寄与する, 第 41 回日本骨代謝学会学術集会, 2023.7.28, 都市センターホテル
21. 岩崎 亮, 黄地健仁, 木村麻記, 西山明宏, 黒田英孝, 澁川義幸, 片倉 朗: 三叉神経節ニューロン-血管内皮細胞間の機械刺激誘発性 CGRP-CALCRL axis 活性化による cAMP 依存性軸索反射, 第 315 回東京歯科大学学会(例会), 2023.6.3, 東京歯科大学
22. 岩﨑美友, 佐藤涼一, 杉原直樹: ナノ粒子アパタイトを用いた新規根面う蝕予防法によるコンタクトマイクロラジオグラフィー分析, 第 72 回日本口腔衛生学会・総会, 2023.5.19-21, 大阪府国際交流センター
23. 上野紗璃, 三邉正樹, 秦加純, 明由理亜, 秋山友理恵, 森田奈那, 河野通良, 松浦信幸, 野村武史: 乳酸菌 EF-2001 により味覚障害や口臭が改善した 7 例, 第 36 回日本口腔診断学会／第 33 回日本口腔内科学会総会・学術大会　4 学会合同学術大会, 2023.9.22-24,栃木県総合文化センター
24. 遠藤百華, 石井武展, 森川泰紀, 有泉 大, 小林 葵, 藤森加帆, 内山沙姫, 西井 康:口唇口蓋裂が耳管と側頭骨乳突蜂巣の発達に与える影響について, 第 41 回日本頭蓋顎顔面外科学会学術集会, 2023.11.9-10, 淡路夢舞台国際会議場(兵庫県)
25. 黄地健仁, 佐藤涼一, 倉島竜哉, 木村麻記, 澁川義幸: 1/6 重力環境下での顎下腺 mRNA 発現変動, 第 69 回日本宇宙航空環境医学会大会, 2023.11.9-11, 岐阜市じゅうろくプラザ
26. 黄地健仁, 佐藤涼一, 倉島竜哉, 木村麻記, 澁川義幸: 顎下腺構成全細胞の 1/6 重力環境下での mRNA 発現変動, 第 67 回日本唾液腺学会学術集会, 2023.11.25, 国際ファッションセンタービル
27. 黄地健仁, 佐藤涼一, 倉島竜哉, 木村麻記, 澁川義幸: 月面重力環境下での顎下腺構成全細胞の mRNA 発現変動, 第 14 回三叉神経領域の感覚・運動統合研究会, 2023.12.9-10: 習志野市
28. 大岩浩気, 菅原圭亮, 山本雅絵, 西山明宏, 星野照秀, 小谷地雅秀, 立澤孝太郎, 栗原千尋, 小高研人, 片倉 朗: 下顎骨を基準とした下顎後静脈の走行パターンの顎変形症患者における計測, 第 33 回日本顎変形症学会総会・学術大会, 2024.2.17, 学術総合センター(一橋講堂)
29. 太田 緑, 竜 正大, 上田貴之: 施設入所高齢者に対して ICT を活用した口腔リハビリテーションの取り組み, リハビリテーション医療 DX 研究会　第 1 回学術集会, 2023.4.22, アートホテル石垣島
30. 大平真理子, 石田 瞭, 山下秀一郎: 介護老人保健施設における経口維持支援の取り組み, 第 316 回東京歯科大学学会(例会), 2023.10.22, 東京歯科大学
31. 岡村将宏, 鈴木大貴, 野村武史: MRONJ 発症後テリパラチドへ変更した症例の検討, 第 36 回日本口腔診断学会／第 33 回日本口腔内科学会総会・学術大会　4 学会合同学術大会, 2023.9.22-24, 栃木県総合文化センター
32. 小野魁星, 染田英利, 石川 昂, 陀安一郎, 由水千景, 橋本正次: 歯牙エナメル質を用いた酸素同位体比分析による地域推定, 第 92 回日本法医学会学術関東地方集会, 2023.10.14, 昭和大学
33. 小野紗也加, 坂本朋昭, 小口修矢, 辻 直紀, 中村 貴, 星 和人, 疋田温彦: 骨代謝細胞ネットワーク再構築系を用いた骨吸収抑制剤による骨リモデリング制御の時空間的解析, 第 43 回骨形態計測学会, 2023.6.29-7.1, 北海道大学
34. 小野紗也加, 小口修矢, 辻 直紀, 中村 貴, 星 和人, 疋田温彦: 骨代謝ネットワーク in vitro 再現系を用いた骨吸収抑制剤の骨リモデリングに対する影響の時空間解析, 第 41 回日本骨代謝学会, 2023.7.27-29, 都市センターホテル

35. 小野寺晶子, 齋藤暁子, 間奈津子, 東 俊文: Long-ncRNA,RP11-399K21.11 は Wnt 依存性に骨芽細胞分化を制御する, 第 41 回日本骨代謝学会学術集会, 2023.7.29, 都市センターホテル(東京)
36. 小野寺晶子, 中村ゆり子, 秀島 樹, 野村武史, 片倉 朗, 東 俊文: Gorlin 症候群遺伝子パネルを用いた未診断患者への応用, 第 55 回 日本臨床分子形態学会, 2023.9.29, アクロス福岡
37. 小原身知子, 西山明宏, 山本裕義, 田中 斉, 加藤禎彬, 山崎 梓, 有泉高晴, 星野照秀, 村山雅人, 片倉 朗: 東京歯科大学急性期神経機能修復外来における神経障害性疼痛症例の臨床的検討, 第 27 回口腔顔面神経機能学会総会・学術大会, 2024.2.17, 和歌山県立医科大学 紀三井寺キャンパス
38. 籠浦弘城, 笠原正彰, 染屋智子, 服部雅之: 純チタン鋳造体に対する各種歯冠修復材料と牛歯エナメル質との摩耗挙動, 第 81 回日本歯科理工学会, 2023.4.16, タワーホール船堀
39. 笠原正彰, 染屋智子, 籠浦弘城, 服部雅之: スーパーエンジニアリングプラスチック PEKK の表面改質への検討, 第 315 回東京歯科大学学会(例会), 2023.6.3, 東京歯科大学
40. 加藤 悠, 小松万純, 本田健太郎, 中島純子, 森田奈那, 吉田佳史, 酒井克彦, 野村武史, 松浦信幸: 下顎左側犬歯部に発生した石灰化上皮性歯原性腫瘍の一例, 第 215 回日本口腔外科学会関東支部学術大会, 2023.5.20, 東京
41. 加藤 悠, 森田奈那, 鈴木大貴, 吉田佳史, 酒井克彦, 中島純子, 野村武史, 松浦信幸: 10 年を超える長期観察期間中に悪性転化を認めた舌カンジダ症の 1 例, 第 36 回日本口腔診断学会/第 33 回日本口腔内科学会総会・学術大会, 2023.9.22-24, 宇都宮市
42. 加藤 宏, 西村仁希, 小野寺晶子, 齋藤暁子, 間奈津子, 渡邊 章, 片倉 朗, 東 俊文: 骨系統疾患特異的 iPS 細胞の臨床応用に向けた基礎的研究, 第 55 回日本臨床分子形態学会総会・学術集会, 2023.9.29-30, アクロス福岡
43. 加藤雄人, 田坂彰規, 岡野日奈, 鵜澤 忍, 山下秀一郎: 局部床義歯への応用を見据えた半焼結 Co-Cr 合金ディスクの精確さと機械的特性の検証, 日本補綴歯科学会第 132 回学術大会, 2023.5.20, パシフィコ横浜
44. 金子瑠実, 関真都佳, 権 洗眞, 齋藤菜月, 小鹿恭太郎, 一戸達也: プレガバリンの Merkel 細胞への作用, 第 51 回日本歯科麻酔学会総会・学術集会, 2023.10.6-8, 出島メッセ長崎
45. 金野琢人, 三瓶千怜, 荒崎恭弘, 中村 貴, 加藤茂明, 麻生義則, 江面陽一, 早田匡芳:腱および骨膜における脱リン酸化酵素 Ctdnep1 欠損は骨軟骨腫を引き起こす, 第 41 回日本骨代謝学会, 2023.7.27-29, 都市センターホテル
46. 金野琢人, 三瓶千怜, 荒崎恭弘, 中村 貴, 加藤茂明, 麻生義則, 江面陽一, 小原幸弘, 早田匡芳: 骨膜間葉系前駆細胞における脱リン酸化酵素 Ctdnep1 欠損は骨軟骨腫を引き起こす, 第 46 回日本分子生物学会, 2023.12.6-8, 神戸ポートアイランド
47. 亀本滉樹, 森田奈那, 中島純子, 米山 萌, 本田健太郎, 関川翔一, 鈴木大貴, 酒井克彦, 野村武史, 松浦信幸: 同種末梢血幹細胞移植後患者に生じた慢性 GVHD 関連舌癌の 1 例, 第 33 回日本有病者歯科医療学会, 2024.3.8, 10, 新潟市
48. 姜 裕奈, 大岡静衣, 西澤大輔, 長谷川準子, 中山京子, 江畑裕子, 照井 建, 石谷邦彦, 森野良蔵, 横田美幸, 吉田香織, 小鹿恭太郎, 一戸達也, 池田和隆: TMEM132C 遺伝子 rs7296262 多型は、がん性疼痛及び術後痛に対するオピオイド鎮痛薬で誘発される嘔気の発現と有意な関連を示した, 第 53 回日本神経精神薬理学会年会, 2023.9.7-9, 東京ドームホテル
49. 姜 裕奈, 森井雅子, 小崎芳彦, 吉田香織, 小鹿恭太郎, 一戸達也: TMEM132C 遺伝子 rs7296262 多型は,がん性疼痛及び全身麻酔術後のオピオイド誘発性嘔気と有意な関連を示した, 第 51 回日本歯科麻酔学会総会・学術集会, 2023.10.6-8, 出島メッセ長崎
50. 菊地崇剛, 栗原絹枝, 野村武史: 早期舌扁平上皮癌において簇出および上皮間葉移行は後発リンパ節転移と関連する, 第 36 回日本口腔診断学会／第 33 回日本口腔内科学会総会・学術大会　4 学会合同学術大会, 2023.9.22-24, 栃木県総合文化センター
51. 菊地崇剛, 田中詩織, 関川翔一, 鈴木大貴, 片倉 朗, 野村武史: 後期高齢口腔癌患者に対する治療選択と予後に関する検討, 第 42 回日本口腔腫瘍学会総会・学術大会, 2024.1.25-26, 北海道立道民活動センター
52. 権 洗眞, 関真都佳, 金子瑠実, 齋藤菜月, 小鹿恭太郎, 一戸達也: 歯根膜固有感覚を支配する三叉神経中脳路核ニューロンの機械感受特性の比較, 第 51 回日本歯科麻酔学会総会・学術集会, 2023.10.6-8, 出島メッセ長崎
53. 倉持 仁, 岩澤弘樹, 江澤奈穂, 山本 圭, 明石良彦, 中島 啓, 國分克寿, 古澤成博, 松坂賢一: Lypopolysaccharide 存在環境下において Resolvin E1 および Maresin 1 がヒト歯根膜線維芽細

胞に与える影響, 第 315 回東京歯科大学学会(例会), 2023.6.3, 東京歯科大学

54. 栗原智尋, 小谷地雅秀, 小川内香帆, 中西将大, 菅原圭亮, 笠原清弘, 吉田秀児, 渡邊 章, 高野正行, 片倉 朗: 東京歯科大学水道橋における顎矯正手術後の金属製骨接合材除去に関する臨床的検討, 第 33 回日本顎変形症学会学術大会・総会, 2023.6.9, 学術総合センター
55. 栗原智尋, 菅原圭亮, 小谷地雅秀, 立澤孝太郎, 岩﨑 亮, 西井 康, 片倉 朗: Le Fort I 型骨切り術後の上顎骨 Non-union に対し腸骨ブロック骨を応用し再手術を施行した 1 例, 第 24 回日本口腔顎顔面外傷学会総会・学術大会, 2023. 7 .21-22, 小倉リーセントホテル
56. 河野孝斉, 平賀智豊, 野村武史: Oral fluid を用いたリキッドバイオプシーを開発するための大きな細胞外小胞の特徴解析, 第 36 回日本口腔診断学会／第 33 回日本口腔内科学会総会・学術大会　4 学会合同学術大会, 2023.9.22-24, 栃木県総合文化センター
57. 後藤隆志, 小鹿恭太郎, 林真太郎, 吉田香織, 津谷瑠理, 一戸達也, 櫻井 学: レミマゾラムを用いた静脈内鎮静法の鎮静深度および安全性に関する探索的臨床研究　持続投与呼増試験(第 I 相試験), 第 51 回日本歯科麻酔学会総会・学術集会, 2023.10.6-8, 出島メッセ長崎
58. 小林 葵, 森川泰紀, 石井武展, 有泉 大, 遠藤百華, 藤森加帆, 内山沙姫, 西井 康:口唇口蓋裂患者の裂型の差が鼻腔と上顎洞の成長様相に与える影響について , 第 82 回日本矯正歯科学会学術大会, 2023.11.1-3, 朱鷺メッセ(新潟県)
59. 小林 葵, 石井武展, 森川泰紀, 有泉 大, 遠藤百華, 藤森加帆, 内山沙姫, 西井 康:片側性唇顎口蓋裂(UCLP)患者および片側性唇顎裂(UCLA)患者の裂型が上顎洞と鼻腔の成長発育に与える影響, 第 41 回日本頭蓋顎顔面外科学会学術集会, 2023.11.9-10, 淡路夢舞台国際会議場(兵庫県)
60. 小林淳二, 小鹿恭太郎, 半田俊之, 岡田玲奈, 星野立樹, 井上博之, 伊藤佳菜, 小林淳子, 瀬畑 宏: 千葉西総合病院口腔外科における麻酔管理症例の検討, 第 51 回日本歯科麻酔学会総会・学術集会, 2023.10.6-8, 出島メッセ長崎
61. 小林嵩史, 竜 正大, 石原和幸, 上田貴之: CAD/CAM 法で製作した義歯床用レジンへの S. sanguinis の唾液被覆下における付着性の検討, 日本老年歯科医学会第 34 回学術大会, 2023.6.17, パシフィコ横浜
62. 小林嵩史, 竜 正大, 石原和幸, 上田貴之: CAD/CAM 義歯床用レジンへの唾液介在下および非介在下における微生物付着性の検討, 第 316 回東京歯科大学学会(例会), 2023.10.21, 東京歯科大学
63. 小林 裕, 田坂彰規, Sebastian Schwindling, Stefan Rues, Peter Rammelsberg, 山下秀一郎: 中空構造を有するジルコニア人工歯のへ壁厚が形状精度に及ぼす影響, 第 315 回東京歯科大学学会(例会), 2023.6.3, 東京歯科大学
64. 小谷地雅秀, 菅原圭亮, 立澤孝太郎, 小高研人, 松永 智, 西山明宏, 笠原清弘, 片倉 朗: ホログラム手術ガイドを応用した顎矯正手術における新たな顔貌プレディクションの開発, 第 315 回東京歯科大学学会・例会, 2023.6.3, 東京歯科大学水道橋校舎
65. 小谷地雅秀, 菅原圭亮, 立澤孝太郎, 中西将大, 西山明宏, 小高研人, 立木千恵, 西井 康, 片倉 朗: バーチャルリアリティー(VR)技術を応用した新たな顎矯正手術教育システムの有用性の検討, 第 68 回 公益社団法人日本口腔外科学会総会・学術大会, 2023.11.10-12, 大阪府立国際会議場
66. 小谷地雅秀, 菅原圭亮, 西山明宏, 川上真奈, 小高研人, 立澤孝太郎, 片倉 朗: 下顎辺縁切除術に CAD/CAM 技術と Extended Reality 手術支援を応用した 1 例, 第 42 回 日本口腔腫瘍学会総会・学術大会, 2024.1.25-26, 北海道立道民活動センターかでる 2.7
67. 齋藤暁子, 長山和亮, 小野寺晶子, 間奈津子, 岡田寛之, 北條宏徳, 加藤茂明, 東 俊文: 鎖骨頭蓋骨異形成症とラミノパチー骨病変の病態は類似する, 第 41 回日本骨代謝学会学術集会, 2023.7.29, 都市センターホテル(東京)
68. 齋藤大幹, 秋山友理恵, 山本雅絵, 成田真人, 岩本昌士, 渡邊 章, 高木多加志, 高野正行, 片倉 朗, 野村武史: 東京歯科大学歯科市川総合病院における過去 4 年間の顎矯正手術の臨床的検討, 第 33 回日本顎変形症学会総会・学術大会, 2023.6.8-9, 学術総合センター
69. 齋藤菜月, 小鹿恭太郎, 金子瑠実, 権 洗眞, 関真都佳, 一戸達也: Gs タンパク質共役型受容体を標的としたリガンド依存的象牙質再生調節メカニズムの解明, 第 51 回日本歯科麻酔学会総会・学術集会, 2023.10.6-8, 出島メッセ長崎
70. 酒井克彦, 小松万純, 本田健太郎, 中島純子, 鈴木美紅, 大屋朋子, 松田弘美, 彦田真典, 岡野和美, 成毛加奈子, 諸江未来, 片山正輝, 松浦信幸: 脳卒中緊急手術後の口腔ケア・口腔機能管理に関する検討, 第 20 回日本口腔ケア学会総会, 2023.4.20-21, 東京
71. 迫田紗綾, 田坂彰規, 淺井七海, 伊東紘世, 岡野日奈, 武本真治, 山下秀一郎: 電解研磨の方法が鋳造および金属積層造形した Co-Cr 合金の機械的特性に及ぼす影響, 日本補綴歯科学会東京

支部総会・第 27 回学術大会, 2023.12.4, 日本大学

72. 佐藤祐太郎, 石原和幸, 久保田高明: 五環性トリテルペン ursolic acid の抗歯周病原細菌活性および細胞毒性の評価, 第 65 回歯科基礎医学会学術大会, 2023.9.16-18, 日本大学
73. 佐藤佑香, 本田健太郎, 中島純子, 亀本滉樹, 大屋朋子, 財津 愛, 森田奈那, 酒井克彦, 野村武史, 松浦信幸: 周術期口腔機能管理を行ったがん化学療法患者における歯性感染症の急性化率の検討, 第 216 回日本口腔外科学会関東支部会学術大会, 2023.12.9, 東京
74. 佐藤涼一, 岩﨑美友, 上條英之, 杉原直樹: ナノ粒子卵殻由来アパタイトを用いたフッ化物歯面塗布法によるエナメル質耐酸性強化, 第 72 回日本口腔衛生学会・総会, 2023.5.19-21, 大阪府国際交流センター
75. 佐藤涼一, 岩﨑美友, 杉原直樹: モノフルオロリン酸ナトリウム（MFP）歯面塗布による象牙質耐酸性の向上, 第 315 回東京歯科大学学会例会, 2023.6.3, 東京歯科大学
76. 佐藤涼一: 学長奨励研究賞受賞講演 1 -「歯磨剤の希釈倍率とブラッシング時に生じる飛沫の評価」, 第 315 回東京歯科大学学会例会, 2023.6.3, 東京歯科大学
77. 佐藤涼一, 上條英之, 杉原直樹: ナノ粒子卵殻由来アパタイトと高濃度フッ化物の併用による新規酸蝕症予防法の開発, 第 46 回日本労働衛生研究協議会学術大会, 2023.7.22-23, 日本歯科大学
78. 佐藤涼一, 岩﨑美友, 上條英之, 杉原直樹: ナノ粒子卵殻由来アパタイトと高濃度フッ化物の併用によるエナメル質耐酸性向上, 第 31 回硬組織再生生物学会, 2023.9.8-9, 新潟県歯科医師会館
79. 佐藤涼一, 岩﨑美友, 杉原直樹: 2 種類のフッ化物歯面塗布剤併用によるエナメル質耐酸性強化, 第 31 回硬組織再生生物学会, 2023.9.8-9, 新潟県歯科医師会館
80. 塩谷麻衣, 吉田香織, 小鹿恭太郎, 一戸達也: レミマゾラムまたはプロポフォールを用いた全身麻酔中に使用するアドレナリン含有局所麻酔薬がロクロニウムの筋弛緩効果に及ぼす影響の比較検討, 第 51 回日本歯科麻酔学会総会・学術集会, 2023.10.6-8, 出島メッセ長崎
81. 柴田 力, 佐藤涼一, 高柳篤史, 山岸 敦, 杉原直樹: 低希釈歯磨剤の送達によるエナメル質耐酸性の向上, 第 316 回東京歯科大学学会例会, 2023.10.15-16, 東京歯科大学
82. 清水康太郎, 矢島圭奈子, 笠原正貴, 小鹿恭太郎, 松浦信幸, 一戸達也: オトガイ神経電気刺激時の循環変動に対するデスフルラン,セボフルランおよびレミフェンタニルの効果, 第 51 回日本歯科麻酔学会総会・学術集会, 2023.10.6-8, 出島メッセ長崎
83. 鈴木大貴, 関川翔一, 高野正行, 片倉 朗, 野村武史: 導入化学療法中の十二指腸穿孔を回避し根治的放射線治療を実施できた進行舌癌の 1 例, 第 47 回日本頭頸部癌学会総会・学術講演会, 2023.6.15-16, 大阪国際会議場
84. 鈴木大貴, 渡部逸央, 穴澤卯圭, 野村武史: 顎骨壊死発症機序から考える予防方策と現状, 第 56 回日本整形外科学会骨・軟部腫瘍学術集会, 2023.7.13-14, 京王プラザホテル
85. 鈴木大貴, 辻 啓延, 加藤木丈英, 水野早希子, 勝又敏明, 東森秀年, 田中雅博, 田口 明, 穴澤卯圭, 野村武史: 骨粗鬆症医療連携コンソーシアムポータルサイトの開発, 第 25 回日本骨粗鬆症学会, 2023.9.29-10.1, 名古屋国際会議場
86. 鈴木大貴, 関川翔一, 片倉 朗, 野村武史: PCE 導入化学療法を施行した口腔癌症例の検討, 第 42 回日本口腔腫瘍学会総会・学術大会, 2024.1.25-26, 北海道立道民活動センター
87. 清藤友介, 中島純子, 鈴木美紅, 青木理佐, 大屋朋子, 森田奈那, 野村武史, 松浦信幸: 入院患者における非経口摂取の継続と口腔機能、筋力・筋量の関連について, 第 29 回日本摂食嚥下リハビリテーション学会, 2023.9.2-3, 横浜市
88. 関川翔一, 鈴木大貴, 高野正行, 片倉 朗, 野村武史: 口蓋癌術後の鼻口腔瘻に対し口蓋形成術に準じた鼻口腔瘻閉鎖術を施行した 1 例, 第 47 回日本頭頸部癌学会総会・学術講演会, 2023.6.15-16, 大阪国際会議場
89. 関川翔一, 鈴木大貴, 橋本和彦, 片倉 朗, 野村武史: 上顎に原発した非扁平上皮癌(悪性 Glomus 腫瘍の疑い)の再発および, 第 42 回日本口腔腫瘍学会総会・学術大会, 2024.1.25-26, 北海道立道民活動センター
90. 染屋智子, 笠原正彰, 籠浦弘城, 棟方里花, 服部雅之: CAD/CAM 製カスタムメイドポストの臨床応用実現への可能性の探求, 第 315 回東京歯科大学学会(例会), 2023.6.3, 東京歯科大学
91. 染屋智子, 笠原正彰, 籠浦弘城, 棟方里花, 服部雅之: プライマーの種類が PEEK と支台築造用コンポジットレジンとの維持力に与える影響, 第 38 回日本歯科産業学会, 2023.8.5, 日本歯科大学
92. 髙野智史, 竜 正大, 太田 緑, 石田晃裕, 齋藤 壮, 中澤和真, 上田貴之: 咬合と顎運動の教育におけ

るデジタル総義歯モデルの活用, 第 316 回東京歯科大学学会(例会), 2023.10.21, 東京歯科大学
93. 髙野智史, 竜 正大, 太田 緑, 石田晃裕, 齋藤 壮, 中澤和真, 上田貴之: デジタル総義歯モデルを活用した咬合様式と義歯の両側性均衡に関する学習の教育効果, 令和 5 年度日本補綴歯科学会東京支部学術大会, 2023.12.3, 日本大学
94. 高橋有希, 平井研吾, 石束 叡, 笠原典夫, 松永 智, 阿部伸一, 新谷誠康, 笠原正貴:ビスホスホネートの投与は、軽度の低ホスファターゼ症モデルマウスの大腿骨頭に悪影響を及ぼす, 第 97 回日本薬理学会年会, 2023.12.14, 神戸国際会議場
95. 巽 綾香, 関川翔一, 石川早紀, 鈴木大貴, 片倉 朗, 野村武史: 東京歯科大学口腔がんセンターにおける過去 10 年の口腔がん患者の変遷, 第 42 回日本口腔腫瘍学会総会・学術大会, 2024.1.25-26, 北海道立道民活動センター
96. 田中詩織, 菊地崇剛, 関川翔一, 鈴木大貴, 堤 昭宏, 橋本和彦, 片倉 朗, 野村武史: 口腔内の転移病変が初発症状となり診断に至った肺腺癌の一例, 第 42 回日本口腔腫瘍学会総会・学術大会, 2024.1.25-26, 北海道立道民活動センター
97. 田中 希, 中澤和真, 竜 正大, 上田貴之: 三次元的積層造形法で製作した床用レジン試料に対する修理用レジンの接着強さ, 第 316 回東京歯科大学学会(例会), 2023.10.21, 東京歯科大学
98. 田中 希, 中澤和真, 竜 正大, 上田貴之: 積層造形で製作した床用レジンに対する修理用レジンの接着強さへの表面処理の影響, 令和 5 年度日本補綴歯科学会東京支部学術大会, 2023.12.3, 日本大学
99. 近島芽依, 内山沙姫, 石井武展, 末石研二, 西井 康: 舌突出癖を伴う開咬症例に口腔筋機能療法を行い咬合の回復に寄与した症例, 第 21 回日本口腔筋機能療法学会学術大会, 2023.10.19, 有楽町朝日ホール(東京都)
100. 辻 直紀, 坂本朋昭, 中村 貴, 星 和人, 疋田温彦: 骨リモデリング再現系での破骨細胞のアポトーシスによるカップリングへの影響, 第 43 回骨形態計測学会, 2023.6.29-7.1, 北海道大学
101. 鶴見 惇, 三邉正樹, 上野紗璃, 有川風雅, 西原孝博, 明由利亜, 秋山友里恵, 森田奈那, 橋本和彦, 松浦信幸, 河野通良, 野村武史: 血清抗デスモグレイン 3 抗体高値で軽症の尋常性天疱瘡 6 例の臨床的検討, 第 36 回日本口腔診断学会／第 33 回日本口腔内科学会総会・学術大会　4 学会合同学術大会, 2023.9.22-24, 栃木県総合文化センター
102. 鶴見 惇, 野村武史, 木津康博, 古谷義隆, 鈴木大貴: 骨接合用プレート感染による下顎骨骨髄炎に対する下顎骨区域切除と遊離腓骨再建後に広範囲顎骨支持型補綴を行った 1 例, 第 27 回日本顎顔面インプラント学会総会・学術大会, 2023.12.2-3, 国際医療福祉大学 東京赤坂キャンパス
103. 銅冶賢吾, 今村健太郎, 小谷地咲[中根], 石原和幸, 清田 築, 齋藤 淳: 加熱式タバコ煙抽出液が歯周炎誘発マウスの歯槽骨吸収および線維芽細胞の増殖能と遊走能に及ぼす影響, 第 66 回秋季日本歯周病学会学術大会, 2023.10.13-14, 出島メッセ長崎
104. 徳山彰秀, 伊藤慎一郎, 笠原正貴, 溝口利英: 新規歯根膜幹細胞におけるマーカー遺伝子の同定, 第 315 回東京歯科大学学会(例会), 2023.6.4, 東京歯科大学
105. 徳山彰秀, 笠原正貴, 溝口利英: 抜歯窩骨修復に寄与する幹細胞画分の同定, 第 78 回 NPO 法人日本口腔科学会学術集会, 2024.7.20, 東京大学
106. 徳山彰秀, 伊藤慎一郎, 笠原正貴, 溝口利英: 抜歯窩修復骨に寄与する幹細胞画分の同定, 第 41 回日本骨代謝学会学術集会, 2023.7.28, 都市センターホテル
107. 中澤和真, 中島純子, 竜 正大, 上田貴之: 栓塞部を有する顎義歯における三次元造形法の粘膜面造形精度の検討, 日本顎顔面補綴学会第 40 回学術大会, 2023.6.2, 愛知学院大学楠元キャンパス
108. 中島 啓, 山本 圭, 橋本菜央, 明石良彦, 國分克寿, 松坂賢一: 口腔癌細胞における IQGAP1 の発現と浸潤能への影響, 第 16 回日本口腔検査学会総会・学術大会, 2023.11.4-5, 東京歯科大学
109. 中島信太郎, 西山明宏, 小山 侑, 栗原智尋, 辻野啓一郎, 中島 啓, 片倉 朗:9 歳児に発生したエナメル上皮線維腫の 1 例, 第 35 回日本小児口腔外科学会, 2023.11.25, 東京歯科大学
110. 中島純子, 吉田佳史, 松浦信幸: 医療介護多職種連携コミュニケーションツールアプリを使用した模擬退院時カンファレンス実習の試み, 第 42 回日本歯科医学教育学会総会, 2023.7.15, Web 開催
111. 中西将大, 小谷地雅秀, 二階堂純彦, 小川内香帆, 栗原智尋, 脇田一郎, 菅原圭亮, 高野正行, 片倉朗: オトガイ形成術後における知覚異常に関する臨床的検討, 第 77 回日本口腔科学会学術集会, 2023.5.11-13, 岡山コンベンションセンター
112. 二階堂純彦, 小谷地雅秀, 小川内香帆, 脇田一郎, 菅原圭亮, 笠原清弘, 吉田秀児, 渡邊 章, 高野正

行, 片倉 朗: 東京歯科大学水道橋病院における顎矯正手術の臨床的検討, 第 33 回 日本顎変形症学会学術大会・総会, 2023.6.9, 学術総合センター

113. 西原孝博, 森田奈那, 三邉正樹, 明由理亜, 関川翔一, 鈴木大貴, 橋本和彦, 松浦信幸, 河野通良, 野村武史: 口腔扁平苔癬から悪性化した症例の臨床・病理組織学的検討, 第 68 回(公社)日本口腔外科学会総会・学術大会, 2023.11.10-12, 大阪国際会議場
114. 萩原朱音, 有泉高晴, 小山 侑, 小谷地雅秀, 星野照秀, 林 宰央, 加藤 宏, 西山明宏, 大野啓介, 渡邊 章, 菅原圭亮, 笠原清弘, 高野正行, 片倉 朗: 診療効率ならびに医療サービス向上のための東京歯科大学水道橋病院口腔外科における初診患者の動向調査(2022 年度), 第 316 回東京歯科大学学会, 2023.10.21, 東京歯科大学新館
115. 橋本菜央, 中島 啓, 明石良彦, 國分克寿, 菅原圭亮, 松坂賢一, 片倉 朗: 口腔癌細胞における cholinetransporter-like protein 1 の局在と細胞増殖能との関連, 第 47 回日本頭頸部癌学会総会・学術講演会, 2023.6.15-16, 大阪国際会議場
116. 秦 加純, 中島純子, 青木勇介, 吉田佳史, 斎藤大幹, 古屋義隆, 中澤和真, 木津康博, 野村武史, 松浦信幸: ザイゴマインプラントを用いた顎義歯により機能回復を行った上顎部分切除症例の 1 例, 第 40 回日本顎顔面補綴学会, 2023.6, 名古屋市
117. 秦 加純, 中島純子, 松浦信幸, 安松啓子: マウス鼓索神経における甘味に対する脂肪酸の混合効果と GPR120 の関与, 日本味と匂学会第 57 回大会, 2023.9.11-13, 東京工業大学
118. 久永理央, 北村友里恵, 山下慶子, 齋藤 淳, 石原和幸: Treponema denticola の病原性発現における転写調節因子様遺伝子の役割の解明, 第 315 回東京歯科大学学会・例会, 2023.6.3, 東京歯科大学
119. 平賀智豊, 鈴木大貴, 佐藤一道, 野村武史: 舌根部明細胞癌の 1 例, 第 36 回日本口腔診断学会／第 33 回日本口腔内科学会総会・学術大会 4 学会合同学術大会, 2023.9.22-24, 栃木県総合文化センター
120. 藤田尚志, 田坂彰規, 清水廷浩, 和達重郎, 山下秀一郎: 口腔内スキャナーを使用したダブルクラウン内冠のピックアップ印象の真度の検証, 日本補綴歯科学会第 132 回学術大会, 2023.5.20, パシフィコ横浜
121. 藤森加帆, 森川泰紀, 石井武展, 有泉 大, 遠藤百華, 小林 葵, 西井 康: 片側性唇顎口蓋裂患者および片側性唇顎裂患者における鼻中隔軟骨の偏位の様相, 第 47 回日本口蓋裂学会総会・学術集会, 2023.5.23-24, 一橋講堂(東京都)
122. 星沙弥佳, 新井田張, 有泉 大, 森川泰紀, 石井武展, 坂本輝雄, 西井 康: 東京歯科大学千葉歯科医療センターにおける口唇口蓋裂単独症例を除く先天性疾患患者に対する実態調査 , 第 82 回日本矯正歯科学会学術大会, 2023.11.1-3, 朱鷺メッセ(新潟県)
123. 星野照秀, 片倉 朗: 骨吸収抑制薬関連顎骨壊死（ARONJ）stage II の高齢者に対して外科的療法を行った 1 例, 第 34 回日本老年歯科医学会, 2023.6.16, パシフィコ横浜
124. 堀 綾夏, 堀部耕広, 太田 緑, 竜 正大, 上田貴之: 口腔機能低下症患者に対する 3 か月間の口腔健康管理が栄養状態に与える影響, 日本老年歯科医学会第 34 回学術大会, 2023.6.18, パシフィコ横浜
125. 堀 綾夏, 堀部耕広, 太田 緑, 竜 正大, 上田貴之: 口腔機能低下症と診断された外来患者に対する 1.5 か月毎の口腔機能管理の効果, 第 316 回東京歯科大学学会(例会), 2023.10.21, 東京歯科大学
126. 堀 千晶, 西山明宏, 小山 侑, 小谷地雅秀, 有泉高晴, 星野照秀, 加藤 宏, 片倉 朗: 東京歯科大学水道橋病院における COVID-19 入院・手術前のスクリーニング検査の検討, 第 43 回日本歯科薬物療法学会, 第 36 回日本口腔診断学会, 第 33 回日本口腔内科学会, 第 32 回日本口腔感染症学会, 2023.9.22-24, 栃木県総合文化センター
127. 本田健太郎, 亀本滉樹, 中島純子, 酒井克彦, 青木理佐, 石井沙也加, 野口 唯, 井口祐子, 高石怜子, 野村武史, 松浦信幸: 当科における COVID-19 流行前後の周術期口腔機能管理に関する検討, 第 20 回日本口腔ケア学会総会, 2023.4.20-21, 東京
128. 本田健太郎, 中島純子, 酒井克彦, 小松万純, 松田弘美, 野村武史, 松浦信幸: 石灰沈着性頸長筋腱炎の影響による嚥下障害を生じた 1 例, 第 29 回日本摂食嚥下リハビリテーション学会, 2023.9.2-3, 横浜市
129. 本田健太郎, 中島純子, 環 聡, 野村武史, 中川 健, 松浦信幸: 腎移植前患者に対する抜歯の適応基準に関する検討, 第 57 回日本臨床腎移植学会, 2024.2.14-16, 名古屋市
130. 松浦信孝, 千代侑香, 長谷川陽, 深田美緒, 小鹿恭太郎, 松浦信幸, 一戸達也, 大野建州: 末梢型ベンゾジアゼピン受容体を介した破骨細胞分化抑制機構, 第 51 回日本歯科麻酔学会総会・学術

集会, 2023.10.6-8, 出島メッセ長崎

131. 丸島あずさ, 西山明宏, 立澤孝太郎, 小田由香里, 佐々木穂高, 菅原圭亮, 片倉朗: リン酸オクタ酸カルシウム・コラーゲン複合体(OCP/Col)を使用した垂直的骨造成法の 1 例, 第 27 回(公社)日本顎顔面インプラント学会総会・学術大会, 2023.11.29, 国際医療福祉大学赤坂キャンパス
132. 三浦優奈, 中村安孝, 小野魁星, 宇田川琢, 石川 昂: セメント質単独による DNA プロファイリング法の検討, 第 92 回日本法医学会学術関東地方集会, 2023.10.14, 昭和大学
133. 三木尚子, 佐藤涼一, 岩﨑美友, 杉原直樹: 全自動 pH cycling システムの開発および従来法とのエナメル質脱灰性状の比較, 第 316 回東京歯科大学学会例会, 2023.10.15-16, 東京歯科大学
134. 山本吉紀, 齋藤 壮, 竜 正大, 上田貴之: 義歯ブラシによる清掃が CAD/CAM 用義歯床用レジンの表面粗さに与える影響, 日本補綴歯科学会第 132 回学術大会, 2023.5.20, パシフィコ横浜
135. 山本吉紀, 齋藤 壮, 竜 正大, 上田貴之: 義歯洗浄剤による化学的清掃が CAD/CAM 用義歯床用レジンの表面粗さに与える影響, 令和 5 年度日本補綴歯科学会東京支部学術大会, 2023.12.3, 日本大学
136. 吉田香織, 小鹿恭太郎, 津谷瑠理, 一戸達也, 林真太郎, 櫻井学, 後藤隆志:　レミマゾラムを用いた静脈内鎮静法の鎮静深度および安全性に関する探索的臨床研究　単回投与漸増試験(第 I 相試験), 第 51 回日本歯科麻酔学会総会・学術集会, 2023.10.6-8, 出島メッセ長崎
137. 米澤英雄, 菊池有一郎, 国分栄仁, 石原和幸: *Streptococcus mutans* ロイテリサイクリン産生機構の解析, 第 65 回歯科基礎医学会学術大会, 2023.9.16-18, 日本大学
138. 米山 萌, 本田健太郎, 森田那奈, 加藤 悠, 三邉正樹, 中島純子, 野村武史, 松浦信幸:観血的整復術に至った統合失調症患者の陳旧性顎関節脱臼の 1 例, 第 33 回日本有病者歯科医療学会, 2024.3.8-10, 新潟市
139. 竜 正大, 小林嵩史, 山本吉紀, 太田 緑, 上田貴之: 病院歯科における義歯を用いた口腔リハビリテーションに DX を活用した症例, リハビリテーション医療 DX 研究会　第 1 回学術集会, 2023.4.22, アートホテル石垣島
140. 竜 正大, 齋藤 壮, 山本将仁, 阿部伸一, 上田貴之: 硬組織および軟組織融合型無歯顎模型の開発とその効果―第 2 報, 日本補綴歯科学会第 132 回学術大会, 2023.5.20, パシフィコ横浜
141. 渡辺元次, 田中智人, 楊 天意, 廣内英智, 山本将仁, 松永 智, 阿部伸一: 腱損傷修復時に発現する Sox9 の役割解明, 第 129 回日本解剖学会総会・全国学術集会, 2024.3.21, 那覇文化芸術劇場なはーと

＜2024 年度＞

（国際発表）

1. Akira Iwasaki, Takehito Ouchi, Maki Kimura, Akihiro Nishiyama, Hidetaka Kuroda, Yoshiyuki Shibukawa, Akira Katakura: CGRP family-CALCRL axis regulates neuron-endothelial signal transmission, 第 78 回 NPO 法人 日本口腔科学会学術集会, 2024.7.19-21, 東京大学
2. Ando M, Ouchi T, Kurashima R, Kimura M, Shibukawa Y: Regulation of differentiation from pericytes to odontoblasts by endoplasmic reticulum stress sensor proteins, 第 78 回 NPO 法人 日本口腔科学会学術集会, 2024.7.19-21, 文京区
3. Asai N, Tasaka A, Ito K, Okano H, Takemoto S, Yamashita S: Fatigue Strength of Cobalt-Chromium Alloys Fabricated by Additive Manufacturing, CED/NOF IADR Oral Health Research Congress 2024, September 13th, 2024, September 13th, 2024, The international conference centre Geneva
4. Goto TK, Hideki Matsumoto, Kenji Tagai, Hironobu Endo, Kiwamu Matsuoka, Yuhei Takado, Keisuke Takahata, Naomi Kokubo, Mutsumi Takagiwa, Hitoshi Shimada, Tetsuya Goto, Makoto Higuchi: Oral Conditions and Alzheimer's Disease: Neuropsychological Evaluations and PET Study, CED-IADR, 2024.9.12-14, International Conference Centre Geneva (CICG), Geneva, Switzerland
5. Hasegawa T, Ouchi T, Kurashima R, Kimura M, Asoda S, Shibukawa Y, Nakagawa T: Piezo1-YAP signaling regulates proliferation and mineralization of human cementoblast, 第 78 回 NPO 法人 日本口腔科学会学術集会, 2024.7.19-21, 文京区
6. 長谷川稔洋, 黄地健仁, 倉島竜哉, 木村麻記, 茆生田整治, 澁川義幸, 中川種昭: Piezo1-YAP シグナリングはヒトセメント芽細胞の増殖能と石灰化駆動を調節する, 第 78 回 NPO 法人 日本口腔科学会

学術集会, 2024.7.19-21, 東京大学安田講堂ほか本郷地区キャンパス

7. Hisanaga R, Doya K, Mori S, Yamashita K, Saito A, Ishihara K: Investigation of the transcriptional regulator in virulence of *Treponema denticola*, 2024 IADR/AADOCR/CADR General Session & Exhibition, March 14-16th, 2024, New Orleans, LA, USA
8. Ito K, Tasaka A, Hirabayashi T, Takemoto S, Yamashita S: Evaluation of Connection between Co-Cr Retainer Alloy and Denture Base Resin Fabricated with CAD/CAM Technology, The 14th Biennial Congress of the Asian Academy of Prosthodontics, July 7th, 2024, 幕張メッセ
9. Iuchi M, Kobayashi H, Schwindling FS, Tasaka A, Rammelsberg P, Yamashita S, Rues S: Effect of Retention Hole Size of 3D-Printed Zirconia Artificial Teeth, CED/NOF IADR Oral Health Research Congress 2024, September 13th, 2024, September 13th, 2024, The international conference centre Geneva
10. Kazuma Nakazawa, Masahiro Ryu, Junko Nakajima, Takayuki Ueda: Trueness of the obturator of the additive manufacturing complete denture with the obturator at different build angles, 14th Asian Academy of Prosthodontics, 2024.7.6-7, Makuhari Messe International Conference Hall
11. Kimura M, Ouchi T, Kurashima R, Shibukawa Y: Increase in intracellular cAMP level elicited Ca2+ influx in odontoblasts, 第 78 回 NPO 法人 日本口腔科学会学術集会, 2024.7.19-21, 東京大学
12. Kobayashi H, Rues S, Tasaka A, Rammelsberg P, Yamashita S, Schwindling FS: Effect of Wall-Thickness on Fracture Resistance of 3D-Printed Zirconia Teeth, CED/NOF IADR Oral Health Research Congress 2024, September 13th, 2024, September 13th, 2024, The international conference centre Geneva
13. Kono K, Ouchi T, Satou R, Kurashima R, Kimura M, Shibukawa Y: Upregulation of Amy1 in the submandibular glands of mice exposed to a lunar gravity environment using the multiple artificial gravity research system, 第 78 回 NPO 法人 日本口腔科学会学術集会, 2024.7.19-21, 東京大学
14. K. Tashiro, T. Ikarashi, M. Haketa, S. Ito, K. Mitomo, T. Mizoguchi, A Yamaguchi, T Muramatsu: Localization of MSCs after Pulp Revascularization Procedures in Mice, 72nd JADR, 2024.11.16-17, カクイックス交流センター
15. 窪山裕也, 木村麻記, 黄地健仁, 倉島竜哉, 新谷誠康, 澁川義幸: Regulation of dentin formation by glucocorticoid receptors in odontoblasts, APPW2025, 2025.3.17-19, 幕張メッセ
16. 倉島竜哉, 黄地健仁, 木村麻記, 澁川義幸: Functional crosstalks between Piezo1-TRPV1/TRPA1 channels via intracellular arachidonic acid cascade in odontoblasts, APPW2025, 2025.3.17-19, 幕張メッセ
17. Kurashima R, Ouchi T, Kimura M, Shibukawa Y: Intracellular arachidonic acid cascade mediates functional-crosstalk among Pieo1-TRPs in odontoblasts, 第 78 回 NPO 法人 日本口腔科学会学術集会, 2024.7.19-21, 東京大学
18. Li B, Li W, Ouchi T, Zhao Z, Li L: Spatially resolved decoding of TGF-β signaling-induced periodontal ligament stem cell senescence, ASBMR 2024 Annual Meeting, 2024.9.27-30, Metro Toronto Convention Centre
19. Mandic R, Bette M, San Lucas Zambrano J.S, Al Rabadi H, Neff A, Stuck B.A, Theiß U, Vogt S, Meißner W, Kasahara N.: Evaluation of oxidative and glycolytic energy production in HPV positive and negative HNSCC cell lines after photon-based irradiation, The 95th Annual Meeting of the German Society for Oto-Rhino-Laryngology, Head and Neck Surgery, 2024.5.8, Messe Essen(Essen, Germany)
20. 松元秀樹, 和田大岳, 後藤多津子: PET によるアルツハイマー病患者の脳内異常タンパク質と歯の喪失の関連性の評価, 第 78 回 NPO 法人 日本口腔科学会学術集会, 2024.7.20, 東京大学
21. Nakajima R, Yasumatsu K: Temperature dependence of fatty acid detection threshold in young women, 第 4 回国際口腔ケア学会総会・学術大会, 2024.4.28, 一橋大学 一橋講堂
22. Naoki Tsuji, Tomoaki Sakamoto, Takashi Nakamura, Kazuto Hoshi, Atsuhiko Hikita: Functional Bone Organoids Illuminate the Regenerative Role of Osteoclast-Derived Apoptotic Bodies in Osteoblast Reactivation, ICPF CLEFT TOKYO 2024 The 16th world congress of the international cleft lip and palate foundation, Jul 17-19, 2025, The University of Tokyo
23. Naoki Tsuji, Tomoaki Sakamoto, Takashi Nakamura, Kazuto Hoshi, Atsuhiko Hikita: Functional Bone Organoids Unveil Osteoblast-Driven Engulfment of Apoptotic Osteoclasts as a Key Contributor to Bone Remodeling, 2024 ASBMR Annual Meeting, Sep 27- 30, 2024, Metro Toronto Convention Centre

24. Natsuko Aida, Shoko Onodera: Osteoclast differentiation in Hajdu-Cheney iPS cells with NOTCH2 mutation, 2025AADOCR/CADR Annual Meeting & Exhibition, 2025.3.14, The Jacob K. Javits Convention Center, New York, USA
25. Ohta M, Ryu M, Ueda T: Relation Between Phase Angle and Tongue Pressure in Older Women, CED/NOF-IADR 2024 Oral Health Research Congress, 2024.9.12-14, Conference Centre Geneva
26. Ryu M, Ohta M, Saito T, Ueda T: Educational Effect of Edentulous Model of Hard and Soft Tissues, CED/NOF-IADR 2024 Oral Health Research Congress, 2024.9.12-14, Conference Centre Geneva
27. Sato H., Wada H., Matsumoto H., Tanabe C. H., Goto T. K.: Age Differences in Brain Activations Due to Salty Taste: Functional MRI and Time-intensity Sensory Evaluation., The 14th Asian Congress of Oral and Maxillo-Facial Radiology (ACOMFR 2024), 2024.6.13, Kaohsiung, Taiwan (R.O.C.)
28. Sayaka Ono, Naoki Tsuji, Tomoaki Sakamoto, Shuya Oguchi, Takashi Nakamura, Kazuto Hoshi, Atsuhiko Hikita: Inhibition of cysteine protease disturbs the topological relationship between bone resorption and formation in vitro, ICPF CLEFT TOKYO 2024 The 15th world congress of the international cleft lip and palate foundation, Jul 17-19, 2024, The University of Tokyo
29. Shimura K, Umehara K, Ishikawa A, Kuroda S, Yotsuya M, Sekine H, Sato T: Clinical innovation for achieving aesthetic harmony using the Injection Molding Technique, APS(American Prosthodontic Society) The 96th Annual Meeting, February 20-21, 2025, The Swissôtel Chicago
30. Shoko Onodera, Natsuko Aida: Long non-coding RNA, RP11-399K21.11, Suppresses Osteogenesis by Diminishing Promoter Activity, 54th Annual Meeting & Exhibition of the AADOCR, 2025.3.14, Jacob Javits Convention Center, NY
31. Tanaka N, Nakazawa K, Ryu M, Ueda T: Effect of Dichloromethane Treatment on Adhesion with Additive Manufacturing Resin, CED/NOF-IADR 2024 Oral Health Research Congress, 2024.9.12-14, Conference Centre Geneva
32. Tanase T, Sakurai A, Shintani S: A case of root cyst of a primary tooth caused malposition of the permanent tooth, The 13th Biennial Congress of the pediatric dentistry association of Asia, 2024.11.1, Bangkok, Thailand
33. Ueda T, Hori A, Saito T, Ryu M, Horibe Y: Prevalence of Oral Frailty Using the OF-5 among Dental Outpatients and Its Relationship with Frailty, The 10th Asian Conference of Frailty and Sarcopenia, 2024.10.10-11, Asia Bangkok Hotel
34. Watanabe M, Homma H, Ota T, Sakurai A, Shintani S: Alterrations in oral microbiota in early childhood caries among young children, The 13th Biennial Congress of the pediatric dentistry association of Asia, 2024.10.31, Bangkok, Thailand
35. Yamashita K, Hisanaga R, Doya K, Mori S, Kikuchi Y, Saito A, Ishihara K: Characterization of an Oxidative Stress-response Gene in *Treponema denticola*, 2024 IADR/AADOCR/CADR General Session & Exhibition, March 14-16th, 2024, New Orleans, LA, USA
36. Yotsuya M, Kawasaki T, Kuroda S, Fujiseki M, Umehara K, Sekine H: Usefulness of intraoral scanners for abutment cavities- Effect of depth of field and post geometry - , The 14th Biennial Congress of the Asian Academy of Prosthodontics, 2024.7.5-7, Makuhari Messe
37. Yotsuya M, Kamikawatoko T, Owada A, Sekine H: Morphological and histological analysis of the contralateral head of mandible in osteoarthritis of the temporomandibular joint, AES(American Equillibration Society) 70th Annual Scientific Meeting, February 19-20, 2025, Chicago Marriott Downtown Magnificent Mile

（国内発表）

1. 相磯友里, 酒井克彦, 関川翔一, 鈴木大貴, 松浦信幸, 片倉 朗, 野村武史: GLIM 基準による低栄養が口腔がん患者の予後に与える影響, 第 43 回日本口腔腫瘍学会総会・学術大会, 2025.2.26-28, 一橋講堂
2. 赤堀元彦, 大久保真衣, 三浦慶奈, 仲谷 剛, 杉山哲也, 石田 瞭: 千葉歯科医療センター開院後の摂食嚥下リハビリテーション科における臨床統計, 第 35 回日本老年歯科医学会総会・学術大会, 2024.6.29, 札幌
3. 明由理亜, 秋山友理恵, 三邉正樹, 石原和幸, 野村武史, 河野通良: 掌蹠膿疱症患者の唾液サイトカイ

ンと唾液　マイクロバイオームの解析, 第 78 回日本口腔科学会学術集会, 2024.7.19-21, 東京大学安田講堂ほか

4. 淺井七海, 田坂彰規, 伊東紘世, 岡野日奈, 武本真治, 山下秀一郎: CAD/CAM 技術による製作方法の違いがコバルトクロム合金の機械的特性に及ぼす影響, 第 317 回東京歯科大学学会, 2024.6.1, 東京歯科大学
5. 淺井七海, 田坂彰規, 伊東紘世, 岡野日奈, 武本真治, 山下秀一郎: 金属積層造形で製作したコバルトクロム合金の疲労強さ, 日本補綴歯科学会第 133 回学術大会, 2024.7.6, 幕張メッセ
6. 有泉高晴, 西山明宏, 西村光正, 小原身知子, 岩﨑 亮, 杉浦 慧, 田中 斉, 山本裕義, 加藤禎彬, 山﨑 梓, 星野照秀, 片倉 朗, 渡邊 章: ナーブリッジ®、リナーブ®使用症例の術後評価の比較検討, 第 28 回口腔顔面神経機能学会総会, 学術大会, 2025.3.1, 大阪大学中之島センター
7. 安藤正之, 黄地健仁, 倉島竜哉, 木村麻記, 澁川義幸: 小胞体ストレスセンサータンパクによるペリサイトから象牙芽細胞への分化制御, 第 78 回 NPO 法人 日本口腔科学会学術集会, 2024.7.19-21, 東京大学安田講堂ほか本郷地区キャンパス
8. 井内茉莉奈, 小林 裕, 田坂彰規, 山下秀一郎: 中空構造を有するジルコニア人工歯の保持孔サイズが形状精度に及ぼす影響, 令和 6 年度日本補綴歯科学会東京支部学術大会, 2024.12.1, 昭和大学上條記念館
9. 五十嵐章智, 田代憲太朗, 三友啓介, 村松敬: 歯髄血管再生療法の治癒過程に出現する毛細血管のサブタイプと新生硬組織形成への寄与, 第 160 回　日本歯科保存学会, 2024.5.16-17, 仙台国際会議場
10. 池谷 侑, 加藤 宏, 吉田秀児, 林 宰央, 有泉高晴, 村松賢太郎, 片倉 朗, 渡邊 章: 磁場式ナビゲーションシステムを用いて下顎枝矢状分割法を行った 1 例, 第 34 回日本顎変形症学会総会・学術大会, 2024.6.27-28, TFT ホール
11. 石井武展, 森川泰紀, 有泉 大, 飯島由貴, 武笠友里香, 水野周平, 坂本輝雄, 末石研二, 西井 康: 鎖骨頭蓋異形成症における頭蓋冠縫合の定量解析, 第 48 回日本口蓋裂学会総会・学術大会, 2024.5.30-31, 名古屋コンベンションホール
12. 石井武展, 薄場はるか, 大野建州, 溝口利英, 西井 康: 歯の移動における牽引側歯根膜内の新生血管ネットワークの解明, 第 83 回日本矯正歯科学会学術大会, 2024.10.29-31, パシフィコ横浜
13. 石川曉美, 染屋智子, 笠原正彰, 服部雅之, 関根秀志: PEEK 製ポストを応用したレジン支台築造の破折様相, 第 82 回日本歯科理工学会学術講演会, 2024.4.20, かごしま県民交流センター
14. 石川曉美, 木村峻輔, 平野瑞穂, 笠原正彰, 四ツ谷護, 野本俊太郎, 関根秀志, 服部雅之: PEEK 製支台築造用ポストの臨床応用の検討, 日本補綴歯科学会第 133 回学術大会, 2024.7.5-7, 幕張メッセ
15. 石川早紀, 橋本和彦, 関川翔一, 鈴木大貴, 片倉 朗, 野村武史: 口腔扁平上皮癌亜型の臨床的検討 : 過去 10 年間の 1 次症例について, 第 48 回日本頭頸部癌学会, 2024.6.20-21, アクトシティ浜松
16. 石川早紀, 河野孝斉, 平賀智豊, 野村武史, 芝 清隆: 口腔液中細胞外小胞と非小胞性細胞外粒子の特徴解析, 第 11 回日本細胞外小胞学会学術集会, 2024.10.28-29, 京王プラザホテル
17. 石口恭子, 和田大岳, 松元秀樹, 井上 綾, 佐藤仁美, 高際 睦, 後藤多津子: 高齢者におけるうま味認知による塩味の増強効果の解明－脳機能 MRI による塩味の認知の可視化と減塩指導への応用－, 第 317 回東京歯科大学学会・例会, 2024.6.1, 東京歯科大学
18. 石郷岡友美, 髙﨑恵美, 池田珠桃, 三浦慶奈, 関川翔一, 宮田大志, 小郷直之, 大久保真衣, 杉山哲也, 大神浩一郎, 野村武史, 渡邊 章, 石田 瞭, 片倉 朗: 学内病院との連携により在宅患者の蜂窩織炎に対して迅速に対応しえた一症例, 第 318 回東京歯科大学学会, 2024.10.19, 東京
19. 石原和幸, 北村友里恵, 菊池有一郎, 国分栄仁, 山下慶子, 齋藤 淳: *Treponema denticola* 病原性に対する環境ストレス応答の影響, 第 97 回日本細菌学会総会, 2024.8.7-9, 札幌コンベンションセンタ

ー

20. 石原和幸: 歯肉縁下マイクロバイオームによるディスバイオーシスと細菌間相互作用, 第 318 回東京歯科大学学会, 2024.10.19-20, 東京歯科大学
21. 石原和奈, 石塚久子, 米澤英雄, 石原和幸, 村松 敬: 牛乳由来オステオポンチンの *Streptococcus mutans* に対する付着抑制効果の検討, 第 316 回東京歯科大学学会総会, 2023.10.21-22, 東京歯科大学
22. 伊藤慎一郎, 溝口利英, 笠原正貴, 山口 朗: 骨格部位依存的な骨再生幹細胞の分化多様性の検証 第 317 回東京歯科大学学会(例会), 2024.6.1, 東京歯科大学
23. 伊藤慎一郎, 笠原正貴, 溝口利英: LepR+Nes-GFPbright 骨格前駆細胞は骨の成長を司る, 第 42 回日本骨代謝学会学術集会, 2024.6.29-7.2, 那覇文化芸術劇場
24. 伊藤聡吾, 小谷地雅秀, 菅原圭亮, 西村光正, 岩崎 亮, 杉浦 慧, 立澤孝太郎, 星野照秀, 渡邊 章, 片倉朗: 新規患者適合型下顎再建プレートシステムに CAD/CAM 技術と Extended Reality(XR)技術を応用した 1 例, 第 34 回日本口腔腫瘍学会総会, 学術大会, 2025.2.27, 東京・一橋講堂
25. 稲田潤一郎, 三邉正樹, 野村武史: 足場環境が口腔扁平上皮癌の増殖とデスモグレイン 3 の関係の矛盾を解く鍵となる, 第 69 回公益社団法人日本口腔外科学会総会・学術大会, 2024.11.22-24, パシフィコ横浜
26. 井上 綾, 杉山大二朗, 土屋琢也, 後藤多津子: 塩味の歯磨剤におけるやみつき度の時系列変化:予備実験, NPO 法人日本歯科放射線学会第 239 回関東地方会, 2025.2.8, 日本大学松戸歯学部
27. 岩﨑美友, 佐藤涼一, 杉原直樹: フッ化ナトリウム(NaF)とリン酸酸性フッ化ナトリウム(APF)の併用によるエナメル質耐酸性向上, 第 73 回日本口腔衛生学会・総会, 2024.5.10-12, トーサイクラシックホール岩手
28. 岩田周介, 安尾敏明, 高橋慎平, 諏訪部武, 安松啓子, 硲 哲崇, 二ノ宮裕三: カプサイシン添加はマウスの糖および NaCl に対するリック数を増加させる, 日本味と匂学会第 58 回大会, 2024.9.11-13, 岡山大学
29. 上田貴之, 太田 緑, 竜 正大, 吉見佳那子, 中川量晴, 戸原 玄: 情報通信機器を用いた遠隔診療による口腔機能低下症患者への口腔機能管理の実証と課題検討, 日本老年歯科医学会第 35 回学術大会, 2024.6.28-30, 札幌コンベンションセンター
30. 臼田 頌, 黄地健仁, 中川種昭, 堀江伸行: 後期高齢者に発症した顎関節症様の症状から失明に至った巨細胞性動脈炎の 1 例, 日本老年歯科医学会第 35 回学術大会, 2024.6.28-30, 札幌コンベンションセンター
31. 薄場はるか, 石井武展, 大野建州, 溝口利英, 西井 康: 歯根周囲に分布する Gli1 陽性幹細胞の細胞表面受容体の解明, 第 83 回日本矯正歯科学会学術大会, 2024.10.29-31, パシフィコ横浜
32. 宇田川琢, 山本 圭, 明石良彦, 中島 啓, 國分克寿, 石川 昂, 松坂賢一: ヒト口腔粘膜上皮細胞における β-galactosidase 及び LaminB1 の加齢による発現, 第 66 回歯科基礎医学会学術大会, 2024.11.2-4, 長崎大学
33. 黄地健仁, 倉島竜哉, 木村麻記, 溝口利英, 澁川義幸: ATF 6 a 制御による歯の延命と健康寿命延伸戦略, 第 317 回東京歯科大学学会(例会), 2024.6.1, 東京歯科大学
34. 黄地健仁, 佐藤涼一, 倉島竜哉, 山口耕司, 木村麻記, 澁川義幸: 1/6 重力下では唾液腺 Amy1 発現が増加する, 日本宇宙生物科学会第 38 回大会, 2024.9.20-22, 山形大学
35. 黄地健仁, 佐藤涼一, 倉島竜哉, 木村麻記, 澁川義幸: 月面重力環境下での Amylase 発現上昇と TRPV6 機能連関, 第 70 回日本宇宙航空環境医学会大会, 2024.11.16-17, 港区
36. 黄地健仁, 倉島竜哉, 木村麻記, 澁川義幸: 歯髄ペリサイト由来象牙芽細胞は機械感受性を有する, 第 29 回日本口腔顔面痛学会学術大会, 2024.11.29-12.1, 東京歯科大学

37. 大友顕一郎, 齋藤 壮, 竜 正大, 上田貴之: 層造型法用歯冠色レジン上に築盛した歯肉色レジンの厚さが色調に与える影響, 第 318 回東京歯科大学学会(総会), 2024.10.19-20, 東京歯科大学
38. 大平真理子, 大久保真衣, 奥村知里, 府馬亮介, 三浦慶奈, 森光朋子, 福島素美, 山下秀一郎: 精神疾患患者に対する KT バランスチャートを用いた摂食嚥下機能評価の有用性の検討, 第 30 回日本摂食嚥下リハビリテーション学会, 2024.8.30-31, 福岡国際会議場
39. 大和田碧, 上川床俊彦, 四ツ谷護, 露木 悠, 酒井貴徳, 野本俊太郎, 石川明寛, 関根秀志: 変形性顎関節症の病態進行と Asporin の関連, 日本補綴歯科学会第 133 回学術大会, 2024.7.5-7, 幕張メッセ
40. 大和田碧, 四ツ谷護, 関根秀志: 変形性顎関節症モデルマウスにおける Asporin の発現, 日本顎関節学会第 37 回学術学会, 2024.7.13-14, あわぎんホール
41. 大和田碧, 四ツ谷護, 黒田祥太, 石束 叡, 伊藤慎一郎, 笠原正貴, 溝口利英, 関根秀志: 変形性顎関節症モデルマウスの病態進行と Asporin の関連, 第 318 回東京歯科大学学会(総会), 2024.10.19, 東京歯科大学
42. 岡野和美, 清藤友介, 佐藤瑞季, 齋藤寛一, 堀田 拓, 中島純子: 舌癌半側切除術症例における最大舌圧の推移と嚥下機能, 第 30 回日本摂食嚥下リハビリテーション学会, 2024.8.29, 福岡国際会議場
43. 荻原朱音, 加藤 宏, 吉田秀児, 林 宰央, 有泉高晴, 村松賢太郎, 池谷 侑, 渡邊 章, 片倉 朗, 高野正行: 磁場式ナビゲーションシステムを用いてオトガイ形成術を行った 1 例, 第 78 回日本口腔科学会学術集会, 2024.7.19-21, 東京大学
44. 奥村哲嗣, 小山 侑, 小谷地雅秀, 有泉高晴, 星野照秀, 林 宰央, 加藤 宏, 西山明宏, 吉田秀児, 菅原圭亮, 笠原清弘, 髙野正行, 渡邊 章, 片倉 朗: 診療実績の向上を目的とした東京歯科大学水道橋病院口腔外科における初診患者の動向調査, 第 318 回東京歯科大学学会・例会, 2024.10.19, 東京歯科大学
45. 奥村知里, 大久保真衣, 杉山哲也, 石田 瞭: 超音波診断装置を用いた若年者と高齢者の口輪筋と口唇全体の厚さおよび口唇閉鎖力の比較検討, 第 41 回日本障害者歯科学会 総会および学術大会, 2024.12.15, 那覇
46. 小髙研人: 半自動的アプローチを用いた下顎矢状分割術後部の体積的評価, NPO 法人日本歯科放射線学会第 5 回秋季学術大会, 2024.10.26, 盛岡市民文化ホール
47. 小髙研人, 小谷地雅秀, 西山明宏, 菅原圭亮, 片倉 朗: 頸部リンパ節の形態的特徴を考慮した自動セグメンテーションの開発, 第 43 回一般社団法人日本口腔腫瘍学会総会・学術大会, 2025.2.28, 一橋大学 一橋講堂
48. 音成(山本) 実佳, 中島 啓, 佐藤仁美, 和田大岳, 松元秀樹, 西山明宏, 星野照秀, 松坂賢一, 片倉 朗, 後藤多津子: パノラマＸ線画像およびＣＴで他の病変が疑われた含歯性嚢胞, NPO 法人日本歯科放射線学会第 64 回学術大会・第 20 回定例総会, 2024.5.25, ホテルイタリア軒, 新潟
49. 小野紗也加, 辻 直紀, 坂本朋昭, 小口修矢, 中村 貴, 星 和人, 疋田温彦: システインプロテアーゼ阻害は骨代謝ネットワーク in vitro 再構築系で骨吸収と骨形成のカップリングを妨げる, 筋・骨・リウマチ 3 学会合同若手研究会, 2024.5.11-12, 富士ソフトアキバプラザ
50. 小野寺晶子, 西村仁希, 加藤 宏, 間奈津子, 渡邊 章: 遺伝子パネルを用いた歯原性角化嚢胞の変異解析と予後予測の可能性, 第 56 回 日本臨床分子形態学会, 2024.9.28, 川崎医科大学 現代医学教育博物館
51. 小野寺晶子, 間奈津子: Long-ncRNA, RP11-399K21.11 による骨芽細胞分化制御機構, 第 66 回 歯科基礎医学会学術大会, 2024.11.3, 長崎大学
52. 小原身知子, 西山明宏, 西村光正, 岩﨑 亮, 杉浦 慧, 山本裕義, 田中 斉, 加藤禎彬, 有泉高晴, 星野照秀, 片倉 朗, 渡邊 章: 舌神経損傷における欠損距離は神経縫合術の予後に影響を受けるのか, 第 28 回口腔顔面神経機能学会総会, 学術大会, 2025.3.1, 大阪大学中之島センター

53. 笠原正彰, 籠浦弘城, 棟方里花, 服部雅之: 結晶工学的アプローチによるヒト舌骨体皮質骨の骨質解析, 令和 6 年度日本歯科理工学会関東地方会, 2024.11.9, 日本大学松戸歯学部（50 周年記念講堂）
54. 加瀬義高, 森川 暁, 岡野雄士, 細井達矢, 安居孝純, 宮下陽子, 矢可部満隆, 後藤真楽, 石原和幸, 小川純人, 中川種昭, 岡野栄之: 歯周炎は inflammaging を加速させ osteodynapenia と cognitive frailty を引き起こす, 第 11 回日本サルコペニア・ フレイル学会学会大会, 2024.11.2-3, 都市センターホテル
55. 加藤 宏, 小原身知子, 丸島あずさ, 林 宰央, 有泉高晴, 吉田秀児, 片倉 朗, 渡邊 章: 著明な造影効果を呈した口蓋部化膿性肉芽腫の 1 例, 第 34 回日本口腔内科学会・第 37 回日本口腔診断学会合同学術大会, 2024.9.28, 長野県塩尻
56. 樺澤由佳李, 牧口哲英, 小松千晃, 田中康裕, 渡辺麻衣子, 井野詩絵里, 岩渕有華, 宮田貴楓, 田中亜生, 櫻井敦朗, 新谷誠康: 種々の MTA セメントを使用した乳歯への直接覆髄, 第 62 回日本小児歯科学会大会, 2024.5.17, 横須賀芸術劇場
57. 鎌田聡仁, 田坂彰規, 染屋智子, 服部雅之, 山下秀一郎: 切削加工技術を応用したポリカーボネート義歯床と常温重合レジンとの接着強度の検証, 第 82 回日本歯科理工学会学術講演会, 2024.4.20, かごしま県民交流センター（カクイックス交流センター）
58. 鎌田聡仁, 田坂彰規, 染屋智子, 服部雅之, 山下秀一郎: CAD/CAM 技術で製作した新規ポリカーボネート義歯用材料と常温重合レジンとのせん断接着強さ, 令和 6 年度日本補綴歯科学会東北・北海道支部学術大会, 2024.10.6, 郡山市民交流プラザ ビッグアイ
59. 鎌田政一, 酒井貴徳, 平野瑞穂, 黒田祥太, 四ツ谷護, 関根秀志: 上顎前歯部プロビジョナルブリッジの製作方法と連結部断面積の違いが破壊強度に与える影響, 日本デジタル歯科学会第 15 回学術大会, 2024.5.11-12, 長崎ブリックホール
60. 亀岡瑞輝, 石井武展, 森川泰紀, 矢野詩織, 松田裕作, 伴 茉莉, 坂本輝雄, 西井 康: 東京歯科大学における片側性唇顎裂と片側性唇顎口蓋裂の口唇形態の成長による評価, 第 48 回日本口蓋裂学会総会・学術大会, 2024.5.30-31, 名古屋コンベンションホール
61. 姜 裕奈, 林真由子, 森井雅子, 小崎芳彦, 吉田香織, 小鹿恭太郎, 一戸達也: 顎変形症術後に生じる PONV に関与する遺伝子多型の解明, 第 52 回日本歯科麻酔学会総会・学術集会, 2024.10.25-27, 朱鷺メッセ
62. 木村麻記, 黄地健仁, 倉島竜哉, 黒田英孝, 澁川義幸: CGRP family を軸とした三叉神経節ニューロン－内皮細胞共培養歯髄炎モデル解析, 第 78 回 NPO 法人 日本口腔科学会学術集会, 2024.7.19-21, 東京大学安田講堂ほか本郷地区キャンパス
63. 木村麻記, 黄地健仁, 倉島竜哉, 澁川義幸: 象牙芽細胞の細胞内 cAMP 増加誘発性 Ca2+流入経路の検討, 第 78 回 NPO 法人 日本口腔科学会学術集会, 2024.7.19-21, 東京大学安田講堂ほか本郷地区キャンパス
64. 木村麻記, 黄地健仁, 倉島竜哉, 黒田英孝, 澁川義幸: 象牙芽細胞のアデニル酸クラーゼ活性化は CALHM1 を介した Ca2+流入を誘発する, 第 161 回日本歯科保存学会 2024 年度秋季学術大会, 2024.11.21-22, アクリエひめじ（姫路市文化コンベンションセンター）
65. 木村麻記, 黄地健仁, 倉島竜哉, 黒田英孝, 澁川義幸: 象牙芽細胞の cannabinoid 1 受容体活性化は細胞内 cAMP を増加する, APPW2025(第 130 回日本解剖学会/第 102 回日本生理学会/第 98 回日本薬理学会合同大会), 2025.3.17-19, 幕張メッセ
66. 窪山裕也, 木村麻記, 黄地健仁, 倉島竜哉, 新谷誠康, 澁川義幸: 象牙芽細胞におけるグルココルチコイド受容体の発現検討, 第 78 回 NPO 法人 日本口腔科学会学術集会, 2024.7.19-21, 東京大学安田講堂ほか本郷地区キャンパス

67. 窪山裕也, 木村麻記, 黄地健仁, 倉島竜哉, 新谷誠康, 澁川義幸: 象牙芽細胞のグルココルチコイド受容体による象牙質形成変調, 第 318 回東京歯科大学学会・総会, 2024.10.19-20, 東京歯科大学
68. 窪山裕也, 木村麻記, 黄地健仁, 倉島竜哉, 新谷誠康, 澁川義幸: 象牙芽細胞において Piezo1-TRPA1/TRPV1 機能連関は細胞内アラキドン酸カスケードを介する, 第 66 回歯科基礎医学会学術大会, 2024.11.2-4, 長崎大学医学部キャンパス
69. 窪山裕也, 木村麻記, 黄地健仁, 倉島竜哉, 新谷誠康, 澁川義幸: 象牙芽細胞のグルココルチコイド受容体は象牙質形成を誘発する, 第 66 回歯科基礎医学会学術大会, 2024.11.2-4, 長崎大学
70. 窪山裕也, 木村麻記, 黄地健仁, 倉島竜哉, 新谷誠康, 澁川義幸: 象牙芽細胞のグルココルチコイド受容体による象牙質形成の調節, APPW2025(第 130 回日本解剖学会/第 102 回日本生理学会/第 98 回日本薬理学会合同大会), 2025.3.17-19, 千葉市
71. 倉島竜哉, 黄地健仁, 木村麻記, 澁川義幸: 象牙芽細胞において Piezo1 活性化はアラキドン酸カスケード活性化を介して TRPV1/TRPA1 を活性化する, 第 317 回東京歯科大学学会・例会, 2024.6.1, 東京歯科大学
72. 倉島竜哉, 黄地健仁, 木村麻記, 澁川義幸: 象牙芽細胞において細胞内アラキドン酸カスケードが Piezo1-TRP channel 機能連関を仲介する, 第 78 回 NPO 法人 日本口腔科学会学術集会, 2024.7.19-21, 東京大学安田講堂ほか本郷地区キャンパス
73. 倉島竜哉, 黄地健仁, 木村麻記, 澁川義幸: 象牙芽細胞における細胞内アラキドン酸カスケードを介した Piezo1-TRPV1/TRPA1 チャネル機能連関, APPW2025(第 130 回日本解剖学会/第 102 回日本生理学会/第 98 回日本薬理学会合同大会), 2025.3.17-19, 幕張メッセ
74. 栗原智尋, 菅原圭亮, 笠原典夫, 松永 智, 阿部伸一, 片倉 朗: マウス下顎頭切除モデルを用いた関節突起骨折の治癒機転の解明, 第 318 回東京歯科大学学会(総会), 2024.10.19, 東京歯科大学水道橋校舎新館
75. 黒田有希子, 河合克宏, 溝口利英, 松尾光一: 皮質骨を挟んで向かい合った骨芽細胞と破骨細胞からなる「トランペアリング」は、成長期の皮質骨の厚みを保ちつつ骨の外形を周囲に適合させる, 第 42 回日本骨代謝学会学術集会, 2024.6.29-7.2, 那覇文化芸術劇場
76. 小泉洋二郎, 立木千恵, 笠原典夫, 松永 智, 山本 仁, 西井 康: OCP/Collagen を用いた Ridge Preservation が周囲歯周組織に与える影響, 第 318 回東京歯科大学学会(総会), 2024.10.19, 東京歯科大学水道橋校舎新館
77. 小泉洋二郎, 立木千恵, 笠原典夫, 松永 智, 山本 仁, 西井 康: OCP/Collagen を用いた Ridge Preservation が周囲歯周組織に与える影響 マウスを用いた形態・組織学的検索, 第 318 回東京歯科大学学会(総会), 2024.10.20, 東京歯科大学
78. 河野恭佑, 黄地健仁, 佐藤涼一, 倉島竜哉, 木村麻記, 澁川義幸: 遠心機能付き飼育装置を用いた月面重力環境でのマウス顎下腺における Amy1 の発現変動, 第 78 回 NPO 法人 日本口腔科学会学術集会, 2024.7.19-21, 東京大学安田講堂ほか本郷地区キャンパス
79. 小坂悠樹, 有泉高晴, 林 宰央, 加藤 宏, 吉田秀児, 渡邊 章: 10 歳男児の下顎前歯部に生じた静止性骨空洞の 1 例, 第 36 回一般社団法人日本小児口腔外科学会総会・学術大会, 2024.11.8, 栃木県総合文化センター
80. 後藤多津子, 松元秀樹, 後藤哲哉: アルツハイマー病におけるアミロイド PET、タウ PET、神経心理学的評価の結果と口腔状態との関連, 認知症と口腔機能研究会 第 5 回学術集会, 2024.8.25, 東京医科歯科大学
81. 小幡亮太, 三邉正樹, 稲田潤一郎, 加藤 悠, 上野紗璃, 明由理亜, 森田奈那, 酒井克彦, 橋本和彦, 松浦信幸, 河野通良, 野村武史: 口腔限局症例を含めた分類に基づく多形紅斑の後方視的検討, 第 37 回日本口腔診断学会・第 34 回日本口腔内科学会 合同学術大会, 2024.9.27-29, 松本歯科大学

82. 小林邑生, 石井武展, 森川泰紀, 野田真緒, 倉林沙帆, 坂本輝雄, 西井 康: 口唇形成の術式が片側性唇顎裂における口唇形態の対称性に与える影響について, 第 48 回日本口蓋裂学会総会・学術大会, 2024.5.30-31, 名古屋コンベンションホール
83. 小松千晃, 櫻井敦朗, 本間宏実, 新谷誠康: 2q37 欠失症候群患児に対する長期口腔内管理を行った 1 例, 第 62 回日本小児歯科学会大会, 2024.5.17, 横須賀芸術劇場
84. 齋藤 壮, 竜 正大, 上田貴之: フッ化物配合歯磨剤によるブラッシングが新規開発薄型磁性アタッチメントのキーパーの表面粗さに与える影響, 第 317 回東京歯科大学学会(例会), 2024.6.1, 東京歯科大学
85. 齋藤 壮, 竜 正大, 市川哲雄, 上田貴之: 化学的清掃が新規開発薄型磁性アタッチメントの磁石構造体の表面粗さに与える影響, 日本補綴歯科学会第 133 回学術大会, 2024.7.6-7, 幕張メッセ国際会議場
86. 齋藤 宰, 岡村将宏, 森田奈那, 平賀智豊, 渡邊美貴, 三邉正樹, 関川翔一, 鈴木大貴, 酒井克彦, 山本雅絵, 成田正人, 中島純子, 松浦信幸, 野村武史: 東京歯科大学市川総合病院・歯科口腔外科(千葉・市川包括地区口腔外科部門)における 2023 年度の全身麻酔手術症例の調査, 第 318 回東京歯科大学学会, 2024.10.19, 東京歯科大学
87. 齋藤 壮, 堀 綾夏, 堀部耕広, 久保慶太郎, 河野立行, 竜正大, 上田貴之: 歯科外来患者における OF-5 によるオーラルフレイル該当者と非該当者の口腔機能の比較, 2024 年度日本補綴歯科学会東京支部学術大会, 2024.12.1, 昭和大学
88. 齋藤菜月, 黄地健仁, 木村麻記, 倉島竜哉, 小鹿恭太郎, 一戸達也, 澁川義幸: CGRP と PTH 依存的 cAMP シグナルの解析および異なるリガンド由来の cAMP 依存的象牙質再生の根底にある新しい調節メカニズムの解明, 第 317 回東京歯科大学学会・例会, 2024.6.1, 東京歯科大学
89. 齊藤 萌, 西山明宏, 小谷地雅秀, 小山 侑, 有泉高晴, 星野照秀, 加藤 宏, 林 宰央, 大野啓介, 吉田秀児, 渡邊 章, 菅原圭亮, 笠原清弘, 髙野正行, 片倉 朗: 2022 年度における東京歯科大学水道橋病院口腔外科の全身麻酔下での手術症例の臨床的検討, 第 317 回東京歯科大学学会, 2024.6.1, 東京歯科大学
90. 齊藤 萌, 星野照秀, 加藤禎彬, 中島信太郎, 有泉高晴, 西山明宏, 渡邊 章, 片倉朗: 下顎骨内に発生した孤立性神経線維腫の 1 例, 第 34 回日本口腔腫瘍学会総会, 学術大会, 2025.2.27, 東京・一橋講堂
91. 坂田 望, 本間宏実, 櫻井敦朗, 新谷誠康: 第一大臼歯の埋伏を機にエナメル上皮線維歯牙腫が判明した 1 例, 第 62 回日本小児歯科学会大会, 2024.5.17, 横須賀芸術劇場
92. 櫻井直人, 澤田智史, 桑島幸紀, 深澤慶子, 山中謙太, 野村直之, 染屋智子, 笠原正彰, 服部雅之, 佐藤和朗, 武本真治: 製作方法の異なるコバルトクロム合金の酸性生理食塩水中での溶出挙動, 第 82 回日本歯科理工学会学術講演会, 2024.4.20, かごしま県民交流センター
93. 櫻井直人, 澤田智史, 桑島幸紀, 江川恭徳, 伊藤圭太, 新山慎太郎, 染屋智子, 笠原正彰, 服部雅之, 佐藤和朗, 武本真治: Ti-Ag-Nb-Cu 合金のフッ化物溶液での金属元素溶出挙動, 第 82 回日本歯科理工学会学術講演会, 2024.4.21, かごしま県民交流センター
94. 佐藤花佳, 建部廣明, 溝口利英, 細矢明宏: 歯小嚢に局在する α - 平滑筋アクチン陽性細胞の骨芽細胞分化能, 第 66 回歯科基礎医学会学術大会, 2024.11.2-4, 長崎大学医学部
95. 佐藤仁美, 音成実佳, 中島 啓, 松元秀樹, 和田大岳, 渡邊章, 松坂賢一, 後藤多津子: 外歯瘻を生じた下顎頬側根分岐部嚢胞の一例, NPO 法人日本歯科放射線学会第 238 回関東地方会・第 43 回北日本地方会・第 31 回合同地方会, 2024.8.31, 日本歯科大学新潟生命歯学部
96. 佐藤祐太郎, 石原和幸, 久保田高明: *Porphyromonas gingivalis* 菌体破砕液に含まれる抗 P.gingivalis 活性物質の単離, 第 66 回歯科基礎医学会学術大会, 2024.11.2- 4 , 長崎大学
97. 佐藤涼一, 小高研人, 佐古 亮, 杉原直樹: 生活リズム再現型 pH-cycling 酸蝕症モデルによる AP-

MFP 歯面塗布の効果検討, 第 317 回東京歯科大学学会例会, 2024.6.1, 東京歯科大学

98. 塩崎一成, 伊東宏和, 枝 卓史, 小寺 稜, 松永 智, 笠原典夫, 勝村聖子, 田中 倫, 五十嵐千浪, 佐藤慶太: 咀嚼筋腱・腱膜過形成症の評価と解剖学的再検討, 第 37 回日本顎関節学会, 2024.7.13, あわぎんホール（徳島市）
99. 志田菜奈, 和田大岳, 松元秀樹, 井上 綾, 佐藤仁美, 阿部 修, 田邊宏樹, 後藤多津子: 塩味にうま味を添加した際の高齢者における脳活動について:pilot study, NPO 法人日本歯科放射線学会第 239 回関東地方会, 2025.2.8, 日本大学松戸歯学部
100. 設樂沙月, 伊藤慎一郎, 笠原正貴, 溝口利英, 西井 康: 誘導性の細胞標識システムを用いた歯根膜 LepR 陽性細胞の invivo 動態解析, 第 317 回東京歯科大学学会(例会), 2024.6.1, 東京歯科大学
101. 清水 学, 国分栄仁, 菊池有一郎, 米澤英雄, 石原和幸: *Treponema denticola* TDE_0820 の機能解析, 第 318 回東京歯科大学学会(例会), 2024.10.19, 東京歯科大学
102. 下山圭太, 立木千恵, 根津 浩, 根津 崇, 仲谷龍太郎, 小髙研人, 松永 智, 阿部伸一, 西井 康:Pterygoid Point および Sella を基準とした顎骨成長発育の縦断的三次元的評価, 第 318 回東京歯科大学学会(総会), 2024.10.19, 東京歯科大学水道橋校舎新館
103. 下山圭太, 立木千恵, 根津 浩, 根津 崇, 仲谷龍太郎, 小髙研人, 松永 智, 西井 康: Pterygoid Point(PT)および Sella を基準とした顎顔面の三次元的成長に対する縦断的評価, 第 83 回日本矯正歯科学会学術大会, 2024.10.29, パシフィコ横浜
104. 菅原圭亮, 後藤多津子, 佐藤仁美: 2024 年度ウェルビーイングプロジェクト成果報告, 2024 年度ウェルビーイングプロジェクト成果報告会・生体医工学ラボ, 2025.2.25, 東京歯科大学
105. 杉 侑紀, 本田健太郎, 中島純子, 加藤 悠, 森田奈那, 酒井克彦, 松浦信幸: 外来受診を契機に発覚した児童虐待と高齢者虐待の 2 例, 第 217 回日本口腔外科学会関東支部会学術大会, 2024.5.18, 東京歯科大学
106. 杉浦 慧, 星野照秀, 加藤禎彬, 岩崎 亮, 橋本菜央, 片倉 朗: エアフローの使用を契機に発生した広範囲皮下気腫の経験, 第 37 回日本口腔診断学会, 第 34 回日本口腔内科学会, 2024.9.29, 松本歯科大学
107. 角 優衣, 小牧真緒, 建部廣明, 谷村明彦, 溝口利英, 細矢明宏: 顎下腺筋上皮細胞の細胞系譜解析, 第 66 回歯科基礎医学会学術大会, 2024.11.2-4, 長崎大学医学部
108. 関真都佳, 齋藤菜月, 蓮沼和也, 小鹿恭太郎, 一戸達也: 象牙芽細胞への脱分極刺激は細胞内 Ca2+ 動員を誘発する, 第 52 回日本歯科麻酔学会総会・学術集会, 2024.10.25-27, 朱鷺メッセ
109. 関真都佳, 木村麻記, 黄地健仁, 倉島竜哉, 澁川義幸, 一戸達也: 脱分極刺激は象牙芽細胞への Ca2+ 流入と細胞内 Ca2+ストアからの Ca2+放出を誘発する, 第 66 回歯科基礎医学会学術大会, 2024.11.2-4, 長崎市
110. 関矢日向子, 黄地健仁, 倉島竜哉, 中島克真, 木村麻記, 澁川義幸: ステロイド由来歯痛発症メカニズムの解明, 第 66 回歯科基礎医学会学術大会, 2024.11.2-4, 長崎市
111. 関矢日向子, 黄地健仁, 木村麻記, 古澤成博, 澁川義幸: ステロイド誘発性象牙質知覚過敏様歯痛のメカニズム, 日本歯科保存学会 2024 年度秋季学術大会(第 161 回), 2024.11.21-22, 姫路市
112. 関谷凌, 松永 智, 野口 拓, 森田純晴, 楊 天意, 今井琴子, 鈴木佐弥子, 阿部伸一: マウス抜歯窩の新生骨形成に関与する H 型血管の分布と活性化, 第 318 回東京歯科大学学会(総会), 2024.10.19, 東京歯科大学水道橋校舎新館
113. 千代侑香, 長谷川陽, 松浦信幸, 小鹿恭太郎, 東 俊文, 一戸達也, 大野建州: T 細胞活性におけるミトコンドリア代謝機構を介した TSPO の役割, 第 317 回東京歯科大学学会(例会), 2024.6.1, 東京歯科大学
114. 千代侑香, 小鹿恭太郎, 松浦信幸, 一戸達也, 大野 建州: T 細胞依存的な炎症応答におけるトランス

ロケータプロテイン(TSPO)の機能解析, 第 52 回日本歯科麻酔学会総会・学術集会, 2024.10.25-27, 朱鷺メッセ

115. 高石怜子, 中島純子, 栗原佑佳, 鈴木美紅, 井口祐子, 大屋朋子, 酒井克彦, 松浦信幸: 周術期口腔機能管理対象者の術前における口腔機能と関連因子の検討 ,第 21 回日本口腔ケア学会総会・学術大会, 2024.4.27, 一橋会館
116. 髙﨑恵美, 大久保真衣, 三浦慶奈, 赤堀元彦, 仲 谷剛, 杉山哲也, 池田珠桃, 石郷岡友美: 摂食嚥下リハビリテーション科の口腔機能低下症患者の統計, 第 30 回日本摂食嚥下リハビリテーション学会, 2024.8.30, 福岡
117. 髙階友博, 国分栄仁, 菊池有一郎, 米澤英雄, 石原和幸: *Treponema denticola* における酸素応答性 ABC transporter の解析, 第 66 回歯科基礎医学会学術大会, 2024.11.2- 4 , 長崎大学
118. 高橋彩記子, 田中智人, 宮本依利, 楊 天意, 石束 叡, 廣内英智, 松永智, 阿部伸一, 北村 啓, 山本 仁: モダイオラスの発育に関する組織学的検索, 第 318 回東京歯科大学学会(総会), 2024.10.19, 東京歯科大学水道橋校舎新館
119. 髙橋有希, 平井研吾, 石束 叡, 新谷誠康, 笠原正貴: 筋特異的プロモーターを応用した低ホスファターゼ症に対する新規胎児治療戦略の創生, 第 317 回東京歯科大学学会(例会), 2024.6.1, 東京歯科大学
120. 田上聖章, 黄地健仁, 木村麻記, 倉島竜哉, 中村史朗, 井上富雄, 澁川義幸, 西井康: 歯根膜支配三叉神経中脳路核と三叉神経節ニューロンの機械感受性イオンチャネル発現と矯正力 適応時の発現変動, APPW2025(第 130 回日本解剖学会/第 102 回日本生理学会/第 98 回日本薬理学会合同大会), 2025.3.17-19, 幕張メッセ
121. 瀧沢寛律, 米山かや, 森 晶子, 八岡和歌子, 上野尚雄, 野村武史, 森 泰昌: 造血幹細胞移植後 2 次口腔がんの発症リスク評価法の開発, 第 43 回日本口腔腫瘍学会総会・学術大会, 2025.2.26-28, 一橋講堂
122. 竹内みのり, 竜 正大, 上田 貴之: 油性成分を主成分とした粘膜保護義歯安定剤の総義歯装着者に対する効果の検討, 日本老年歯科医学会第 35 回学術大会, 2024.6.28-30, 札幌コンベンションセンター
123. 田代憲太朗, 五十嵐章智, 三友啓介, 村松 敬: 歯髄血管再生療法(パルプリバスクラリゼーション)の治癒過程における Axin2 発現細胞および Gli1 発現細胞の局在の変化と硬組織形成への関与, 第 160 回　日本歯科保存学会, 2024.5.16-17, 仙台国際会議場
124. 立澤孝太郎, 西山明宏, 小山拓洋, 小谷地雅秀, 小山 侑, 星野照秀, 菅原圭亮, 笠原清弘, 片倉 朗: 診断に苦慮した若年者の顎矯正手術後に発症した誤嚥性肺炎の 1 例, 第 21 回日本口腔ケア学会総会・学術大会／第 4 回国際口腔ケア学会総会・学術大会, 2024.4.27-28, 東京・一橋講堂
125. 田中 希, 中澤和真, 竜 正大, 上田貴之: 積層造形用レジンと常温重合レジンの接着強さへのジクロロメタンと酢酸エチルの効果, 日本補綴歯科学会第 133 回学術大会, 2024.7.6-7, 幕張メッセ国際会議場
126. 近島芽依, 内山沙姫, 石井武展, 末石研二, 西井 康: 舌突出癖を伴う開咬症例に口腔筋機能療法を行い咬合の回復に寄与した症例, 第 22 回日本口腔筋機能療法学会学術大会, 2024.10.16, 有楽町朝日ホール
127. 辻 直紀, 坂本朋昭, 中村 貴, 星 和人, 疋田温彦: 機能的骨オルガノイドによる BMU 内での破骨細胞の行方と骨芽細胞への影響, 筋・骨・リウマチ 4 学会合同若手研究会, 2024.5.11-12, 富士ソフトアキバプラザ
128. 辻 直紀, 坂本朋昭, 中村 貴, 星 和人, 疋田温彦: 破骨細胞由来アポトーシス小体は分化した骨芽細胞の再活性化を促す, 第 44 回日本骨形態計測学会, 2024.6.21-23, コラッセふくしま

129. 辻 直紀, 坂本朋昭, 中村 貴, 星 和人, 疋田温彦: 機能的骨オルガノイドを用いた骨芽細胞による破骨細胞アポトーシス小体の貪食が骨形成に及ぼす影響の解析, 第 42 回日本骨代謝学会学術集会, 2024.6.3-7.2, 那覇文化芸術劇場なはーと
130. 時田英紀, 櫻井敦朗, 内田博之, 北村 新, 山内英史, 白井弘三, 新井曄子, 戸坂清二, 丸山清孝, 原田達也, 時田寿里, 白井優理奈, 松浦信幸, 新谷誠康, 一戸達也: 口腔環境の改善が困難な自閉スペクトラム患者の行動変容を試みた一例, 第 41 回日本障害者歯科学会, 2024.12.14, 沖縄コンベンションセンター
131. 徳山彰秀, 伊藤慎一郎, 笠原正貴, 溝口利英: 抜歯窩修復骨に寄与する幹細胞画分の同定, 第 317 回東京歯科大学学会(例会), 2024.6.1, 東京歯科大学
132. 徳山彰秀, 伊藤慎一郎, 笠原正貴, 溝口利英: 抜歯窩修復骨形成に寄与する歯根膜幹細胞画分の同定, 第 66 回歯科基礎医学会学術大会, 2024.11.2-4, 長崎大学医学部
133. 戸田百合子, 野本俊太郎, 四ツ谷護, 玉木理一郎, 関根秀志: 高透過性ジルコニアラミネートベニアを用いて乳前歯の色調と形態を改善した小児審美修復症例, 日本歯科審美学会第 35 回学術大会, 2024.12.7-8, あわぎんホール
134. 伴野圭太, 加藤雄人, 和達重郎, 加藤芳実, 田坂彰規, 山下秀一郎: CAD/CAM ハイブリットレジン冠を局部床義歯支台歯としたクラスプ維持力の変化, 日本補綴歯科学会第 133 回学術大会, 2024.7.6, 幕張メッセ
135. 永井佐代子, 星野照秀, 笠原清弘, 片倉 朗: 外科矯正手術症例の高齢化に対する臨床的検討, 第 24 回日本抗加齢医学会, 2024.5.31-6.2, 熊本城ホール
136. 中尾龍馬, 山口雄大, 佐伯 潤, 安部公博, 明田幸宏, 中村知世, 西野智彦, 石原和幸, 大上厚志, 井上智:イヌモデルにおける 3 種類の細菌外膜小胞を用いた歯周炎ワクチン, 第 97 回日本細菌学会総会, 2024.8.7-9, 札幌コンベンションセンター
137. 中久喜藍, 小鹿恭太郎, 中澤正成, 西野桃加, 野村莉花, 飯村真理子, 齋藤菜月, 吉田香織, 半田俊之, 一戸達也: プロポフォールまたはレミマゾラム麻酔後の悪心嘔吐に対するデキサメタゾンとオンダンセトロンの予防効果, 第 52 回日本歯科麻酔学会総会・学術集会, 2024.10.25-27, 朱鷺メッセ
138. 中澤和真, 中島純子, 上田貴之: 広範囲におよぶ上顎欠損に対し processed record base technique を利用した顎義歯により機能回復が得られた 2 症例, 第 317 回東京歯科大学学会, 2024.6.1, 東京歯科大学
139. 中澤和真, 中島純子, 石崎 憲, 中嶋 梓, 上田貴之: 東京歯科大学顎補綴外来における上顎顎義歯の臨床経過, 第 41 回日本顎顔面補綴学会総会・学術大会, 2024.11.30, 福岡国際会議場
140. 中島克真, 黄地健仁, 木村麻記, 澁川義幸, 古澤成博: Perlecan による象牙質石灰化制御, 日本歯科保存学会 2024 年度春季学術大会(第 160 回), 2024.5.16-17, 仙台国際センター
141. 中島克真, 黄地健仁, 木村麻記, 澁川義幸, 古澤成博: Perlecan による象牙芽細胞膜 Ca2+排出制御と石灰化駆動との相互連関, 第 317 回東京歯科大学学会・例会, 2024.6.1, 東京歯科大学
142. 中島克真, 黄地健仁, 倉島竜哉, 関矢日向子, 木村麻記, 澁川義幸: Perlecan は象牙芽細胞膜 Ca2+排出制御することで象牙芽細胞の石灰化駆動を促進する, 第 66 回歯科基礎医学会学術大会, 2024.11.2-4, 長崎市
143. 中島純子, 酒井克彦, 鈴木美紅, 青木理佐, 財津 愛, 大屋朋子, 松浦信幸: 周術期口腔機能管理対象患者の術前後における口腔機能の推移と関連因子の検討, 第 35 回日本老年歯科医学会学術大会, 2024.6.29, 札幌コンベンションセンター
144. 中島純子, 石崎 憲, 古谷義隆, 金子航大, 中澤和真, 鶴見惇, 宮田大志, 木津康博, 野村武史, 松浦信幸:当科における広範囲顎骨支持型装置を用いた顎補綴治療の臨床的検討, 第 28 回日本顎顔面インプラント学会 総会・学術大会／第 41 回日本顎顔面補綴学会総会・学術大会, 2024.11.30-12.1,

福岡国際会議場

145. 中村安孝, 森 智哉, 石川 昂: 口腔内３Ｄモデルの重ね合わせによる個人識別法 第２報, 第 18 回日本法歯科医学会, 2024.5.26, 大阪歯科大学

146. 成田真人, 荻原朱音, 小鹿山知実, 村松賢太郎, 渡邉美貴, 吉田秀児, 渡邊 章, 中野洋子, 小林奈菜美, 原崎ひとみ, 森川泰紀, 石井武展, 坂本輝雄, 西井 康: 過去 5 年間に東京歯科大学で顎矯正手術を行った口唇口蓋裂患者の臨床調査, 第 48 回日本口蓋裂学会総会・学術大会, 2024.5.30-31, 名古屋コンベンションホール

147. 西村仁希, 加藤 宏, 小野寺晶子, 渡邊 章: 骨芽細胞導入 OCP/コラーゲン複合体を用いた骨再生療法の基礎的研究, 第 24 回日本再生医療学会, 2025.3.20-22, パシフィコ横浜

148. 二宮 禎, 仮谷仁志, 溝口利英, 高橋富久: Leptin receptor 陽性細胞の LRP1 欠損が骨組織再生に与える影響, 第 66 回歯科基礎医学会学術大会, 2024.11.2-4, 長崎大学医学部

149. 野口裕季子, 細矢明宏, 建部廣明, 岸本有里, 溝口利英: α - 平滑筋アクチン陽性歯髄細胞の骨芽細胞分化能, 第 66 回歯科基礎医学会学術大会, 2024.11.2-4, 長崎大学医学部

150. 野田真緒, 森川泰紀, 石井武展, 有泉 大, 林 優希, 小林邑生, 亀岡瑞輝, 西井 康: 上顎側切歯先天欠如を伴う片側性唇顎口蓋裂患者における上顎前歯配列に対する治療方針に与える要因の検討, 第 83 回日本矯正歯科学会学術大会, 2024.10.29-31, パシフィコ横浜

151. 橋本菜央, 中島 啓, 明石良彦, 國分克寿, 菅原圭亮, 松坂賢一, 片倉 朗: 口腔扁平上皮癌におけるコリントランスポーターの局在と細胞増殖との関連, 第 83 回日本癌学会学術総会, 2024.9.19-21, 福岡国際会議場

152. 蓮沼和也, 黄地健仁, 木村麻記, 倉島竜哉, 澁川義幸, 一戸達也: 三叉神経節ニューロンにおける TRP チャネルに着目した機能特性解析, 第 66 回歯科基礎医学会学術大会, 2024.11.2-4, 長崎市

153. 長谷川陽, 大野建州, 千代侑香, 深田美緒, 小鹿恭太郎, 一戸達也, 松浦信幸: ミダゾラムは T 細胞応答をエネルギー代謝の抑制により負に制御する, 第 52 回日本歯科麻酔学会総会・学術集会, 2024.10.25-27, 朱鷺メッセ

154. 秦 加純, 中島純子, 松浦信幸, 安松啓子: マウス鼓索神経における甘味に対する脂肪酸の混合効果と GPR120 の関与：Brief access taste test による検討, 日本味と匂学会第 58 回大会, 2024.9.11-13, 岡山大学

155. 林真由子, 小鹿恭太郎, 吉田香織, 福田謙一, 片倉 朗, 一戸達也: 血小板活性化因子(PAF)分解酵素活性部位のアミノ酸変異は,術後異常感覚・術後疼痛に関連する, 第 318 回東京歯科大学学会(総会), 2024.10.19-20, 東京歯科大学

156. 番場桃子, 岩澤弘樹, 山本 圭, 明石良彦, 中島 啓, 國分克寿, 古澤成博, 松坂賢一: 歯根端切除術後の逆根管充填材料が周囲組織およびヒト歯根膜線維芽細胞に与える影響, 第 317 回東京歯科大学学会(例会), 2024.6.1, 東京歯科大学

157. 東野美晴, 桐本明子, 本間宏実, 田中亜生, 櫻井敦朗, 新谷誠康: 乳幼児期の生活習慣が口腔機能の獲得に与える影響, 第 39 回日本小児歯科学会関東地方会, 2024.10.6, ルミエール府中

158. 久永理央, 北村友里恵, 山下慶子, 齋藤 淳, 石原和幸: *Treponema denticola* の病原性発現および増殖における HxlR family transcriptional regulator の役割の検討, 第 317 回東京歯科大学学会, 2024.6, 東京歯科大学

159. 左 原美, 立木千恵, 松永 智, 菅原圭亮, 有泉 大, 三宅 麗, 阿部伸一, 西井 康: 笑顔の注目度の客観的な評価　～近赤外分光法（NIRS）とアイトラッキングによる定量的評価～, 第 83 回日本矯正歯科学会学術大会, 2024.10.29, パシフィコ横浜

160. 平賀智豊, 鈴木大貴, 橋本和彦, 野村武史: 上顎骨に生じた孤立性形質細胞腫の 1 例, 第 78 回日本口腔科学会学術集会, 2024.7.19-21, 東京大学安田講堂ほか
161. 平賀智豊, 三邉正樹, 酒井克彦, 松浦信幸, 野村武史: 口腔カンジダ症治療薬(ミコナゾール・ゲル剤, コナゾール付着錠)における使用感および服薬遵守状況についての調査研究, 第 37 回日本口腔診断学会・第 34 回日本口腔内科学会 合同学術大会, 2024.9.27-29, 松本歯科大学
162. 平賀智豊, 亀本滉樹, 有川風雅, 江澤美穂, 洲﨑裕子, 小松万純, 吉田佳史, 松浦信幸, 野村武史: 東京歯科大学市川総合病院における歯学部学生を対象とした睡眠歯科医学実習, 第 23 回日本睡眠歯科学会総会・学術集会, 2024.11.3-4, 徳島・大塚講堂
163. 深田美緒, 大野建州, 千代侑香, 長谷川陽, 小鹿恭太郎, 一戸達也, 松浦信幸: トランスロケータープロテイン(TSPO)によるマクロファージ活性の増強作用, 第 52 回日本歯科麻酔学会総会・学術集会, 2024.10.25-27, 朱鷺メッセ
164. 藤田尚志, 田坂彰規, 清水廷浩, 和達重郎, 山下秀一郎: ダブルクラウン内冠のピックアップ印象における光学印象法と従来法との比較検証, 日本補綴歯科学会第 133 回学術大会, 2024.7.6, 幕張メッセ
165. 藤原 龍, 田坂彰規, 伊東紘世, 和達重郎, 倉繁竜士, 武本真治, 山下秀一郎: 積層造形のパラメータが局部床義歯フレームワークの真度に及ぼす影響, 第 318 回東京歯科大学学会, 2024.10.19, 東京歯科大学
166. 藤原 龍, 田坂彰規, 伊東紘世, 和達重郎, 倉繁竜士, 武本真治, 山下秀一郎: 積層造形のパラメータが局部床義歯フレームワークの形状精確さに及ぼす影響, 令和 6 年度日本補綴歯科学会東京支部学術大会, 2024.12.1, 昭和大学上條記念館
167. 星野照秀, 杉浦 慧, 岩崎 亮, 橋本菜央, 佐々木穂高, 片倉 朗: 上顎洞に迷入したインプラント体が口腔内から自然排出した症例 , 第 28 回顎顔面インプラント学会, 2024.11.30-12.1, 福岡国際会議場
168. 堀 綾夏, 太田 緑, 堀部耕広, 竜 正大, 上田貴之: 口腔機能低下症患者に対する 3 か月間の口腔衛生管理とその後 3 か月の口腔機能管理の効果, 日本老年歯科医学会第 35 回学術大会, 2024.6.28-30, 札幌コンベンションセンター
169. 堀 綾夏, 堀部耕広, 久保慶太郎, 河野立行, 齋藤 壮, 竜 正大, 上田貴之: OF-5 により判定されたオーラルフレイルの歯科外来患者における該当率ならびにフレイルとの関連, 第 318 回東京歯科大学学会(総会), 2024.10.19-20, 東京歯科大学
170. 本田健太郎, 中島純子, 酒井克彦, 大屋朋子, 財津 愛, 高橋遼平, 環 聡, 野村武史, 中川 健, 松浦信幸: 腎移植前患者における抜歯適応基準の検討, 第 21 回日本口腔ケア学会総会・学術大会, 2024.4.27, 一橋会館
171. 前田芙沙, 大神浩一郎, 大久保真衣, 上田貴之, 内山 宙, 江戸野大河, 橋本玲央名, 片倉 朗: 高齢者に対する超音波ブラシを用いた口腔機能トレーニングの効果の検討, 第 35 回日本老年歯科医学会総会・学術大会, 2024.6.29, 札幌
172. 牧口哲英, 樺澤由佳李, 丹羽佳代子, 平井研吾, 窪山裕也, 宮本 聖, 荒井 楓, 本間宏実, 田中亜生, 櫻井敦朗, 新谷誠康: 種々の MTA セメントを使用した乳歯への生活歯髄切断, 第 62 回日本小児歯科学会大会, 2024.5.17, 横須賀芸術劇場
173. 松永 智, 野口 拓, 森田純晴, 笠原典夫, 山田雅司, 鈴木 龍, 阿部伸一: Octacalcium Phosphate/Collagen を用いた Ridge Preservation が抜歯窩と周囲歯槽骨の治癒過程に及ぼす影響, 第 54 回日本口腔インプラント学会, 2024.11.2, 国立京都国際会館
174. 松永千慧, 飯干由茉, 竜 正大, 上田貴之: 歯科衛生士のきめ細かな口腔機能管理が自覚症状の乏しい口腔機能低下症患者の機能向上につながった症例, 日本老年歯科医学会第 35 回学術大会, 2024.6.28-30, 札幌コンベンションセンター

175. 松永千慧, 飯干由茉, 平塚香織, 竜 正大, 上田貴之, 山下秀一郎: 歯科衛生士が口腔機能管理を行った口腔機能低下症症例の口腔機能の推移, 口腔検査学会第 17 回学術大会, 2024.12.14-15, 日本大学松戸歯学部
176. 松元秀樹, 互 健二, 遠藤浩信, 松岡 究, 高堂裕平, 小久保奈緒美, 島田 斉, 後藤哲哉, 後藤多津子, 樋口真人: アルツハイマー病の脳内異常蛋白質蓄積と口腔内環境の関係：florzolotau (18F)と 11C-PiB PET による評価, 第 64 回日本核医学会学術総会・第 44 回日本核医学技術学会総会学術大会, 2024.11.9, パシフィコ横浜
177. 三浦慶奈, 大久保真衣, 上田貴之, 澤田弘子, 栗原麻美, 杉山哲也, 山下秀一郎, 石田 瞭: 歯科病院内の認定栄養ケア・ステーション利用者の歯科治療に関連する栄養相談内容の分析, 第 30 回日本摂食嚥下リハビリテーション学会, 2024.8.30, 福岡
178. 三上彩可, 黄 海, 兵藤藍子, 堀江謙吾, 安松啓子, 二ノ宮裕三, 美藤純弘, 飯田征二, 吉田竜介: マウスⅢ型味細胞の GABA の役割について, 日本味と匂学会第 58 回大会, 2024.9.11-13, 岡山大学
179. 三邉正樹, 上野紗璃, 明由理亜, 小幡亮太, 加藤 悠, 稲田潤一郎, 森田奈那, 橋本和彦, 松浦信幸, 河野通良, 野村武史: 口腔扁平苔癬の原因検索として行ったパッチテストの結果と金属除去の有効性の後方視的検討, 第 37 回日本口腔診断学会・第 34 回日本口腔内科学会　合同学術大会, 2024.9.27-29, 松本歯科大学
180. 南亜莉沙, 三邉正樹, 河野通良, 野村武史: 非病原性天疱瘡抗体を用いた治療分子とセツキシマブによる口腔癌治療モデルの開発, 第 78 回日本口腔科学会学術集会, 2024.7.19-21, 東京大学安田講堂ほか
181. 三宅 麗, 立木千恵, 松永 智, 菅原圭亮, 有泉 大, 左 原美, 阿部伸一, 西井 康: NIRS とアイトラッキングによる顎変形症患者顔貌の客観的認識, 第 83 回日本矯正歯科学会学術大会, 2024.10.29, パシフィコ横浜
182. 宮田大志, 清水奈々, 鶴見 惇, 古谷義隆, 中島純子, 石崎 憲, 松浦信幸, 野村武史: 広範囲顎骨支持型補綴治療後の清掃不良に対し口腔衛生指導により改善が見られた一症例, 第 28 回日本顎顔面インプラント学会総会・学術大会, 2024.11.30, 福岡国際会議場
183. 宮本 聖, 山本 圭, 明石良彦, 中島 啓, 國分克寿, 新谷誠康, 松坂賢一: 鐘状期初期におけるフッ化ナトリウムがマウス歯胚の内エナメル上皮からエナメル芽細胞への分化に対する影響, 第 66 回歯科基礎医学会学術大会, 2024.11.2-4, 長崎大学医学部キャンパス
184. 棟方里花, 籠浦弘城, 笠原正彰, 服部雅之: MTA セメントに対する表面処理の違いがコンポジットレジンとの接着強さに及ぼす影響, 日本歯科理工学会第 82 回学術講演会, 2024. 4 .20-21, かごしま県民交流センター(カクイックス交流センター)
185. 森川 暁, 加瀬義高, 後藤真楽, 宮下陽子, 安居孝純, 岡野栄之, 石原和幸, 中川種昭: 歯周炎は脳内炎症を引き起こし認知機能障害をきたす マウスモデルを用いた解析, 第 67 回秋季日本歯周病学会学術大会, 2024.10.4-5, 札幌コンベンションセンター
186. 森田一真, 松永 智, 野口 拓, 森田純晴, 田中智人, 宮本依利, 鈴木佐弥子, 廣内英智, 阿部伸一: デンタルインプラントにおける顎舌骨筋の口腔隔膜としての有用性, 第 318 回東京歯科大学学会(総会), 2024.10.19, 東京歯科大学水道橋校舎新館
187. 森野響子, 立木千恵, 松永 智, 菅原圭亮, 阿部伸一, 西井 康: 三次元セファログラムを用いた顎顔面形態の特徴評価, 第 318 回東京歯科大学学会(総会), 2024.10.19, 東京歯科大学水道橋校舎新館
188. 森野響子, 立木千恵, 松永 智, 菅原圭亮, 小髙研人, 阿部伸一, 西井 康: スケルトグラムを用いた骨格性下顎前突患者における顎顔面形態の三次元的特徴, 第 83 回日本矯正歯科学会学術大会, 2024.10.29, パシフィコ横浜

189. 森本和樹, 有泉高晴, 林 宰央, 小谷地雅秀, 小山 侑, 星野照秀, 加藤 宏, 西山明宏, 吉田秀児, 菅原圭亮, 笠原清弘, 髙野正行, 渡邊 章, 片倉 朗: 2023 年度における東京歯科大学水道橋病院口腔外科の全身麻酔下での手術症例とキャンセル症例の検討, 第 318 回東京歯科大学学会・例会, 2024.10.19, 東京歯科大学

190. 矢島圭奈子, 笠原正貴, 小鹿恭太郎, 一戸達也: レミマゾラム-レミフェンタニル麻酔における PaCO2 の変化が口腔組織血流量と口腔組織酸素分圧に及ぼす影響, 第 52 回日本歯科麻酔学会総会・学術集会, 2024.10.25-27, 朱鷺メッセ

191. 山田雅司, 松永 智, 笠原典夫: インプラント体周囲に及ぶ根尖性歯周炎を生じた患者に対して非外科的治療を行い MRONJ を予防できた 1 症例 7 年予後, 第 54 回日本口腔インプラント学会学術大会, 2024.11.1, 国立京都国際会館(京都市)

192. 山田雅司, 田宮資己, 井瀬智之, 岩澤弘樹, 松永 智, 笠原典夫: μCT を用いた日本人下顎中切歯における根管形態の微細構造学的研究, 第 161 回日本歯科保存学会学術大会, 2024.11.21, アクリエひめじ(姫路市)

193. 山本楓華, 松永 智, 立木千恵, 菅原圭亮, 笠原典夫, 小泉洋次郎, 阿部伸一, 西井 康:OCP/Collagen を用いた Ridge Preservation 後のラットの歯牙移動及び顎骨の解析, 第 83 回日本矯正歯科学会学術大会, 2024.10.29, パシフィコ横浜

194. 山本 圭, 明石良彦, 中島 啓, 國分克寿, 中島信太郎, 中田貴大, 菅原圭亮, 片倉 朗, 松坂賢一: 唾液腺腫瘍の一例, 第 35 回日本臨床口腔病理学会総会・学術大会, 2024.7.30-8.1, 新潟大学

195. 山本 圭, 明石良彦, 中島 啓, 國分克寿, 松坂賢一: 口腔上皮性腫瘍性病変と炎症性病変に対するリンパ球反応の比較, 第 17 回日本口腔検査学会総会・学術大会, 2024.12.14-15, 日本大学松戸歯学部

196. 四ツ谷護, 大和田碧, 関根秀志: 変形性顎関節症病態解明のための新たな外科処置モデルマウス作出の検討, 日本顎関節学会第 37 回学術学会, 2024.7.13-14, あわぎんホール

197. 米澤英雄, 菊池有一郎, 国分栄仁, 石原和幸: *Streptococcus mutans* コラーゲン結合アドヘジン cnm の遺伝子多様性とその結合能の解析, 第 97 回日本細菌学会総会, 2024.8.7-9, 札幌コンベンションセンター

198. 米澤英雄, 菊池有一郎, 国分栄仁, 石原和幸: *Streptococcus mutans* コラーゲン結合アドヘジン cnm の遺伝学的解析, 第 66 回歯科基礎医学会学術大会, 2024.11.2- 4 , 長崎大学

199. 竜 正大, 齋藤 壮, 阿部伸一, 上田貴之: 硬組織および軟組織融合型無歯顎模型を用いた教育効果と 2 年経過後の教育効果の推移, 日本補綴歯科学会第 133 回学術大会, 2024.7.6-7, 幕張メッセ国際会議場

200. 和田大岳, 松元秀樹, 佐藤仁美, 後藤多津子: 健康な若年者における、甘味溶液による脳活動：濃度による違いについて, NPO 法人日本歯科放射線学会第 5 回秋季学術大会, 2024.10.26, 盛岡市民文化ホール

201. Wang Kuanyu, 堀江謙吾, 安松啓子, 美藤純弘, 吉田竜介: Exploring the Role of Ccn3 Expression in Mice Type III Taste Buds, 日本味と匂学会第 58 回大会, 2024.9.11-13, 岡山大学

＜2025 年度＞

（国際発表）

1. Otomo K, Saito T, Kobayashi T, Ryu M, Ueda T: Effect of the thickness of gingiva-colored layering resin on color difference in tooth-colored denture base fabricated by additive manufacturing, The 22nd biennial meeting of the International College of Prosthodontists 2025.9.3 Sheraton Centre Hotel, Toronto
2. Ueno S, Minabe M, Akira Y, Kouno M, Nomura T: Analysis of Oral Microbiome in Autoimmune

Bullous Diseases Patients with Oral Mucosal Lesions2025 The American Academy of Oral Medicine(AAOM), 2025.5.14-17, LAS VEGAS, NEVADA

3. K. Ishihara, H. Ishizuka, H. Yonezawa, K. Ishihana, T. Muramatsu: Attachment of bovine milk derived osteopontin to *Streptococcus mutans*, 2026 IADR/AADOCR/CADR General Session, 2026.3.29, San Diego Convention Center
4. Ito K, Kuga M, Takemoto S, Tasaka A: Bonding Strength of Cobalt-Chromium Denture Retainers to CAD/CAM Denture Bases, The 104th General Session & Exhibition of the IADR, 2026.3.28, San Diego Convention Center
5. Satsuki Shidara, Hideaki Hasumi, Haru Araida, Haruka Usuba, Mao Katsuta, Yojiro Koizumi, Makiko Koshika, Yu Tada, Haruka Fukuda, Sayaka Hoshi, Ayaka Hoshino, Taiki Morikawa, Yasushi Nishii: Case evaluation of postgraduate course in Tokyo Dental CollegeAAO Annual Session 2025, 2025.4.26, Philadelphia, USA
6. Koda N, Ishida A, Ohno T, Ueda T: Chewing-induced modulation of innate immunity: Assessment via NK cell activation, The 22nd meeting of the International College of Prosthodontists, September 2, 2025, Sheraton Centre Hotel / Toronto, Canada
7. Sugahara K, Nikaido S, Ito K, Koyachi M, Nishiyama A, Nakajima S, Hori C, Katakura A: Clinical study of infraorbital neuropathy after Le Fort I osteotomyICOMS2025, May 22-25, 2025, Singapore
8. Bo Li, Takehito Ouchi, Jie Liu, Yingzi Yang: Cxcl12–Hedgehog Signaling Activates Suture Stem Cells for Calvarial Regeneration, 2026 IADR/AADOCR/CADR General Session & Exhibition, Oral Session, Therapeutic Approaches to Craniofacial Pathologies, March 25-28, 2026, San Diego Convention Center
9. Takehito Ouchi, Ryuya Kurashima, Maki Kimura, Tatsukuni Ohno, Yoshiyuki Shibukawa: Dental pulp pericytes as dentin reparative precursors have characteristics of MSCs and express the ATP release channels, Panx1/CALHM1/VRAC during their odontoblast differentiation process, 日韓合同・歯の発生と再生を考える国際セミナー, 2026.2.23-24, Nishitetsu Hotel Croom Hakata
10. Haruka Usuba, Takenobu Ishii,Tatsukuni Ohno, Yasushi Nishii: Differentiation mechanisms of Gli1+ stem cells on the traction side in orthodontic tooth movementAAO Annual Session 2025, 2025.4.26 Philadelphia, USA
11. Ohta M, Ryu M, Ueda T: Effect of six-month oral function management on muscle mass in independent older female patients following prosthodontic treatment, The 22nd biennial meeting of the International College of Prosthodontists, 2025.9.3, Sheraton Centre Hotel, Toronto
12. Hitomi Sato: Efficacy of Acupuncture in Burning Mouth Syndrome December Meeting on "Smell and Taste" supported by the Working Group on Olfaction and Gustation of the German ENT, 2025.12.5, University of Vienna
13. Fukuda H, Matsunaga S, Tachiki C, Kasahara N, Sugahara K, Nishii Y: Elucidation of the mandibular deformation mechanism using BTX-injected mice103rd General session & Exhibition oh the IADR, 2025.6.25, Barcelona, Spain
14. Sato Y, Kikuchi Y, Yonezawa H, Kokubu E, Matsuura N, Ishihara K: Functional analysis of a novel transporter protein of *Treponema denticola*, 2025 Inational Association for Dental, Oral, and Craniofacial Research General Session and Exhibition 2025. 6.25-28, Barcelona, Spain
15. Rei Matsubara, Natsuko Aida, Hodaka Sasaki, and Tatsukuni Ohno: Human dental pulp stem cell-derived conditioned medium attenuates LPS-induced inflammatory responses104th General Session & Exhibition of the IADR, 2026.3.25, San Diego, USA
16. Robert Mandic, Michael Bette, Hytham Al Rabadi, Ulrike Theiß, Andreas Neff, Boris A. Stuck, Norio Kasahara, Akihiro Nishiyama: Influence of the MCT1 inhibitor AZD3965 on the radio-sensitivity of HPVneg and HPVpos HNSCC cell lines exposed to carbon-ion irradiation,96. Jahresversammlung Deutsche Gesellschaft für Hals-Nasen-Ohren-Heilkunde, Kopf- und Hals-Chirurgie,31st May 2025, Messe Frankfurt
17. Nishimura A, Nishiyama A, Ariizumi T, Sugahara K, Sasaki K, Watanabe A, Katakura A: Interval between trigeminal nerve injury and visit to a professional hospital: A retrospective study of 809 patients, ICOMS 2025, May 22–25 2025, Singapore
18. M. Haketa, K. Tashiro, T. Ikarashi, S. Ito, K. Mitomo, T. Mizoguchi, A. Yamaguchi, T. Muramatsu: Localization of LepR and Axin2-expressing cells after pulp revascularization therapy

2026 IADR/AADOCR/CADR General Session, 2026.3.29, San Diego Convention Center

19. Hasegawa M, Fukada M, Mizuno Y, Koshika K, Ohno T, Matsuura N: Midazolam Attenuates T Cell Responses by Suppressing Energy Metabolism, 2025 IADR, Jun 25-28th, 2025, Barcelona.Jun 25-28th, 2025,Centre de Convencions Internacional de Barcelona
20. Ayaka Hoshino, Chie Tachiki, Satoru Matsunaga, Keisuke Sugahara, Kento Odaka, Kyoko Morino, Yasushi Nishii: Muscle volumes of skeletal Class III using 3DCT data, 103rd General session &Exhibition oh the IADR, 2025.6.25, Barcelona, Spain
21. Koyachi M, Sugahara K, Tachizawa K, Nakajima S, Nakada T, Ito S, Odaka K, Matusnaga S, Watanabe A, Katakura A: Oral and maxillofacial surgery education for undergraduate students using 360-degree videos in virtual reality system, ICOMS 2025, May 22-25 2025, Singapore
22. Ishikawa S, Hiraga C, Kawano T, Nomura T, Kiyotaka S: Oral cancer-associated extracellular particles in saliva, 第 103 回 IADR(International Association for Dental Research), 2025.6.25-28, Centre de Convencions Internacional de Barcelona (CCID), Barcelona, Spain
23. Dai Ariizumi, Takenobu Ishii, Sayaka Hoshi, Haru Araida, Taiki Morikawa, Yasushi Nishii: Patterns of Mandibular Incisor Agenesis in Japanese Patients With Non-syndromic Oligodontia : A Retrospective Study The Cureus Journal of Medical Science; 18(1):e102223. doi: 10.775946046
24. Tatsumi A, Sekikawa S, Hashimoto K, Sasaki A, Nomura T: Possibility of predicting nodal metastasis in tongue squamous cell carcinoma using biopsy specimens, 第 103 回 IADR(International Association for Dental Research), 2025.6.25-28, Centre de Convencions Internacional de Barcelona (CCID), Barcelona, Spain
25. Yojiro Koizumi, Norio Kasahara, Satoru Matsunaga, Chie Tachiki, Hitoshi Yamamoto, Yasushi Nishii: Promotion of Tooth Extraction Socket Healing with Ridge Preservation using OCP/CollagenAAO Annual Session 2025, 2025.4.26, Philadelphia, USA
26. Ryu M, Kobayashi T, Ohta M, Ueda T: Simplified complete denture treatment using additive manufacturing for older adults with care needs in hospitals or nursing homes, The 22nd biennial meeting of the International College of Prosthodontists, 2025.9.3, Sheraton Centre Hotel, Toronto
27. Kasumi Hata, Kei Kitamura, Junko Nakajima, Hitoshi Yamamoto, Nobuyuki Matsuura, Keiko Yasumatsu: The Mixed Effects of Fatty Acid on Taste Responses and Involvement of GPR120 in Mouse Chorda Tympani Nerve 2025 IADR/PER General Session & Exhibition, 2025.6.25-28, Barcelona, Spain
28. Makino M, Shigematsu M, Matsubara R, Ohno T, Sasaki H: Titanium Nanoparticles Enhance Non-Specific T Cell Response in Oral Mucosa, 2025 IADR, Jun 25-28th, 2025, Barcelona. Jun 25-28th, 2025, Centre de Convencions Internacional de Barcelona
29. Nishiyama A, Kohara M, Ariizumi T, Sugahara K, Sasaki K, Watanabe A, Katakura A: Tolerance of deficit length for Direct nerve repair with Iatrogenic Lingual Nerve Injury leading to Functional Sensory Recovery ICOMS 2025, May 22–25, 2025, Singapore
30. Fukada M, Hasegawa M, Sendai S, Koshika K, Matsuura N, Ohno T: Translocator Protein Deficiency Attenuates Macrophage Activation Induced by LPS Stimulation, 2025 IADR, Jun 25-28th, 2025, Barcelona. Jun 25-28th, 2025, Centre de Convencions Internacional de Barcelona

（国内発表）

1. 堀ひとみ, 大沢由茉, 竜 正大, 上田貴之: 日本語を母語としない口腔機能低下症患者へイラスト等を用い た口腔機能管理により口腔機能向上に至った症例, 日本老年歯科医学会第 36 回学術大会, 2025.6.27, 幕張メッセ
2. 石原和奈, 石塚久子, 村松 敬: 牛乳由来オステオポンチンは Streptococcus mutans に付着するか？, 第 163 回日本歯科保存学会, 2025.11.6,7, 出島メッセ
3. 上條英之, 大山 篤, 澁谷智明, 小林宏明, 佐藤涼一, 安田恵理子, 城徳昭宏, 戒田敏之, 木下隆二: 「歯科医師による法定健康診断のより適切な実施に資する研究」の結果概要報告, 第 48 回日本労働衛生研究協議会学術大会, 2025.6.28-29, 東北大学
4. 井内茉莉奈, 小林 裕, 田坂彰規: 3D プリンターで製作した中空人工歯の形状精度に材質が及ぼす影響, 令和 7 年度日本補綴歯科学会東京支部学術大会, 2025.12.7, 東京科学大学 大岡山キャンパス

5. Akimasa Nishimura, Takehito Ouchi, Ryuya Kurashima, Maki Kimura, Akira Iwasaki, Akihiro Nishiyama, Masamichi Shinoda, Yoshiyuki Shibukawa, Akira Katakura: Analysis of Piezo1 expression of trigeminal ganglion neurons in traumatic neuroma after inferior alveolar nerve injury, 第 103 回 日本生理学会大会, 2026.3.10-12, 東京医科大学
6. Hitomi Sato: Association between trigeminal sensitivity and gustatory sensitivity, The Odofant 5 conference - international lab meeting on smell and taste, 2025.11.20, ｵﾝﾗｲﾝ
7. 倉島竜哉, 黄地健仁, 木村麻記, 澁川義幸: ATP-dynamics による象牙芽細胞制御, 第 67 回歯科基礎医学会学術大会, 2025.9.5-7, 北九州国際会議場
8. 伊東紘世, 田坂彰規, 山下秀一郎: CAD/CAM 技術を応用した純チタン製 RPD フレームワークの最適な製作方法の検討, 第 83 回日本歯科理工学会学術講演会, 2025.4.19, 愛知学院大学楠元キャンパス 110 周年記念講堂
9. 岡野日奈, 田坂彰規, 加藤芳実, 松永 智, 笠原正彰, 和達重郎, 樋口鎮央, 服部雅之, 阿部伸一, 山下秀一郎: CAD/CAM 技術を局部床義歯フレームワークに適用する際の理工学的検討, 第 25 回日本歯科医学会総会, 2025.9.26-28, パシフィコ横浜
10. 淺井七海, 田坂彰規, 伊東紘世, 岡野日奈, 武本真治, 山下秀一郎: CAD-CAM 製局部床義歯フレームワークを想定した Co-Cr 合金の疲労強さの検証, 日本補綴歯科学会第 134 回学術大会, 2025.5.17, 出島メッセ長崎
11. Iwata S, Yasuo T, Takahashi S, Suwabe T, Yasumatsu K, Sako N, Ninomiya Y: Capsaicin Enhances Chorda Tympani Nerve and Behavioral Responses to Sugars via T1Rs-Independent Pathway in Mice, The 22th International symposium on molecular and neural mechanisms of taste and olfactory perception, 2026.2.28-3.1, 岡山大学
12. Takanori HIMENO, Takenobu ISHII, Taiki MORIKAWA, Yuusei KOBAYASHI, Dai ARIIZUMI, Akira WATANABE, Teruo SAKAMOTO, Tatsuya ISHIGAKI, Yasushi NISHII: Changes in Lip Symmetry with Growth in Patients with Unilateral Cleft Lip and Alveolus: A Comparison between Rest and Smiling.15th International Congress on Cleft Lip/Palate and Craniofacial Anomalies, 2025.10.20, 京都府
13. Hitomi Sato: Differences in time-intensity sensory evaluation of salty taste between young and older adults, The Odofant 4 conference - international lab meeting on smell and taste, 2025.5.16, ｵﾝﾗｲﾝ
14. Eriko TAKAHASHI, Taiki MORIKAWA, Mao NODA, Dai ARIIZUMI, Takenobu ISHII, Teruo SAKAMOTO, Yasushi NISHII: Evaluation of Factors Affecting the Treatment Plan for Maxillary Anterior Tooth Alignment in U CLP Patients with Congenital Absence of the Maxillary Lateral Incisor, 15th International Congress on Cleft Lip/Palate and Craniofacial Anomalies, 2025.10.20, 京都府
15. Mayu Suzuki, Takenobu Ishii, Taiki Morikawa, Mao Noda, Teruo Sakamoto, Yasushi Nishii: Factors Influencing the Timing of Permanent Dentition Orthodontic Treatment in Patients With and Without Unilateral Cleft Lip and Palate, 15th International Congress on Cleft Lip/Palate and Craniofacial Anomalies, 2025.10.20, 京都府
16. 米澤英雄, 国分栄仁, 菊池有一郎, 石原和幸*: Fusobacterium nucleatum* と *Streptococcus mutans* の共凝集メカニズムの解明, 第 98 回日本細菌学会大会・総会, 2025.5.29-31, 石川県立音楽堂
17. Hinako Sekiya, Takehito Ouchi, Maki Kimura, Ryuya Kurashima, Yoshiyuki Shibukawa: Glucocorticoid Induces Tooth Pain Like Dentin Hypersensitivity, 2025 IADR/PER General Session and Exhibition, 2025.6.25, Centre de Convencions Internacional de Barcelona

18. 志邨晃祐, 四ツ谷護, 関根秀志, 中野正博, 小沼寛明, 牧野健治, 太田淳也, 梅原一浩: Injection molding technique を用いた審美的調和を得るための臨床的工夫, 日本口腔インプラント学会第45回東北・北海道支部学術大会, 2025. 9 .6-7, 仙台国際センター
19. 池谷 侑, 吉田秀児, 村松賢太郎, 加藤 宏, 林 宰央, 有泉高晴, 高野正行, 渡邊 章: Le Fort I 型骨切り術における口蓋粘膜の血流動態, 第 35 回日本顎変形症学会総会・学術大会, 2025.6.5, 北九州国際会議場
20. 伊藤慎一郎, 溝口利英, 笠原正貴: LepR 陽性骨格幹細胞における新規亜集団の性状解析, 第 319 回東京歯科大学学会(例会), 2025.6.7, 東京歯科大学
21. 設樂沙月, 冷 然, 溝口利英, 西井 康: LepR 陽性 PDL 細胞が矯正力下の骨リモデリングに寄与する可能性 －細胞系譜解析とシングルセル解析での検討, 第 84 回 日本矯正歯科学会学術大会, 2025.9.29, 札幌コンベンションセンター
22. 設樂沙月, 溝口利英, 西井 康: LepR 陽性歯根膜細胞の機能解析ならびに細胞系譜解析による動態解析, 第 84 回東京矯正歯科学会学術大会, 2025.7.10, 東京都
23. 設樂沙月, 溝口利英, 西井 康: LepR 陽性歯根膜細胞の機能解析ならびに細胞系譜解析による動態解析, 第 320 回 東京歯科大学学会（総会）, 2025.10.18, 東京都
24. 設楽沙月, 溝口利英: LepR 陽性歯根膜細胞の性状および長期的動態解析, 第 67 回 歯科基礎医学会学術大会, 2025.9.5, 北九州国際会議場
25. デサイ カリシュマ, 伊藤慎一郎, 岩山智明, 金本義明, 加藤茂明, 中村 貴, 小林泰浩, 宇田川信之, 笠原正貴, 溝口利英: Metaphyseal LepR+MMP9+ cells regulate bone growth by providing stromal lineages essential for bone metabolism, 第 43 回骨代謝学会学術集会学術賞講演, 2025.7.25, 熊本城ホール
26. 小泉洋二郎, 笠原典夫, 松永 智, 立木千恵, 山本 仁, 西井 康: OCP/Col を用いた Ridge Preservation により抜歯窩に誘導される TypeH 血管の局在性と骨新生, 第 320 回 東京歯科大学学会（総会）, 2025.10.18, 東京都
27. 小泉洋二郎, 笠原典夫, 松永 智, 立木千恵, 山本 仁, 西井 康: OCP/Col を用いた Ridge Preservation により抜歯窩に誘導される新生血管の局在性, 第 84 回東京矯正歯科学会学術大会, 2025.7.10, 東京都
28. 森川暁, 黄地健仁, 中川種昭: PDGFRα 陽性間葉系幹細胞／間質細胞による自律的血管形成―生体内組織形成技術による新規再生療法の開発―, 第 68 回春季日本歯周病学会学術大会, 2025.5.22-24, 那覇文化芸術劇場なはーと, ホテルコレクティブ
29. Takehito Ouchi, Ryuya Kurashima, Maki Kimura, Yoshiyuki Shibukawa：Pericytes are odontoblast progenitors depending on ER-stress, 第 103 回 日本生理学会大会, 2026.3.10-12, 東京医科大学
30. 中島克真, 黄地健仁, 木村麻記, 澁川義幸: Perlecan による象牙芽細胞膜 Ca2+排出制御と石灰化駆動との相互連関の解明, 第 319 回東京歯科大学学会・例会, 2025.6.7, 東京歯科大学
31. 蓮沼和也, 黄地健仁, 木村麻記, 倉島竜哉, 小鹿恭太郎, 松浦信幸, 澁川義幸: Phenol 誘導体の三叉神経節ニューロンに対する効果, 第 67 回歯科基礎医学会学術大会, 2025.9.5-7, 北九州国際会議場
32. 蓮沼和也, 齋藤菜月, 吉田香織, 小鹿恭太郎, 一戸達也, 松浦信幸: Phenol 誘導体の三叉神経節ニューロンに対する効果, 第 53 回日本歯科麻酔学会総会・学術集会, 2025.10.10-12, カクイックス交流センター
33. 倉島竜哉, 岩澤菜々恵, 黄地健仁, 木村麻記, 曽根ゆき, 澁川義幸: Piezo1-PLA2/COX1-TRPV1/TRPA1 axis が象牙芽細胞の感覚受容機構を制御する, 第 16 回三叉神経領域の感覚－運動統合研究会, 2025.11.29-30, クロスウェーブ船橋
34. 高橋拓実, 岩本莉奈, 何治鋒, 石田昌義, 溝口利英,宇田川信之, 小林泰浩: PTH による骨形成作用に

おける骨髄間質細胞由来 Wnt の役割, 第 43 回骨代謝学会学術集会学術賞講演, 2025.7.25, 熊本城ホール

35. 米澤英雄, 菊地有一郎, 国分栄仁, 石原和幸: *Streptococcus mutans* が産生するロイテリサイクリン発現メカニズムの解析, 第 320 回東京歯科大学学会（総会）, 2025.10.18-19, 東京歯科大学
36. Aoi Kobayashi, Momoka Endo, Takenobu Ishii, Taiki Morikawa, Teruo Sakamoto, Yasushi Nishii: The effect of the difference in cleft type between UCLA and UCLP on the development of the paranasal sinuses and eustachian tube and mastoid apices., 15th International Congress on Cleft Lip/Palate and Craniofacial Anomalies, 2025.10.20, 京都府
37. 佐藤佑香, 石原和幸, 菊池有一郎, 国分栄仁, 松浦信幸, 米澤英雄, 中島純子: *Treponema denticola* の外膜に存在する分泌様タンパク質の機能解析,第 320 回東京歯科大学学会(例会),2025.10.19, 東京歯科大学
38. 黄地健仁, 河野恭佑, 佐藤涼一, 倉島竜哉, 山口耕司, 木村麻記, 澁川義幸: Upregulation of Amy1 in the salivary glands of mice exposed to a lunar gravity environment using the multiple artificial gravity research system, 第 71 回日本宇宙航空環境医学会大会, 2025.11.20, ピアザ淡海
39. 野口裕季子, 溝口利英, 細矢明宏: α-平滑筋アクチン陽性歯髄細胞の硬組織形成能, 第 43 回骨代謝学会学術集会学術賞講演, 2025.7.25, 熊本城ホール
40. 舩橋桂子, 関川翔一, 橋本和彦, 野村武史: エナメル上皮腫およびエナメル上皮癌の臨床的検討, 第 71 回（公社）日本口腔外科学会総会・学術大会, 2025.11.14-16, 福岡国際会議場/福岡サンパレス
41. 伊藤和宏, 菅原圭亮, 西山明宏, 小谷地雅秀, 立澤孝太郎, 中島信太郎, 西村光正, 中田貴大, 片倉 朗: オトガイ形成術に使用した生体内分解吸収性骨接合材による遅発性異物反応を認めた 1 例, 第 35 回特定非営利活動法人日本顎変形症学会総会・学術大会, 2025.6.4-5, 北九州国際会議場
42. 佐藤涼一, 杉原直樹: カチオン化ヒドロキシセルロースゲル内蔵口腔内フッ化物徐放装置によるエナメル質耐酸性強化法, 第 67 回歯科基礎医学会学術大会, 2025.9.5-7, 北九州国際会議場（北九州市小倉北区）
43. 岩田周介, 安尾敏明, 髙橋慎平, 諏訪部武, 安松啓子, 硲 哲崇, 二ノ宮裕三: カプサイシン添加による糖輸送体を介したマウス味溶液摂取行動への影響, 第 67 回歯科基礎医学会学術大会, 2025.9.5-7, 北九州国際会議場
44. 石束 叡, 髙橋有希, 松永 智, 阿部伸一, 笠原正貴: 機械的ストレスは軽症型低ホスファターゼ症モデルマウスにおける局所的な骨の吸収を増強する, 第 67 回歯科基礎医学会学術大会, 2025.9.5-7, 北九州国際会議場
45. 蓮沼和也, 黄地健仁, 倉島竜哉, 木村麻記, 小鹿恭太郎, 澁川義幸, 松浦信幸: グアヤコールの三叉神経節ニューロンに対する鎮痛への影響, 第 16 回三叉神経領域の感覚－運動統合研究会, 2025.11.29-30, クロスウェーブ船橋
46. 古川紗都, 加藤芳実, 和達重郎, 武本真治, 田坂彰規: クラスプの繰返し着脱がイットリア含有量の異なるモノリシックジルコニアクラウンに及ぼす影響, 令和 7 年度日本補綴歯科学会東京支部学術大会, 2025.12.7, 東京科学大学 大岡山キャンパス
47. 平井研吾, 髙橋有希, 石束 叡, 新谷誠康, 笠原正貴: 軽症型低ホスファターゼ症モデルマウスにビスホスホネート製剤を投与すると骨の治癒不全が生じる, 第 67 回歯科基礎医学会学術大会, 2025.9.5-7, 北九州国際会議場
48. 四ツ谷 護, 志邨晃祐, 関根秀志, 藤関雅嗣, 井畑匡人, 鈴木瑛一, 福田 仁, 梅原一浩: 咬合平面の不調和を伴う上顎前歯部欠損にインプラント治療を行った 1 症例, 第 55 回日本口腔インプラント学会学術大会, 2025.10.24-26, 福岡国際会議場
49. 菅野亜紀, 小川真里子, 大屋 朋子, 有友たかね, 柏崎奏絵, 伊藤加代子, 大橋伸英, 松浦信幸, 野村武

史: 髙松潔更年期女性におけるホルモン補充療法のオーラルフレイルへの効果について, 第 40 回日本女性医学学会学術集会, 2025.11.2, ホテルイースト 21 東京

50. 蓮沼和也, 黄地健仁, 木村麻記, 倉島竜哉, 澁川義幸: 三叉神経節ニューロンにおける TRP チャネルに着目した機能特性解析, 第 79 回 NPO 法人 日本口腔科学会学術集会, 2025.5.15-17, 松本市キッセイ文化ホール エア・ウォーターアリーナ松本
51. 倉島竜哉, 岩澤菜々恵, 黄地健仁, 木村麻記, 澁川義幸: ジクロフェナク Na は象牙芽細胞の Piezo1-cPLA2/COX1-TRPV1/TRPA1 axis を標的に象牙質痛を抑制する, 第 99 回日本薬理学会年会, 2026.3.16-18, 東北大学
52. 薄場はるか, 石井武展, 大野建州, 溝口利英, 西井康: 歯根周囲に分布する Gli1 陽性幹細胞の増殖と分化メカニズムの解明, 第 320 回東京歯科大学学会(総会), 2025.10.18, 東京歯科大学
53. 設樂沙月, 伊藤慎一郎, 笠原正貴, 溝口利英, 西井 康: 歯根膜 LepR 陽性細胞の機能解析ならびに in vivo 動態解析, 第 319 回東京歯科大学学会（例会）, 2025.6.7, 東京歯科大学
54. 黒田祥太, 四ツ谷護, 佐藤真紀, 大和田碧, 露木 悠, 久永竜一, 関根秀志: 支台築造窩洞ポスト部の形状が光学印象の真度に及ぼす影響, 第 134 回日本補綴歯科学会学術大会, 2025.5.16-18, 出島メッセ長崎
55. 芳賀 望, 椎貝麗音, 椎貝 誠, 梅原一浩, 四ツ谷護, 関根秀志, 田口達夫, 椎貝達夫: 上顎前歯歯根端切除術不良症例にスクリュー型ボーンスプレッダーを用いて抜歯即時埋入を行った 1 症例, 日本口腔インプラント学会第 45 回東北・北海道支部学術大会, 2025. 9 .6-7, 仙台国際センター
56. 椎貝麗音, 芳賀 望, 椎貝 誠, 梅原一浩, 四ツ谷護, 関根秀志, 田口達夫, 椎貝達夫: 上顎前歯に T's Bone Spreader を用いて抜歯早期埋入を行った症例, 日本口腔インプラント学会第 45 回東北・北海道支部学術大会, 2025. 9 .6-7, 仙台国際センター
57. 志邨 晃祐, 四ツ谷護, 関根秀志, 藤井絢太, 村田真介, 林 友翔, 佐藤柊果, 梅原一浩: 真空プラズマ処理されたインプラント上部構造を用いたメインテナンスのための工夫, 第 55 回日本口腔インプラント学会学術大会, 2025.10.24-26, 福岡国際会議場
58. 関矢日向子, 黄地健仁, 倉島竜哉, 木村麻記, 澁川義幸: ステロイド由来歯痛の発症メカニズムの探索, 第 319 回東京歯科大学学会・例会, 2025.6.7, 東京歯科大学
59. 関矢日向子, 黄地健仁, 倉島竜哉, 木村麻記, 山田雅司, 澁川義幸: ステロイド由来歯痛の病態, 第 67 回歯科基礎医学会学術大会, 2025.9.5-7, 北九州国際会議場
60. 関矢日向子, 黄地健仁, 倉島竜哉, 木村麻記, 澁川義幸, 山田雅司：ステロイド由来歯痛の病態解析, 第 16 回三叉神経領域の感覚－運動統合研究会, 2025.11.29-30, クロスウェーブ船橋
61. 関矢日向子, 黄地健仁, 倉島竜哉, 木村麻記, 澁川義幸, 山田雅司: ステロイド由来歯痛の病態探索, 第 320 回東京歯科大学学会（総会）, 2025.10.18-19, 東京歯科大学
62. 長谷川陽, 深田美緒, 千代侑香, 小野寺晶子, 間奈津子, 松浦信幸, 大野建州, 中島純子: ダゾラムは T 細胞応答をエネルギー代謝の抑制により負に制御する, 第 320 回東京歯科大学学会（総会）, 2025.10.18-19, 東京歯科大学
63. 牧野将大, 松原 黎, 鈴木玲也, 重松正樹, 大野建州, 佐々木穂高: チタン微粒子は他抗原に対する T 細胞応答を促進する, 第 29 回日本顎顔面インプラント学会　総会・学術大会, 2025.11.30, 松江テルサ
64. 髙橋有希, 平井研吾, 石束 叡, 阿部伸一, 新谷誠康, 笠原正貴: 低ホスファターゼ症に対する新規胎児遺伝子治療法の確立, 第 67 回歯科基礎医学会学術大会, 2025.9.5-7, 北九州国際会議場
65. 窪山裕也, 木村麻記, 黄地健仁, 倉島竜哉, 新谷誠康, 澁川義幸: デキサメタゾンは IP3 受容体を介して Ca2+ストアからの Ca2+放出を誘発した, 第 99 回日本薬理学会年会, 2026.3.16-18, 東北大学
66. 窪山裕也, 木村麻記, 黄地健仁, 倉島竜哉, 新谷誠康, 澁川義幸: デキサメタゾン誘発性細胞内 Ca2+

濃度増加はIP3受容体の活性化によって生じる, 第16回三叉神経領域の感覚－運動統合研究会, 2025.11.29-30, クロスウェーブ船橋

67. 高野智史, 竜 正大, 太田 緑, 石田晃裕, 齋藤 壮, 中澤和真, 小林嵩史, 上田貴之: デジタル総義歯モデルの活用法が咬合平衡に関する学生の理解度に与える教育効果, 日本補綴歯科学会第134回学術大会, 2025.5.17, 出島メッセ長崎
68. 北村 旭, 淺井七海, 濵田崇人, 藤原 龍, 伊東紘世, 武本真治, 田坂彰規: ハイブリッドミリングで製作したコバルトクロム合金の機械的特性, 令和7年度日本補綴歯科学会東京支部学術大会, 2025.12.7, 東京科学大学 大岡山キャンパス
69. 濵田崇人, 藤原 龍, 伊東紘世, 武本真治, 田坂彰規: ハイブリッド加工が局部床義歯フレームワークの真度に及ぼす影響, 第320回東京歯科大学学会, 2025.10.19, 東京歯科大学
70. 設樂沙月, 溝口利英, 西井康: 歯の移動における LepR 陽性 PDL 細胞の役割の検討, 第320回東京歯科大学学会(総会), 2025.10.18, 東京歯科大学
71. 木村麻記, 黄地健仁, 倉島竜哉, 岩澤菜々恵, 今村博臣, 古家喜四夫, 澁川義幸: ヒト象牙芽細胞にはグルコーストランスポーターが発現している, 第99回日本薬理学会年会, 2026.3.16-18, 東北大学
72. 蓮沼和也, 黄地健仁, 倉島竜哉, 木村麻記, 小鹿恭太郎, 澁川義幸, 松浦信幸: フェノール誘導体の三叉神経節ニューロンへの影響, 第99回日本薬理学会年会, 2026.3.16-18, 東北大学
73. 大和田碧, 四ツ谷護, 菊地 済, 大熊宏岳, 関根秀志: 変形性顎関節症モデルマウス下顎頭の網羅解析によるバイオマーカーの探索, 第134回日本補綴歯科学会学術大会, 2025.5.16-18, 出島メッセ長崎
74. 小泉洋二郎, 笠原典夫, 松永 智, 立木千恵, 山本 仁, 西井 康: マウスに OCP/Col を用いた Ridge Preservation 後の抜歯窩での新生血管の局在性, 第84回日本矯正歯科学会学術大会, 2025.9.29, 北海道
75. 栗原智尋, 菅原圭亮, 松永 智, 笠原典夫, 石束 叡, 奥村哲嗣, 阿部伸一, 片倉 朗：マウス下顎頭切除モデルを用いた形態学的・組織化学的評価による下顎頭切除後の治癒過程の観察, 第79回日本口腔外科学会学術集会, 2025.5.16, 松本文化会館
76. 安松啓子, 秦 加純, 北村 啓, 中島純子, 山本 仁, 松浦信幸: マウス舌前方における脂肪酸による味覚修飾作用と GPR120 と GABA の関与, 第103回日本生理学会大会, 2026.3.10-12, 東京医科大学
77. 深田美緒, 小野寺晶子, 間奈津子, 長谷川陽, 松浦信幸, 中島純子, 大野建州: マクロファージ活性化における Translocator Protein（TSPO）の機能解析, 第320回東京歯科大学学会（総会）, 2025.10.18-19, 東京歯科大学
78. 長谷川陽, 深田美緒, 千代侑香, 小野寺晶子, 間奈津子, 松浦信幸, 大野建州, 中島純子: ミダゾラムはＴ細胞応答をエネルギー代謝の抑制により負に制御する, 第320回東京歯科大学学会（総会）, 2025.10.18-19, 東京歯科大学
79. 菅原圭亮, 福島 崇, 小谷地雅秀, 西山明宏, 伊藤和宏, 中島信太郎, 西村光正, 中田貴大,松永 智, 片倉朗: モーションキャプチャー技術を用いた抜歯時の姿勢分析, 第70回日本口腔外科学会総会・学術大会, 2025.11.14-16, 福岡国際会議場
80. 窪山裕也, 木村麻記, 黄地健仁, 倉島竜哉, 新谷誠康, 澁川義幸: リアノジン受容体は象牙芽細胞のステロイド誘発性細胞内遊離 Ca2+濃度増加に関与しない, 第67回歯科基礎医学会学術大会, 2025.9.5-7, 北九州国際会議場
81. 松永 智, 野口 拓, 森田純晴, 笠原典夫, 石束 叡, 関谷 凌, 鈴木 龍, 阿部伸一: リン酸オクタカルシウム・コラーゲン複合体を用いた Ridge Preservation による抜歯窩治癒促進のメカニズム，第55回日本口腔インプラント学会学術大会 , 2025.10.24, 福岡国際会議場
82. 森 智哉, 中村安孝, 石川 昂: 衣服の擦過が DNA 型鑑定に及ぼす影響についての検討, 第109次日

本法医学会全国学術集会, 2025.6.12, 福岡県

83. 黄地健仁, 佐藤涼一, 倉島竜哉, 木村麻記, 山口耕司, 澁川義幸: 宇宙月面重力環境下でのマウス顎下腺における免疫グロブリン A 関連遺伝子の下方抑制, 第 39 回日本宇宙生物科学会, 2025.9.12-14, 帝京大学 霞ヶ関キャンパス&板橋キャンパス
84. 中島信太郎, 立澤孝太郎, 小谷地雅秀, 星野照秀, 菅原圭亮, 松永 智, 片倉 朗: 下顎切痕部の埋伏歯抜歯にデジタルテクノロジーを応用した 1 例, 第 70 回日本口腔外科学会総会・学術大会, 2025.11.14-16, 福岡国際会議場
85. 蓮見英哲, 立木千恵, 松永智, 菅原圭亮, 小髙研人, 石束 叡, 西井 康: 下顎頭形態の違いが顎矯正手術の後戻りに及ぼす影響, 第 320 回東京歯科大学学会(総会), 2025.10.18, 東京歯科大学
86. 蓮見英哲, 立木千恵, 松永 智, 菅原圭亮, 小髙研人, 阿部伸一, 西井 康: 下顎頭形態の違いが顎矯正手術の後戻りに及ぼす影響 〜骨格性上顎前突患者を用いた numerical analysis〜, 第 84 回日本矯正歯科学会学術大会, 2025.9.29, 北海道
87. 川本大智, 高野直樹, 関谷 凌, 小高研人, 松永 智: 下顎皮質骨内オステオンのコラーゲン線維配向に注目した力学的 FEM モデリング, 日本機械学会 M&M2025 カンファレンス, 2025.11.10, 熊本城ホール
88. 西村光正, 黄地健仁, 倉島竜哉, 木村麻記, 西山明宏, 篠田雅路, 澁川義幸, 片倉 朗: 下歯槽神経損傷における外傷性神経腫の Piezo チャネルの発現評価, 第 16 回三叉神経領域の感覚－運動統合研究会, 2025.11.29-30, クロスウェーブ船橋
89. 田中 希, 中澤和真, 竜 正大, 上田貴之: 化学的表面処理が積層造形用アクリルレジンの表面性状と常温重合レジンとの接着強さに与える影響, 第 320 回東京歯科大学学会, 2025.10.19, 東京歯科大学水道橋校舎
90. 山本吉紀, 齋藤 壮, 中澤和真, 竜 正大, 上田貴之: 化学的表面処理が積層造形用アクリルレジンの表面性状と常温重合レジンとの接着強さに与える影響, 第 25 回日本歯科医学会学術大会, 2025.9.27, Web 開催
91. 黄地健仁, 倉島竜哉, 西村光正, 岩﨑 亮, 木村麻記, 西山明宏, 片倉 朗, 澁川義幸: 外傷性神経腫に起因する機械的アロディニアでの Piezo チャネルの生物学的および臨床的意義, 第 319 回東京歯科大学学会・例会, 2025.6.7, 東京歯科大学
92. 加藤理絵, 小鹿恭太郎, 金井美緒, 四万村梓, 田山史織, 鈴木萌子, 橋本 渉, 木村邦衛, 一戸達也, 松浦信幸: 顎矯正術におけるレミマゾラム麻酔後の悪心・嘔吐に対するフルマゼニル投与の影響, 第 53 回日本歯科麻酔学会総会・学術集会, 2025.10.10-12, カクイックス交流センター
93. 星野綾香, 立木千恵, 松永 智, 菅原圭亮, 小髙研人, 森野響子, 西井 康: 顎口腔周囲筋における力学機能の不均衡が顎骨形態に与える影響の検討, 第 320 回 東京歯科大学学会（総会）, 2025.10.18, 東京都
94. 河角久美子, 立木千恵, 有泉 大, 菅原圭亮, 山本雅絵, 片倉 朗, 西井 康: 顎変形症患者における下顎後静脈の走行の分類による顎顔面形態の特徴の比較, 第 84 回日本矯正歯科学会学術大会, 2025.9.30, 札幌コンベンションセンター
95. 杉浦 慧, 小谷地雅秀, 永井佐代子, 二階堂純彦, 岩﨑 亮, 西村光正, 中田貴大, 伊藤聡吾, 奥村哲嗣,岩本昌士, 山本雅絵, 菅原圭亮, 片倉 朗: 顎変形症症例の高齢化についての臨床的検討, 第 35 回特定非営利活動法人日本顎変形症学会総会・学術大会 , 2025.6.4-5, 北九州国際会議場
96. 日下部裕子, 實松敬介, 安松啓子, 広川貴次, 重村憲徳, 山下敦子, 堀江芙由美: 甘味を示す香気成分と甘味受容体 TAS1R2 膜貫通領域の相互作用解析, 日本味と匂学会第 59 回大会, 2025.9.8-10, 大阪大学
97. 大和田碧, 髙野峻大, 四ッ谷護, 関根秀志: 関節円板部分切除術により誘導した変形性顎関節症モデ

ルマウス下顎頭のトランスクリプトーム解析, 第 38 回一般社団法人日本顎関節学会総会・学術大会, 東京都千代田区, 2025.7.12, 学術総合センター

98. 川島玲央奈, 神尾 崇, 立木千恵, 飯島由貴, 有泉 大, 水野周平, 山本雅絵, 高木多加志, 渡邊 章, 片倉朗, 西井 康: 顔面非対称患者の顎矯正手術における術前後の硬軟組織形態変化の三次元的解析, 第 35 回特定非営利活動法人日本顎変形症学会総会・学術大会, 2025.6.5, 福岡県
99. 有泉高晴, 池谷 侑, 村松賢太郎, 渡邉美貴, 吉田秀児, 成田真人, 渡邊 章: 顔面非対称症例における下顎枝矢状分割術後の下顎角の位置変化についての検討, 第 35 回日本顎変形症学会総会・学術大会, 2025.6.5, 北九州国際会議場
100. 川島玲央奈, 神尾 崇, 立木千恵, 飯島由貴, 有泉 大, 水野周平, 髙木多加志, 渡邊 章, 片倉 朗, 西井康: 顔面非対称症例における顎矯正手術前後の硬軟組織三次元形態変化の解析, 第 84 回日本矯正歯科学会学術大会, 2025.9.29, 北海道
101. 石原和奈, 石塚久子, 村松 敬: 牛乳由来オステオポンチンが Streptococcus mutans の付着に及ぼす影響, 第 162 回日本歯科保存学会, 2025.6.5-6, 愛媛県民文化会館
102. 岡村梓文, 石原和奈, 石塚久子, 米澤英雄, 石原和幸, 村松 敬: 牛乳由来オステオポンチンは Streptococcus mutans に付着するか？, 第 320 回東京歯科大学学会（総会）, 2025.10.18-19, 東京歯科大学
103. 福田 悠, 松永 智, 立木千恵, 笠原典夫, 菅原圭亮, 阿部伸一, 西井 康: 筋機能低下が誘導する顎骨変形とその回復を制御する遺伝子発現変動の解明 RNA-Seq による解析, 第 84 回日本矯正歯科学会学術大会, 2025.9.30, 札幌コンベンションセンター
104. 福田 悠, 松永 智, 立木千恵, 笠原典夫, 菅原圭亮, 阿部伸一, 西井 康: 筋機能低下が誘発する顎骨変形とその回復を制御する遺伝子発現変動の解明 RNA シーケンスによる解析, 第 320 回東京歯科大学学会(総会), 2025.10.18, 東京歯科大学
105. 淺井七海, 田坂彰規, 伊東紘世, 岡野日奈, 武本真治, 山下秀一郎: 金属積層造形と切削加工で製作したコバルトクロム合金の疲労強度の解明, 第 319 回東京歯科大学学会, 2025.6.7, 東京歯科大学
106. 小谷地雅秀, 菅原圭亮, 立澤孝太郎, 小髙研人, 松永 智, 中島信太郎, 中田貴大, 片倉朗: 空間再現(Spatial Reality:SR)ディスプレイを用いた新規手術トレーニングシステムの有用性の検証, 第 319 回東京歯科大学学会（例会）, 2025.6.7, 東京歯科大学
107. 林真由子, 小鹿恭太郎, 松浦信幸: 血小板活性化因子(PAF)分解酵素 PLA2G7 遺伝子 rs1051931 非同義多型(Val379Ala)は、術後異常感覚・術後疼痛に関連する, 第 67 回歯科基礎医学会学術大会, 2025.9.5-7, 北九州国際会議場
108. 林真由子, 森井雅子, 吉田香織, 小鹿恭太郎, 松浦信幸, 一戸達也: 血小板活性化因子生合成酵素 lysophosphatidylcholine acyltransferase 2 の一塩基多型(LPCAT2 rs1992116)と異常感覚・感覚鈍麻の関連, 第 53 回日本歯科麻酔学会総会・学術集会, 2025.10.10-12, カクイックス交流センター
109. 今井琴子, 関谷 凌, 石束 叡, 松永 智, 北村 啓, 山本 仁, 阿部伸一: 後頭鱗における複合（軟骨内・膜性）骨化メカニズムの検索, 第 319 回東京歯科大学学会(例会),2025.6.7, 東京歯科大学
110. 竜 正大: 口腔ケアの基本を見直そう, 日本老年歯科医学会第 36 回学術大会, 2025.6.29, 幕張メッセ
111. 関川翔一, 菊地崇剛, 鈴木大貴, 片倉 朗, 渡邊 章, 野村武史: 口腔扁平上皮癌の後発頸部リンパ節転移における節外浸潤の頻度と予後に与える影響の検討, 第 49 回日本頭頸部癌学会総会・学術講演会, 2025.6.13-14, グランドメルキュール札幌大通公園
112. 吉田秀児, 渡邉美貴, 成田真人, 渡邊 章: 口唇裂・口蓋裂患者における顎裂部骨移植後の外鼻形態変化に対する三次元評価, 第 49 回日本口蓋裂学会総会・学術集会, 2025.10.24, 国立京都国際会館
113. 金井美緒, 小鹿恭太郎, 加藤理絵, 四万村梓, 鈴木萌子, 橋本 渉, 中澤正成, 宮本佳織, 津谷瑠理, 一戸

達也, 松浦信幸: 好塩基球活性化試験(BAT)と皮内反応の結果が一致しなかったアナフィラキシー・ショックの 1 例, 第 53 回日本歯科麻酔学会総会・学術集会, 2025.10.10-12, カクイックス交流センター

114. 和田大岳, 松元秀樹, 高際 睦, 佐藤仁美, 井上 綾, 後藤多津子: 高齢者と若年者における甘味認知の時間強度プロファイルの違い , 第 79 回 NPO 法人 日本口腔科学会学術集会, 2025.5.26, 信州大学
115. 荻嶋慶次, 立木千恵, 飯島由貴, 有泉 大, 水野周平, 山本雅絵, 高木多加志, 菅原圭亮, 渡邊 章, 片倉朗, 西井 康: 骨格性下顎前突症における矯正治療単独と外科的矯正治療の選択基準, 第 35 回特定非営利活動法人日本顎変形症学会総会・学術大会, 2025.6.5, 福岡県
116. 荻嶋慶次, 立木千恵, 飯島由貴, 有泉 大, 水野周平, 山本雅絵, 高木多加志, 菅原圭亮, 渡邊 章, 片倉朗, 西井 康: 骨格性下顎前突症における矯正治療単独と外科的矯正治療の選択基準, 第 84 回日本矯正歯科学会学術大会, 2025.9.29, 札幌コンベンションセンター
117. 木村麻記, 黄地健仁, 倉島竜哉, 岩澤菜々恵, 澁川義幸: 細胞外グルコース濃度変化に対する象牙芽細胞内 ATP 濃度動態の検討, 第 320 回東京歯科大学学会（総会）, 2025.10.18-19, 東京歯科大学
118. 倉島竜哉, 曽根ゆき, 黄地健仁, 木村麻記, 澁川義幸: 細胞内 PLA2-COX1 経路を介した Piezo1-TRPV1/TRPA1 チャネル連関, 第 255 回 生理学東京談話会, 2025.10.6, 順天堂大学
119. 蓮沼和也, 黄地健仁, 木村麻記, 倉島竜哉, 澁川義幸: 三叉神経節ニューロンにおける TRP / Piezo チャネルに着目した機能特性解析, 公益社団法人 日本麻酔科学会 第 72 回学術集会, 2025.6.5-7, 神戸ポートピアホテル
120. 蓮沼和也, 黄地健仁, 木村麻記, 倉島竜哉, 澁川義幸: 三叉神経節ニューロンにおける TRP チャネルに着目した機能特性解析, 第 79 回 NPO 法人 日本口腔科学会学術集会, 2025.5.15-17, キッセイ文化ホール エア・ウォーターアリーナ松本
121. 齋藤 壮, 山澄尚大, 續木アナスタシア, 小瀬木美香, 村井琴恵, 島田星羅, 山口優姫, 小林健一郎, 竜正大, 上田貴之: 施設向け歯科訪問診療支援アプリを利用した要介護患者の口腔環境と摂食状態を管理する取り組み事例, 日本老年歯科医学会第 36 回学術大会, 2025.6.29, 幕張メッセ
122. 石井武展, 薄場はるか, 大野建州, 西井 康: 歯の移動による牽引側歯根膜内の血管新生とリンパ管新生の相互関係について, 第 84 回日本矯正歯科学会学術大会, 2025.9.29, 北海道
123. 菊地 済, 黒田祥太, 松永 智, 笠原典夫, 塩崎一成, 伊藤浩太郎, 関根秀志: 歯の喪失にともなう上顎洞形態の変遷と上顎洞底と歯列弓の相対的位置について, 日本補綴歯科学会 2025 年度東京支部学術大会, 2025.12.7, 東京科学大学 大岡山キャンパス
124. 菊地 済, 黒田祥太, 松永 智, 笠原典夫, 塩崎一成, 関根秀志: 歯の喪失にともなう上顎洞形態の変遷と上顎洞底の位置変化, 第 320 回東京歯科大学学会(総会), 2025.10.18, 東京歯科大学
125. 野村真弓, 高松ユミ, 平井基之, 茂木悦子, 髙根 宏, 西井 康: 歯科矯正用アンカープレートを用いて大臼歯を圧下した開咬症例, 第 320 回 東京歯科大学学会（総会）, 2025.10.18, 東京都
126. 大友顕一郎, 齋藤 壮, 小林嵩史, 竜 正大, 上田貴之: 歯冠色で積層造形した義歯床に対する歯肉色レジンの塗布回数が色調におよぼす影響, 日本補綴歯科学会第 134 回学術大会, 2025.5.17, 出島メッセ長崎
127. 西村仁希, 小野寺晶子, 間奈津子, 加藤 宏, 明石良彦, 松坂賢一, 片倉 朗, 渡邊 章, 大野建州: 歯原性角化嚢胞用 FFPE 遺伝子パネルの開発とその応用, 第 319 回東京歯科大学学会, 2025.6.7, 東京歯科大学
128. 西村仁希, 小野寺晶子, 大野建州, 渡邊 章: 歯原性角化嚢胞用 FFPE 遺伝子パネルの開発とその応用, 第 320 回東京歯科大学学会（総会）, 2025.10.18-19, 東京歯科大学
129. 西村仁希, 小野寺晶子,間奈津子,明石良彦,松坂賢一,渡邊 章, 大野建州: 歯原性角化嚢胞用 FFPE 遺伝子パネルを用いた変異解析と予後予測の可能性, 第 67 回歯科基礎医学会学術大会, 2025.9.6-7,

北九州国際会議場

130. 薄場はるか, 石井武展, 大野建州, 溝口利英, 西井 康: 歯根周囲に分布する Gli1 陽性幹細胞の増殖と分化メカニズムの解明, 第 84 回 日本矯正歯科学会学術大会, 2025.9.29, 札幌コンベンションセンター
131. 薄場はるか, 石井武展, 大野建州, 溝口利英, 西井 康: 歯根周囲に分布する Gli1 陽性幹細胞の増殖と分化メカニズムの解明, 第 320 回 東京歯科大学学会（総会）, 2025.10.18, 東京都
132. 設樂沙月, 伊藤慎一郎, 笠原正貴, 溝口利英, 西井 康: 歯根膜 LepR 陽性細胞の機能解析ならびに in vivo 動態解析, 第 319 回東京歯科大学学会(例会), 2025.6.7, 東京歯科大学
133. 田上聖章, 黄地健仁, 木村麻記, 倉島竜哉, 中村史朗, 井上富雄, 澁川義幸, 西井 康: 歯根膜支配三叉神経節と三叉神経中脳路核ニューロンの機械感受性イオンチャネル発現と矯正力適応時の発現変動, 第 35 回 日本全身咬合学会 学術大会・総会, 2025.12.13-14, 東京歯科大学
134. 田上聖章, 黄地健仁, 木村麻記, 倉島竜哉, 澁川義幸, 西井 康: 歯根膜支配三叉神経中脳路核ニューロンの機械感受性イオンチャネル発現と矯正力適応時の発現変動, 第 319 回東京歯科大学学会（例会）, 2025.6.7, 東京都
135. 田代憲太朗, 五十嵐章智, 羽毛田真佑花, 伊藤慎一郎, 溝口利英, 村松 敬: 歯髄血管再生療法（pulp revascularization）の治癒過程における Axin2 発現細胞の局在変化と硬組織形成への関与, 第 319 回　東京歯科大学学会, 2025.6.7, 東京歯科大学
136. 田代憲太朗, 五十嵐章智, 羽毛田真佑花, 伊藤慎一郎, 溝口利英, 村松敬: 歯髄血管再生療法（pulp revascularization）の治癒過程における Gli1 発現細胞の局在変化と硬組織形成への関与第 319 回東京歯科大学学会(例会), 2025.6.7, 東京歯科大学
137. 江川優果, 田代憲太朗, 羽毛田真佑花, 溝口利英, 山口朗, 村松敬: 歯髄血管再生療法（pulp revascularization）の治癒過程における LepR および Axin2 発現細胞の局在第 320 回東京歯科大学学会(総会), 2025.10.18, 東京歯科大学
138. 羽毛田真佑花, 五十嵐章智, 田代憲太朗, 村松敬: 歯髄血管再生療法（pulp revascularization）の治癒過程におけるレプチン受容体発現細胞および Axin2 発現細胞の局在, 第 163 回日本歯科保存学会, 2025.11.6-7, 出島メッセ
139. 羽毛田真佑花, 田代憲太朗, 五十嵐章智, 村松 敬: 歯髄血管再生療法（pulp revascularization）の治癒過程におけるレプチン受容体発現細胞の局在, 第 162 回日本歯科保存学会, 2025.6.5-6, 愛媛県民文化会館
140. 野口裕季子, 建部廣明, 岸本有里, 溝口利英, 細矢明宏: 歯髄傷害後における α-平滑筋アクチン陽性細胞の局在と分化能の検討, 第 67 回 歯科基礎医学会学術大会, 2025.9.5, 北九州国際会議場
141. 大友顕一郎, 齋藤 壮, 小林嵩史, 竜 正大, 上田貴之: 歯肉色レジンによる着色が積層造形歯冠色義歯床の主観的審美的許容度に与える影響, 令和 7 年度日本補綴歯科学会東京支部学術大会, 2025.12.7, 東京科学大学大岡山キャンパス
142. 小林嵩史, 竜 正大, 田原靖章, 上田貴之: 術者の臨床経験が口腔内スキャナを用いた総義歯スキャン精度に及ぼす影響, 令和 7 年度日本補綴歯科学会東京支部学術大会, 2025.12.7, 東京科学大学大岡山キャンパス
143. 田澤萌香, 伊東紘世, 加藤栄助, 有泉高晴, 渡邊 章, 田坂彰規, 福田謙一: 小口症を伴う障害者の義歯製作で口腔内スキャナーを用いた 1 症例, 第 320 回東京歯科大学学会, 2025.10.19, 東京歯科大学
144. 倉島竜哉, 黄地健仁, 木村麻記, 澁川義幸: 象牙芽細胞において Piezo1 チャネル活性化は cPLA2-COX 活性化を介して TRPV1/TRPA1 チャネルを活性化する, 第 319 回東京歯科大学学会・例会, 2025.6.7, 東京歯科大学

145. 倉島竜哉, 黄地健仁, 木村麻記, 澁川義幸: 象牙芽細胞における細胞内アラキドン酸カスケードを介した Piezo1-TRPV1/TRPA1 クロストーク, 第 79 回 NPO 法人 日本口腔科学会学術集会, 2025.5.15-17, キッセイ文化ホール エア・ウォーターアリーナ松本
146. 木村麻記, 黄地健仁, 倉島竜哉, 澁川義幸: 象牙芽細胞の cannabinoid 1 受容体活性化による細胞内 cAMP・Ca2+濃度動態, 第 67 回歯科基礎医学会学術大会, 2025.9.5-7, 北九州国際会議場
147. 木村麻記, 黄地健仁, 倉島竜哉, 澁川義幸: 象牙芽細胞の cannabinoid 1 受容体活性化はアデニル酸シクラーゼ活性化を介し細胞内 cAMP を増加する, 第 79 回 NPO 法人 日本口腔科学会学術集会, 2025.5.15-17, 松本市キッセイ文化ホール エア・ウォーターアリーナ松本
148. 窪山裕也, 木村麻記, 黄地健仁, 倉島竜哉, 澁川義幸: 象牙芽細胞のグルココルチコイド受容は象牙質形成を抑制する, 第 79 回 NPO 法人 日本口腔科学会学術集会, 2025.5.15-17, 松本市キッセイ文化ホール エア・ウォーターアリーナ松本
149. 倉島竜哉, 黄地健仁, 木村麻記, 澁川義幸: 象牙芽細胞への直接機械刺激は Piezo1 チャネルの活性化に続くアラキドン酸カスケードの活性化を介して TRPV1 および TRPA1 チャネルを活性化する, 第 67 回歯科基礎医学会学術大会, 2025.9.5-7, 北九州国際会議場
150. 曽根ゆき, 倉島竜哉, 黄地健仁, 木村麻記, 澁川義幸: 象牙質痛に対するジクロフェナクナトリウムの抑制効果の検討, 第 16 回三叉神経領域の感覚－運動統合研究会, 2025.11.29-30, クロスウェーブ船橋
151. 曽根ゆき, 倉島竜哉, 黄地健仁, 木村麻記, 澁川義幸: 象牙質痛に対するジクロフェナクナトリウムの抑制効果の検討, 第 255 回 生理学東京談話会, 2025.10.6, 順天堂大学
152. 奥村哲嗣, 菅原圭亮, 西山明宏, 中島信太郎, 中田貴大, 西村光正, 片倉 朗: 上下顎の広範囲にみられた多発性特発性歯頸部歯根吸収の 1 例, 第 70 回日本口腔外科学会総会・学術大会, 2025.11.14-16, 福岡国際会議場
153. 吉橋雄生, 松永 智, 石束 叡, 森田一真, 関谷 凌, 笠原典夫, 塩崎一成, 山本 仁, 阿部伸一: 上顎洞と眼窩下管の成長発育が顎顔面領域の構成に与える影響 乾燥頭蓋骨を用いた三次元形態の観察および構造解析, 第 320 回東京歯科大学学会(総会), 2025.10.18, 東京歯科大学
154. 鎌田聡仁, 田坂彰規, 陸 誠, 服部雅之, 山下秀一郎: 新規フルカラー3D プリント義歯床用レジンと常温重合レジンとの接着強度の検討, 第 83 回日本歯科理工学会学術講演会, 2025.4.19, 愛知学院大学楠元キャンパス 110 周年記念講堂
155. 伊東紘世, 田坂彰規, 陸 誠, 武本真治, 山下秀一郎: 新規フルカラー3D プリント義歯床用レジンに対する Co-Cr 合金製試料の引抜き強さ, 日本補綴歯科学会 第 134 回学術大会, 2025.5.18, 出島メッセ長崎
156. 久永竜一, 鎌田聡仁, 田坂彰規, 山下秀一郎, 関根秀志: 新規ポリカーボネート義歯用材料と常温重合レジンとの接着強さ, 日本口腔インプラント学会第 45 回関東・甲信越支部学術大会, 2026.2.15, TAKANAWA GATEWAY Convention Center
157. 福田 悠, 松永 智, 立木千恵, 笠原典夫, 菅原圭亮, 阿部伸一, 西井 康: 成長期におけるマウス片側咬筋の機能低下が及ぼす下顎骨変形のメカニズムの解明, 第 35 回特定非営利活動法人日本顎変形症学会総会・学術大会, 2025.6.5, 福岡県
158. 福田 悠, 松永 智, 立木千恵, 笠原典夫, 菅原圭亮, 西井 康: 成長期におけるマウス片側咬筋の機能低下が及ぼす下顎骨変形のメカニズムの解明, 第 84 回日本矯正歯科学会学術大会, 2025.9.30,札幌コンベンションセンター
159. 頼岡廣明, 松永 智, 大津雄人, 鈴木玲也, 古川丈博, 伊藤太一, 阿部伸一, 佐々木穂高: 成長期における上顎洞の拡大と眼窩下管変位の三次元解析：インプラント術前評価への応用, 第 55 回日本口腔インプラント学会学術大会, 2025.10.24, 福岡国際会議場

160. 多田 優, 松永 智, 立木千恵, 笠原典夫, 石束 叡, 阿部伸一, 西井 康: 成長期ラットにおける咬筋機能低下が下顎骨に与える影響, 第 319 回東京歯科大学学会（例会）, 2025.6.7, 東京都
161. 多田 優, 松永 智, 立木千恵, 笠原典夫, 阿部伸一, 西井 康: 成長期ラット咬筋機能低下・回復モデルにおける下顎骨形態および顎関節への影響, 第 84 回日本矯正歯科学会学術大会, 2025.9.29, 北海道
162. 木佐弥子, 森田 一真, 松永 智, 石束 叡, 宮本 依利, 関谷 凌, 阿部 伸一: 正中動脈の走行パターンと橈骨動脈/尺骨動脈との吻合様式に関する解剖学的検討, 第 131 回日本解剖学会総会・全国学術集会, 2026.3.25, 東京慈恵会医科大学
163. 巽 綾香, 関川翔一, 橋本和彦, 佐々木文, 野村武史: 生検標本のよる舌扁平上皮癌の頸部リンパ節転移予測の可能性, 第 70 回（公社）日本口腔外科学会総会・学術大会, 2025.11.14-16, 福岡国際会議場/福岡サンパレス
164. 田山史織, 小鹿恭太郎, 加藤理絵, 鈴木萌子, 中久喜藍, 野村莉花, 津谷瑠理, 齋藤菜月, 一戸達也, 松浦信幸: 静脈内鎮静法下顎嚢胞摘出術中に発症した発作性心房細動を契機にバセドウ病が判明した一例, 第 53 回日本歯科麻酔学会総会・学術集会, 2025.10.10-12, カクイックス交流センター
165. 森田一真, 鈴木佐弥子, 松永 智, 石束 叡, 田中智人, 楊 天意, 宮本依利, 関谷 凌, 阿部伸一: 前腕浅層の脈管・神経のヴァリエーションと破格についての考察, 第 131 回日本解剖学会総会・全国学術集会, 2026.3.25, 東京慈恵会医科大学
166. 森田一真, 鈴木佐弥子, 松永 智, 石束 叡, 廣内英智, 田中智人, 楊 天意, 宮本依利, 関谷 凌, 阿部伸一: 前腕皮弁に関与する脈管・神経のヴァリエーションと皮弁採取時に注意すべき破格の存在, 第 67 回歯科基礎医学会学術大会, 2025.9.7, 北九州国際会議場
167. 沼田 純, 小鹿恭太郎, 金井美緒, 飯村真理子, 齋藤菜月, 吉田香織, 松浦信幸: 全身麻酔導入後にアナフィラキシーショックを生じた 1 例, 第 53 回日本歯科麻酔学会総会・学術集会, 2025.10.10-12, カクイックス交流センター
168. 塩谷美帆, 遠藤百華, 菅家杏珠, 喜田晴美, 倉持瑠佳, 小林 葵, 小林裕武, 藤森加帆, 溝口裕莉香, 吉原寛明, 飯島由貴, 西井 康: 卒後基本研修課程第 48 期生による症例展示, 第 84 回日本矯正歯科学会学術大会, 2025.9.29, 北海道
169. 菊池布恵, 笠原典夫, 北村 啓, 山本 仁: 多根歯垂直性萌出における歯周組織形成過程の観察, 第 320 回東京歯科大学学会(総会), 2025.10.18, 東京歯科大学
170. 鈴木佐弥子, 森田一真, 松永 智, 石束 叡, 廣内英智, 田中智人, 楊 天意, 宮本依利, 関谷 凌, 阿部伸一: 代償性に分布する正中動脈の多様性, 第 67 回歯科基礎医学会学術大会, 2025.9.6, 北九州国際会議場
171. 井内茉莉奈, 小林 裕, 田坂彰規, 山下秀一郎: 中空構造を有するジルコニア人工歯の保持孔サイズが形状精度に及ぼす影響の多角的検証, 日本補綴歯科学会第 134 回学術大会, 2025.5.18, 出島メッセ長崎
172. 齋藤菜月, 黄地健仁, 木村麻記, 倉島竜哉, 小鹿恭太郎, 一戸達也, 澁川義幸: 痛覚における二次感覚ニューロンへの上行性伝導システムの解明, 第 319 回東京歯科大学学会（例会）, 2025.6.7, 東京歯科大学
173. 髙橋有希, 平井研吾, 石束 叡, 阿部伸一, 新谷誠康, 笠原正貴: 低ホスファターゼ症に対する新規胎児遺伝子治療法の確立, 第 67 回歯科基礎医学会学術大会, 2025.9.5, 北九州国際会議場
174. 成田真人, 山本雅絵, 渡邉美貴, 岩本昌士, 吉田秀児, 渡邊 章, 岡村将宏, 高野正行, 高木多加志, 片倉朗, 野村武史: 東京歯科大学市川総合病院における 5 年間の顎矯正手術での併発症についての臨床的検討, 第 35 回 NOP 法人日本顎変形症学会総会・学術大会, 2025.6.5-6, 北九州国際会議場

175. 松本祐介, 洲崎裕子, 鶴見 惇, 齋藤大幹, 青木勇介, 古谷義隆, 木津康博, 佐々木穂高, 野村武史: 東京歯科大学市川総合病院におけるインプラント治療歴のある MRONJ 患者の臨床統計, 第 29 回（公社）日本顎顔面インプラント学会総会・学術大会, 2025.11.29-30, 島根 松江テルサ
176. 小坂悠樹, 林 宰央, 村松賢太郎, 松崎勇佑, 有泉高晴, 加藤 宏, 吉田秀児, 渡邊 章: 東京歯科大学水道橋病院における過去 12 年間の皮下気腫の臨床的検討, 第 35 回日本口腔内科学会・第 38 回日本口腔診断学会, 2025.9.7, 仙台国際センター
177. 中島純子, 石崎 憲, 古谷義隆, 金子航大, 中澤和真, 鶴見 惇, 宮田大志, 木津康博, 野村武史, 松浦信幸:当科における広範囲顎骨支持型装置を用いた顎補綴治療の臨床的検討, （一社）日本顎顔面補綴学会第 42 回総会・学術大会, 2025.6.20-21, 東北大学医学部開設百周年記念ホール
178. 小鹿山知実, 林 宰央, 加藤 宏, 小坂悠樹, 渡邊 章: 鈍的外傷を契機に下顎骨に生じた器質化血腫の 1 例, 第 37 回日本小児口腔外科学会総会学術大会, 2025.12.6, 香川県社会福祉総合センター
179. 竜 正大, 小林嵩史, 上田貴之: 病院歯科においてフルアーチティースを用いた積層造形義歯を応用した無歯顎症例, 日本補綴歯科学会第 134 回学術大会, 2025.5.17, 出島メッセ長崎
180. 佐藤涼一, 上條英之, 杉原直樹: 浮遊酸性物質への口腔内フッ化物徐放装置による歯質強化法の開発, 第 48 回日本労働衛生研究協議会学術大会, 2025.6.28-29, 東北大学
181. 江澤美穂, 平賀智豊, 松本 慶, 洲崎裕子, 深田美緒, 亀本滉樹, 齋藤大幹, 小松万純, 吉田佳史, 野村武史: 閉塞性睡眠時無呼吸症患者の口腔内装置装置による臼歯部開咬の臨床的検討, 第 24 回日本睡眠歯科学会総会・学術集会, 2025.10.12-13, あいち健康プラザ
182. 大和田碧, 四ツ谷護, 平野瑞穂, 黒田祥太, 露木 悠, 久永竜一, 関根秀志: 変形性顎関節症モデルマウスにおける Asporin の機能解析, 第 319 回東京歯科大学学会・例会, 2025.6.7, 東京歯科大学
183. 高橋江里子, 森川泰紀, 野田真緒, 有泉 大, 石井武展, 坂本輝雄, 西井 康: 片側性唇顎口蓋裂患者の上顎前歯欠損部治療選択に関与する要因の検討, 第 84 回日本矯正歯科学会学術大会, 2025.9.29, 北海道
184. 姫野隆則, 石井武展, 森川泰紀, 小林邑生, 有泉 大, 渡邊 章, 坂本輝雄, 石垣達也, 西井 康: 片側性唇顎裂における術前口唇非対称性が成長および治療経過後の対称性に及ぼす影響の検討, 第 84 回日本矯正歯科学会学術大会, 2025.9.29, 北海道
185. 石井晴華, 石井武展, 森川泰紀, 亀岡瑞輝, 坂本輝雄, 西井 康: 片側性唇顎裂患者と片側性唇顎口蓋裂患者において、成長過程における成長に伴う口唇形態変化の比較, 第 84 回日本矯正歯科学会学術大会, 2025.9.29, 北海道
186. 鎌田聡仁, 田坂彰規: 補綴歯科治療および口腔機能管理によってフレイルが改善した症例, 日本老年歯科医学会第 36 回学術大会, 2025.6.27, 幕張メッセ
187. 小林嵩史, 竜 正大, 上田貴之: 訪問診療においてフルアーチティースを用いた積層造形義歯を応用した無歯顎症例, 日本老年歯科医学会第 36 回学術大会, 2025.6.28, 幕張メッセ
188. 小林嵩史, 竜 正大, 上田貴之: 無歯顎顎堤の顎堤の高さが口腔内スキャナによるスキャン精度におよぼす影響, 日本補綴歯科学会第 134 回学術大会, 2025.5.17, 出島メッセ長崎
189. 竹内みのり, 竜 正大, 上田貴之: 油性成分を主体とした粘膜保護義歯安定剤の主観的評価－クロスオーバー比較試験－, 日本補綴歯科学会第 134 回学術大会, 2025.5.17, 出島メッセ長崎
190. 竜 正大, 髙野智史, 太田 緑, 小林嵩史, 上田貴之: 要介護高齢者に対する効果的な口腔衛生管理法の検討とその口腔衛生状態および介護者の意識向上への効果, 第 25 回日本歯科医学会学術大会, 2025.9.27, Web 開催

191. 國府田尚暉, 石田晃裕, 大野建州, 上田貴之: 咀嚼運動が末梢血中のナチュラルキラー細胞と内分泌関連分子に与える影響, 第 319 回東京歯科大学学会(例会), 2025.6.7, 東京歯科大学

192. 國府田尚暉, 石田晃裕, 大野建州, 上田貴之: 咀嚼運動が末梢血中のナチュラルキラー細胞の活性とホルモン濃度に与える影響, 日本補綴歯科学会第 134 回学術大会, 2025.5.16, 出島メッセ長崎

193. 星野綾香, 立木千恵, 松永 智, 菅原圭亮, 小高研人, 森野響子, 阿部伸一, 西井 康: 咀嚼筋と舌骨上筋群が顎骨の位置や形態に及ぼす影響の検討第 84 回日本矯正歯科学会学術大会, 2025.9.29, 北海道